

第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査
結果報告書

令和8年3月
奈良市

目次

| | |
|------------------------|-----|
| 第1章 調査概要 | 1 |
| 1. 調査目的 | 1 |
| 2. 調査対象者 | 1 |
| 3. 調査方法 | 1 |
| 4. 調査期間 | 1 |
| 5. 回収結果 | 1 |
| 6. 報告書の見方 | 1 |
| 第2章 回答者の属性 | 2 |
| 1. 市民向け調査の回答者 | 2 |
| 2. 学生向け調査の回答者 | 9 |
| 第3章 調査結果の分析 | 16 |
| 1. 地域の暮らしについて | 16 |
| 2. 地域のまちづくり活動について | 19 |
| 3. 相談や福祉情報について | 20 |
| 4. 安全で安心して暮らすための施策について | 21 |
| 5. 地域福祉推進に向けた取組について | 25 |
| 第4章 市民向け調査結果 | 27 |
| 1. 地域の暮らしについて | 27 |
| 2. 地域のまちづくり活動について | 52 |
| 3. 相談や福祉情報について | 58 |
| 4. 安全で安心して暮らすための施策について | 69 |
| 5. 地域福祉推進に向けた取組について | 87 |
| 6. 市政に対する意見 | 92 |
| 第5章 学生向け調査結果 | 93 |
| 1. 地域の暮らしについて | 93 |
| 2. 地域のまちづくり活動について | 104 |
| 3. 相談や福祉情報について | 111 |
| 4. 安全で安心して暮らすための施策について | 114 |
| 5. 地域福祉推進に向けた取組について | 116 |
| 6. 市政に対する意見 | 126 |
| 参考資料（調査票） | 128 |
| 1. 市民向け調査票 | 128 |
| 2. 学生向け調査票 | 144 |

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、「第5次奈良市地域福祉計画」の策定にあたって、市民の意識や行政ニーズを把握し、市政及び施策の推進における基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査対象者

| 種類 | 調査対象 |
|--------|--|
| ① 市民向け | 無作為に抽出した18歳以上の市内在住者3,000人 |
| ② 学生向け | 市内7大学（奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学、帝塚山大学、奈良大学、奈良学園大学、近畿大学農学部）に通う大学生（市内在住だけではなく、市外在住も含める） |

3. 調査方法

| 種類 | 調査方法 |
|--------|--|
| ① 市民向け | 郵送で配布し、郵送で回収またはWebフォームから回答 |
| ② 学生向け | 市内7大学において、学生向け市公式LINE登録者へ周知するとともに、各大学に周知依頼用として調査票500部を配布 |

※ 「市民向け」と「学生向け」の設問は異なります。詳細は参考資料（調査票）をご参照ください。

4. 調査期間

令和7年11月5日（水）～11月28日（金）

5. 回収結果

| 種類 | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|--------|--------|----------------------------|-------|
| ① 市民向け | 3,000件 | 1,790件（郵送：1,253件、Web：537件） | 59.7% |
| ② 学生向け | — | 220件（郵送：22件、Web：198件） | — |

6. 報告書の見方

- 回答比率は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことです。複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

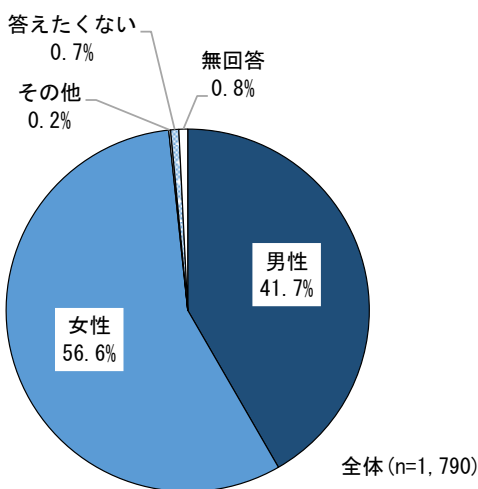
第2章 回答者の属性

1. 市民向け調査の回答者

(1) 性別

| | | |
|-----------|-----------------|------|
| 問1 | あなたの性別を教えてください。 | ○は1つ |
|-----------|-----------------|------|

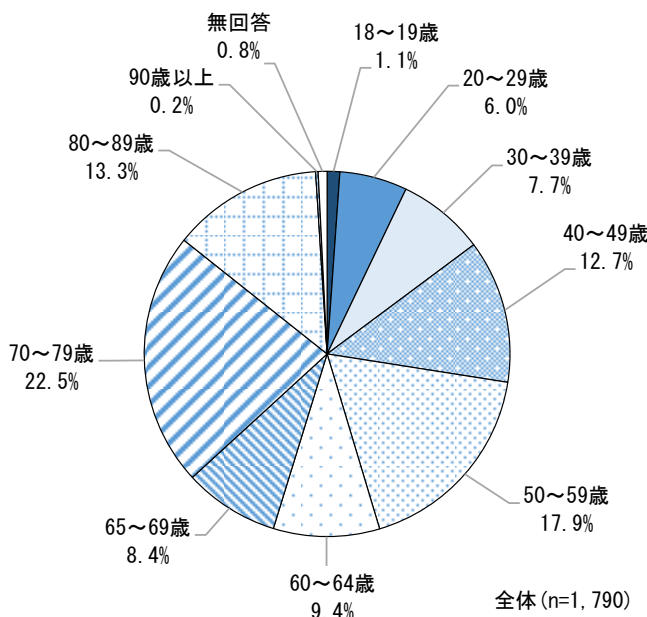
性別について、「女性」が56.6%で最も高く、次いで「男性」が41.7%、「答えたくない」が0.7%となっています。



(2) 年齢

| | | |
|-----------|-----------------|------|
| 問2 | あなたの年齢を教えてください。 | ○は1つ |
|-----------|-----------------|------|

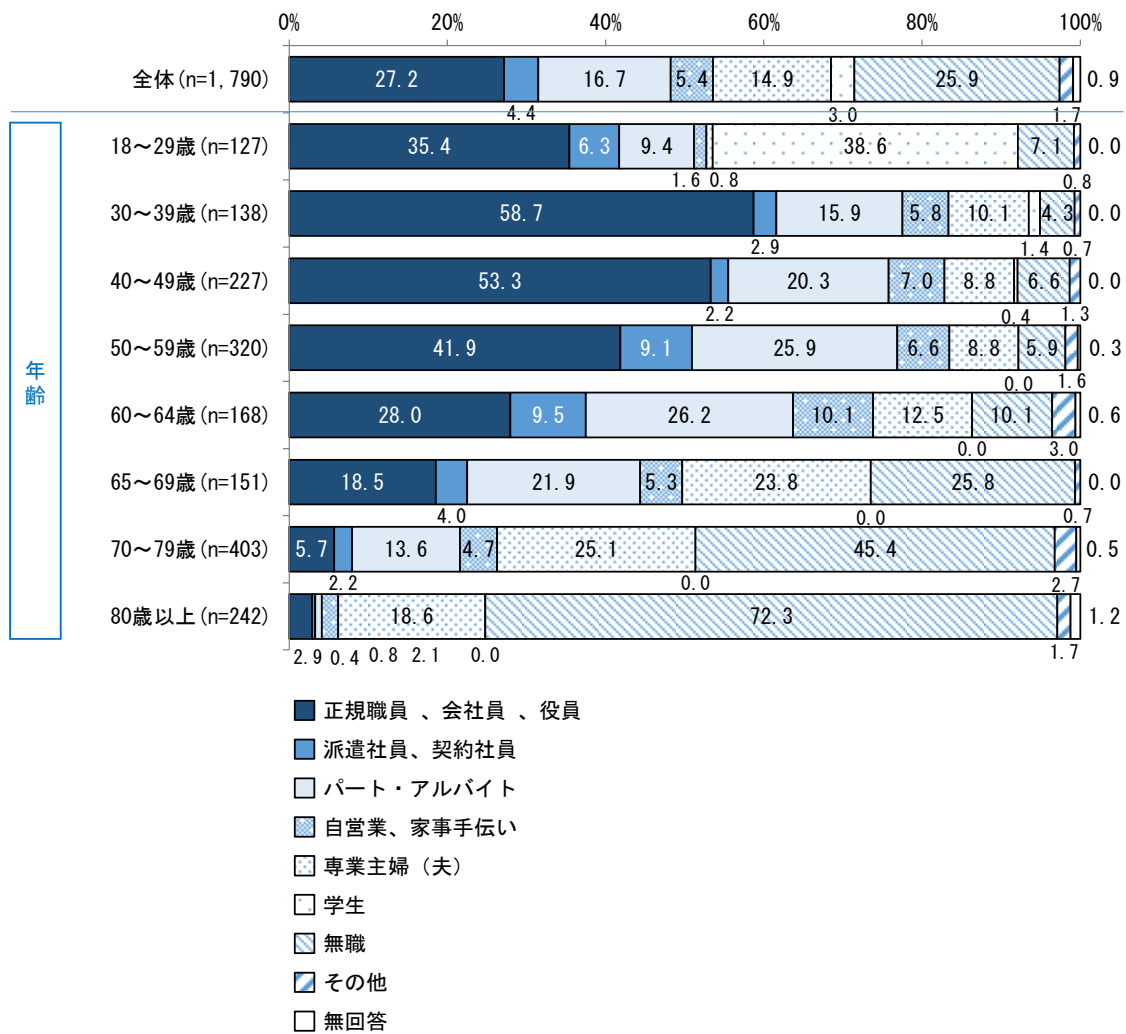
年齢について、「70～79歳」が22.5%で最も高く、次いで「50～59歳」が17.9%、「80～89歳」が13.3%となっています。



(3) 職業

問3 あなたの職業を教えてください。 ○は1つ

職業について、「正規職員、会社員、役員」が27.2%で最も高く、次いで「無職」が25.9%、「パート・アルバイト」が16.7%となっています。

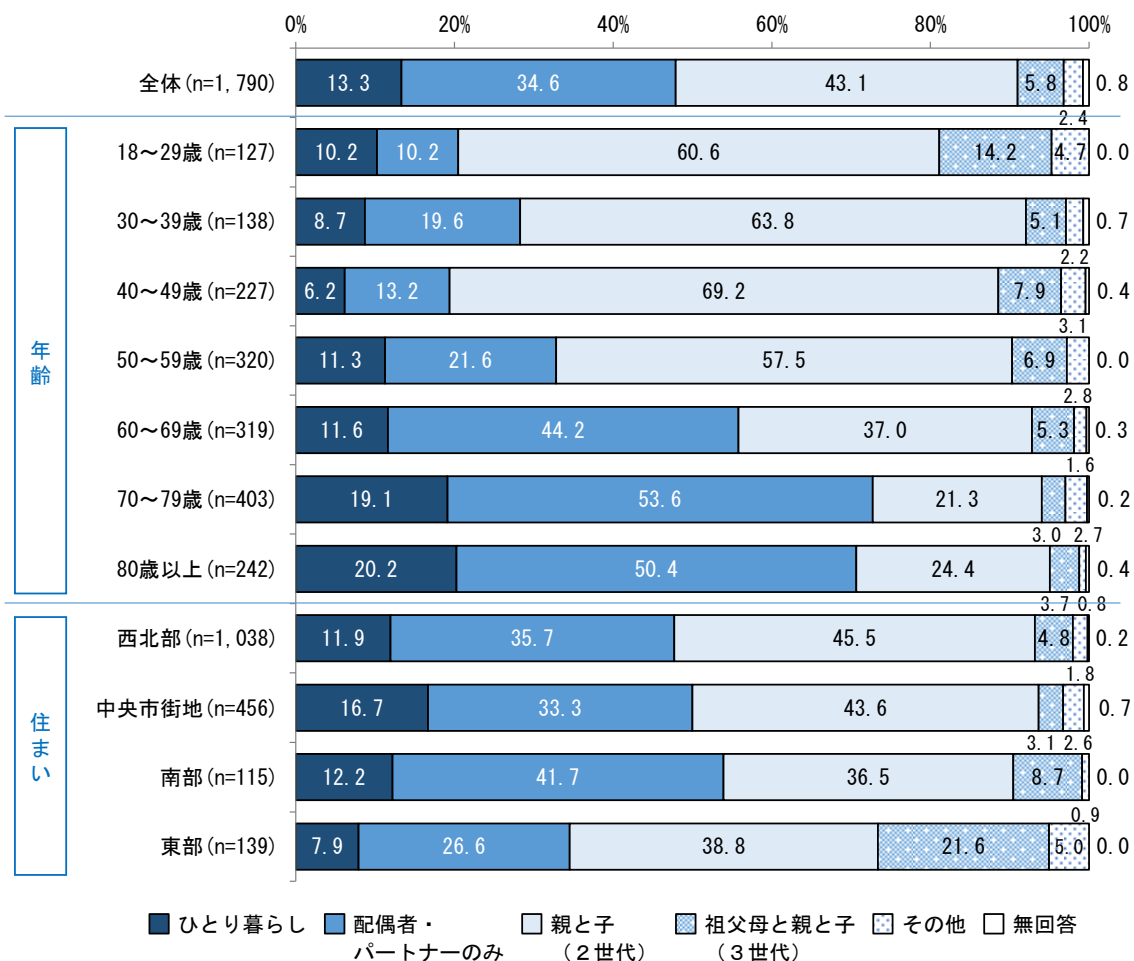


(4) 家族構成

問4 あなたの同居家族の構成を教えてください。 ○は1つ

同居家族の構成について、「親と子（2世代）」が43.1%で最も高く、次いで「配偶者・パートナーのみ」が34.6%、「ひとり暮らし」が13.3%となっています。

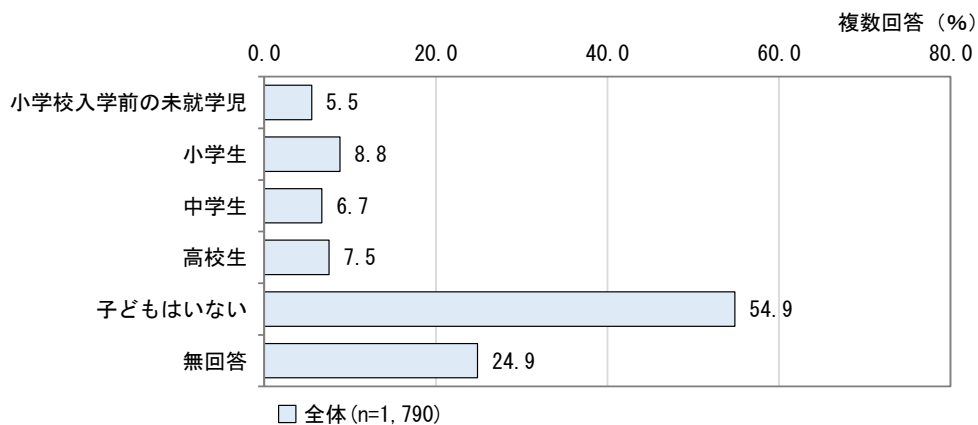
また、「ひとり暮らし」を年齢別で見ると、「80歳以上」が20.2%で最も高く、次いで「70～79歳」が19.1%、「60～69歳」が11.6%となっており、住まい別で見ると、「中央市街地」が16.7%で最も高く、次いで「南部」が12.2%、「西北部」が11.9%となっています。



| | | |
|-----------|--------------------|---------|
| 問5 | あなたの同居家族に次の方はいますか。 | ○はいくつでも |
|-----------|--------------------|---------|

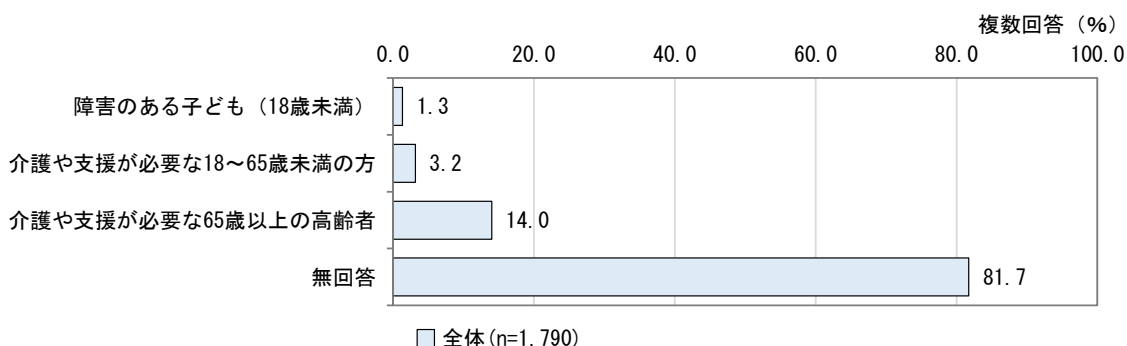
同居している子どもについて、「子どもはいない」が 54.9%で最も高く、次いで「小学生」が 8.8%、「高校生」が 7.5%となっています。

子ども【育児】

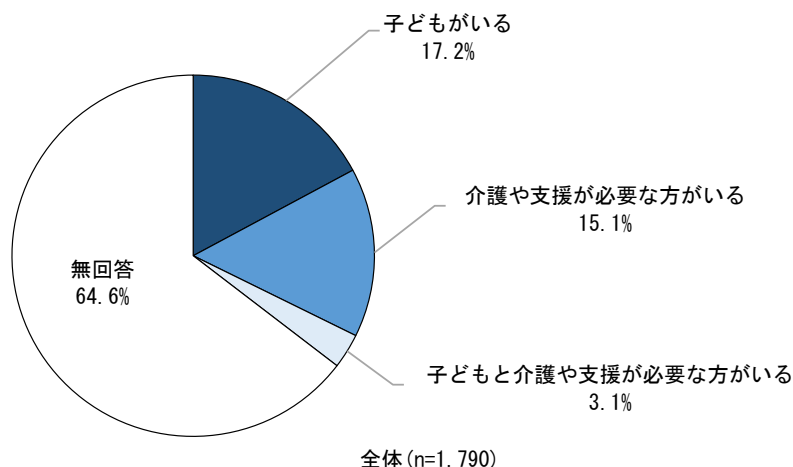


同居している高齢者や障害のある方について、「介護や支援が必要な 65 歳以上の高齢者」が 14.0%で最も高く、次いで「介護や支援が必要な 18～65 歳未満の方」が 3.2%となっています。

高齢者や障害のある方【介護や支援が必要な方】



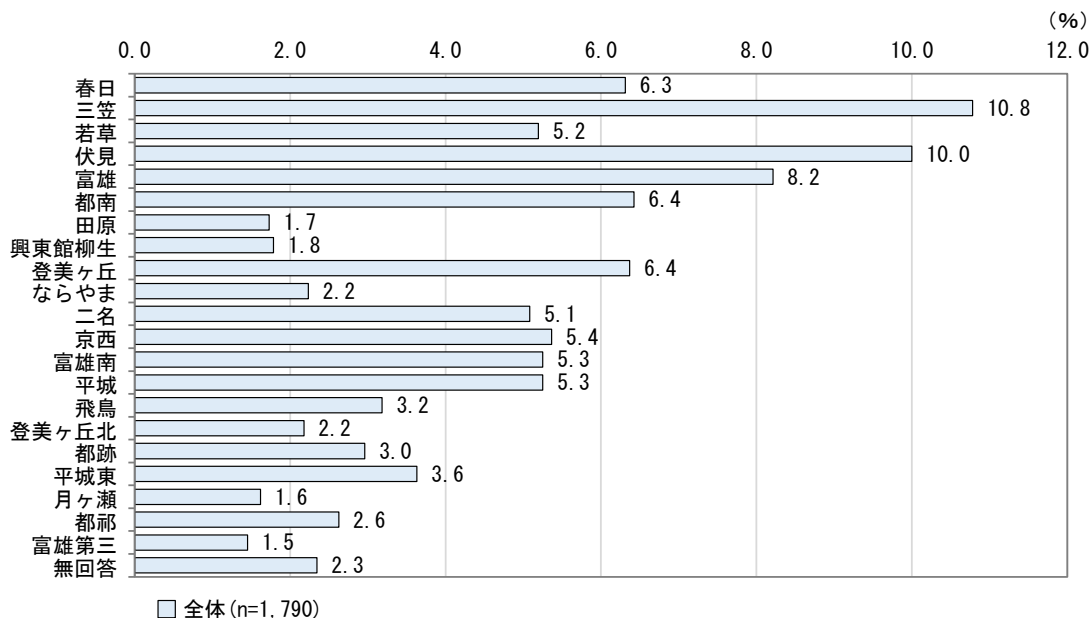
同居家族に子どもと高齢者や障害のある方がいる家庭（ダブルケアの可能性のある家庭）は 3.1%となっています。



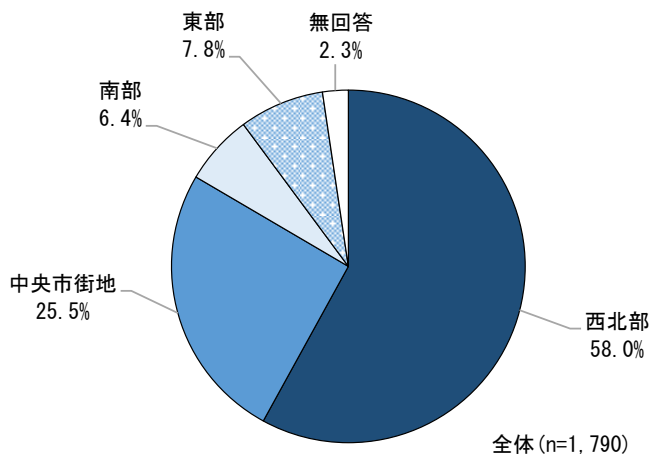
(5) 住まいの地域

問6 あなたがお住まいの地域（中学校区）を教えてください。 ○は1つ

住まいの地域について、「三笠」が10.8%で最も高く、次いで「伏見」が10.0%、「富雄」が8.2%となっています。



また、住まいの地域（中学校区）を4つの地区に分けると、「西北部」が58.0%で最も高く、次いで「中央市街地」が25.5%、「東部」が7.8%となっています。

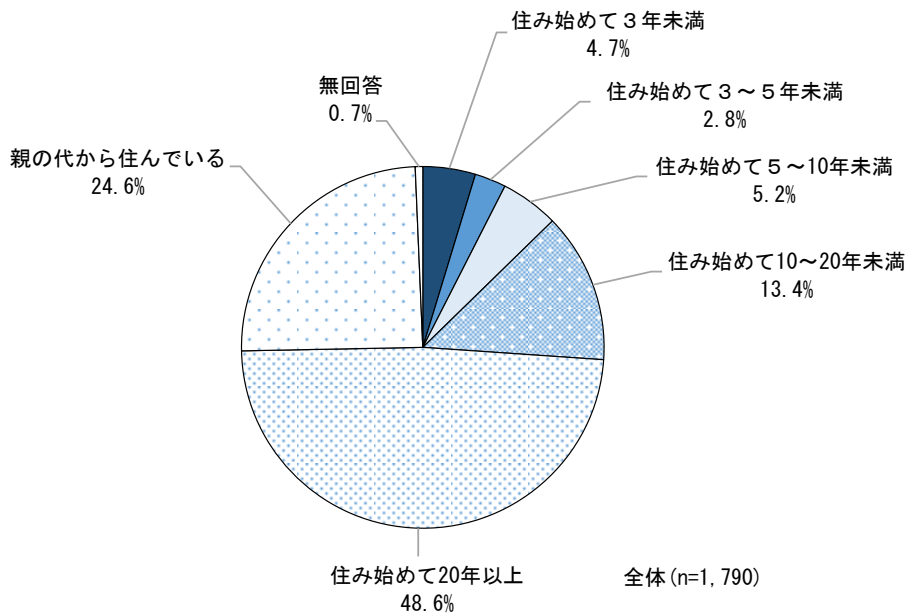


| 地区 | 地域 (中学校区) |
|-------|--|
| 西北部 | 伏見、富雄、登美ヶ丘、ならやま、二名、京西、富雄南、平城、登美ヶ丘北、都跡、平城東、富雄第三 |
| 中央市街地 | 春日、三笠、若草、飛鳥 |
| 南部 | 都南 |
| 東部 | 田原、興東館柳生、月ヶ瀬、都祁 |

(6) 奈良市の在住歴

| | | |
|-----------|--------------------|------|
| 問7 | あなたは奈良市に何年住んでいますか。 | ○は1つ |
|-----------|--------------------|------|

奈良市の在住歴について、「住み始めて20年以上」が48.6%で最も高く、次いで「親の代から住んでいる」が24.6%、「住み始めて10～20年未満」が13.4%となっています。

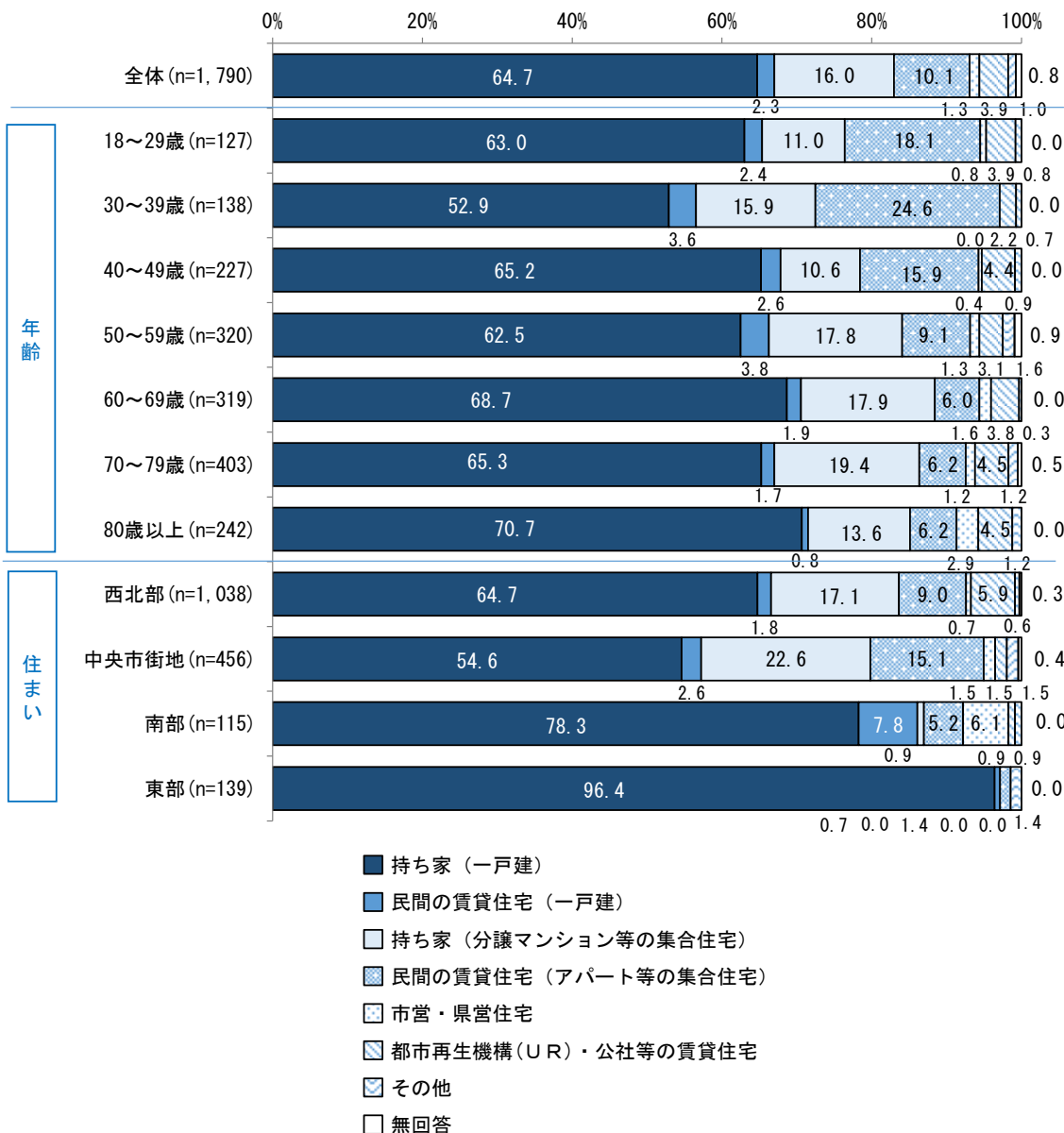


(7) 居住形態

問8 あなたの住まいは、次のどれにあたりますか。 ○は1つ

住まいについて、「持ち家（一戸建）」が 64.7%で最も高く、次いで「持ち家（分譲マンション等の集合住宅）」が 16.0%、「民間の賃貸住宅（アパート等の集合住宅）」が 10.1%となっています。

また、「持ち家（一戸建）」を年齢別で見ると、「80歳以上」が 70.7%で最も高く、次いで「60～69歳」が 68.7%、「70～79歳」が 65.3%となっており、住まい別で見ると、「東部」が 96.4%で最も高く、次いで「南部」が 78.3%、「西北部」が 64.7%となっています。

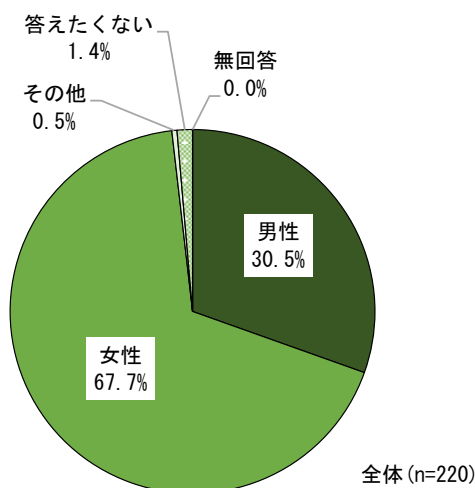


2. 学生向け調査の回答者

(1) 性別

| | | |
|----|-----------------|------|
| 問1 | あなたの性別を教えてください。 | ○は1つ |
|----|-----------------|------|

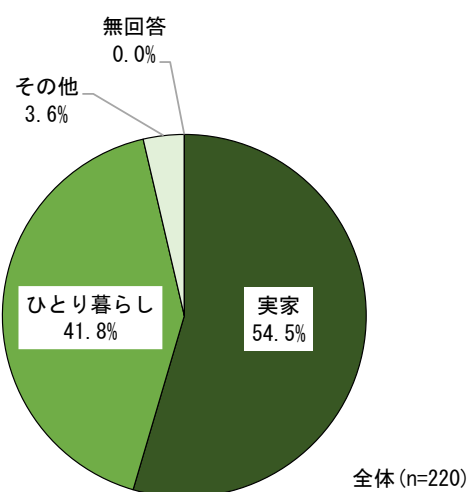
性別について、「女性」が67.7%で最も高く、次いで「男性」が30.5%、「答えたくない」が1.4%となっています。



(2) 居住形態

| | | |
|----|------------------|------|
| 問2 | 現在の居住形態を教えてください。 | ○は1つ |
|----|------------------|------|

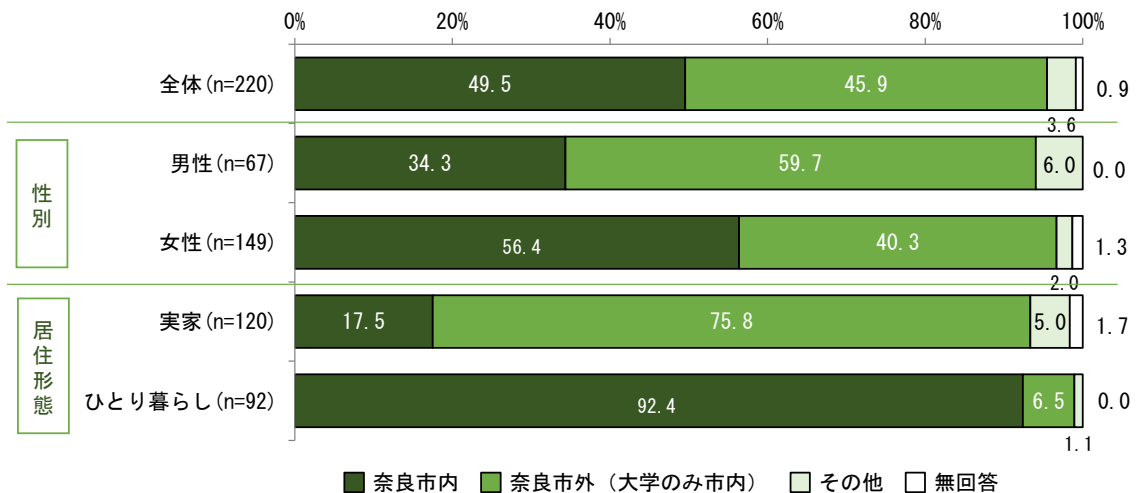
居住形態について、「実家」が54.5%で最も高く、次いで「ひとり暮らし」が41.8%、「その他」が3.6%となっています。



(3) 居住地域

問3 あなたがお住まいの場所を教えてください。 ○は1つ

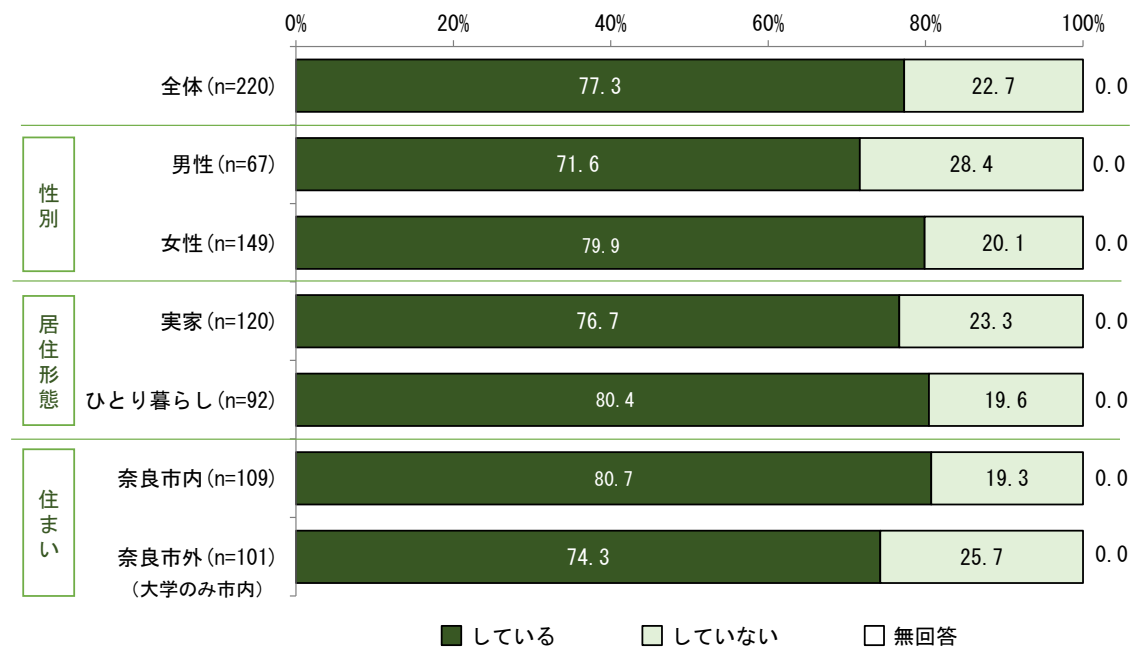
居住地域について、「奈良市内」が49.5%で最も高く、次いで「奈良市外（大学のみ市内）」が45.9%、「その他」が3.6%となっています。



(4) 収入を得る活動

問4 あなたは、アルバイトなどの収入を得る活動をしていますか。 ○は1つ

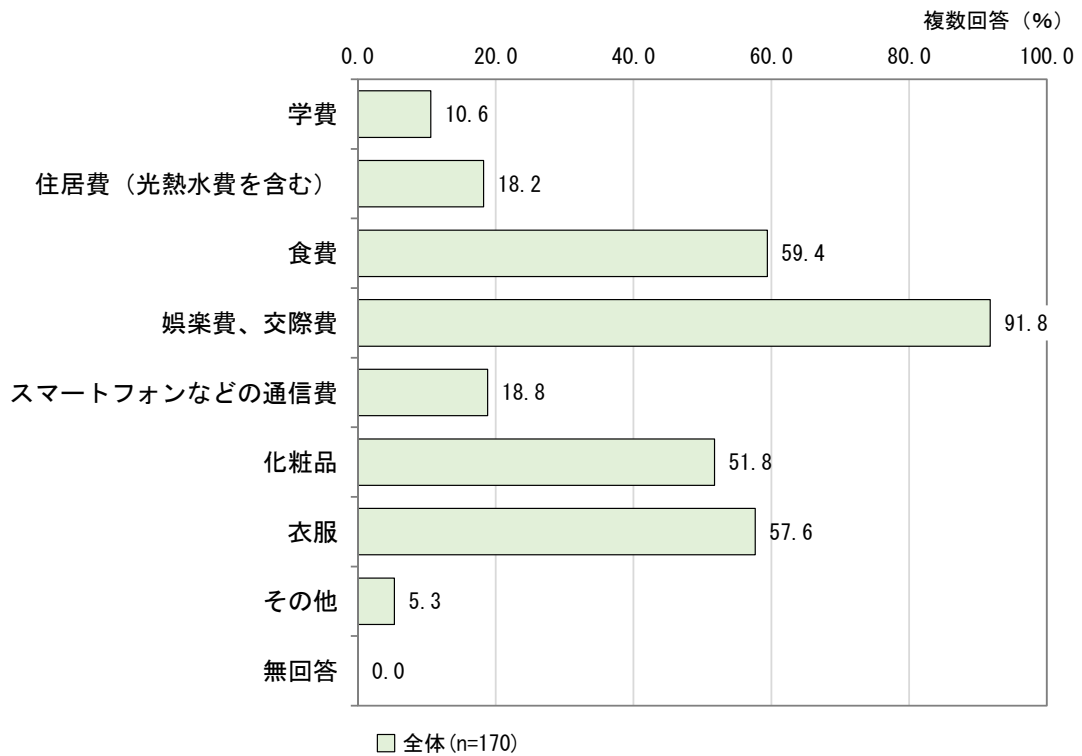
収入を得る活動について、「している」が77.3%で最も高く、次いで「していない」が22.7%となっています。



《問4で「している」と回答した人がお答えください》

| | | |
|-------------|-----------------------|---------|
| 問4-1 | アルバイトなどの収入を何に使っていますか。 | ○はいくつでも |
|-------------|-----------------------|---------|

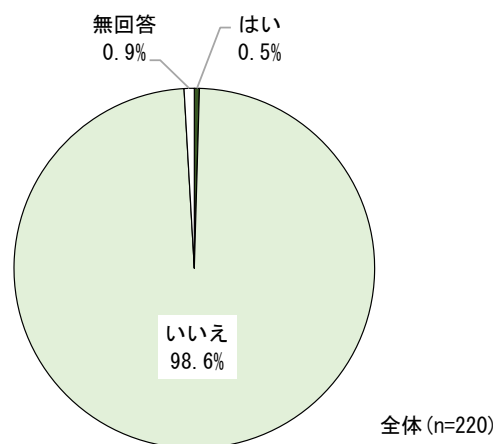
アルバイトをしている人に、収入の使い道について聞いたところ、「娯楽費、交際費」が91.8%で最も高く、次いで「食費」が59.4%、「衣服」が57.6%となっています。



(5) 留学生

| | | |
|-----------|--------------|------|
| 問5 | あなたは、留学生ですか。 | ○は1つ |
|-----------|--------------|------|

留学生かどうかについて、「いいえ」が98.6%、「はい」が0.5%となっています。

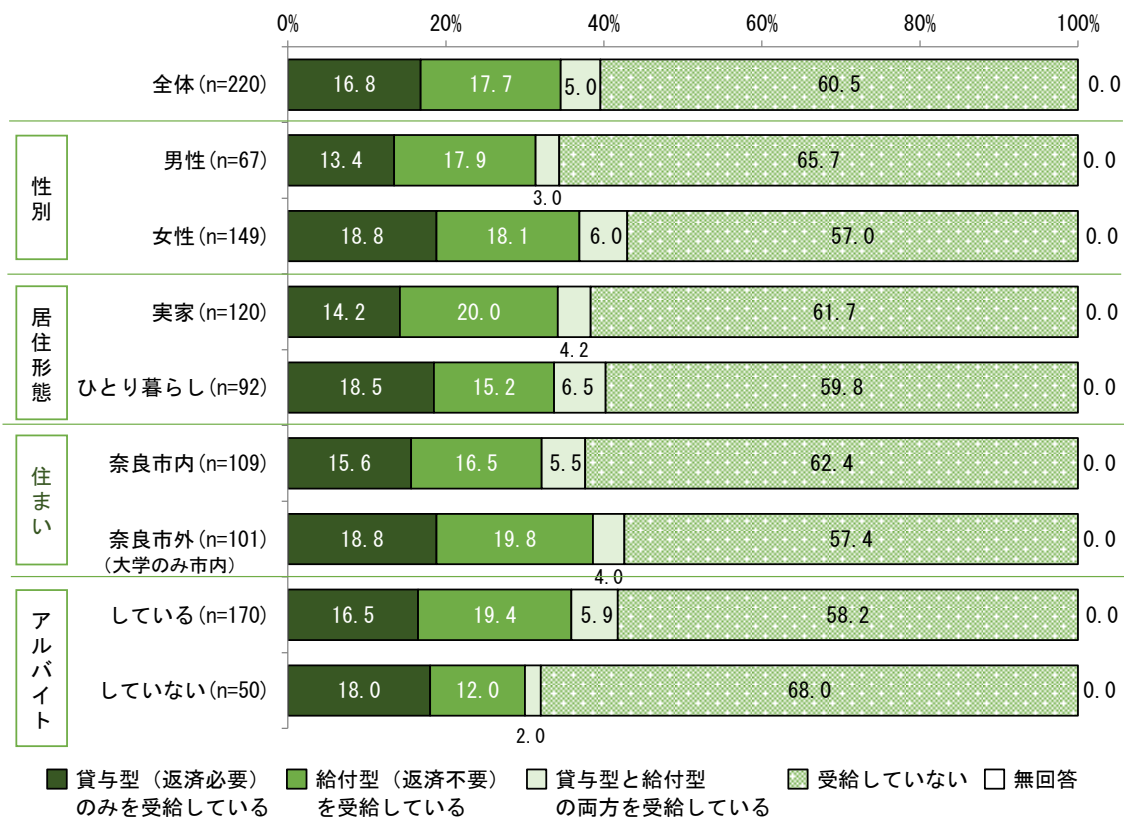


(6) 奨学金の受給

問6 あなたは、奨学金を受給していますか。 ○は1つ

奨学金の受給について、「受給していない」が60.5%で最も高く、次いで「給付型（返済不要）を受給している」が17.7%、「貸与型（返済必要）のみを受給している」が16.8%となっています。

また、『受給している』（「貸与型（返済必要）のみを受給している」「給付型（返済不要）を受給している」「貸与型と給付型の両方を受給している」の合計）を性別で見ると、「男性」が34.3%、「女性」が42.9%で「女性」の方が8.6ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が38.4%、「ひとり暮らし」が40.2%で「ひとり暮らし」の方が1.8ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が37.6%、「奈良市外（大学のみ市内）」が42.6%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が5.0ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が41.8%、「していない」が32.0%で「している」の方が9.8ポイント多くなっています。

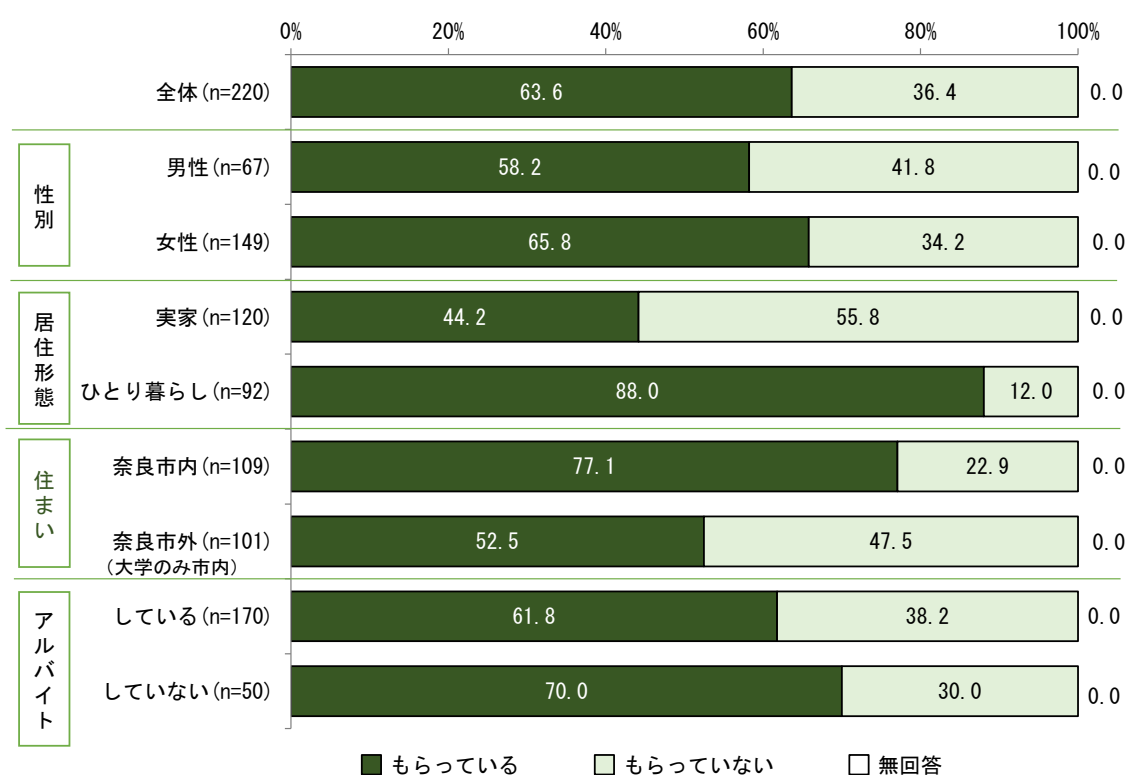


(7) 仕送りやお小遣いをもらっているか

| | | |
|----|-----------------------------|------|
| 問7 | あなたは、家族から仕送りやお小遣いをもらっていますか。 | ○は1つ |
|----|-----------------------------|------|

仕送りやお小遣いをもらっているかについて、「もらっている」が63.6%で最も高く、次いで「もらっていない」が36.4%となっています。

また、「もらっている」を性別で見ると、「男性」が58.2%、「女性」が65.8%で「女性」の方が7.6ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が44.2%、「ひとり暮らし」が88.0%で「ひとり暮らし」の方が43.8ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が77.1%、「奈良市外(大学のみ市内)」が52.5%で「奈良市内」の方が24.6ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が61.8%、「していない」が70.0%で「していない」の方が8.2ポイント多くなっています。

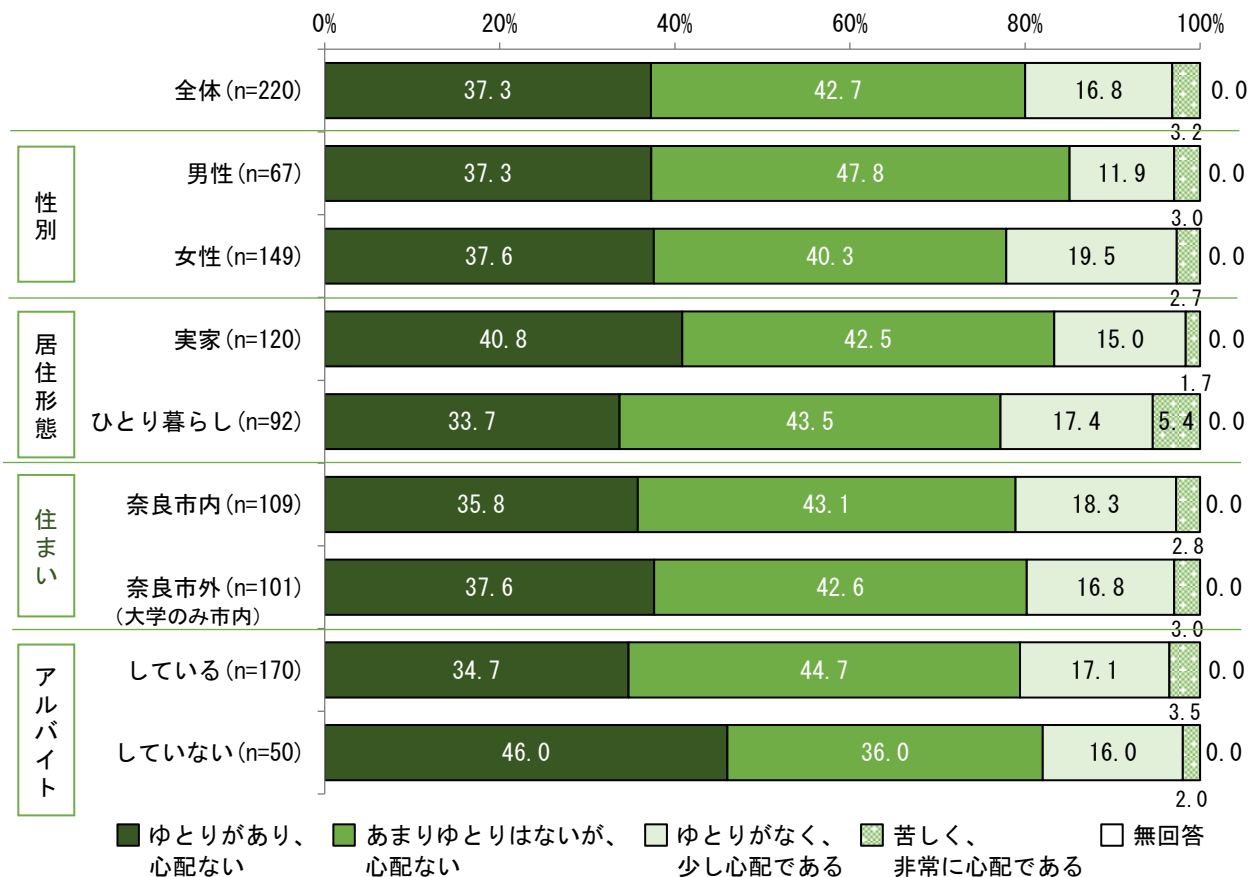


(8) 経済的な暮らし向きについて

| | | |
|-----------|-----------------------------------|------|
| 問8 | あなたは、現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。 | ○は1つ |
|-----------|-----------------------------------|------|

経済的な暮らし向きについて、「あまりゆとりはないが、心配ない」が42.7%で最も高く、次に「ゆとりがあり、心配ない」が37.3%、「ゆとりがなく、少し心配である」が16.8%となっています。

また、『心配である』（「ゆとりがなく、少し心配である」と「苦しく、非常に心配である」の合計）を性別で見ると、「男性」が14.9%、「女性」が22.2%で「女性」の方が7.3ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が16.7%、「ひとり暮らし」が22.8%で「ひとり暮らし」の方が6.1ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が21.1%、「奈良市外（大学のみ市内）」が19.8%で「奈良市内」の方が1.3ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が20.6%、「していない」が18.0%で「している」の方が2.6ポイント多くなっています。

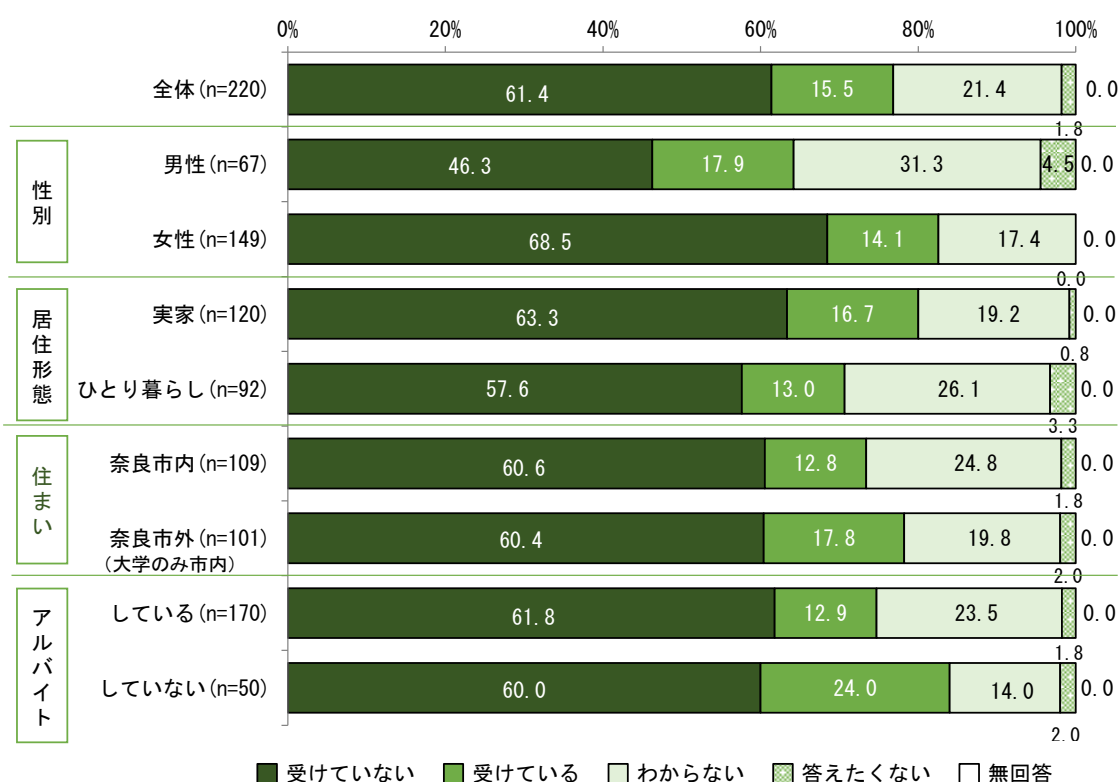


(9) 福祉的な支援を受けているか

| | | |
|-----------|--------------------------------------|------|
| 問9 | あなたやご家族の中で、現在何らかの福祉的な支援を受けている方はいますか。 | ○は1つ |
|-----------|--------------------------------------|------|

福祉的な支援について、「受けていない」が61.4%で最も高く、次いで「わからない」が21.4%、「受けている」が15.5%となっています。

また、「受けている」を性別でみると、「男性」が17.9%、「女性」が14.1%で「女性」の方が3.8ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が16.7%、「ひとり暮らし」が13.0%で「実家」の方が3.7ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が12.8%、「奈良市外（大学のみ市内）」が17.8%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が5.0ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が12.9%、「していない」が24.0%で「していない」の方が11.1ポイント多くなっています。



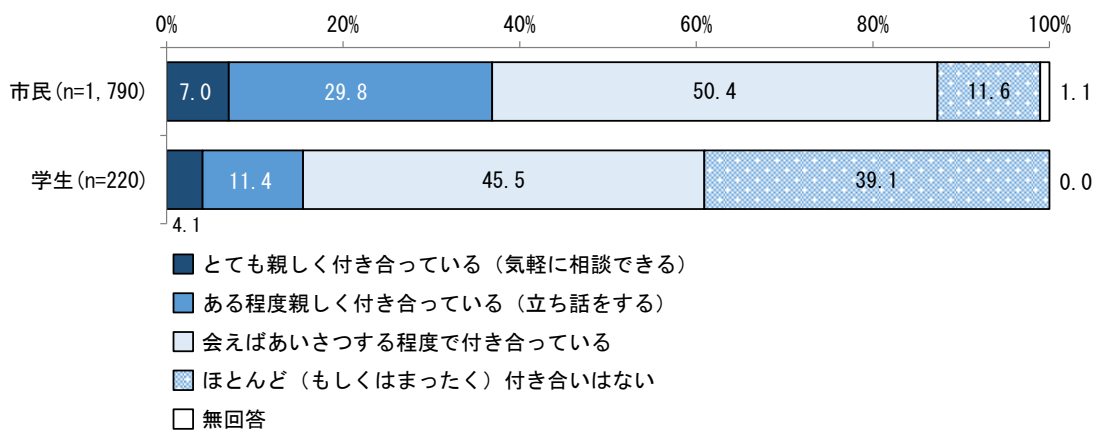
第3章 調査結果の分析

1. 地域の暮らしについて

(1) ふだんの近所づきあい

| | | | |
|------------|-------------|------------------------------|------|
| 【市民】 問9 | 【学生】 問10 | あなたは、ふだん、どのような近所づきあいをしていますか。 | ○は1つ |
|------------|-------------|------------------------------|------|

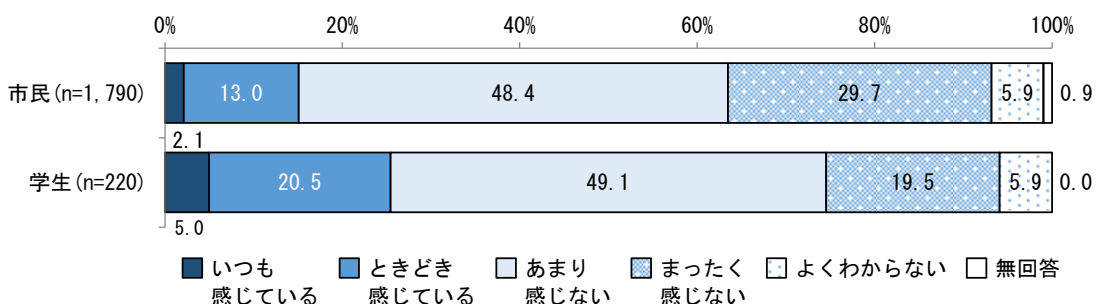
ふだんの近所づきあいについて、市民では「会えばあいさつする程度で付き合っている」が 50.4%で最も高く、次いで「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」が 29.8%、「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が 11.6%となっており、学生では「会えばあいさつする程度で付き合っている」が 45.5%で最も高く、次いで「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が 39.1%、「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」が 11.4%となっています。



(2) 社会からの孤立感

| | | | |
|-------------|-------------|-------------------------------|------|
| 【市民】 問10 | 【学生】 問12 | あなたは、ふだん、社会から孤立を感じることはありませんか。 | ○は1つ |
|-------------|-------------|-------------------------------|------|

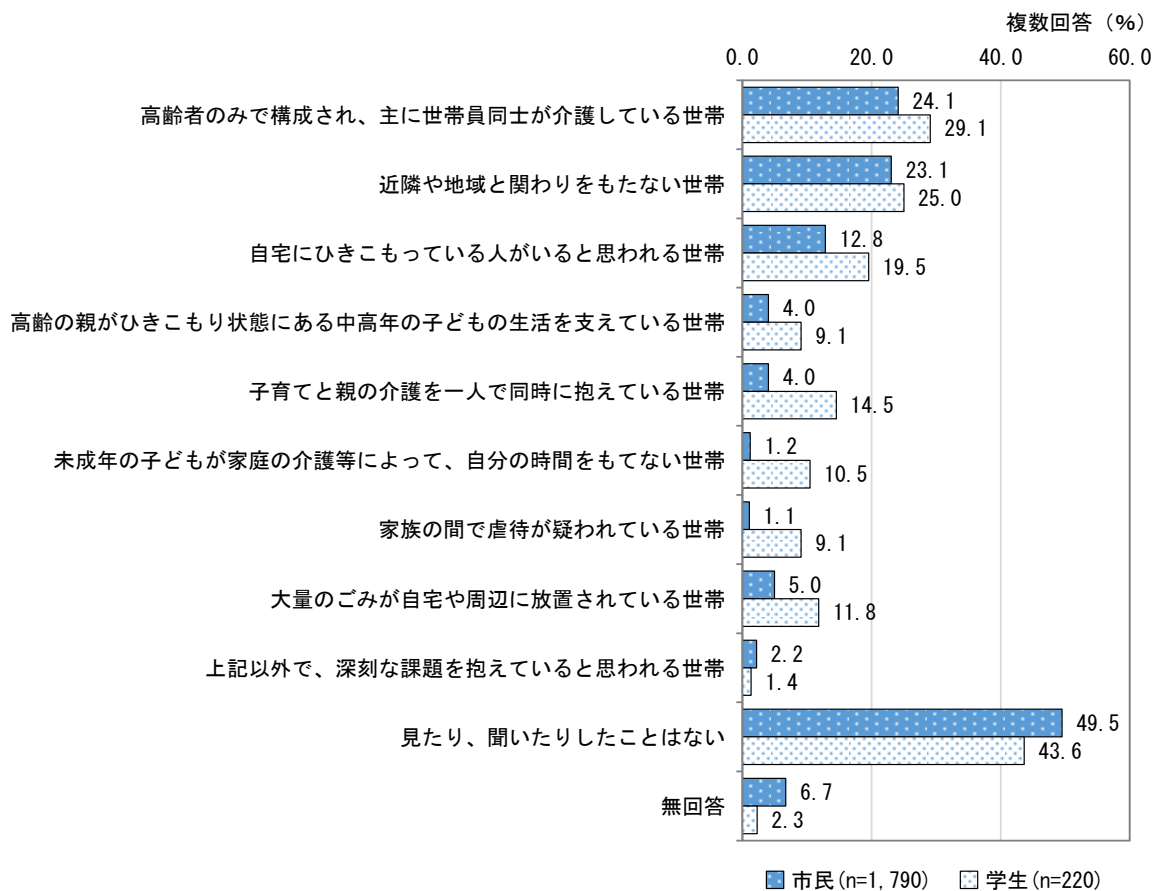
社会からの孤立感について、市民では「あまり感じない」が 48.4%で最も高く、次いで「まったく感じない」が 29.7%、「ときどき感じている」が 13.0%となっており、学生では「あまり感じない」が 49.1%で最も高く、次いで「ときどき感じている」が 20.5%、「まったく感じない」が 19.5%となっています。



(3) 課題を抱えている家庭

| | | | |
|--------------|--------------|-------------------------------------|---------|
| 【市民】 問 11 | 【学生】 問 17 | あなたの身近で、次のような家庭を見たり、聞いたりしたことがありますか。 | 〇はいくつでも |
|--------------|--------------|-------------------------------------|---------|

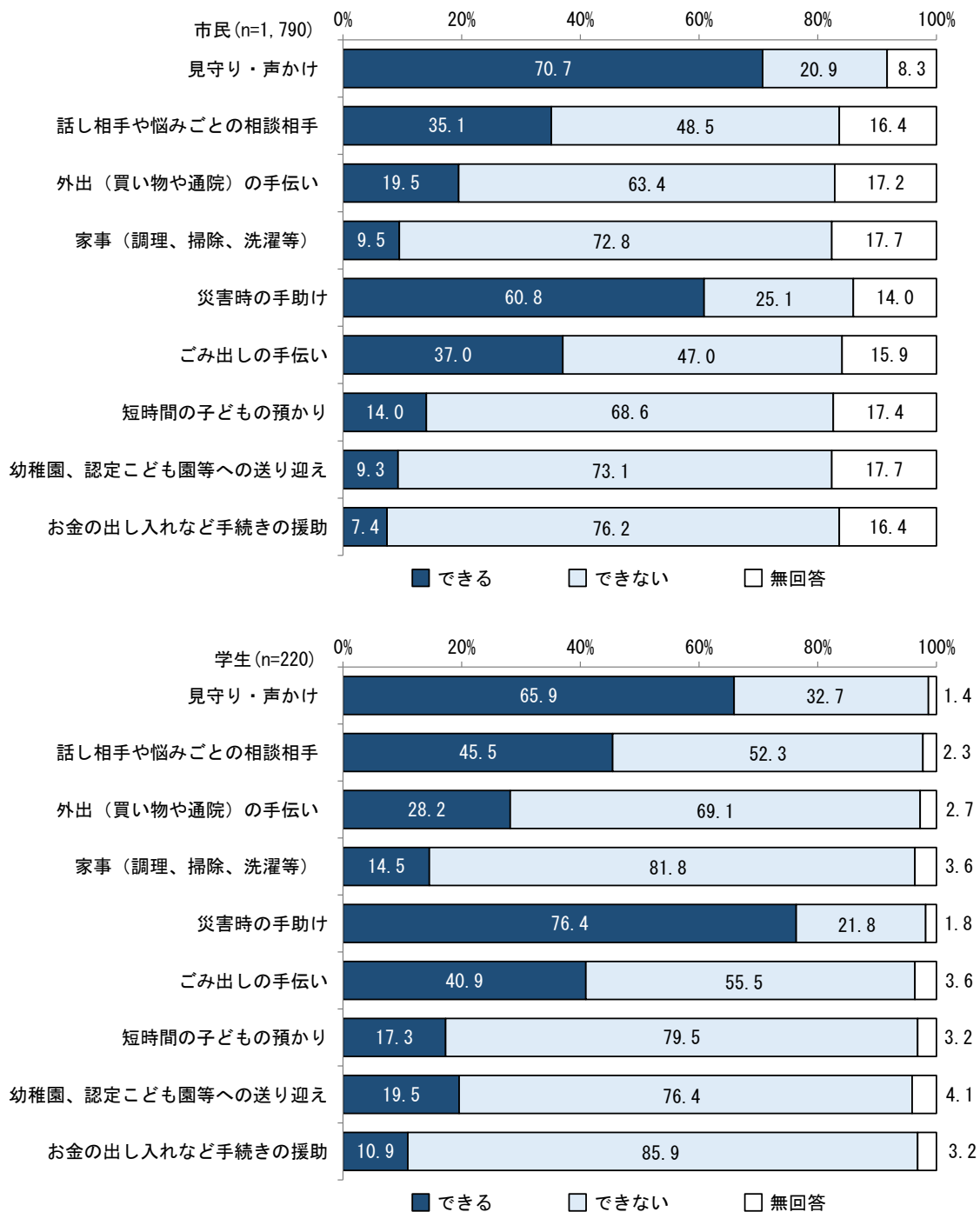
近所で課題を抱えている家庭を見たり、聞いたりしたことがあるかについて、市民では「見たり、聞いたりしたことはない」が 49.5%で最も高く、次いで「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」が 24.1%、「近隣や地域と関わりをもたない世帯」が 23.1%となっており、学生では「見たり、聞いたりしたことはない」が 43.6%で最も高く、次いで「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」が 29.1%、「近隣や地域と関わりをもたない世帯」が 25.0%となっています。



(4) 地域でできる手助け

| | | | |
|---------------|--------------|--|------|
| 【市民】 問 12① | 【学生】 問 18 | 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたは地域でどのような手助けができますか。 | ○は1つ |
|---------------|--------------|--|------|

日常生活で困っている家庭があった場合に地域でできる手助けについて、市民では「見守り・声かけ」が70.7%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が60.8%、「ごみ出しの手伝い」が37.0%となっており、学生では「災害時の手助け」が76.4%で最も高く、次いで「見守り・声かけ」が65.9%、「話し相手や悩みごとの相談相手」が45.5%となっています。

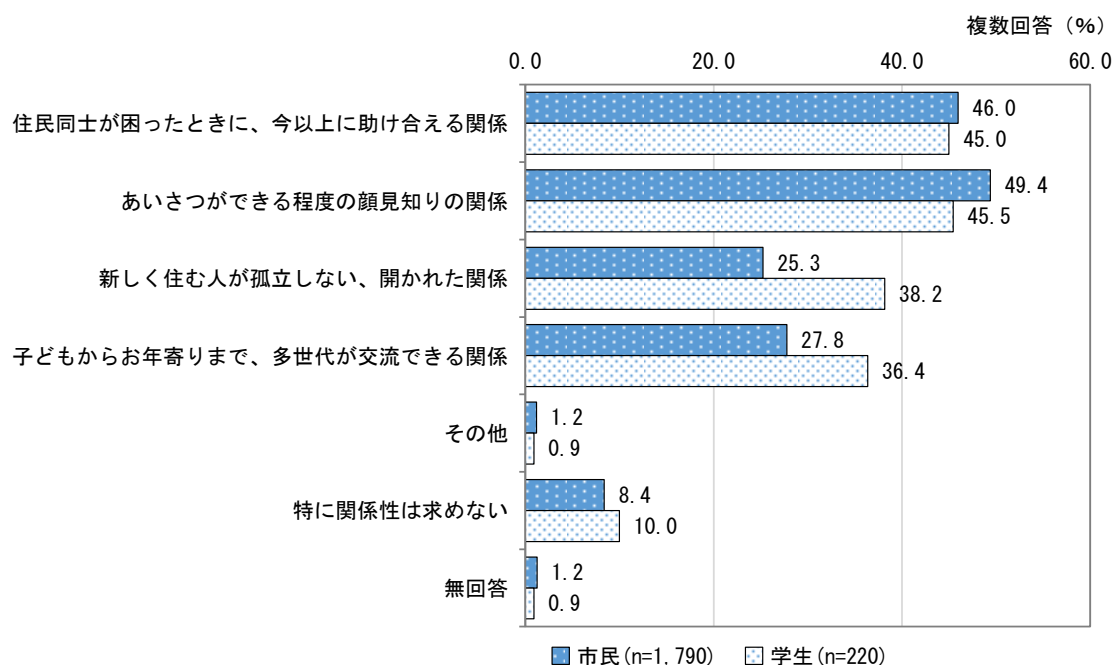


2. 地域のまちづくり活動について

(1) 大切だと思う地域の中での関係性

| | | | |
|--------------|--------------|--|---------|
| 【市民】 問 16 | 【学生】 問 23 | あなたは、これから地域の中でどのような関係性を築くことが大切だと思いますか。 | ○はいくつでも |
|--------------|--------------|--|---------|

大切だと思う地域での関係性について、市民では「あいさつができる程度の顔見知りの関係」が49.4%で最も高く、次いで「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係」が46.0%、「子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる関係」が27.8%となっており、学生では「あいさつができる程度の顔見知りの関係」が45.5%で最も高く、次いで「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係」が45.0%、「新しく住む人が孤立しない、開かれた関係」が38.2%となっています。

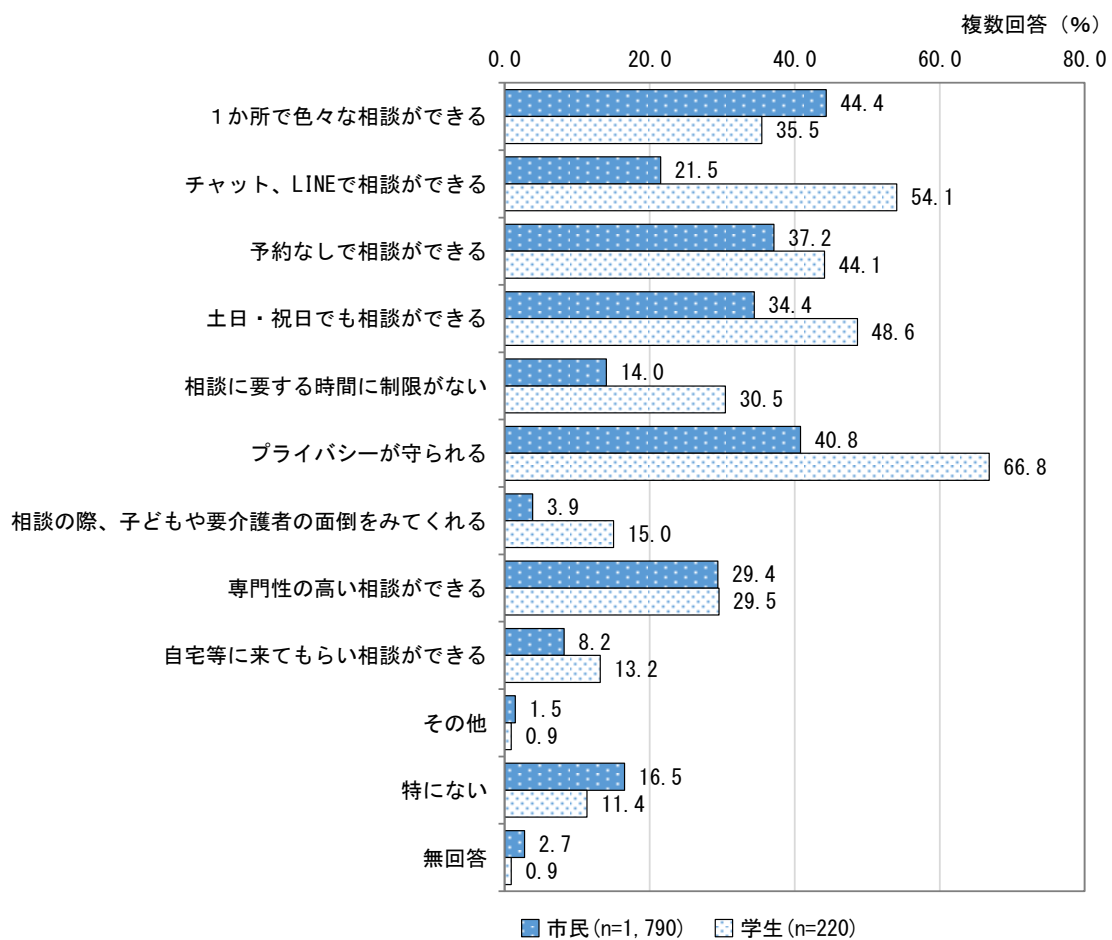


3. 相談や福祉情報について

(1) 行政の相談窓口を求めること

| | | | |
|--------------|--------------|----------------------|---------|
| 【市民】 問 21 | 【学生】 問 24 | 行政の相談窓口を求めることはありますか。 | ○はいくつでも |
|--------------|--------------|----------------------|---------|

行政の相談窓口を求めることについて、市民では「1か所で色々な相談ができる」が44.4%で最も高く、次いで「プライバシーが守られる」が40.8%、「予約なしで相談ができる」が37.2%となっており、学生では「プライバシーが守られる」が66.8%で最も高く、次いで「チャット、LINEで相談ができる」が54.1%、「土日・祝日でも相談ができる」が48.6%となっています。



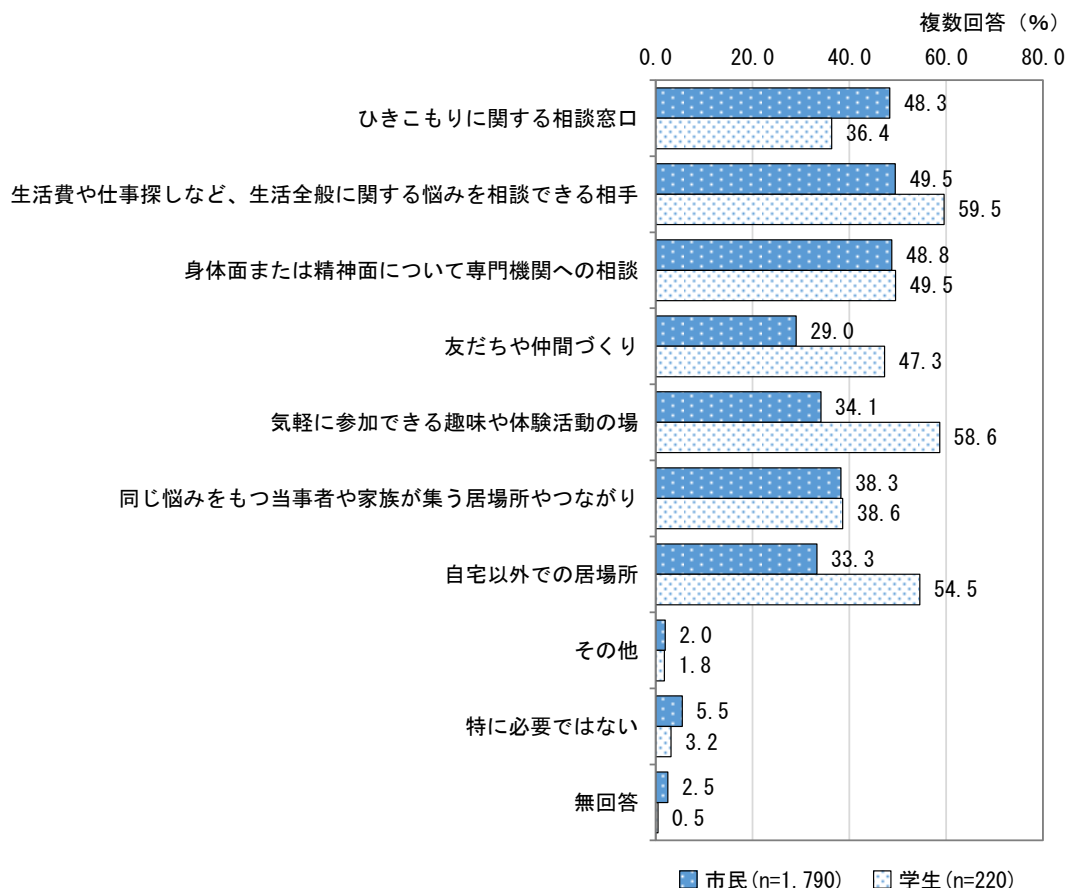
4. 安全で安心して暮らすための施策について

(1) 社会的孤立の状態にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うこと

| | | | |
|--------------|--------------|--|---------|
| 【市民】 問 30 | 【学生】 問 16 | あなたや身近な方が、社会的孤立の状態（例えばひきこもりなど、社会との接点が限局的な状態）にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うことは何だと思えますか。 | ○はいくつでも |
|--------------|--------------|--|---------|

希望する暮らし方を実現するために役立つと思う相談、居場所・仲間について、市民では「生活費や仕事探しなど、生活全般に関する悩みを相談できる相手」が49.5%で最も高く、次いで「身体面または精神面について専門機関への相談」が48.8%、「ひきこもりに関する相談窓口」が48.3%となっており、学生では「生活費や仕事探しなど、生活全般に関する悩みを相談できる相手」が59.5%で最も高く、次いで「気軽に参加できる趣味や体験活動の場」が58.6%、「自宅以外での居場所」が54.5%となっています。

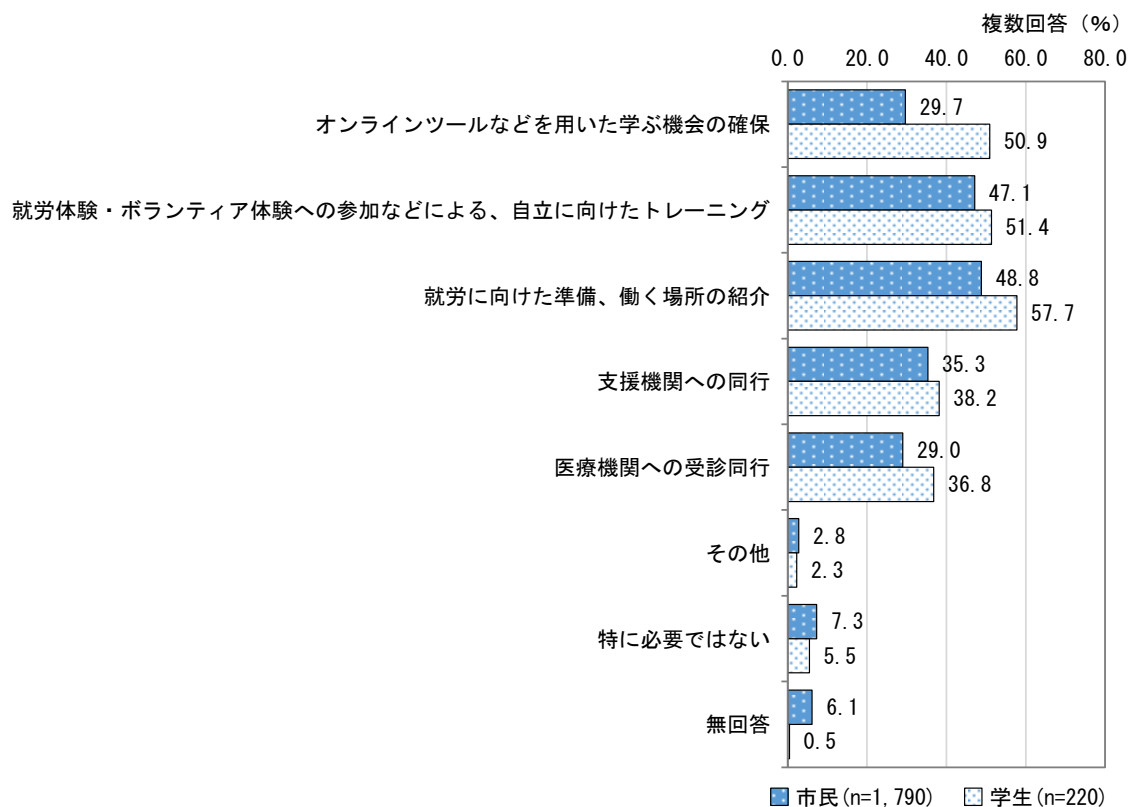
【相談、居場所・仲間】



第3章 調査結果の分析

また、希望する暮らし方を実現するために役立つと思う支援について、市民では「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が 48.8%で最も高く、次いで「就労体験・ボランティア体験への参加などによる、自立に向けたトレーニング」が 47.1%、「支援機関への同行」が 35.3%となっており、学生では「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が 57.7%で最も高く、次いで「就労体験・ボランティア体験への参加などによる、自立に向けたトレーニング」が 51.4%、「オンラインツールなどを用いた学ぶ機会の確保」が 50.9%となっています。

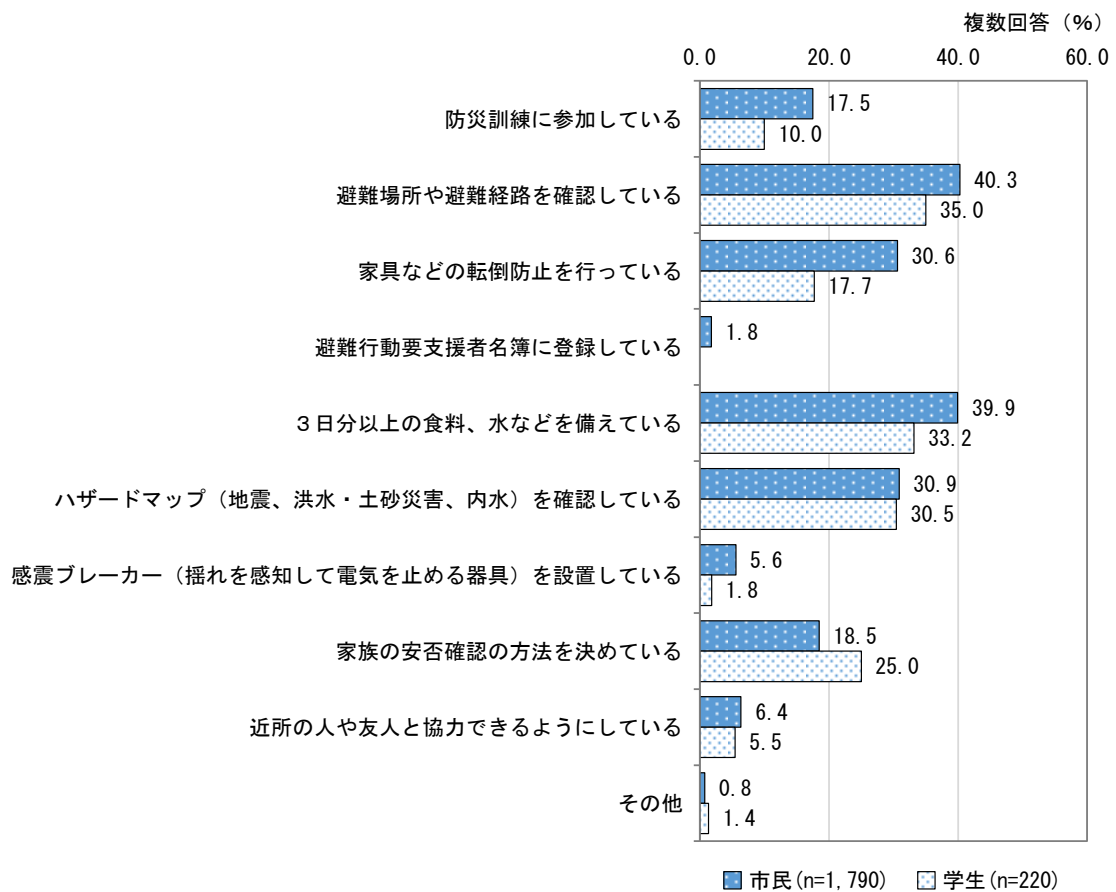
【支援】



(2) 日頃から行っている災害対策

| | | | |
|--------------|--------------|---------------------------------|---------|
| 【市民】 問 32 | 【学生】 問 27 | あなたは、災害対策として日頃からどのような備えをしていますか。 | 〇はいくつでも |
|--------------|--------------|---------------------------------|---------|

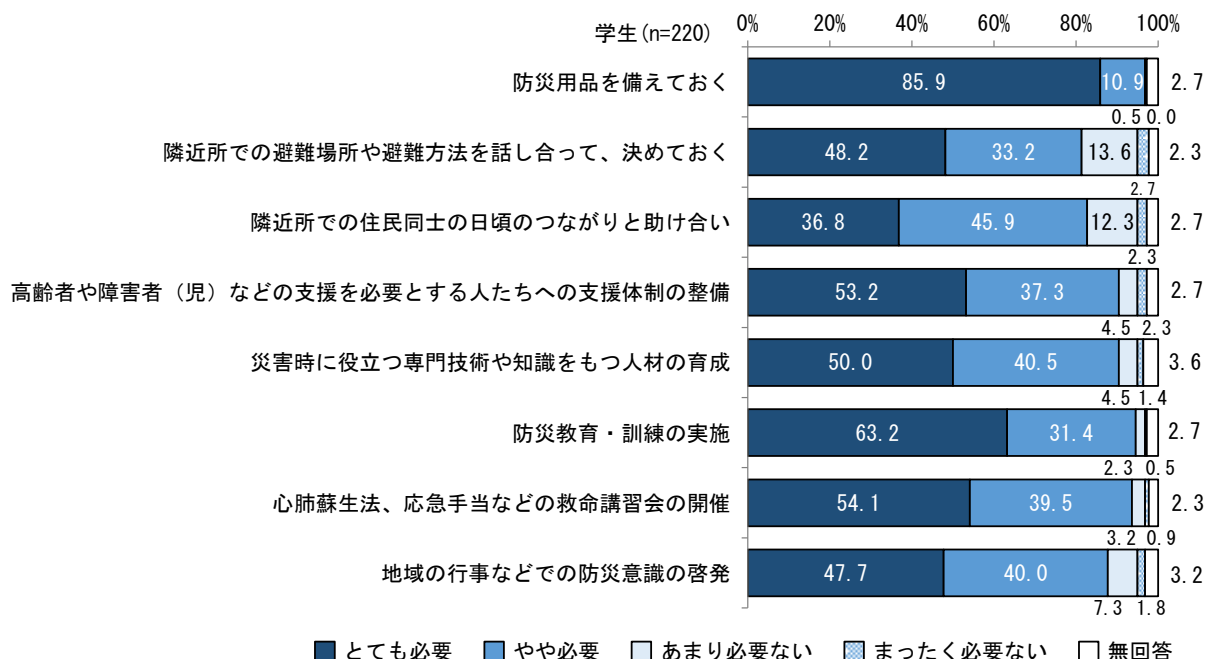
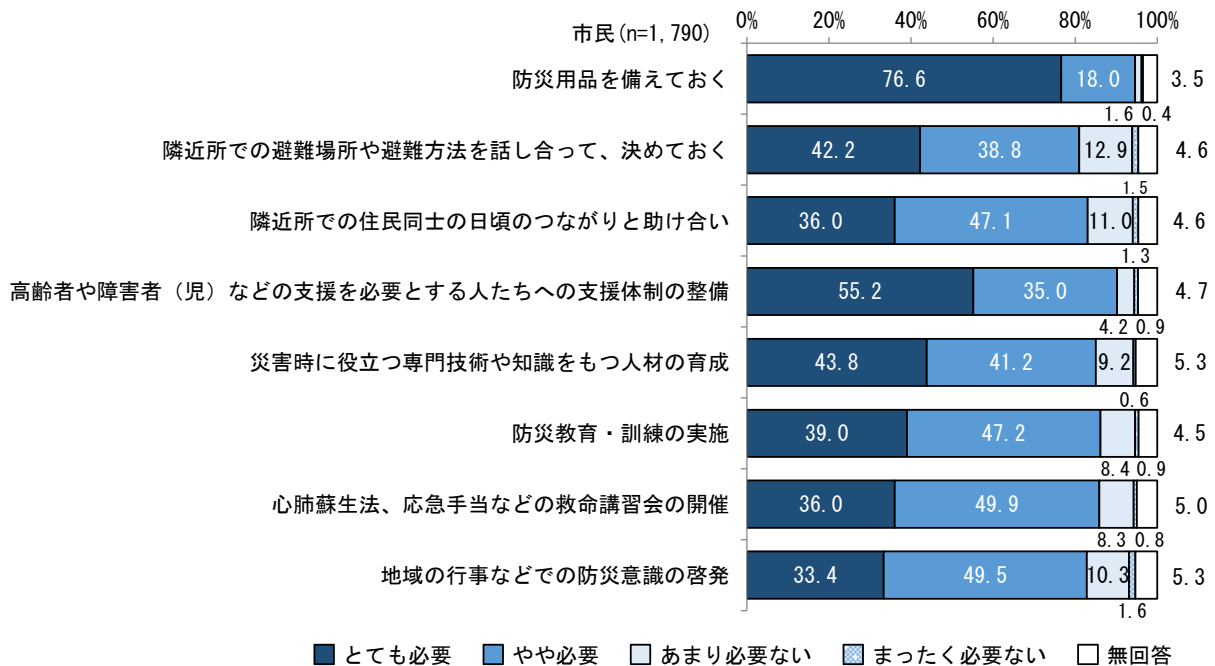
日頃から行っている災害対策について、市民では「避難場所や避難経路を確認している」が40.3%で最も高く、次いで「3日分以上の食料、水などを備えている」が39.9%、「ハザードマップを確認している」が30.9%となっており、学生では「避難場所や避難経路を確認している」が35.0%で最も高く、次いで「3日分以上の食料、水などを備えている」が33.2%、「ハザードマップ（地震、洪水・土砂災害、内水）を確認している」が30.5%となっています。



(3) 大地震などの災害に対する地域で必要な備え

| | | | |
|--------------|--------------|------------------------------------|------|
| 【市民】 問 33 | 【学生】 問 28 | 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。 | ○は1つ |
|--------------|--------------|------------------------------------|------|

大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思うかについて、『必要』(「とても必要」と「やや必要」の合計) でみると、市民では「防災用品を備えておく」が94.6%で最も高く、次いで「高齢者や障害者(児)などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」が90.2%、「防災教育・訓練の実施」が86.2%となっており、学生では「防災用品を備えておく」が96.8%で最も高く、次いで「防災教育・訓練の実施」が94.6%、「心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催」が93.6%となっています。

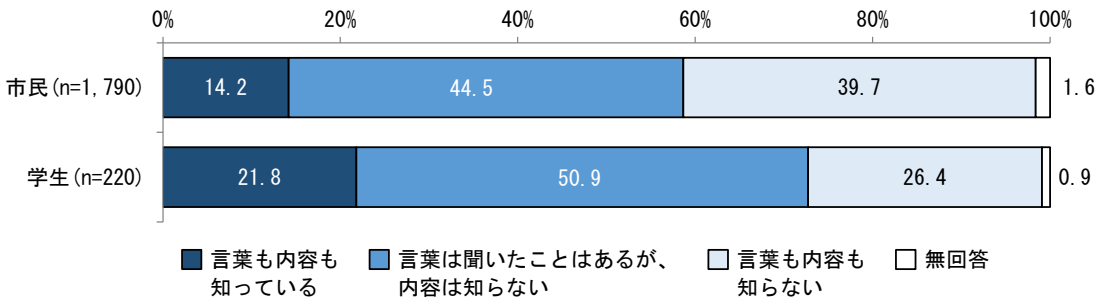


5. 地域福祉推進に向けた取組について

(1) 「地域福祉」という言葉の認知度

| | | | |
|--------------|--------------|--------------------------|------|
| 【市民】 問 36 | 【学生】 問 29 | あなたは「地域福祉」という言葉を知っていますか。 | ○は1つ |
|--------------|--------------|--------------------------|------|

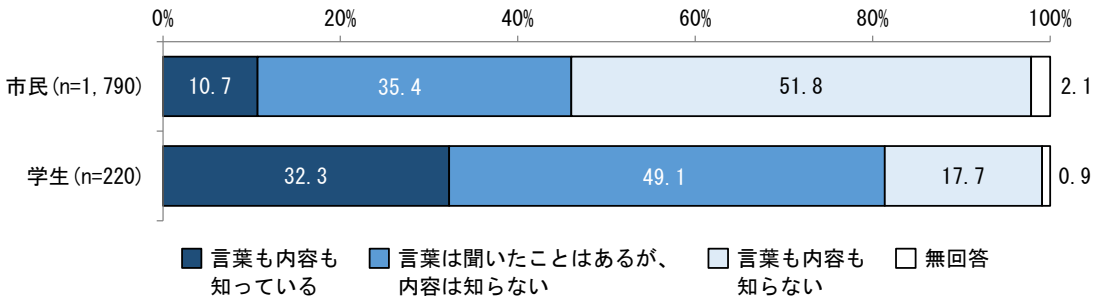
「地域福祉」という言葉の認知度について、市民では「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が44.5%で最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」が39.7%、「言葉も内容も知っている」が14.2%となっており、学生では「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が50.9%で最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」が26.4%、「言葉も内容も知っている」が21.8%となっています。



(2) 「地域共生社会」という言葉の認知度

| | | | |
|--------------|--------------|----------------------------|------|
| 【市民】 問 37 | 【学生】 問 30 | あなたは「地域共生社会」という言葉を知っていますか。 | ○は1つ |
|--------------|--------------|----------------------------|------|

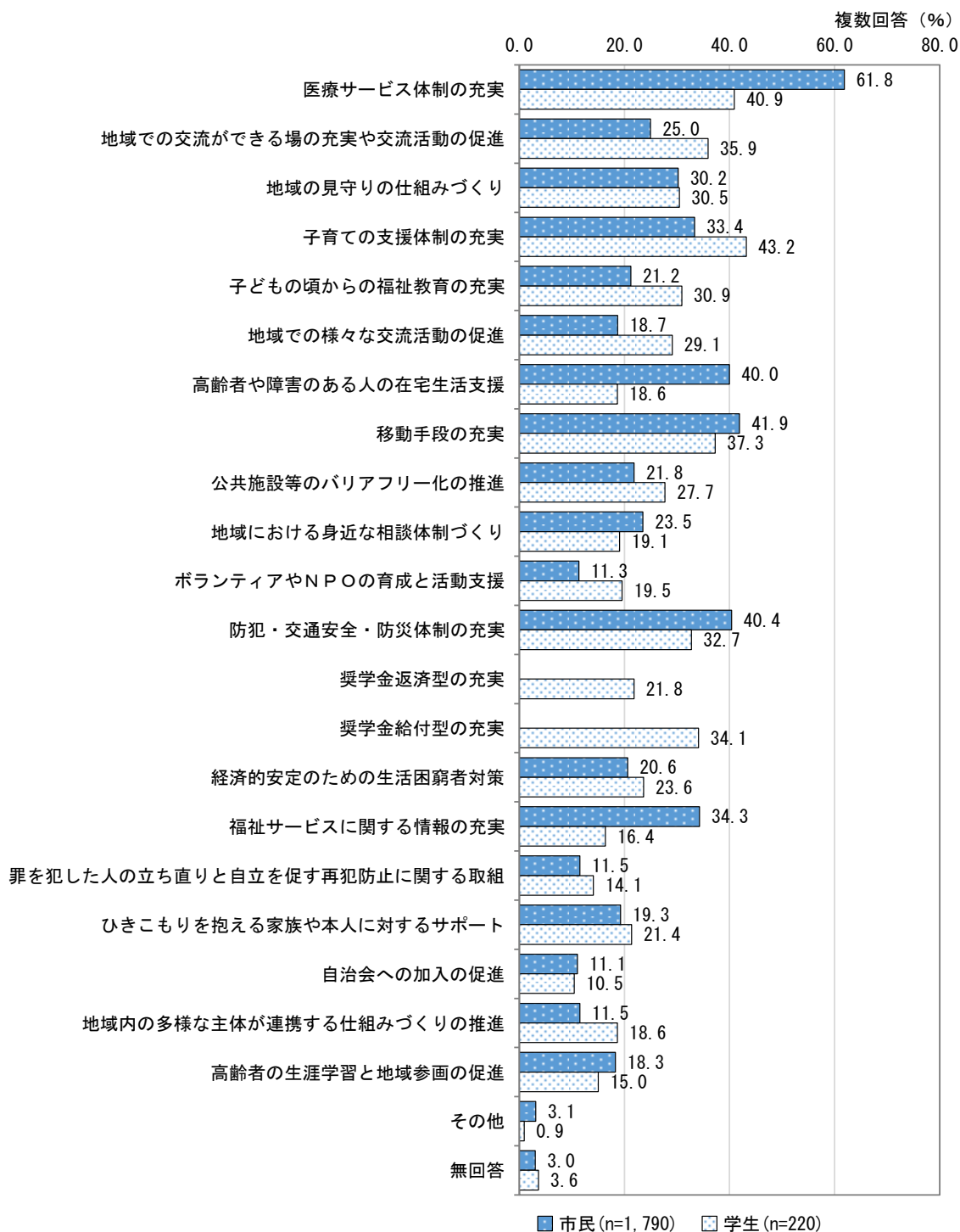
「地域共生社会」という言葉の認知度について、市民では「言葉も内容も知らない」が51.8%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が35.4%、「言葉も内容も知っている」が10.7%となっており、学生では「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が49.1%で最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」が32.3%、「言葉も内容も知らない」が17.7%となっています。



(3) 地域福祉の向上に必要な奈良市の取組

| | | | |
|--------------|--------------|--|---------|
| 【市民】 問 40 | 【学生】 問 37 | 今後、地域福祉を向上させるために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。 | 〇はいくつでも |
|--------------|--------------|--|---------|

地域福祉の向上に必要な奈良市の取組について、市民では「医療サービス体制の充実」が 61.8%で最も高く、次いで「移動手段の充実」が 41.9%、「防犯・交通安全・防災体制の充実」が 40.4%となっており、学生では「子育ての支援体制の充実」が 43.2%で最も高く、次いで「医療サービス体制の充実」が 40.9%、「移動手段の充実」が 37.3%となっています。



第4章 市民向け調査結果

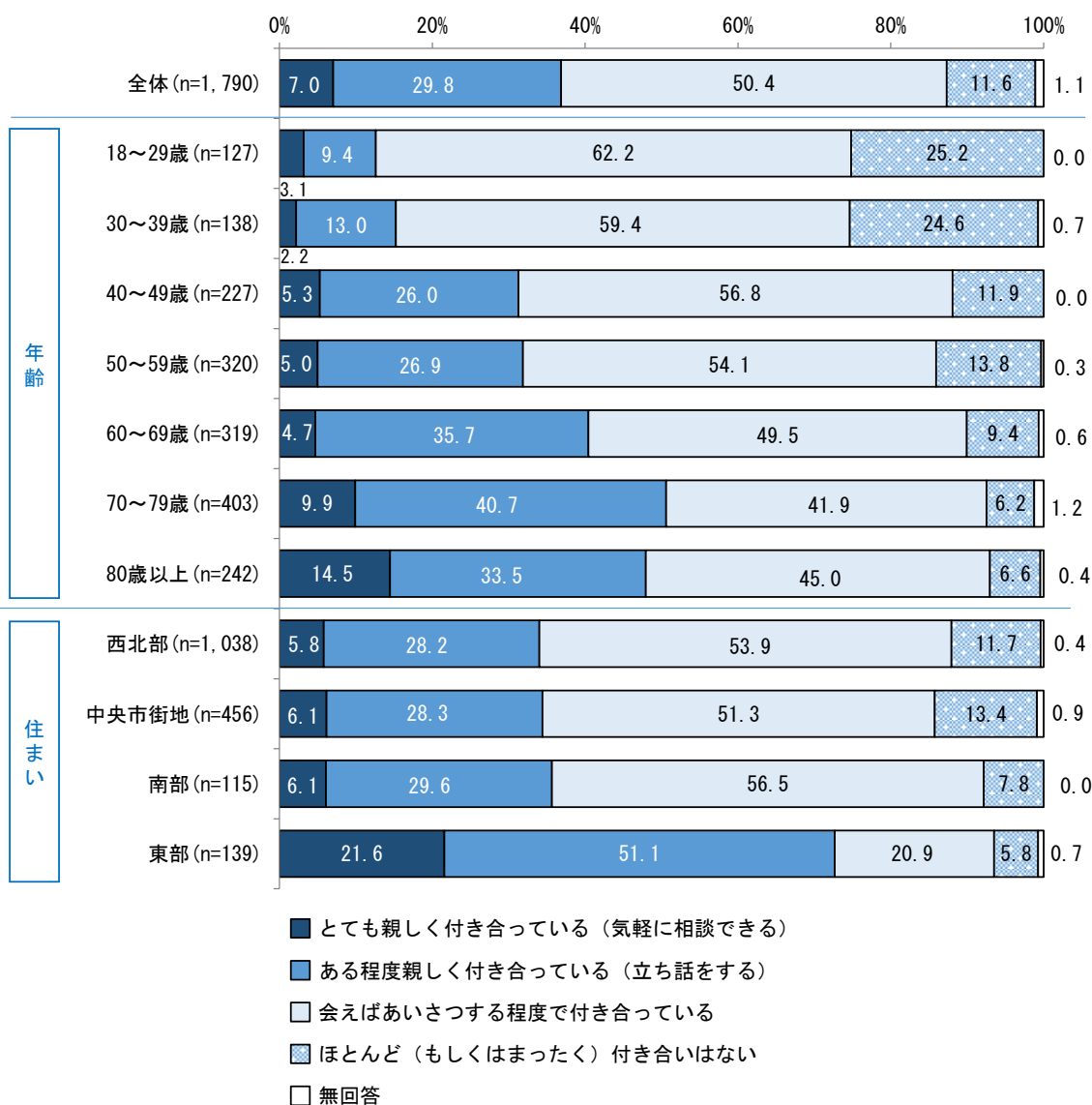
1. 地域の暮らしについて

(1) ふだんの近所づきあい

| | | |
|-----------|------------------------------|------|
| 問9 | あなたは、ふだん、どのような近所づきあいをしていますか。 | ○は1つ |
|-----------|------------------------------|------|

ふだんの近所づきあいについて、「会えばあいさつする程度で付き合っている」が 50.4%で最も高く、次いで「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」が 29.8%、「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が 11.6%となっています。

また、『親しく付き合っている』（「とても親しく付き合っている（気軽に相談できる）」と「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」の合計）を年齢別で見ると、「70～79歳」が 50.6%で最も高く、次いで「80歳以上」が 48.0%、「60～69歳」が 40.4%となっており、住まい別で見ると、「東部」が 72.7%で最も高く、次いで「南部」が 35.7%、「中央市街地」が 34.4%となっています。

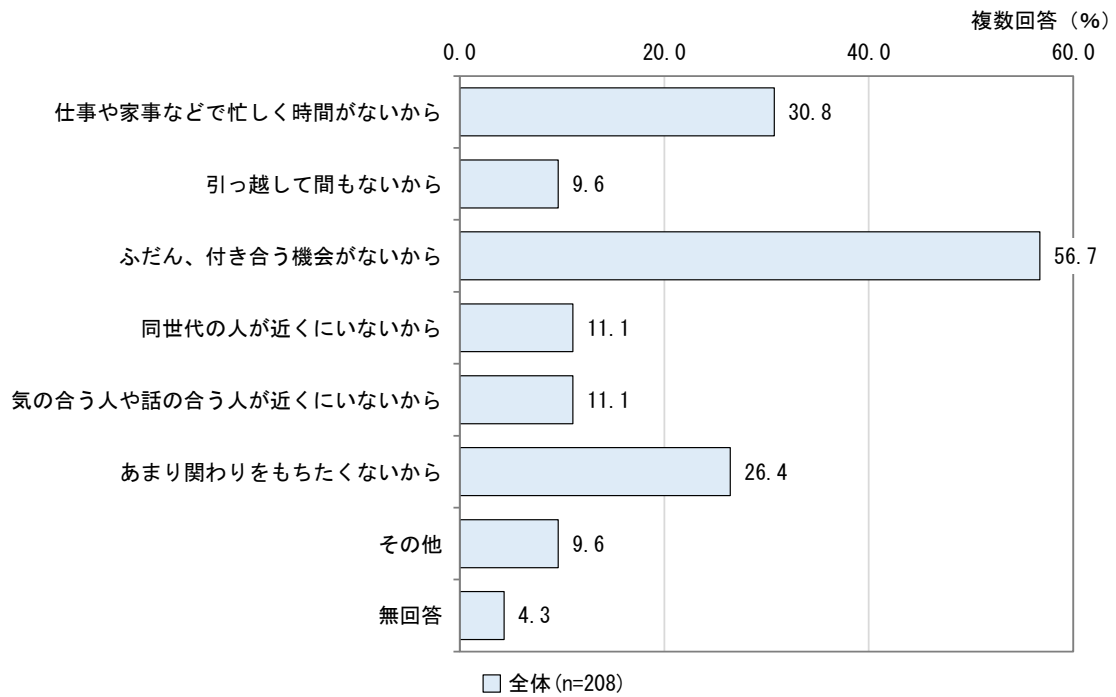


第4章 市民向け調査結果

《問9で「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」と回答した人がお答えください》

| | | |
|-------------|-----------------------|---------|
| 問9-1 | ご近所づきあいをしていない理由は何ですか。 | ○はいくつでも |
|-------------|-----------------------|---------|

近所づきあいをしていない人に、その理由を聞いたところ、「ふだん、付き合う機会がないから」が56.7%で最も高く、次いで「仕事や家事などで忙しく時間がないから」が30.8%、「あまり関わりをもちたくないから」が26.4%となっています。

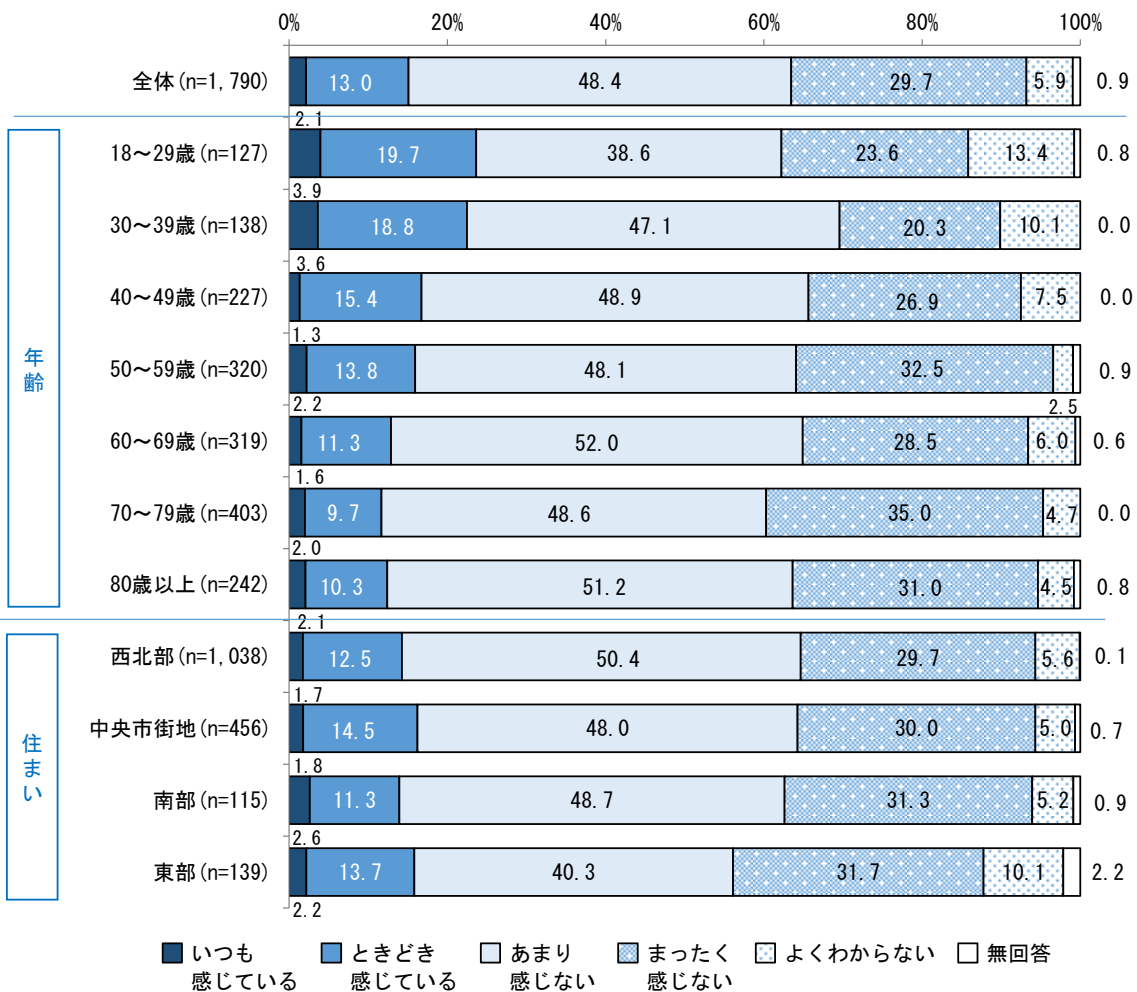


(2) 社会からの孤立感

問 10 あなたは、ふだん、社会から孤立を感じることがありますか。 ○は1つ

社会からの孤立感について、「あまり感じない」が48.4%で最も高く、次いで「まったく感じない」が29.7%、「ときどき感じている」が13.0%となっています。

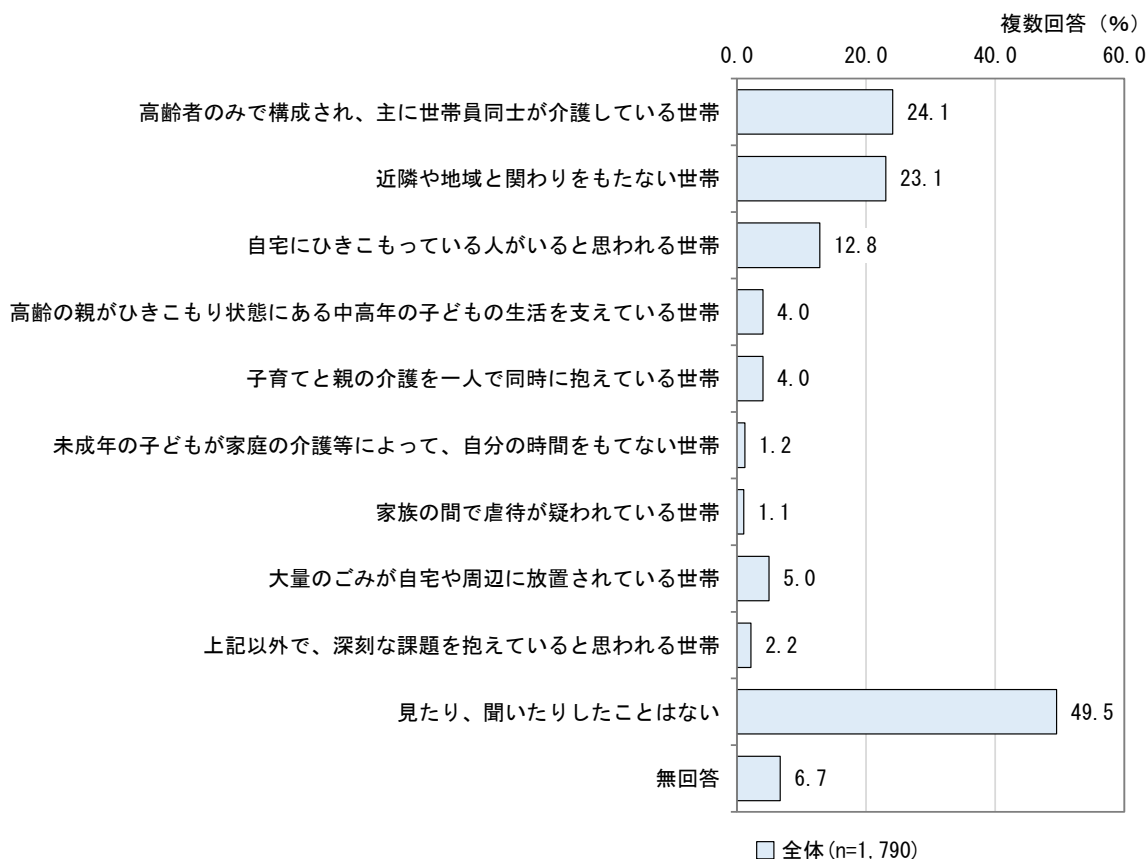
また、『感じている』（「いつも感じている」と「ときどき感じている」の合計）を年齢別で見ると、「18～29歳」が23.6%で最も高く、次いで「30～39歳」が22.4%、「40～49歳」が16.7%となっており、住まい別で見ると、「中央市街地」が16.3%で最も高く、次いで「東部」が15.9%、「西北部」が14.2%となっています。



(3) 課題を抱えている家庭

| | | |
|------|-------------------------------------|---------|
| 問 11 | あなたの身近で、次のような家庭を見たり、聞いたりしたことがありますか。 | ○はいくつでも |
|------|-------------------------------------|---------|

近所で課題を抱えている家庭を見たり、聞いたりしたことがあるかについて、「見たり、聞いたりしたことはない」が 49.5%で最も高く、次いで「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」が 24.1%、「近隣や地域と関わりをもたない世帯」が 23.1%となっています。



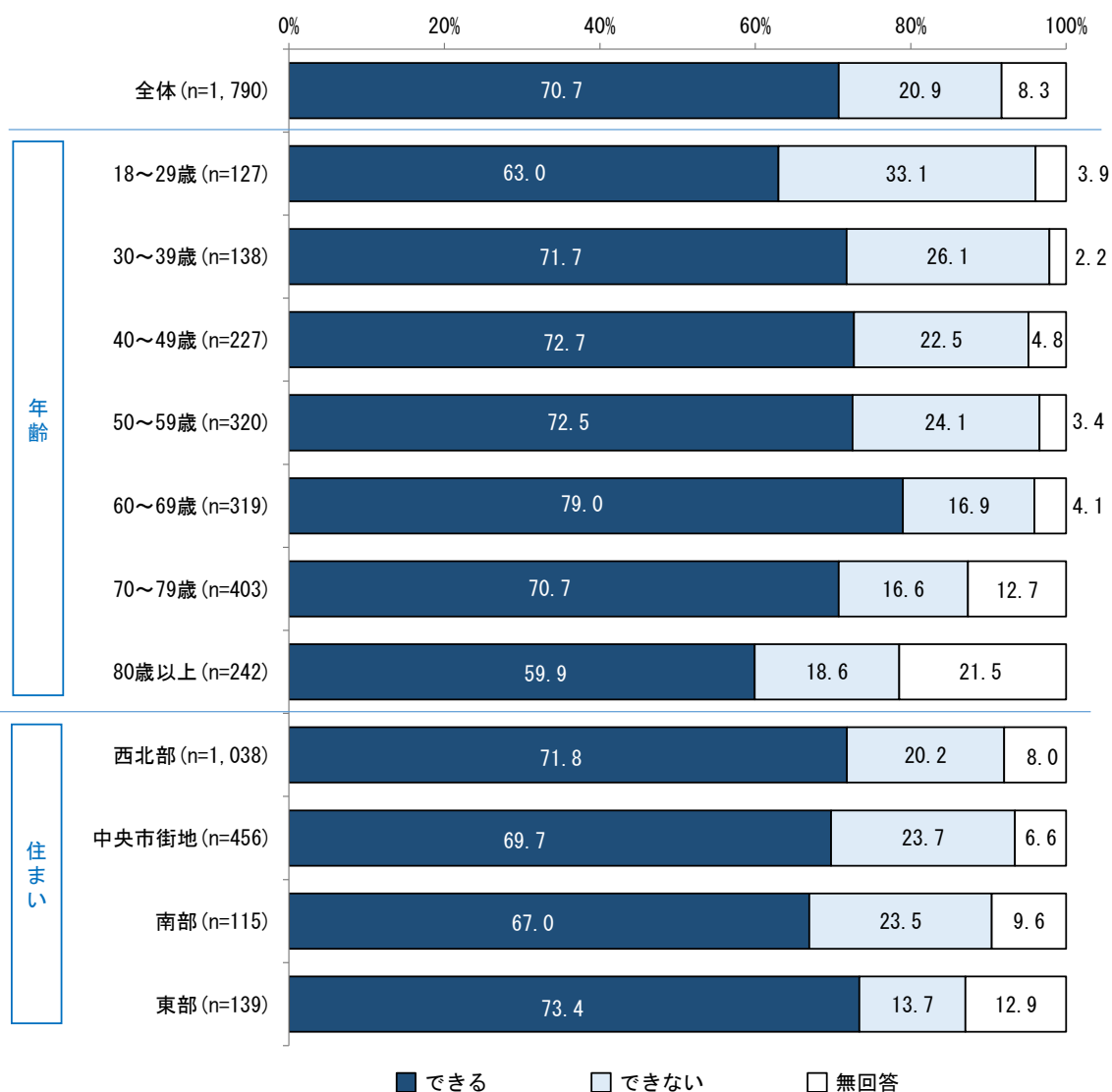
(4) 地域でできる手助け

| | | |
|-------|--|------|
| 問 12① | 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたは地域でどのような手助けができますか。 | ○は1つ |
|-------|--|------|

● 見守り・声かけ

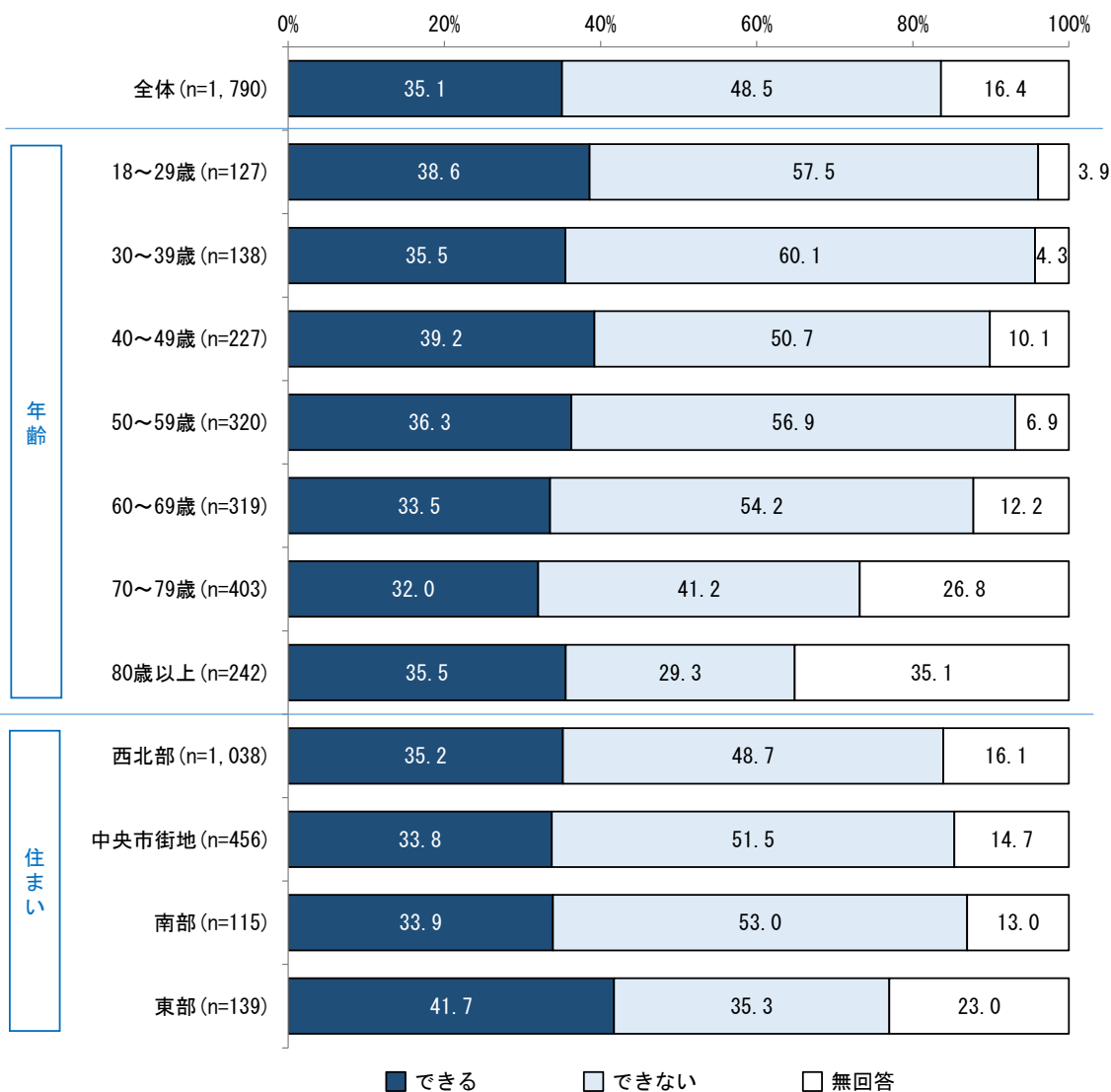
見守り・声かけについて、「できる」が70.7%、「できない」が20.9%となっています。

また、「できる」を年齢別で見ると、「60～69歳」が79.0%で最も高く、次いで「40～49歳」が72.7%、「50～59歳」が72.5%となっており、住まい別で見ると、「東部」が73.4%で最も高く、次いで「西北部」が71.8%、「中央市街地」が69.7%となっています。



● 話し相手や悩みごとの相談相手

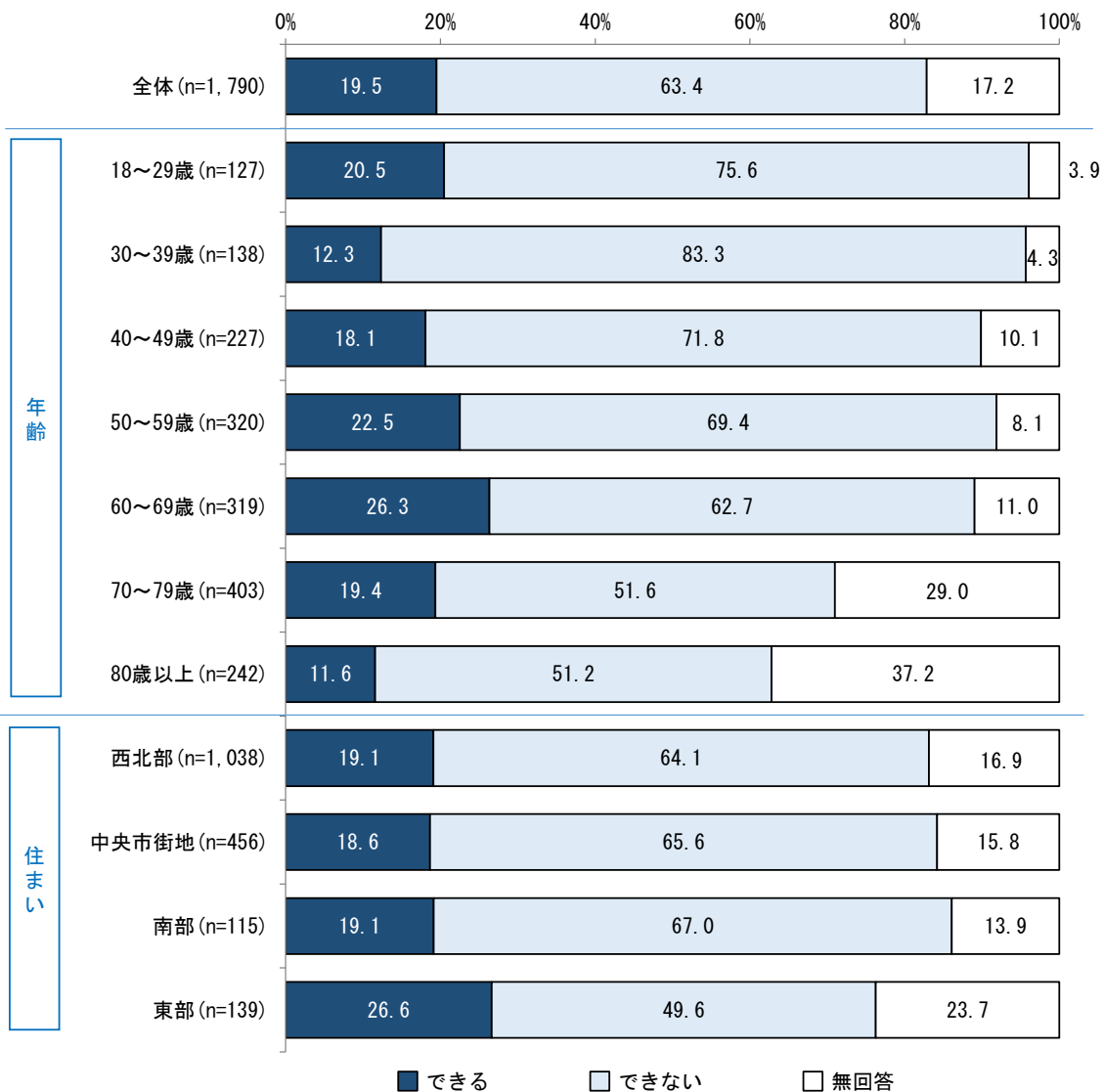
話し相手や悩みごとの相談相手について、「できない」が48.5%、「できる」が35.1%となっています。
 また、「できる」を年齢別で見ると、「40～49歳」が39.2%で最も高く、次いで「18～29歳」が38.6%、「50～59歳」が36.3%となっており、住まい別で見ると、「東部」が41.7%で最も高く、次いで「西北部」が35.2%、「南部」が33.9%となっています。



● 外出（買い物や通院）の手伝い

外出の手伝いについて、「できない」が63.4%、「できる」が19.5%となっています。

また、「できる」を年齢別で見ると、「60～69歳」が26.3%で最も高く、次いで「50～59歳」が22.5%、「18～29歳」が20.5%となっており、住まい別で見ると、「東部」が26.6%で最も高く、次いで「西北部」「南部」がそれぞれ19.1%、「中央市街地」が18.6%となっています。

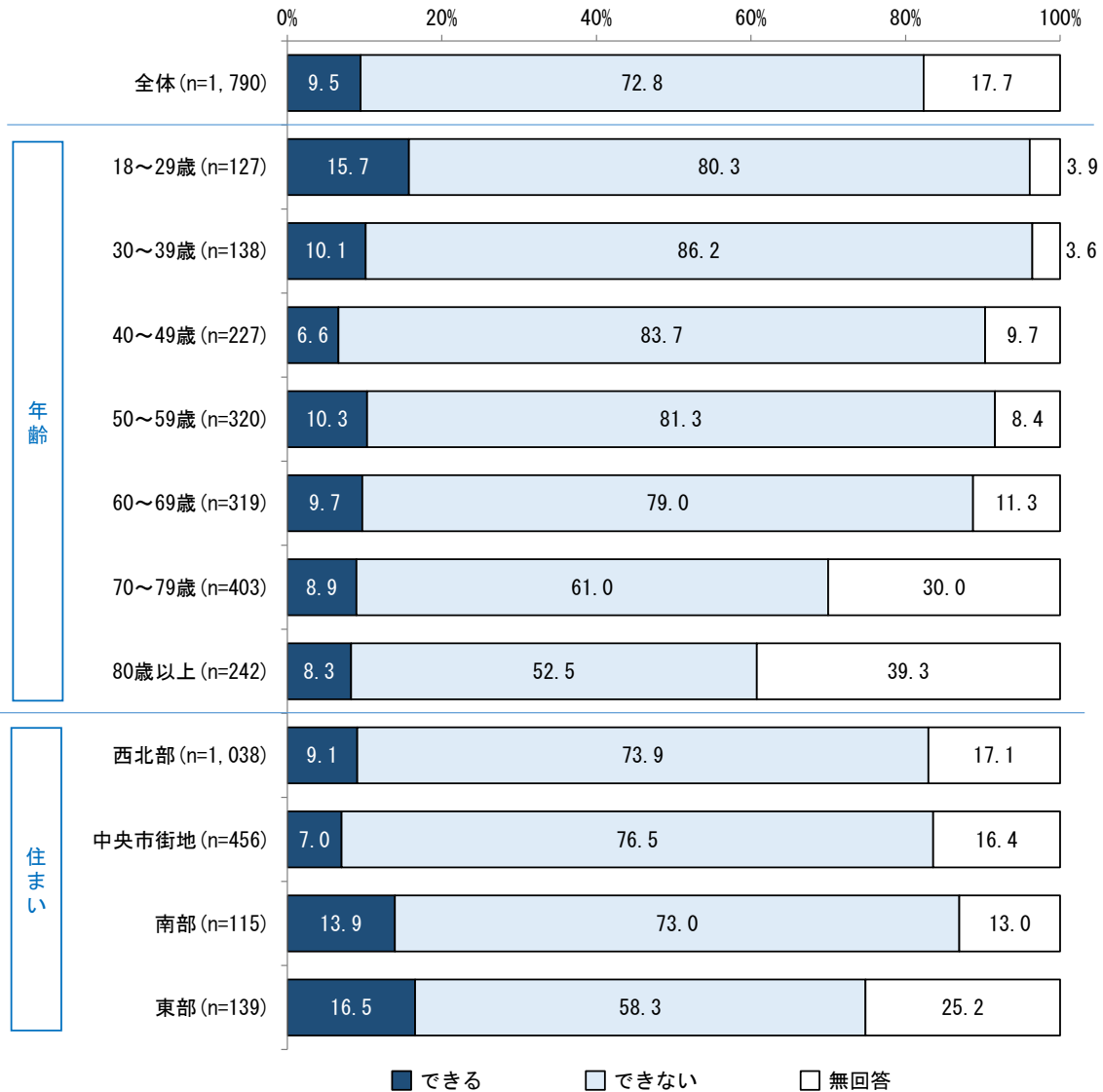


第4章 市民向け調査結果

● 家事（調理、掃除、洗濯等）

家事について、「できない」が72.8%、次いで「できる」が9.5%となっています。

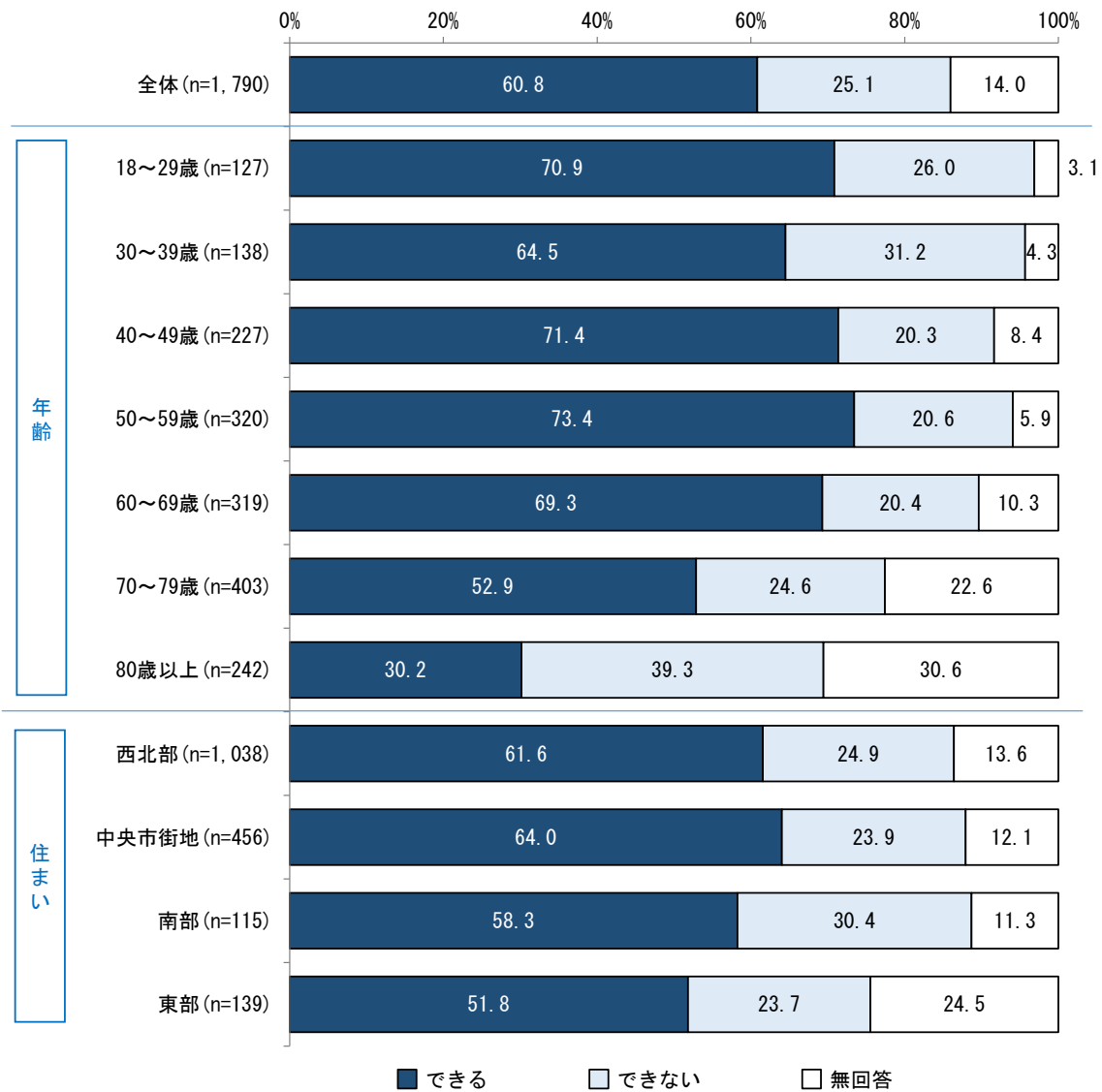
また、「できる」を年齢別で見ると、「18～29歳」が15.7%で最も高く、次いで「50～59歳」が10.3%、「30～39歳」が10.1%となっており、住まい別で見ると、「東部」が16.5%で最も高く、次いで「南部」が13.9%、「西北部」が9.1%となっています。



● 災害時の手助け

災害時の手助けについて、「できる」が60.8%、「できない」が25.1%となっています。

また、「できる」を年齢別で見ると、「50～59歳」が73.4%で最も高く、次いで「40～49歳」が71.4%、「18～29歳」が70.9%となっており、住まい別で見ると、「中央市街地」が64.0%で最も高く、次いで「西北部」が61.6%、「南部」が58.3%となっています。

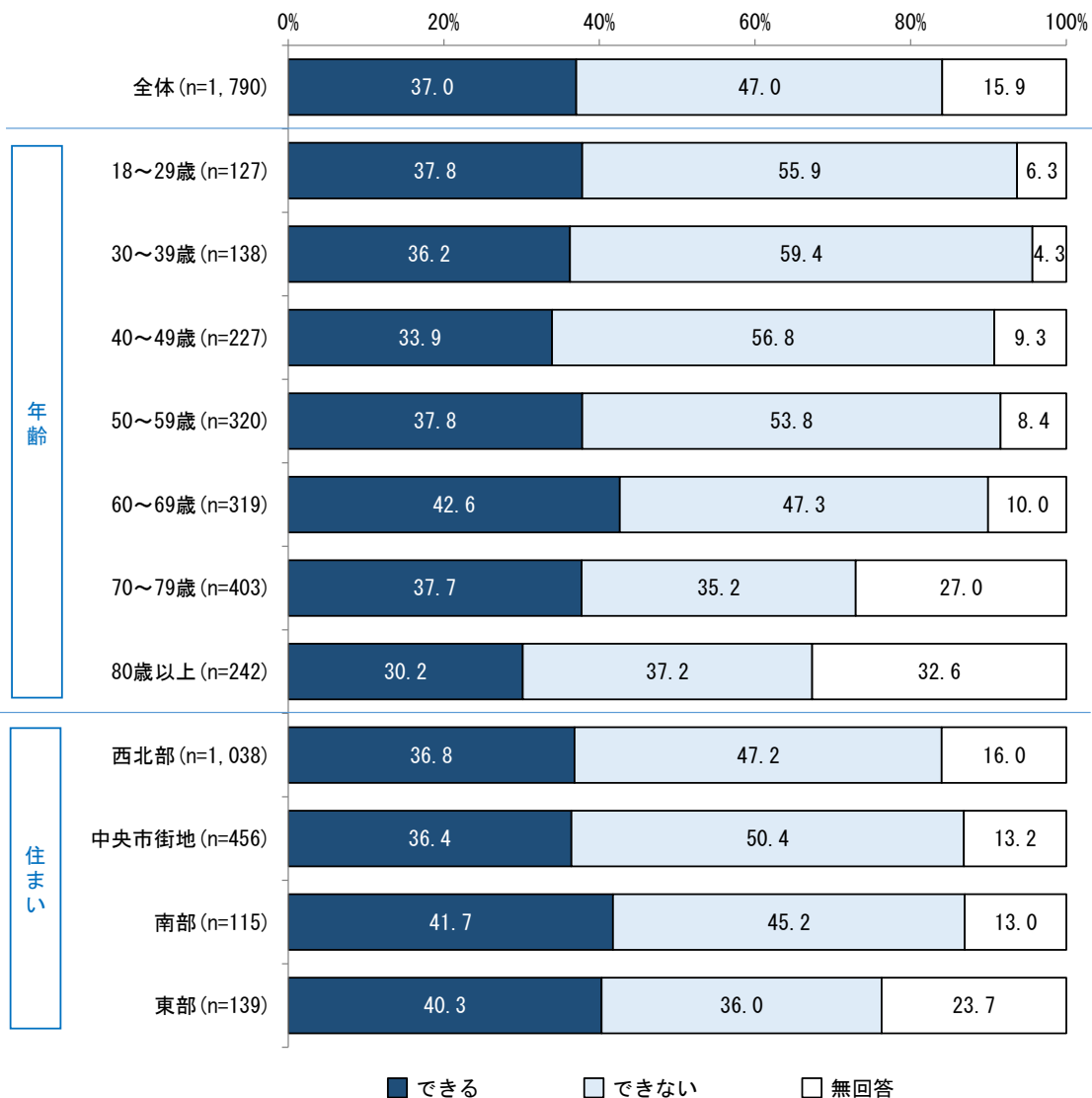


第4章 市民向け調査結果

● ごみ出しの手伝い

ごみ出しの手伝いについて、「できない」が47.0%、「できる」が37.0%となっています。

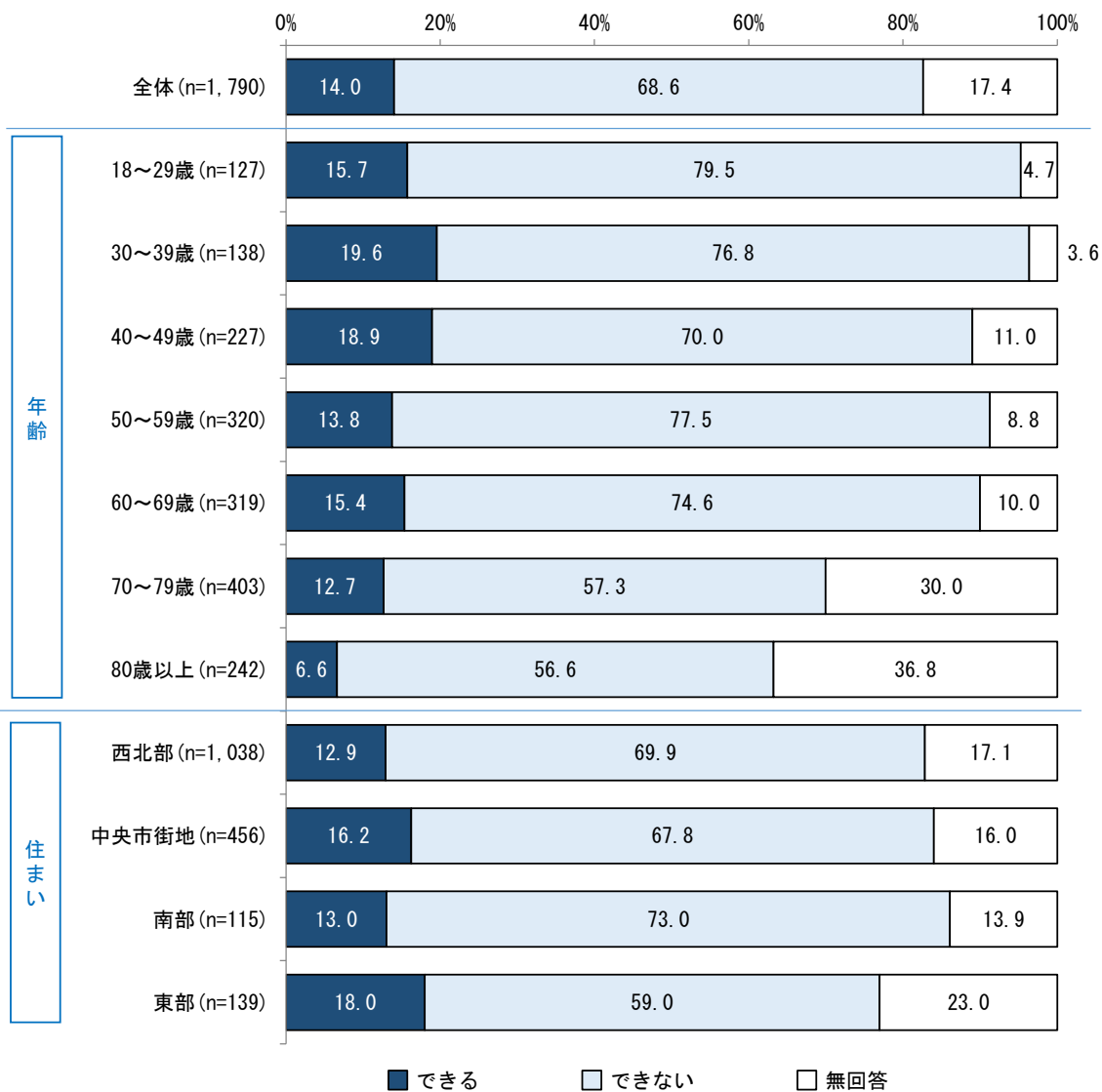
また、「できる」を年齢別でみると、「60～69歳」が42.6%で最も高く、次いで「18～29歳」「50～59歳」がそれぞれ37.8%、「70～79歳」が37.7%となっており、住まい別でみると、「南部」が41.7%で最も高く、次いで「東部」が40.3%、「西北部」が36.8%となっています。



●短時間の子どもの預かり

短時間の子どもの預かりについて、「できない」が68.6%、「できる」が14.0%となっています。

また、「できる」を年齢別で見ると、「30～39歳」が19.6%で最も高く、次いで「40～49歳」が18.9%、「18～29歳」が15.7%となっており、住まい別で見ると、「東部」が18.0%で最も高く、次いで「中央市街地」が16.2%、「南部」が13.0%となっています。

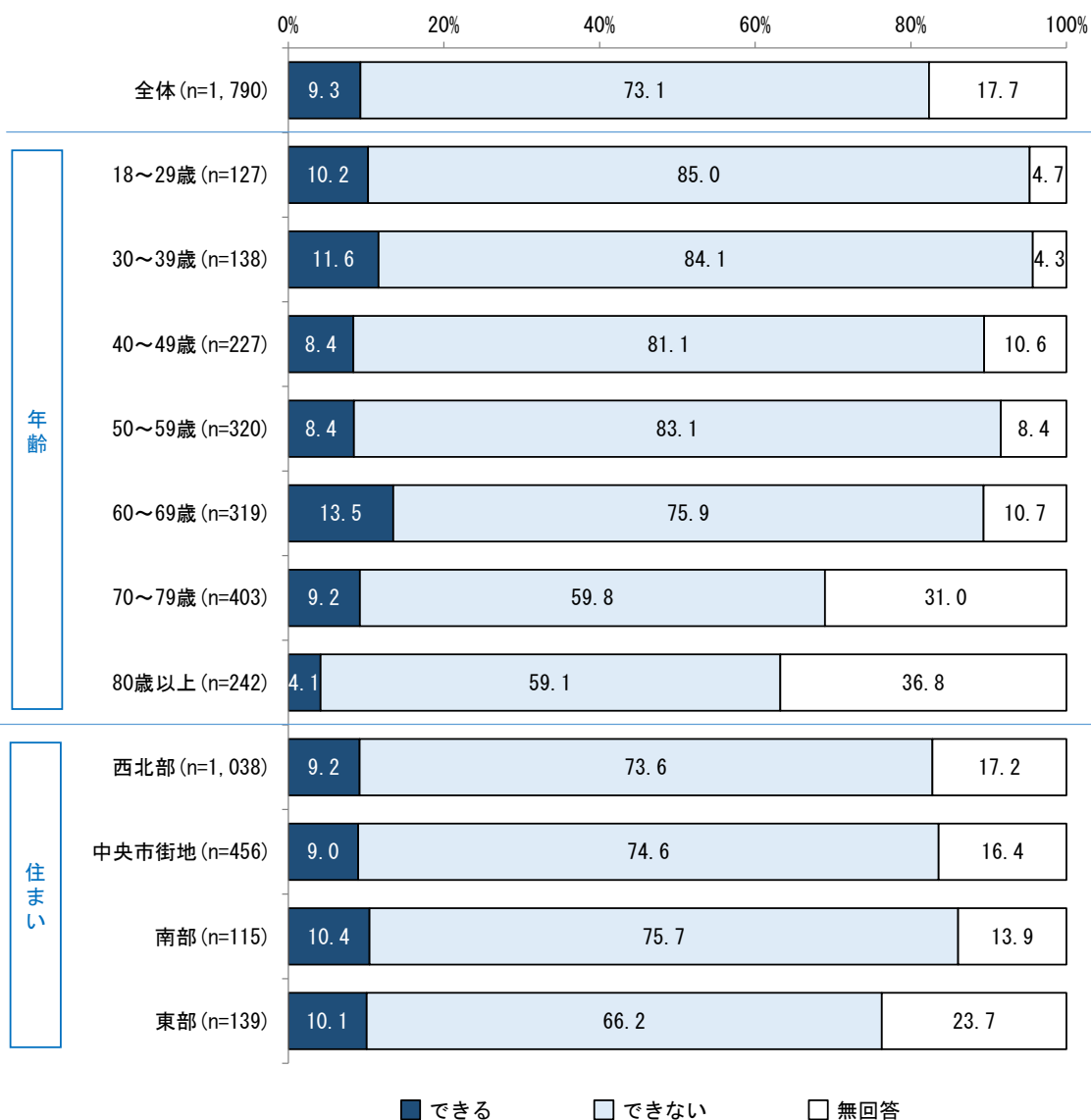


第4章 市民向け調査結果

● 幼稚園、認定こども園等への送り迎え

幼稚園、認定こども園等への送り迎えについて、「できない」が73.1%、「できる」が9.3%となっています。

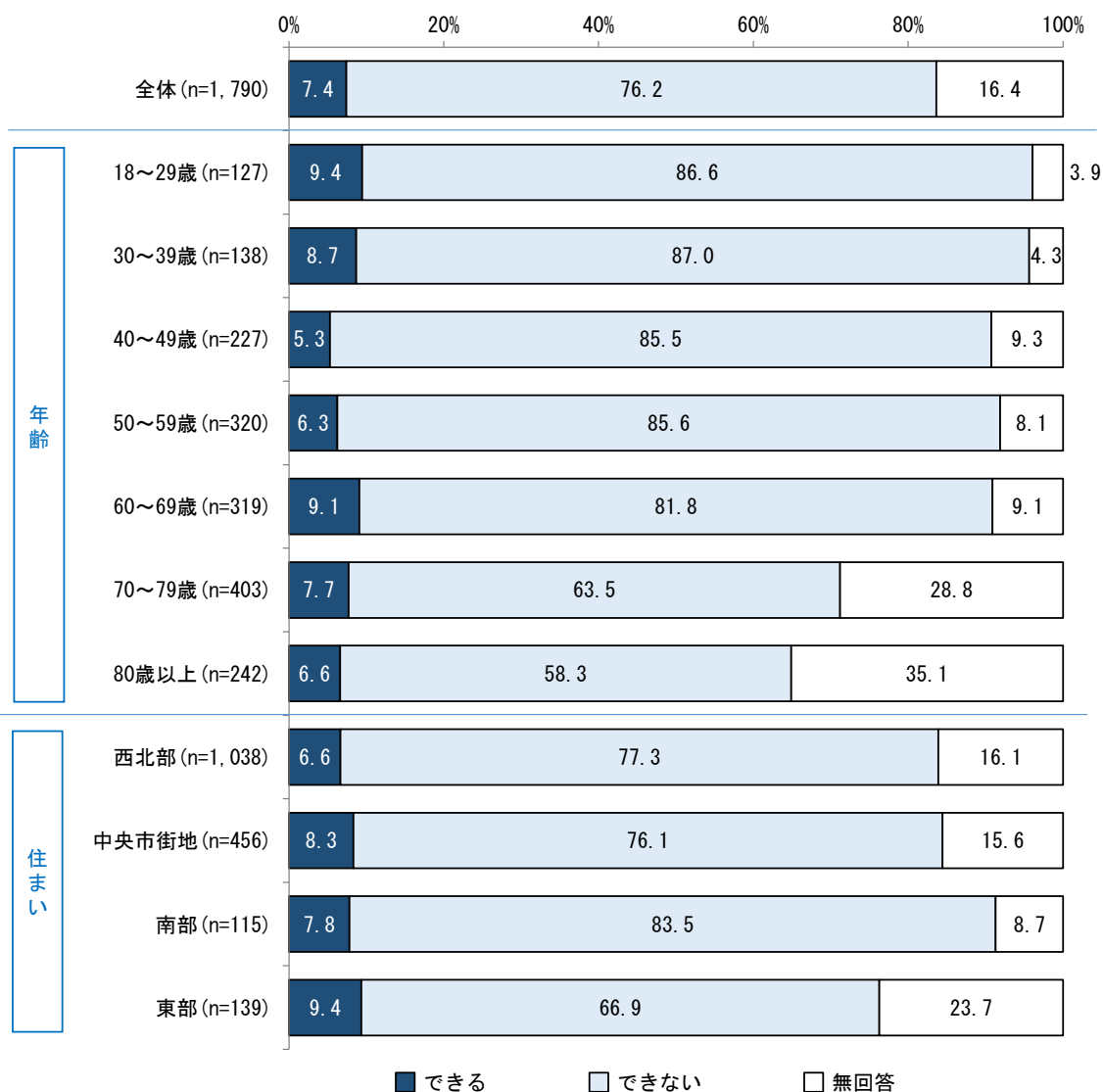
また、「できる」を年齢別で見ると、「60～69歳」が13.5%で最も高く、次いで「30～39歳」が11.6%、「18～29歳」が10.2%となっており、住まい別で見ると、「南部」が10.4%で最も高く、次いで「東部」が10.1%、「西北部」が9.2%となっています。



● お金の出し入れなど手続きの援助

お金の出し入れなど手続きの援助について、「できない」が76.2%、「できる」が7.4%となっています。

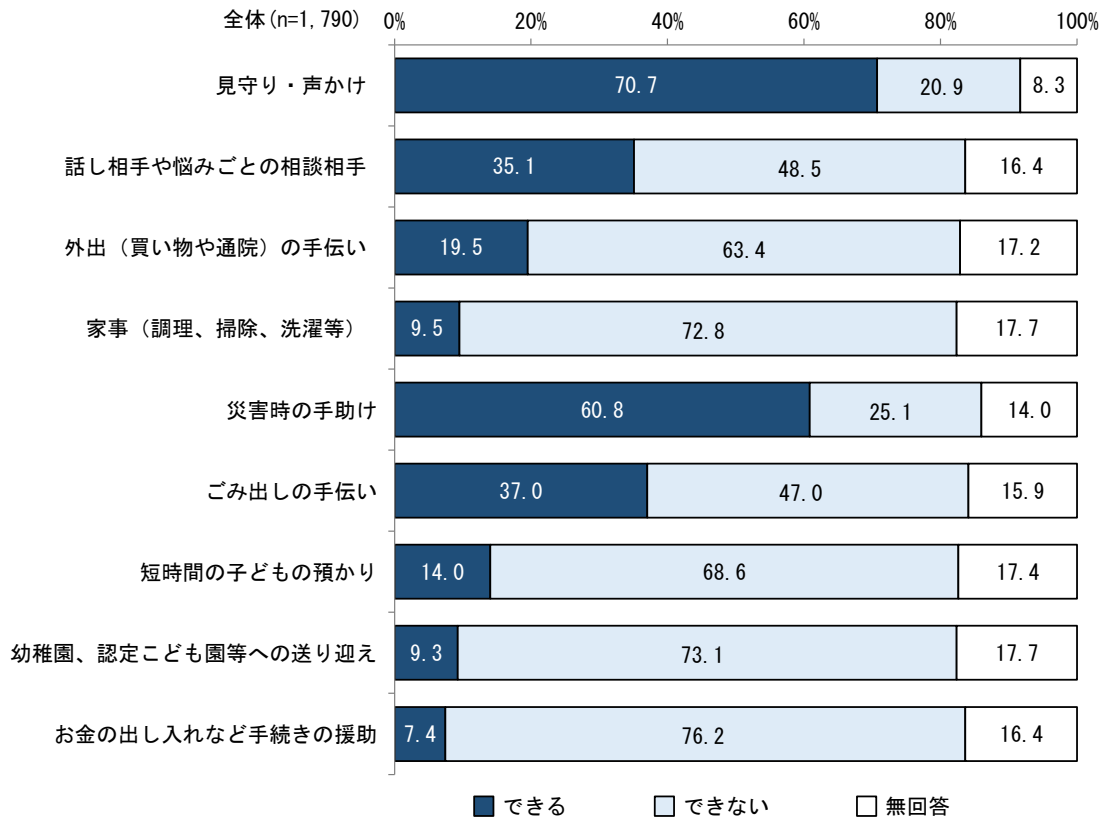
また、「できる」を年齢別で見ると、「18～29歳」が9.4%で最も高く、次いで「60～69歳」が9.1%、「30～39歳」が8.7%となっており、住まい別で見ると、「東部」が9.4%で最も高く、次いで「中央市街地」が8.3%、「南部」が7.8%となっています。



第4章 市民向け調査結果

● 全体比較

日常生活で困っている家庭があった場合に地域でできる手助けについて、「見守り・声かけ」が70.7%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が60.8%、「ごみ出しの手伝い」が37.0%となっています。



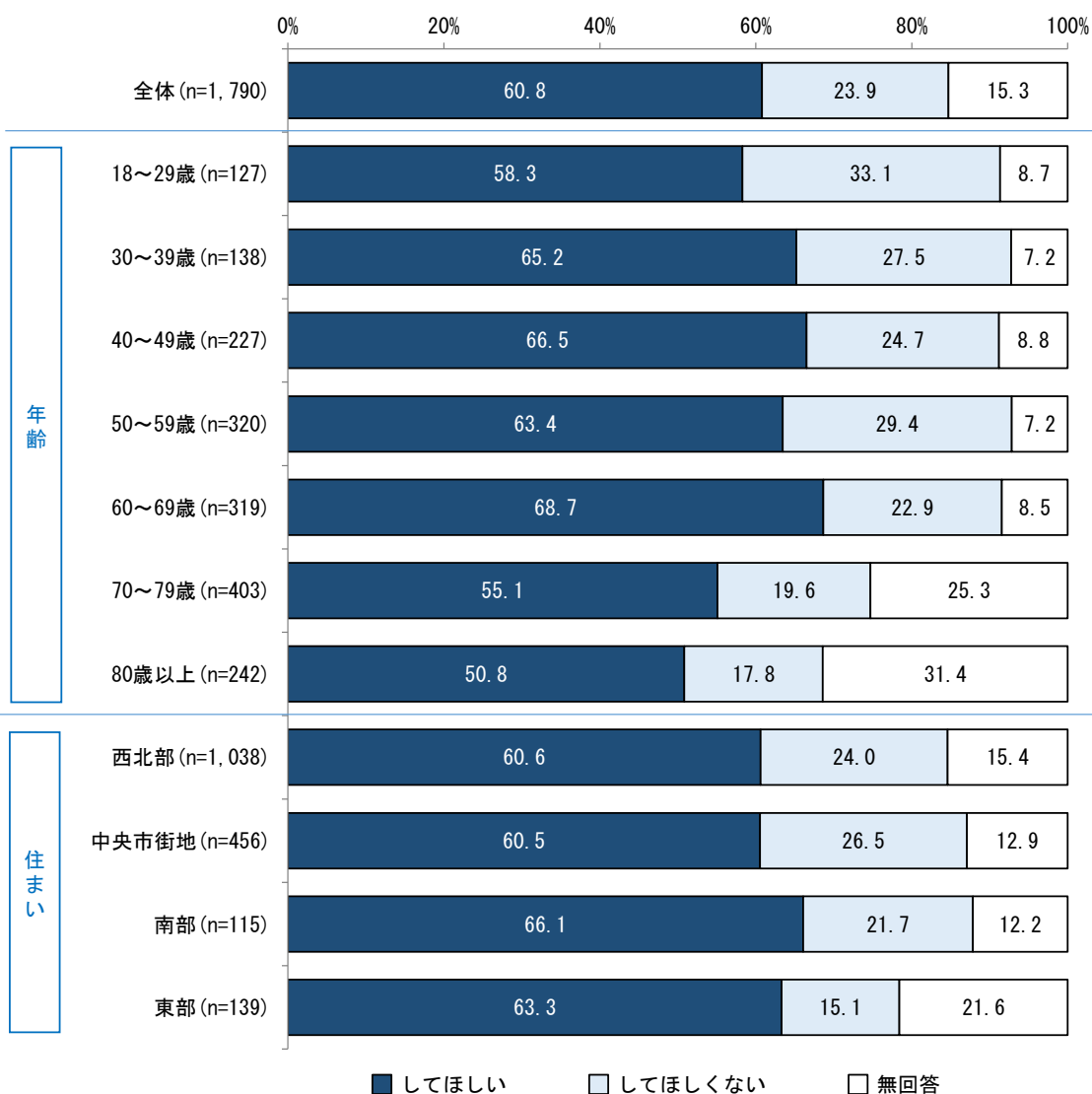
(5) 地域の人にしてほしい手助け

問 12② あなたやご家族が日常生活に困ったことがあったとき、地域の人にしてほしい手助けは何ですか。 ○は1つ

● 見守り・声かけ

見守り・声かけについて、「してほしい」が 60.8%、「してほしくない」が 23.9%となっています。

また、「してほしい」を年齢別でみると、「60～69 歳」が 68.7%で最も高く、次いで「40～49 歳」が 66.5%、「30～39 歳」が 65.2%となっており、住まい別でみると、「南部」が 66.1%で最も高く、次いで「東部」が 63.3%、「西北部」が 60.6%となっています。

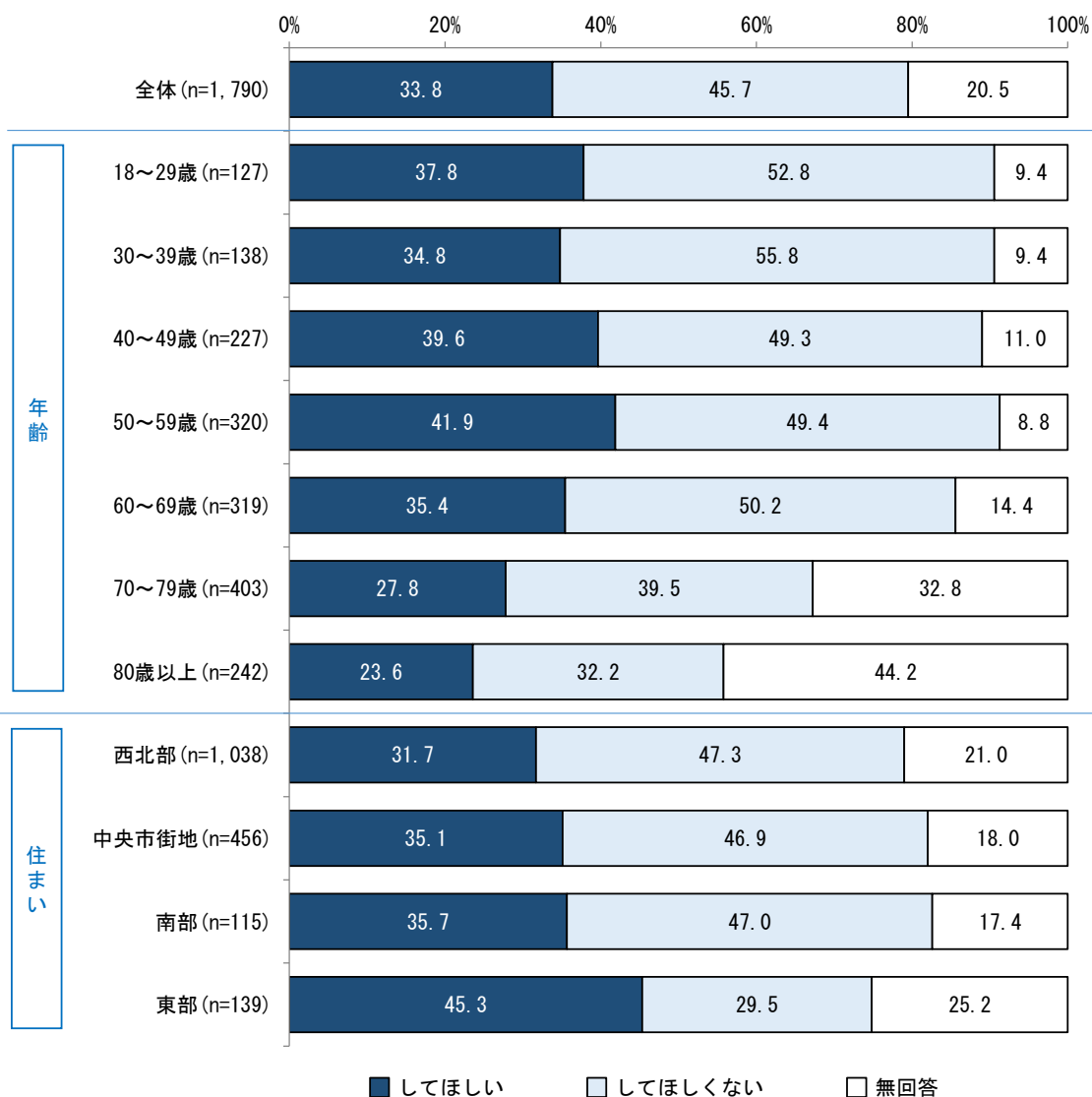


第4章 市民向け調査結果

● 話し相手や悩みごとの相談相手

話し相手や悩みごとの相談相手について、「してほしくない」が45.7%、「してほしい」が33.8%となっています。

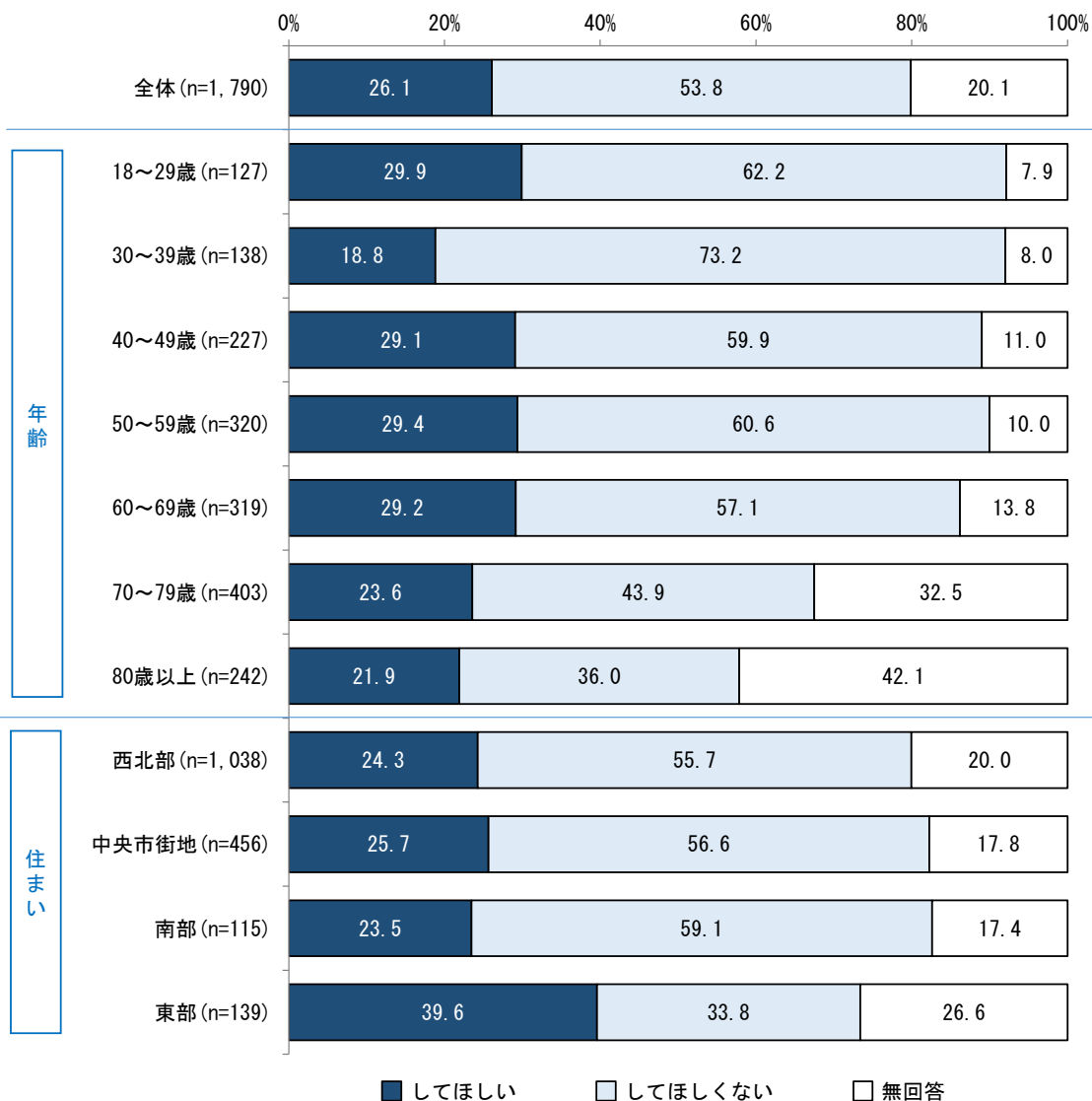
また、「してほしい」を年齢別で見ると、「50～59歳」が41.9%で最も高く、次いで「40～49歳」が39.6%、「18～29歳」が37.8%となっており、住まい別で見ると、「東部」が45.3%で最も高く、次いで「南部」が35.7%、「中央市街地」が35.1%となっています。



● 外出（買い物や通院）の手伝い

外出の手伝いについて、「してほしくない」が53.8%、「してほしい」が26.1%となっています。

また、「してほしい」を年齢別で見ると、「18～29歳」が29.9%で最も高く、次いで「50～59歳」が29.4%、「60～69歳」が29.2%となっており、住まい別で見ると、「東部」が39.6%で最も高く、次いで「中央市街地」が25.7%、「西北部」が24.3%となっています。

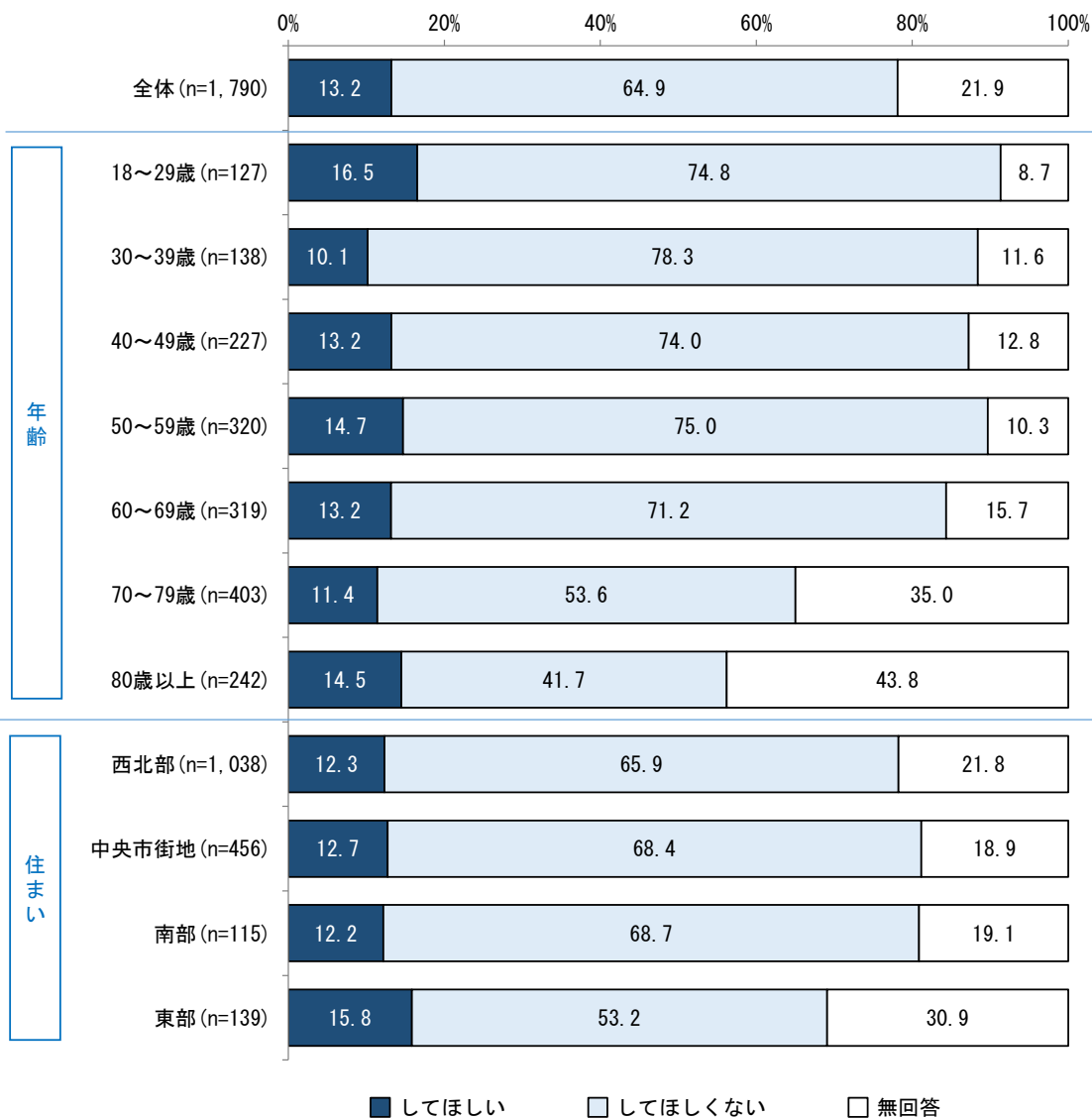


第4章 市民向け調査結果

● 家事（調理、掃除、洗濯等）

家事について、「してほしい」が64.9%、「してほしくない」が13.2%となっています。

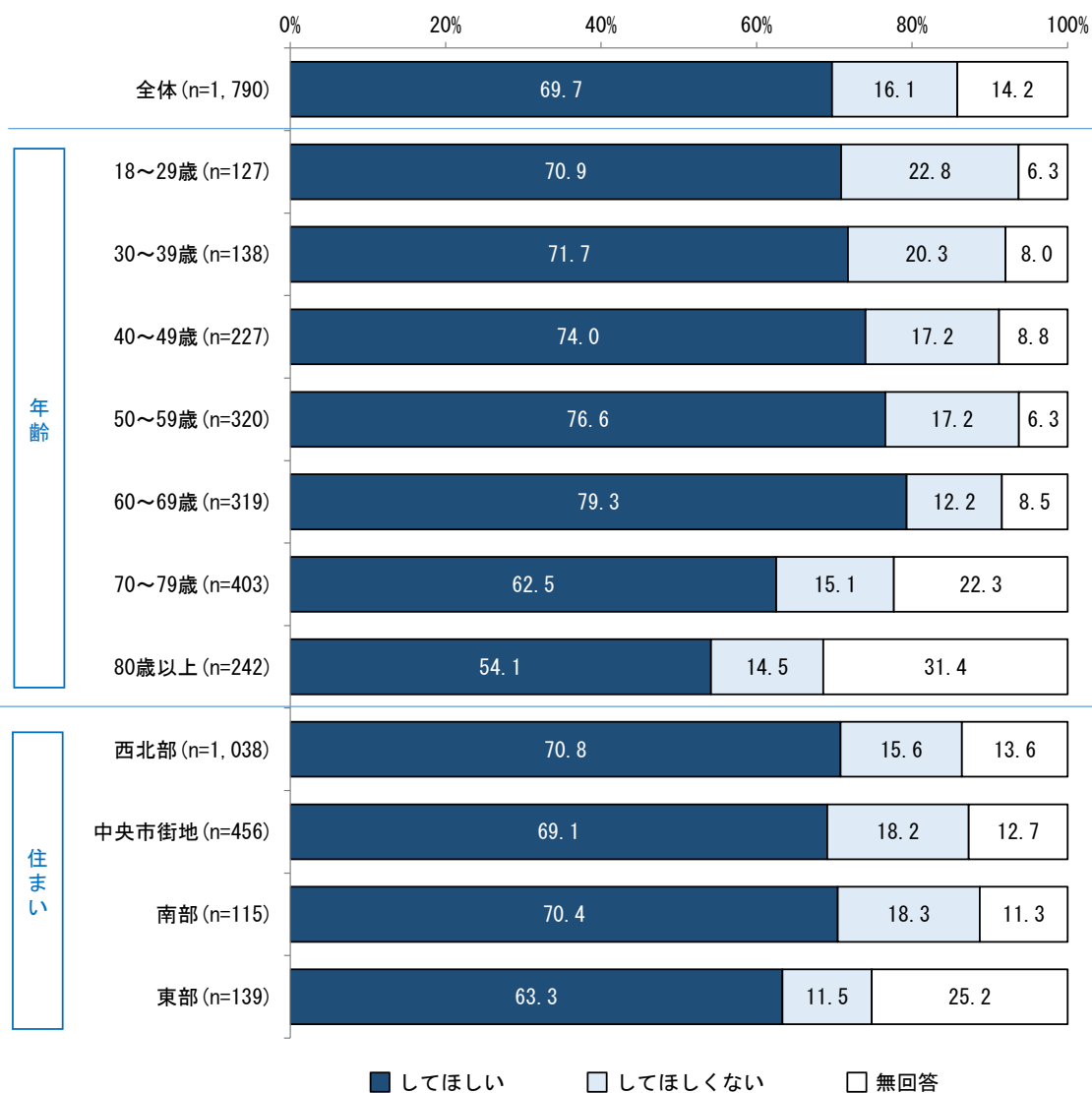
また、「してほしい」を年齢別で見ると、「18～29歳」が16.5%で最も高く、次いで「50～59歳」が14.7%、「80歳以上」が14.5%となっており、住まい別で見ると、「東部」が15.8%で最も高く、次いで「中央市街地」が12.7%、「西北部」が12.3%となっています。



● 災害時の手助け

災害時の手助けについて、「してほしい」が69.7%、「してほしくない」が16.1%となっています。

また、「してほしい」を年齢別で見ると、「60～69歳」が79.3%で最も高く、次いで「50～59歳」が76.6%、「40～49歳」が74.0%となっており、住まい別で見ると、「西北部」が70.8%で最も高く、次いで「南部」が70.4%、「中央市街地」が69.1%となっています。

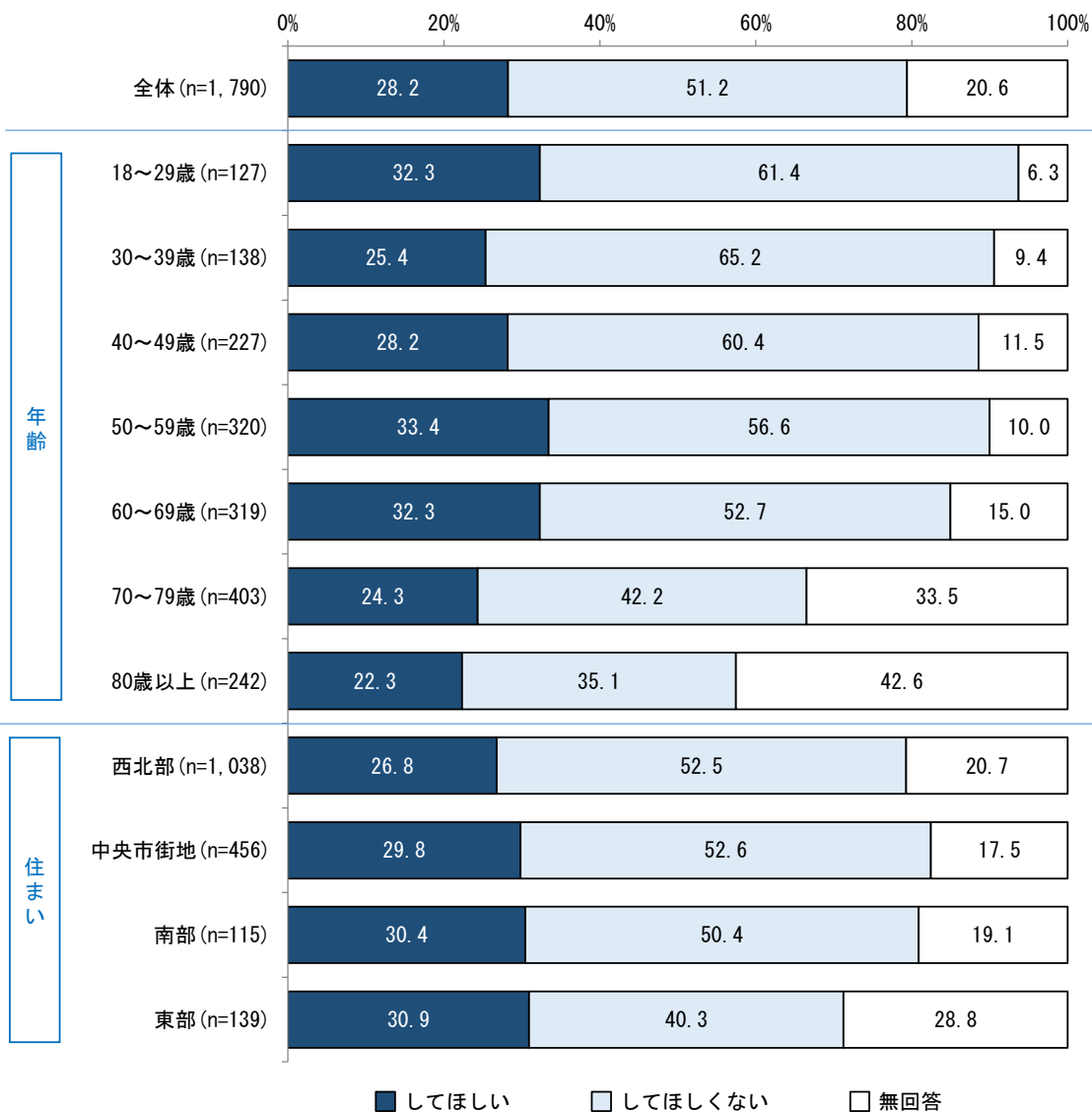


第4章 市民向け調査結果

● ごみ出しの手伝い

ごみ出しの手伝いについて、「してほしくない」が 51.2%、「してほしい」が 28.2%となっています。

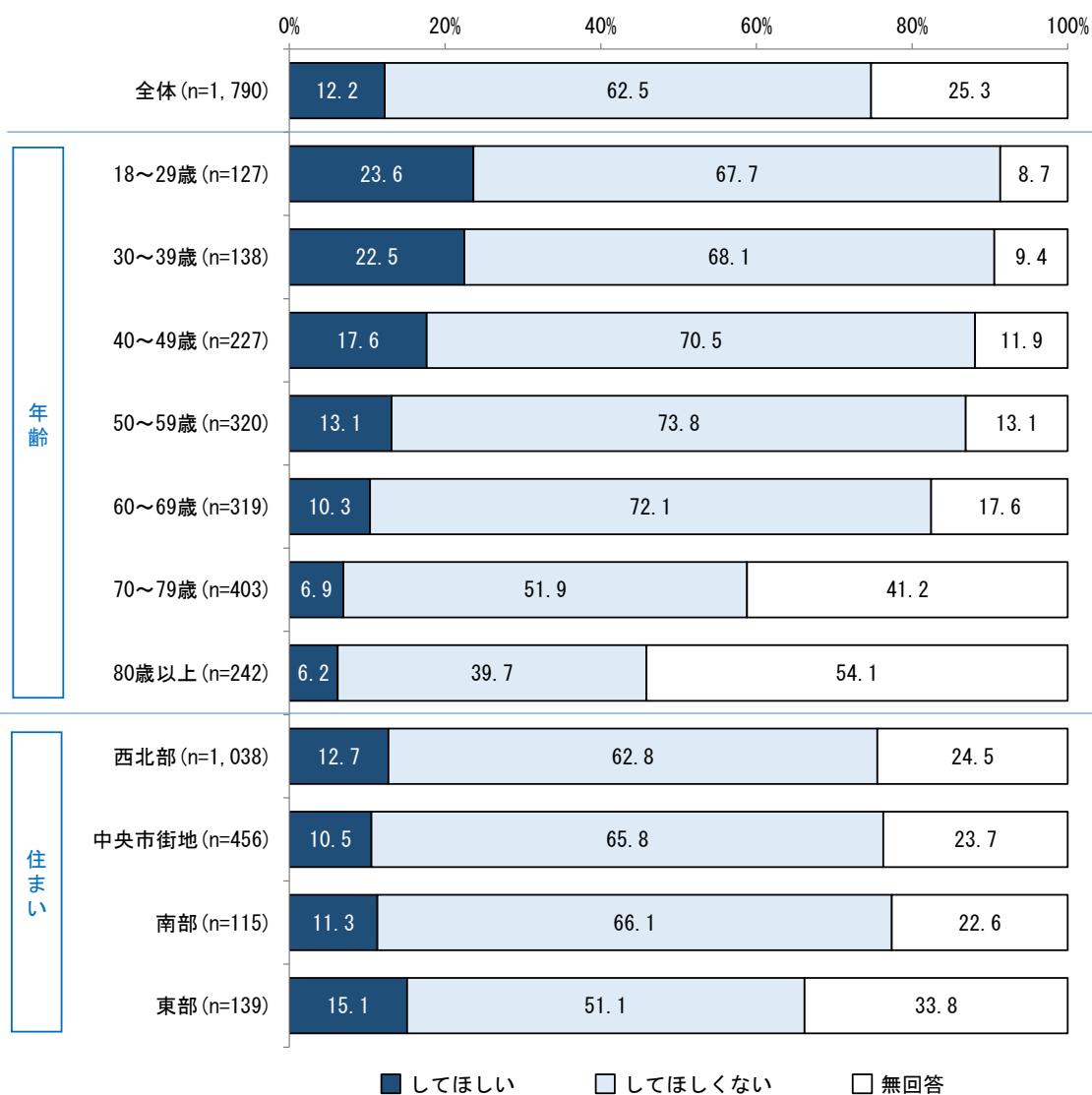
また、「してほしい」を年齢別で見ると、「50～59 歳」が 33.4%で最も高く、次いで「18～29 歳」「60～69 歳」がそれぞれ 32.3%、「40～49 歳」が 28.2%となっており、住まい別で見ると、「東部」が 30.9%で最も高く、次いで「南部」が 30.4%、「中央市街地」が 29.8%となっています。



● 短時間の子どもの預かり

短時間の子どもの預かりについて、「してほしくない」が62.5%、「してほしい」が12.2%となっています。

また、「してほしい」を年齢別で見ると、「18～29歳」が23.6%で最も高く、次いで「30～39歳」が22.5%、「40～49歳」が17.6%となっており、住まい別で見ると、「東部」が15.1%で最も高く、次いで「西北部」が12.7%、「南部」が11.3%となっています。

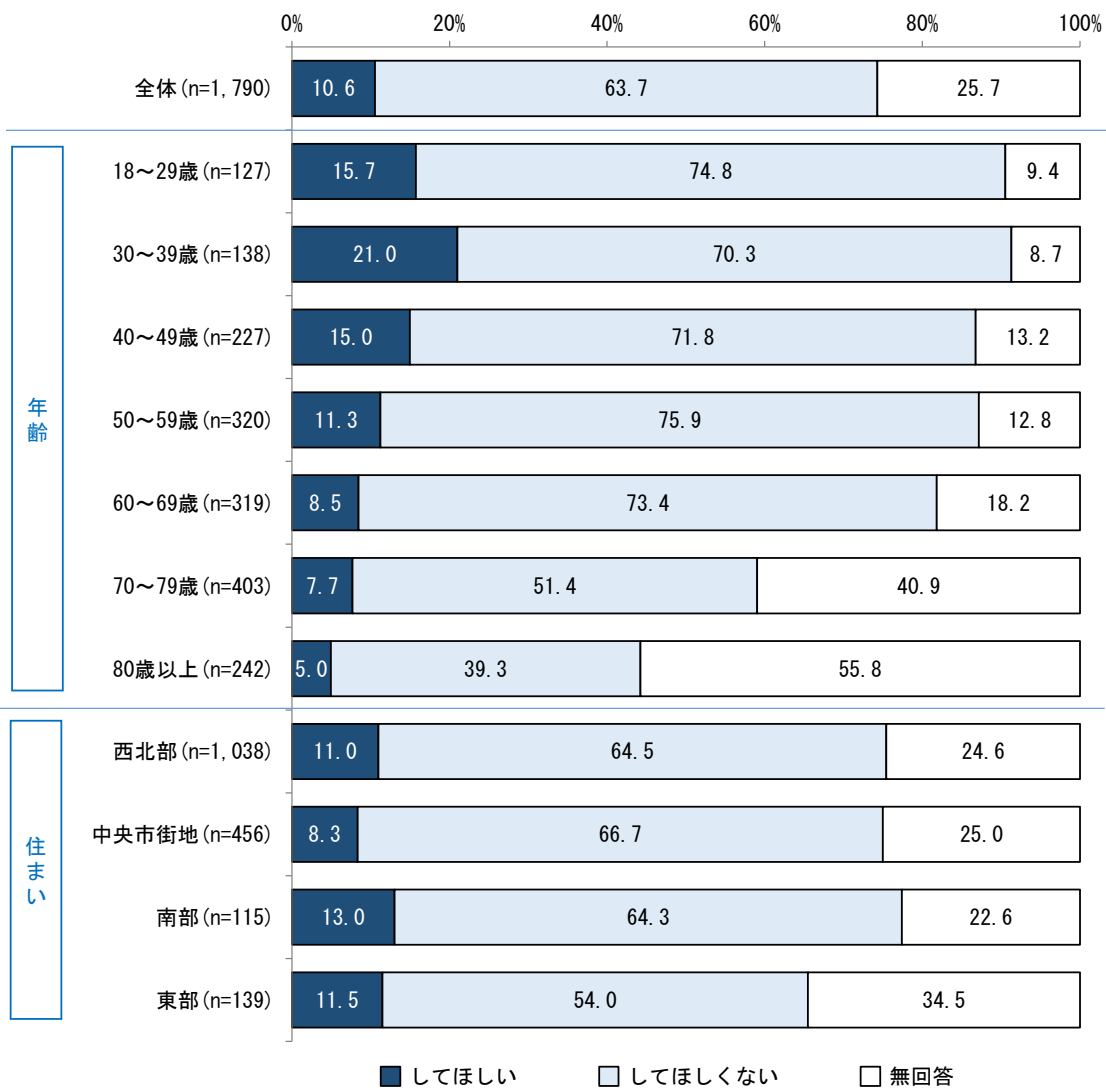


第4章 市民向け調査結果

● 幼稚園、認定こども園等への送り迎え

幼稚園、認定こども園等への送り迎えについて、「してほしくない」が63.7%、「してほしい」が10.6%となっています。

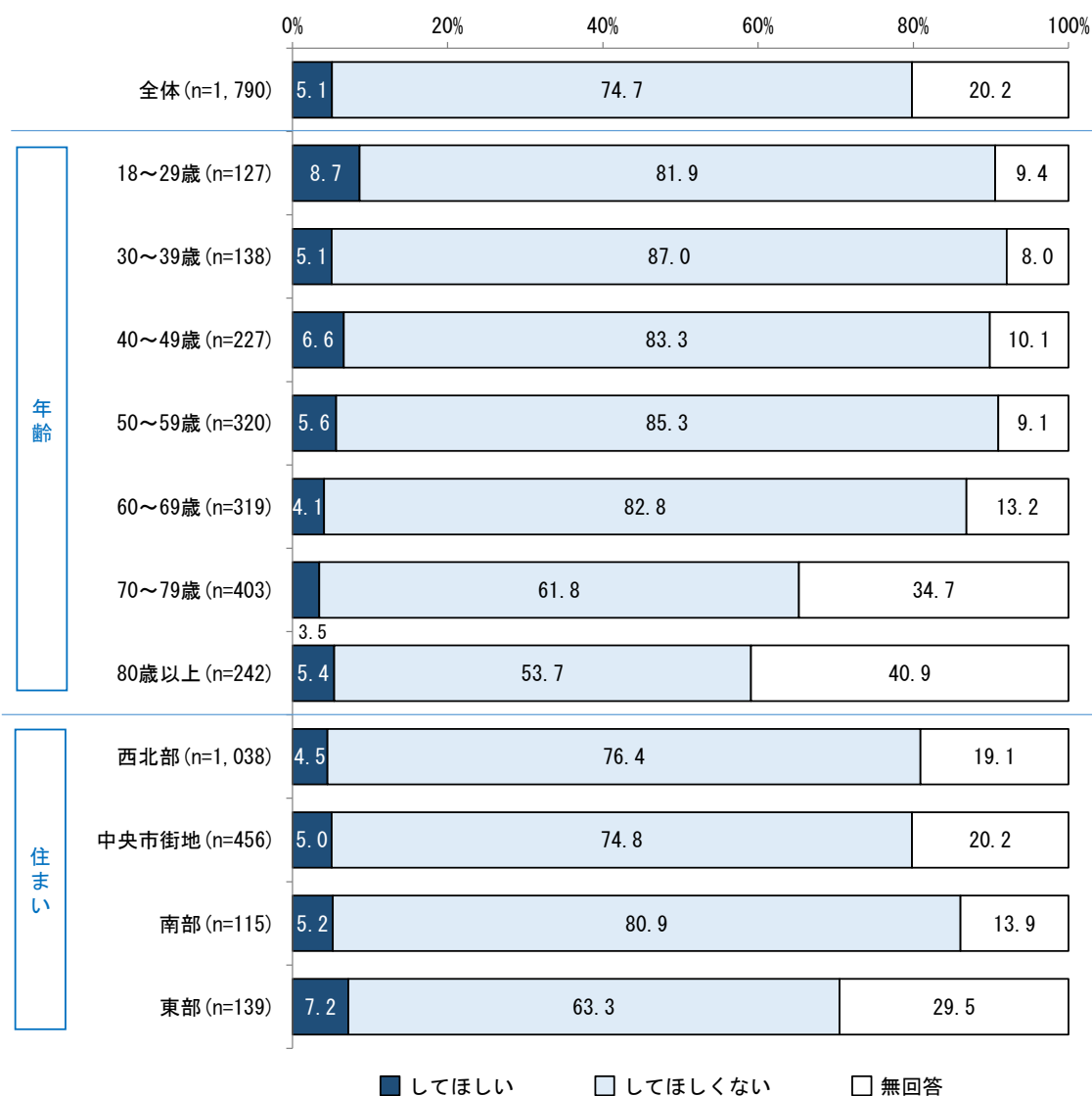
また、「してほしい」を年齢別で見ると、「30～39歳」が21.0%で最も高く、次いで「18～29歳」が15.7%、「40～49歳」が15.0%となっており、住まい別で見ると、「南部」が13.0%で最も高く、次いで「東部」が11.5%、「西北部」が11.0%となっています。



● お金の出し入れなど手続きの援助

お金の出し入れなど手続きの援助について、「してほしくない」が74.7%、「してほしい」が5.1%となっています。

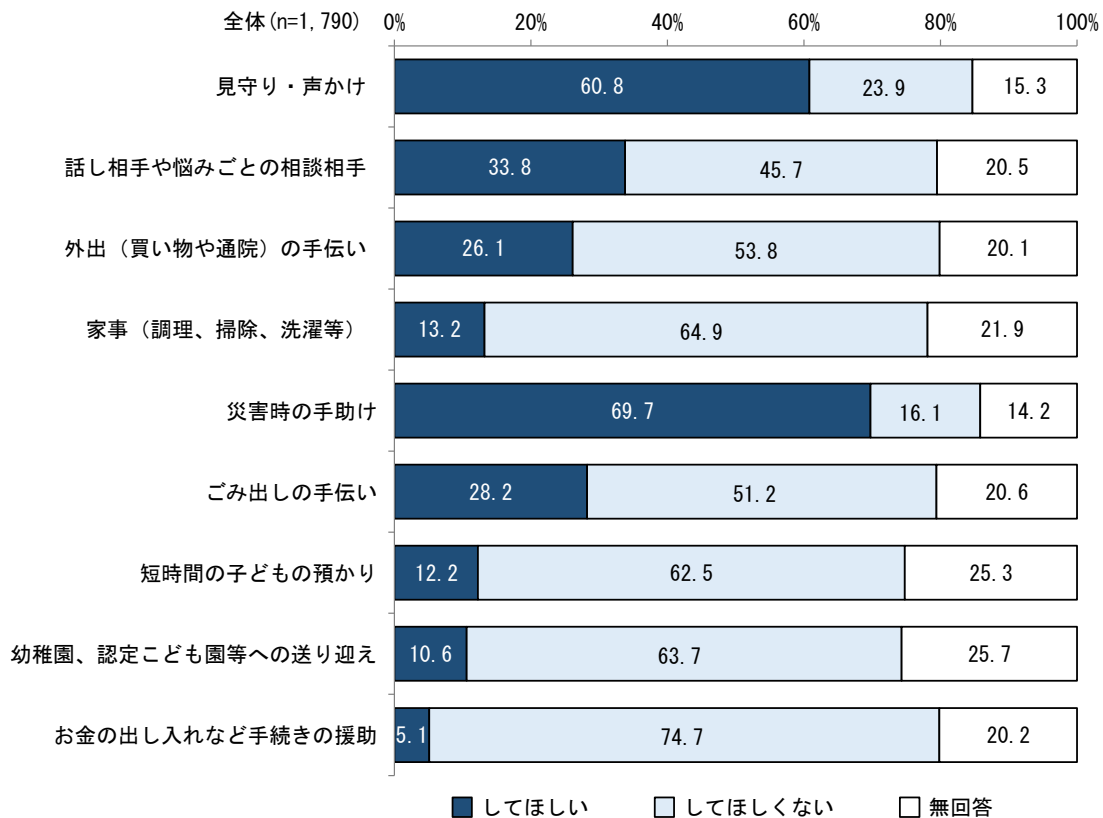
また、「してほしい」を年齢別で見ると、「18～29歳」が8.7%で最も高く、次いで「40～49歳」が6.6%、「50～59歳」が5.6%となっており、住まい別で見ると、「東部」が7.2%で最も高く、次いで「南部」が5.2%、「中央市街地」が5.0%となっています。



第4章 市民向け調査結果

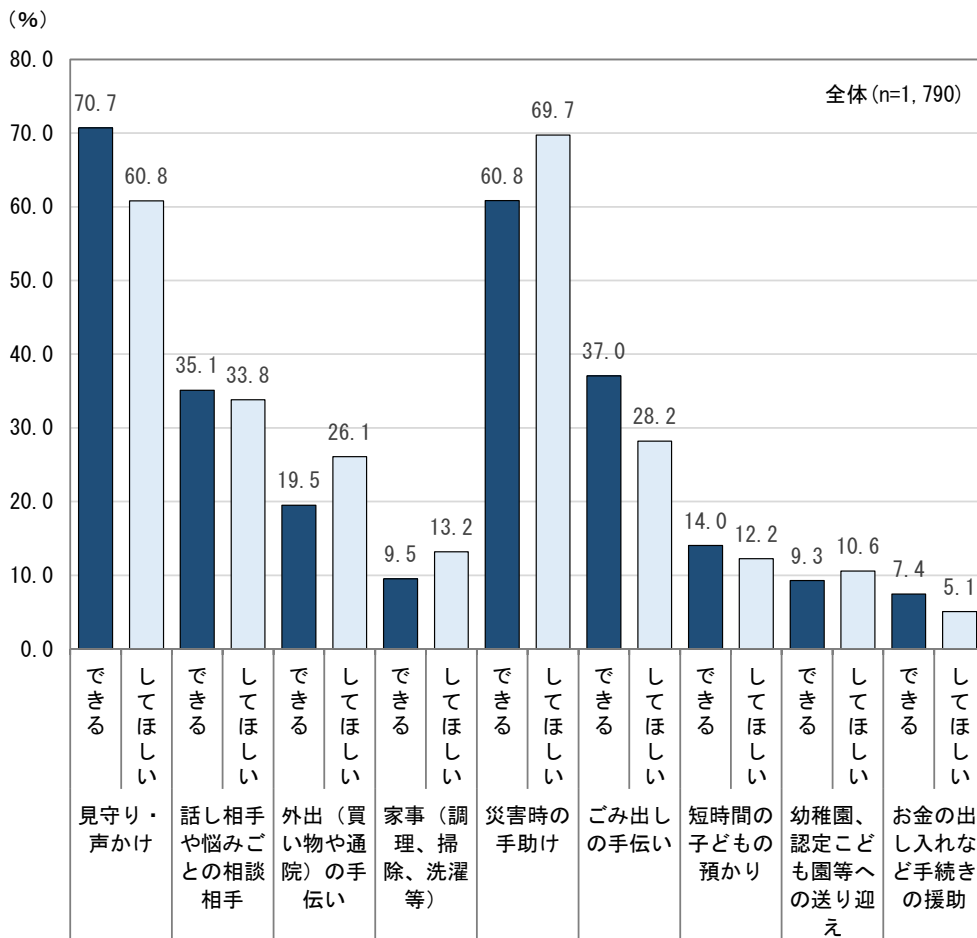
● 全体比較

日常生活に困ったことがあったときに地域の人にしてほしい手助けについて、「災害時の手助け」が69.7%で最も高く、次いで「見守り・声かけ」が60.8%、「話し相手や悩みごとの相談相手」が33.8%となっています。



● 「地域でできる手助け」と「地域の人にしてほしい手助け」の比較

「地域でできる手助け」と「地域の人にしてほしい手助け」と比較すると、「見守り・声かけ」「話し相手や悩みごとの相談相手」「ごみ出しの手伝い」「短時間の子どもの預かり」「お金の出し入れなど手続きの援助」は、「地域ができる手助け」が「地域の人にしてほしい手助け」を上回っているため、地域で手助けが可能であり、「外出（買い物や通院）の手伝い」「家事（調理、掃除、洗濯等）」「災害時の手助け」「幼稚園、認定こども園等への送り迎え」は、「地域の人にしてほしい手助け」が「地域ができる手助け」を上回っているため、地域だけでは手助けが困難な状況となっています。



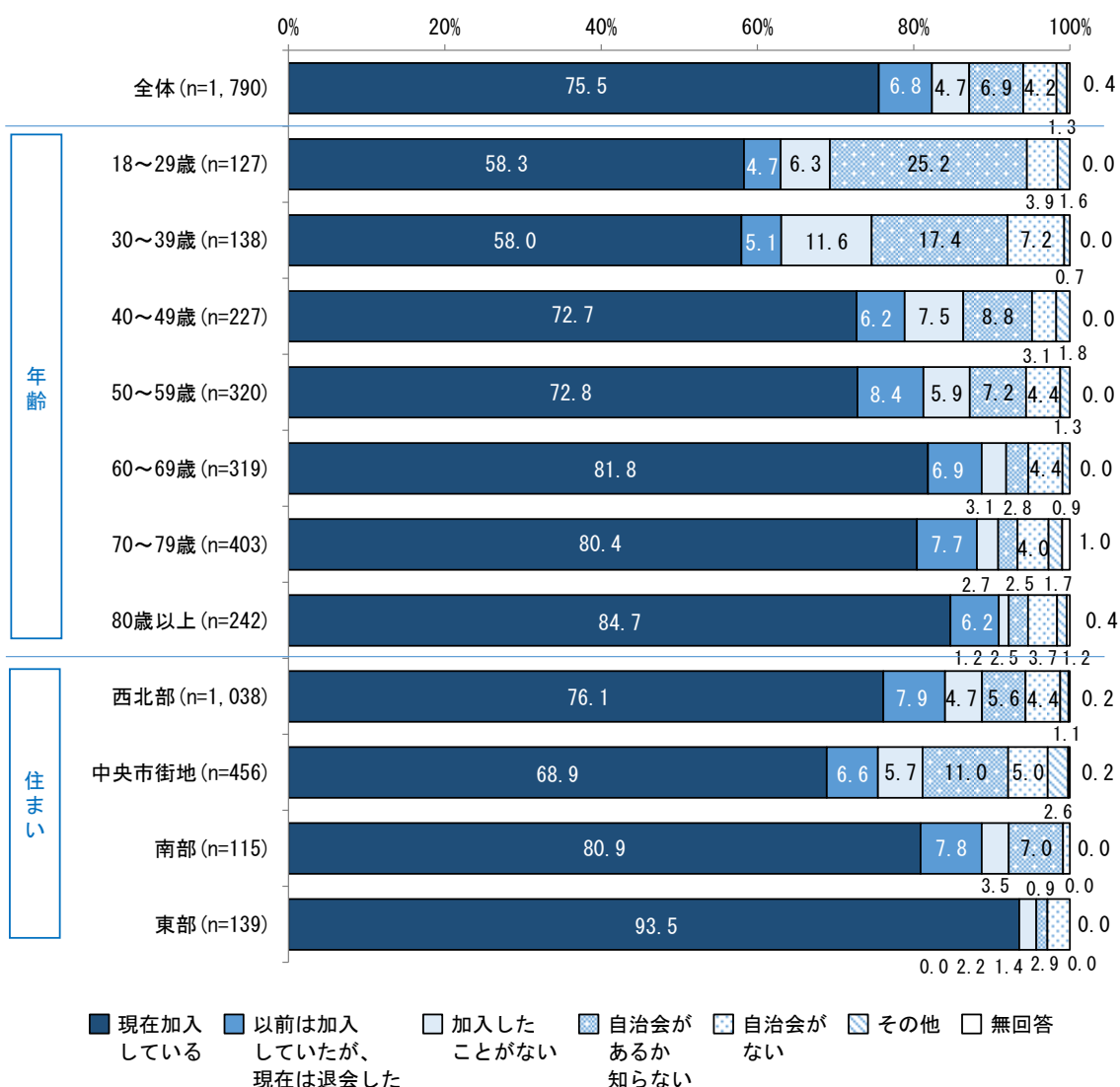
2. 地域のまちづくり活動について

(1) 自治会への加入状況

| | | |
|-------------|----------------------|------|
| 問 13 | あなたの世帯は自治会に加入していますか。 | ○は1つ |
|-------------|----------------------|------|

自治会への加入状況について、「現在加入している」が75.5%で最も高く、次いで「自治会があるか知らない」が6.9%、「以前は加入していたが、現在は退会した」が6.8%となっています。

また、「現在加入している」を年齢別でみると、「80歳以上」が84.7%で最も高く、次いで「60～69歳」が81.8%、「70～79歳」が80.4%となっており、住まい別でみると、「東部」が93.5%で最も高く、次いで「南部」が80.9%、「西北部」が76.1%となっています。

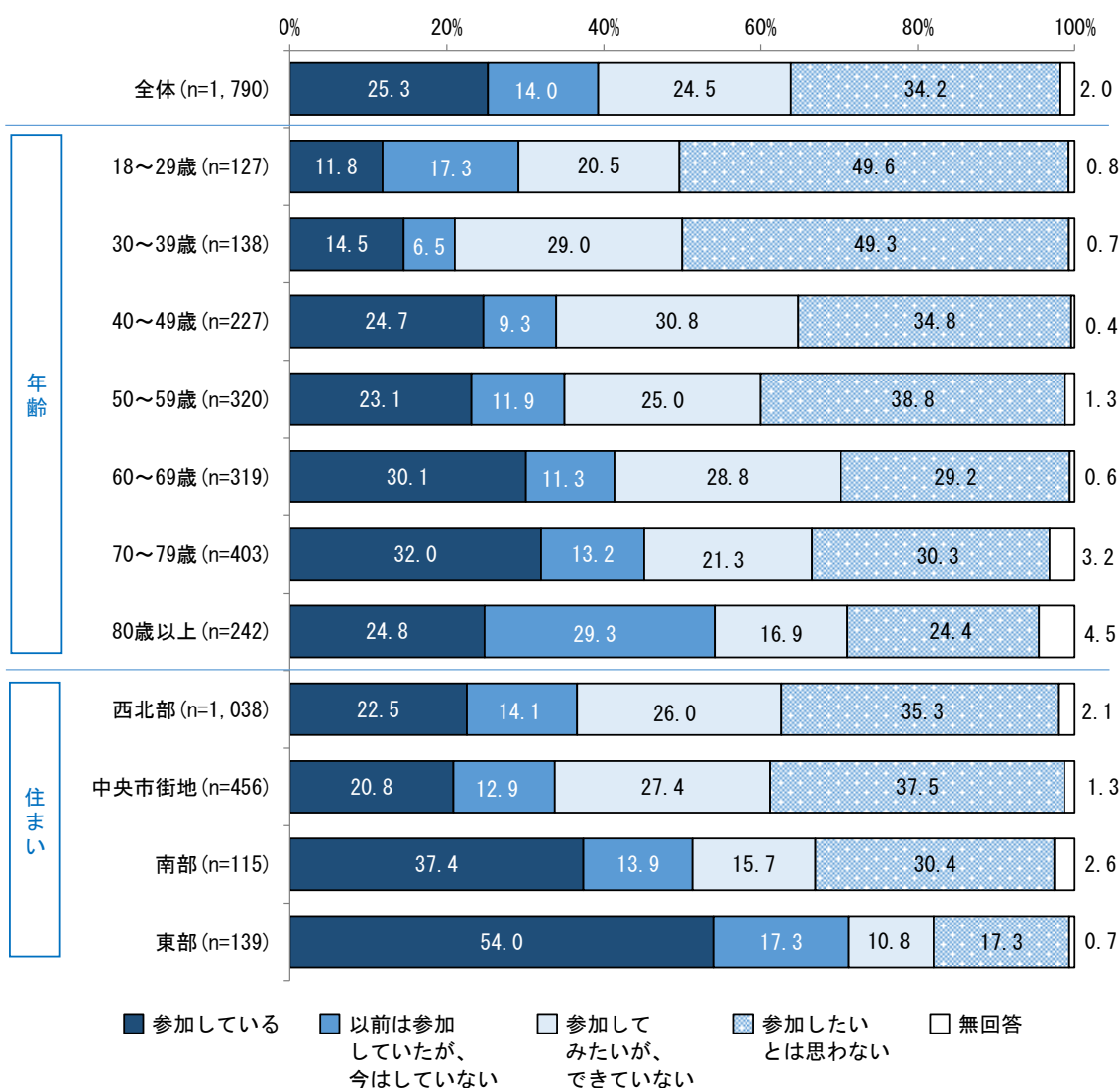


(2) 地域活動やボランティア活動への参加状況

| | | |
|-------------|---|------|
| 問 14 | あなたは現在のお住まいの地域で、地域活動やボランティア活動に参加していますか。 | ○は1つ |
|-------------|---|------|

地域活動やボランティア活動への参加状況について、「参加したいとは思わない」が34.2%で最も高く、次いで「参加している」が25.3%、「参加してみたいが、できていない」が24.5%となっています。

また、「参加している」を年齢別で見ると、「70～79歳」が32.0%で最も高く、次いで「60～69歳」が30.1%、「80歳以上」が24.8%となっており、住まい別で見ると、「東部」が54.0%で最も高く、次いで「南部」が37.4%、「西北部」が22.5%となっています。

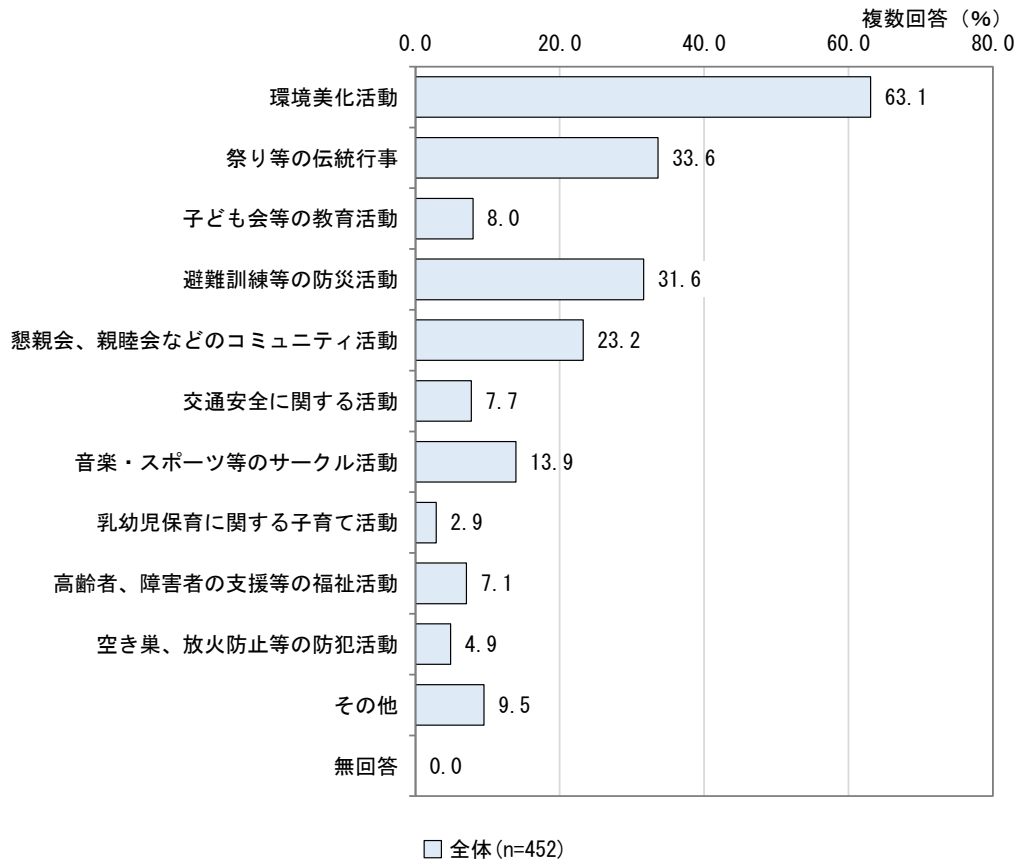


第4章 市民向け調査結果

《問 14 で「参加している」と回答した人がお答えください》

| | | |
|---------------|------------------------------|---------|
| 問 14-1 | 主にどのような地域活動やボランティア活動をしていますか。 | ○はいくつでも |
|---------------|------------------------------|---------|

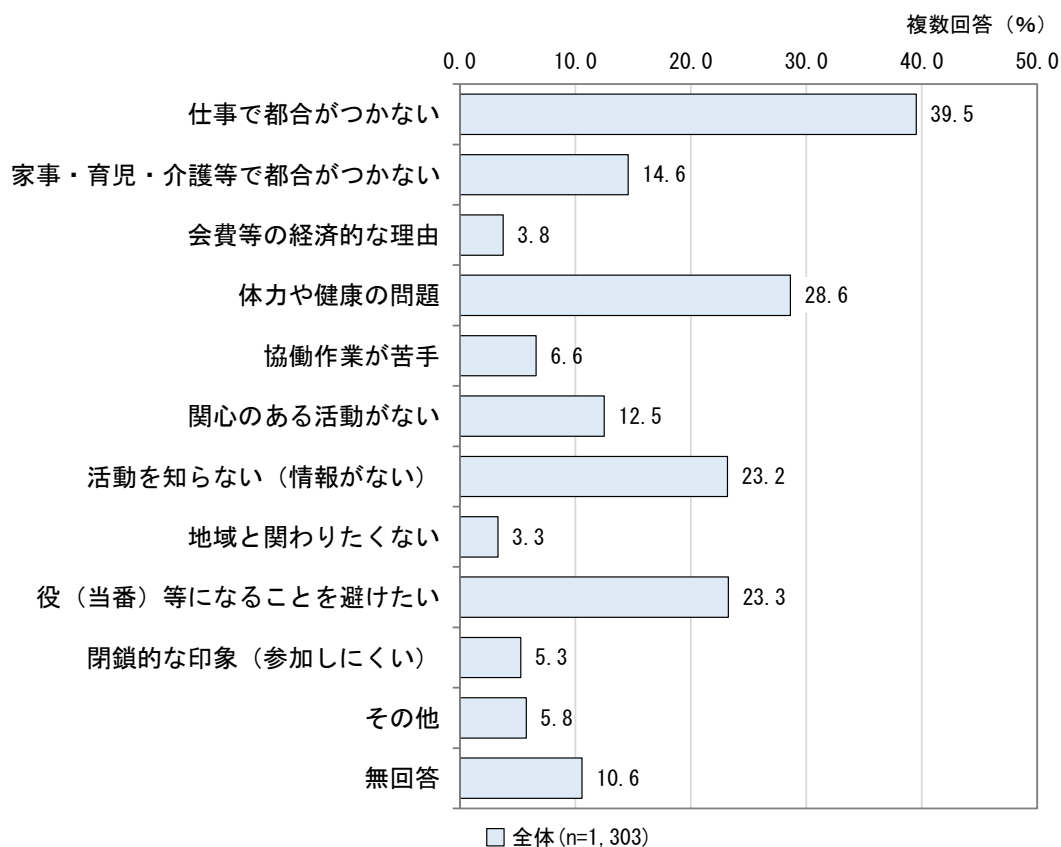
地域活動やボランティア活動をしている人に、活動内容について聞いたところ、「環境美化活動」が 63.1%で最も高く、次いで「祭り等の伝統行事」が 33.6%、「避難訓練等の防災活動」が 31.6%となっています。



「問 14 で「以前は参加していたが、今はしていない」「参加してみたいが、できていない」「参加したいとは思わない」のいずれかに回答した人がお答えください」

| | | |
|---------------|-------------------------------|---------|
| 問 14-2 | 地域活動やボランティア活動に参加していない理由は何ですか。 | 〇はいくつでも |
|---------------|-------------------------------|---------|

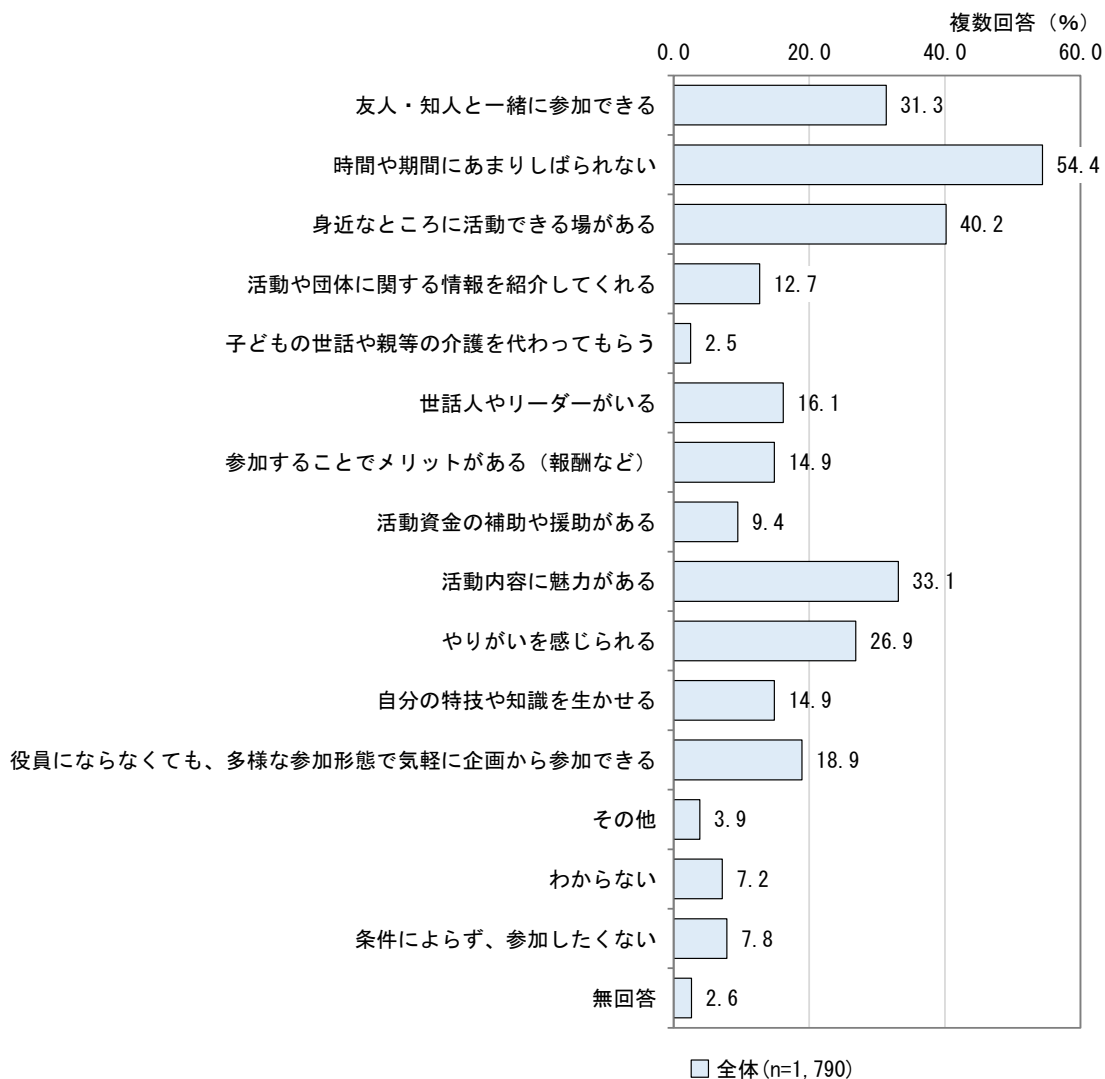
地域活動やボランティア活動に参加していない人に、その理由について聞いたところ、「仕事で都合がつかない」が 39.5%で最も高く、次いで「体力や健康の問題」が 28.6%、「役（当番）等になることを避けたい」が 23.3%となっています。



(3) 参加・活動しやすい地域活動やボランティア活動の条件

| | | |
|-------------|--|---------|
| 問 15 | あなたは、どのような条件であれば、地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすいですか。 | ○はいくつでも |
|-------------|--|---------|

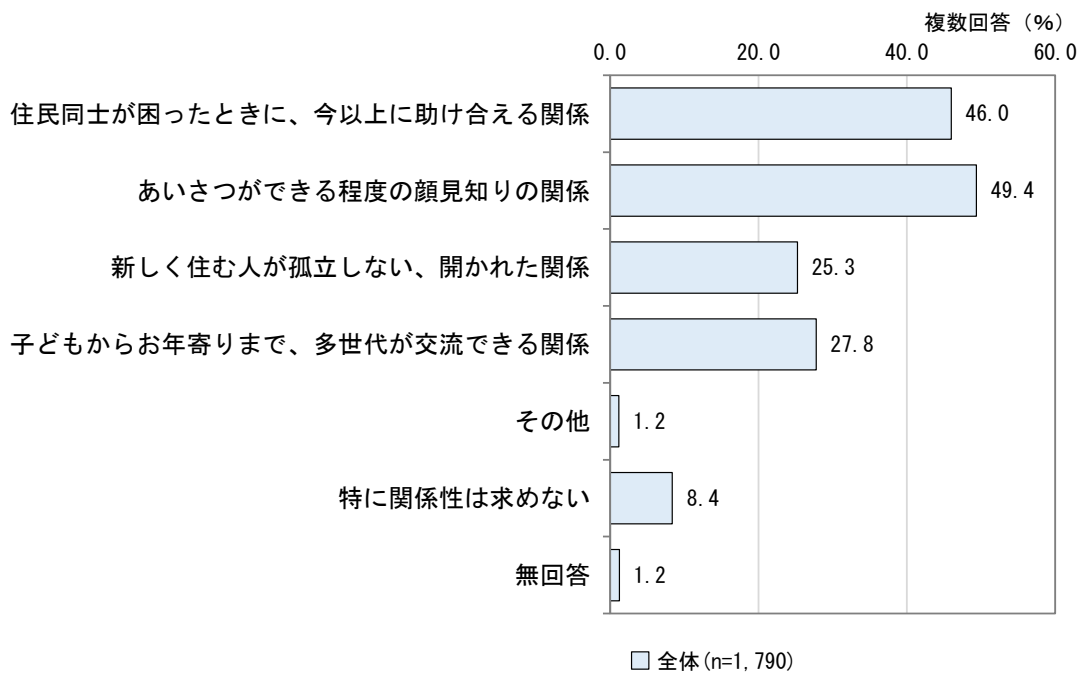
参加・活動しやすい地域活動やボランティア活動の条件として、「時間や期間にあまりしばられない」が 54.4%で最も高く、次いで「身近なところに活動できる場がある」が 40.2%、「活動内容に魅力がある」が 33.1%となっています。



(4) 大切だと思う地域の中での関係性

| | | |
|-------------|--|---------|
| 問 16 | あなたは、これから地域の中でどのような関係性を築くことが大切だと思いますか。 | ○はいくつでも |
|-------------|--|---------|

大切だと思う地域での関係性について、「あいさつができる程度の顔見知りの関係」が49.4%で最も高く、次いで「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係」が46.0%、「子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる関係」が27.8%となっています。



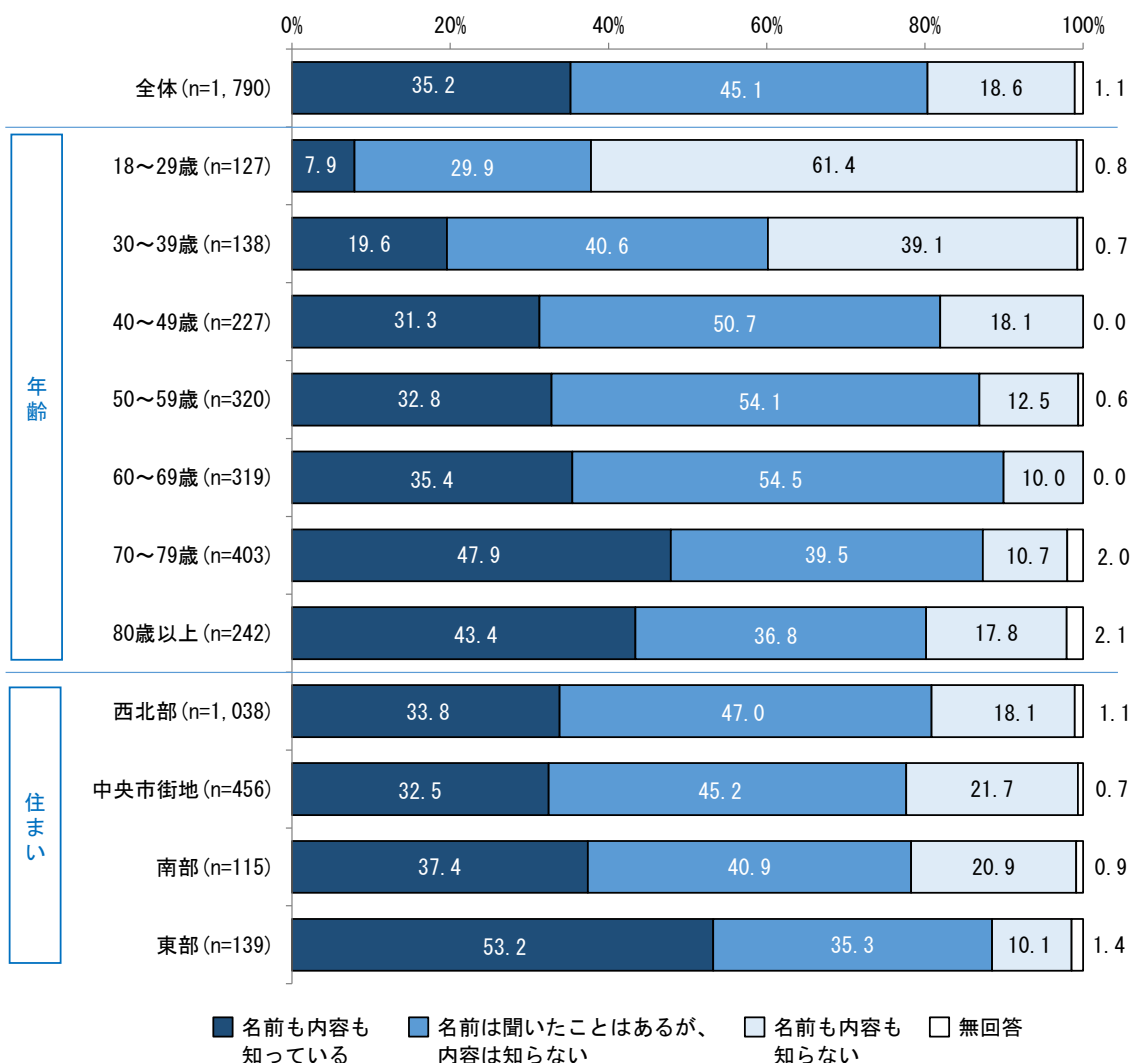
3. 相談や福祉情報について

(1) 民生委員・児童委員の認知度

| | | |
|-------------|--------------------------|------|
| 問 17 | あなたは「民生委員・児童委員」を知っていますか。 | ○は1つ |
|-------------|--------------------------|------|

民生委員・児童委員の認知度について、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が45.1%で最も高く、次いで「名前も内容も知っている」が35.2%、「名前も内容も知らない」が18.6%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「70～79歳」が47.9%で最も高く、次いで「80歳以上」が43.4%、「60～69歳」が35.4%となっており、住まい別でみると、「東部」が53.2%で最も高く、次いで「南部」が37.4%、「西北部」が33.8%となっています。



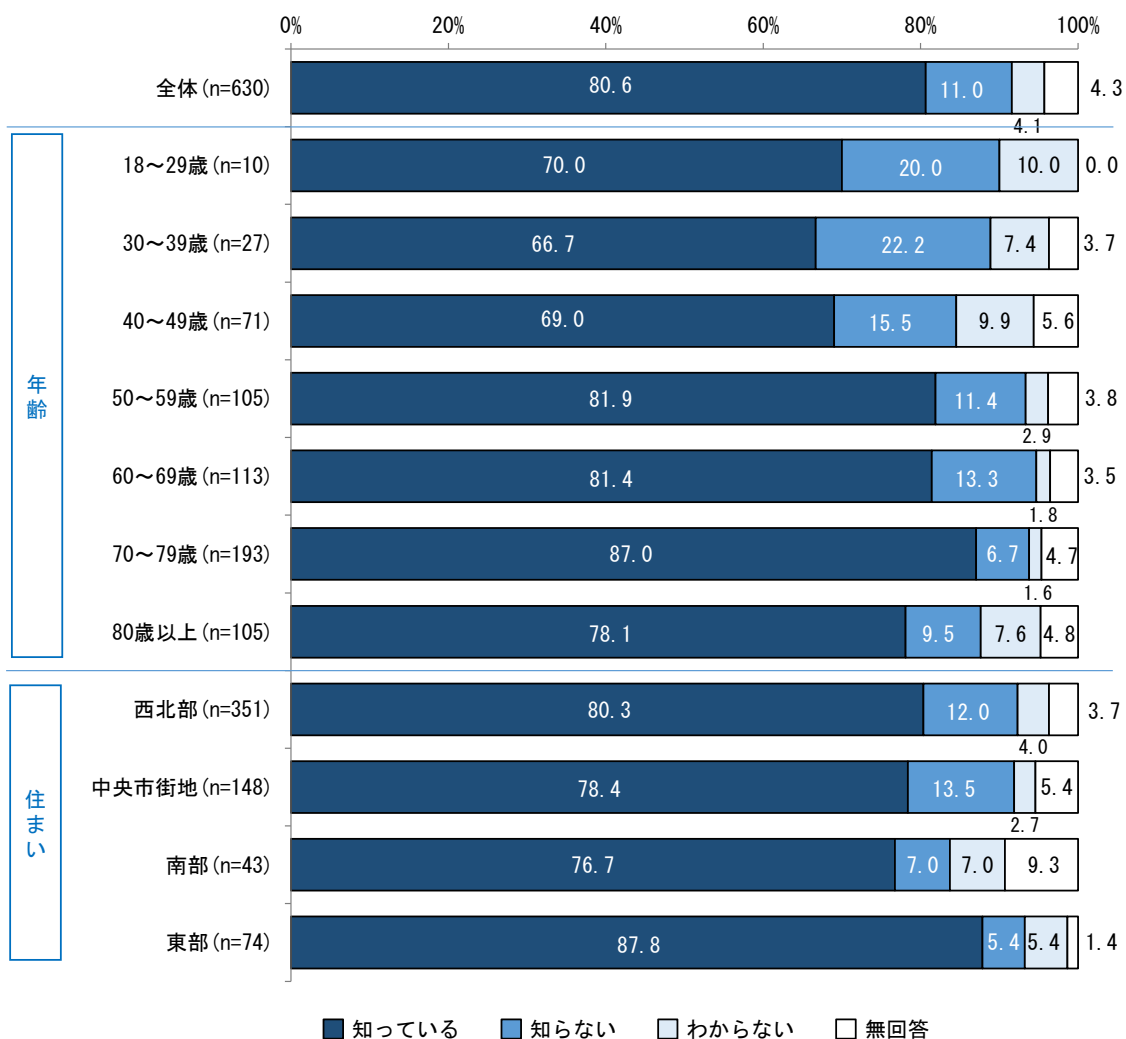
※ 民生委員・児童委員とは、住民の相談に応じ、行政などにつなげる役割を担う。厚生労働省から委嘱された非常勤の地方公務員であり、無報酬の市民ボランティアです。

《問17で「名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください》

| | | |
|--------------|---------------------------------------|------|
| 問17-1 | 「民生委員・児童委員」に守秘義務があることを知っていますか。 | ○は1つ |
|--------------|---------------------------------------|------|

民生委員・児童委員を知っている人に、民生委員・児童委員に守秘義務があることについて聞いたところ、「知っている」が80.6%で最も高く、次いで「知らない」が11.0%、「わからない」が4.1%となっています。

また、「知っている」を年齢別で見ると、「70～79歳」が87.0%で最も高く、次いで「50～59歳」が81.9%、「60～69歳」が81.4%となっており、住まい別で見ると、「東部」が87.8%で最も高く、次いで「西北部」が80.3%、「中央市街地」が78.4%となっています。

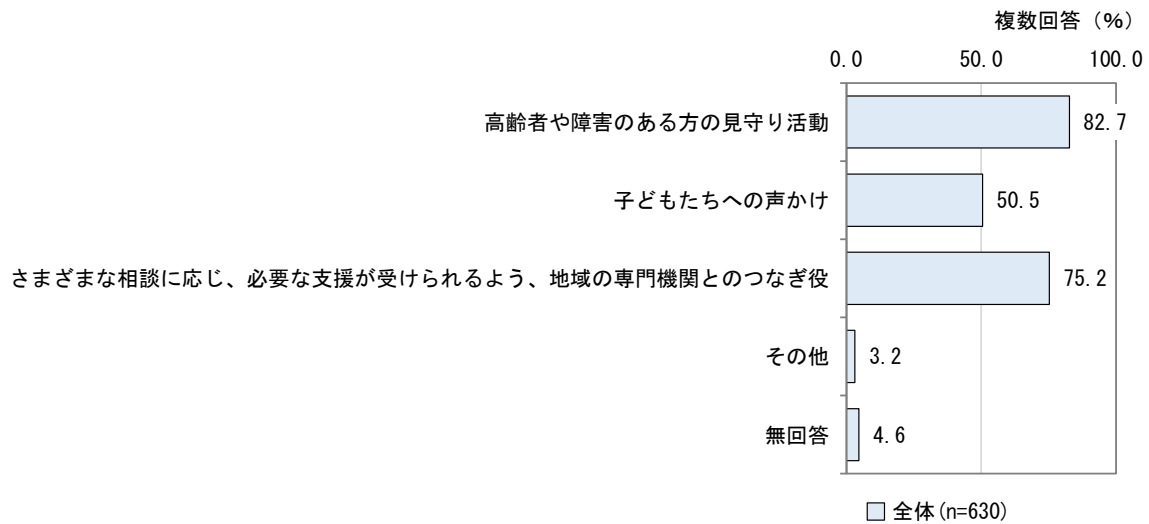


第4章 市民向け調査結果

《問17で「名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください》

| | | |
|--------|-------------------------------------|------------|
| 問 17-2 | 「民生委員・児童委員」が行っていることで、知っていることはありますか。 | ○はい/いくつかでも |
|--------|-------------------------------------|------------|

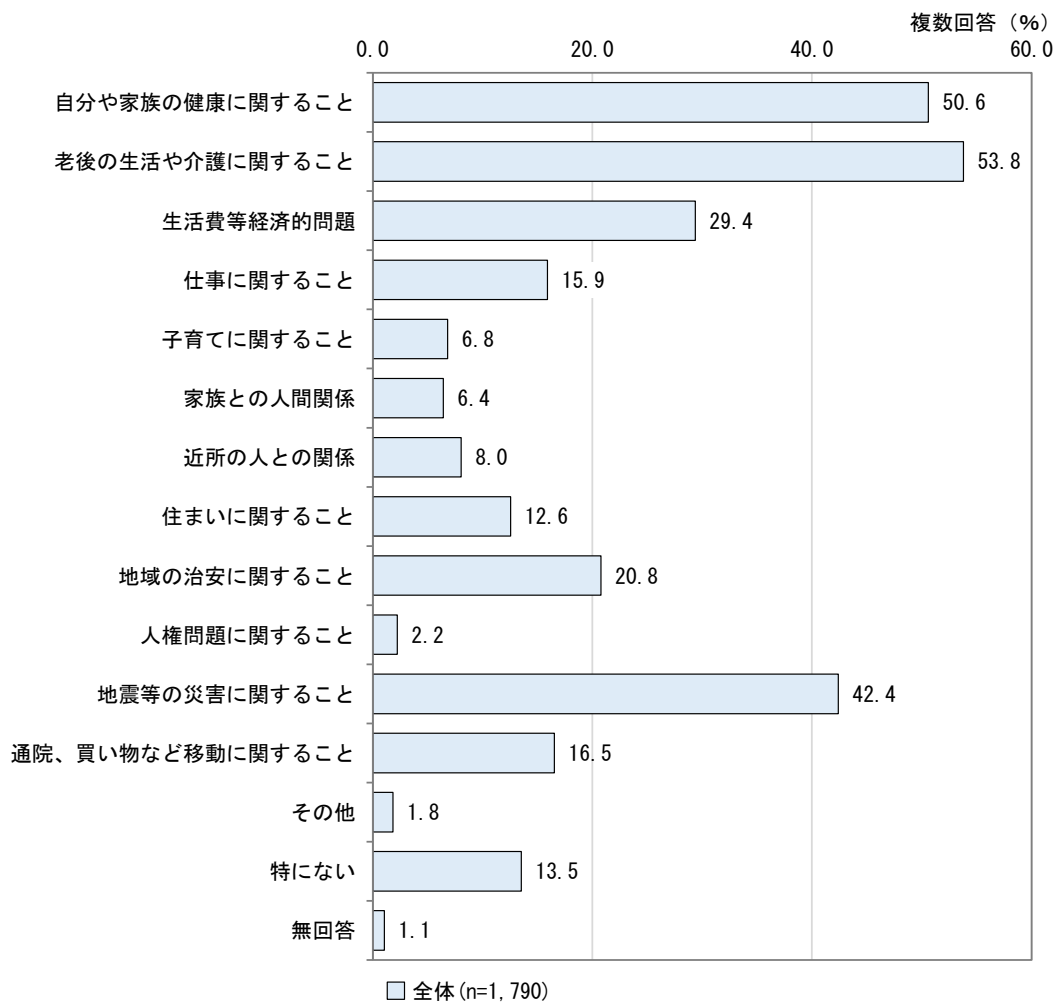
民生委員・児童委員を知っている人に、民生委員・児童委員が行っていることで、知っていることについて聞いたところ、「高齢者や障害のある方の見守り活動」が 82.7%で最も高く、次いで「さまざまな相談に応じ、必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関とのつなぎ役」が 75.2%、「子どもたちへの声かけ」が 50.5%となっています。



(2) 日頃から不安に思っていること

| | | |
|-------------|-----------------------------------|-------------|
| 問 18 | あなたは、日常生活の中で日頃から不安に思っていることはありますか。 | ○はい/いくつか/とも |
|-------------|-----------------------------------|-------------|

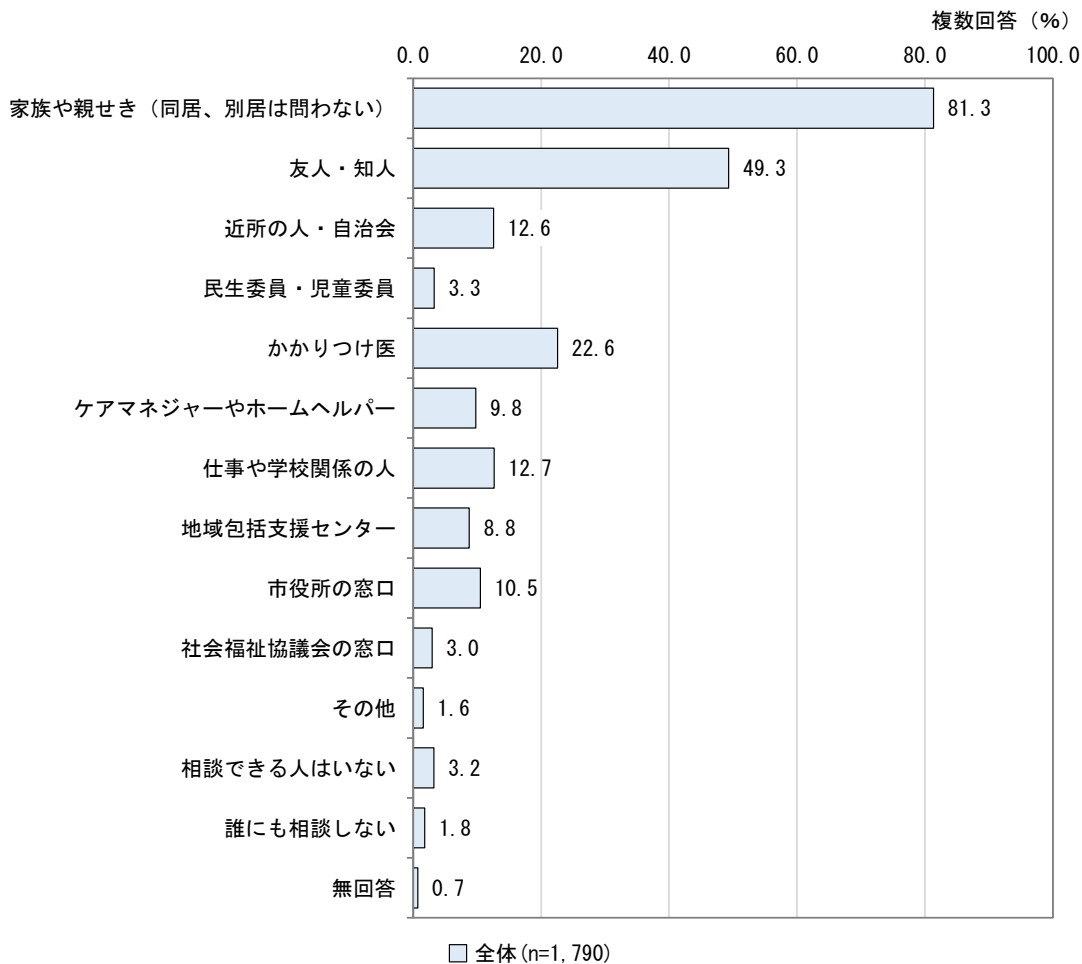
日常生活の中で日頃から不安に思っていることについて、「老後の生活や介護に関すること」が53.8%で最も高く、次いで「自分や家族の健康に関すること」が50.6%、「地震等の災害に関すること」が42.4%となっています。



(3) 日常生活で困ったときに相談できる人や機関

| | | |
|-------------|---------------------------------------|------------|
| 問 19 | あなた自身や家族が、日常生活で困ったときに相談できる人や機関はありますか。 | ○はい/いくつかでも |
|-------------|---------------------------------------|------------|

日常生活で困ったときに相談できる人や機関について、「家族や親せき（同居、別居は問わない）」が81.3%で最も高く、次いで「友人・知人」が49.3%、「かかりつけ医」が22.6%となっています。

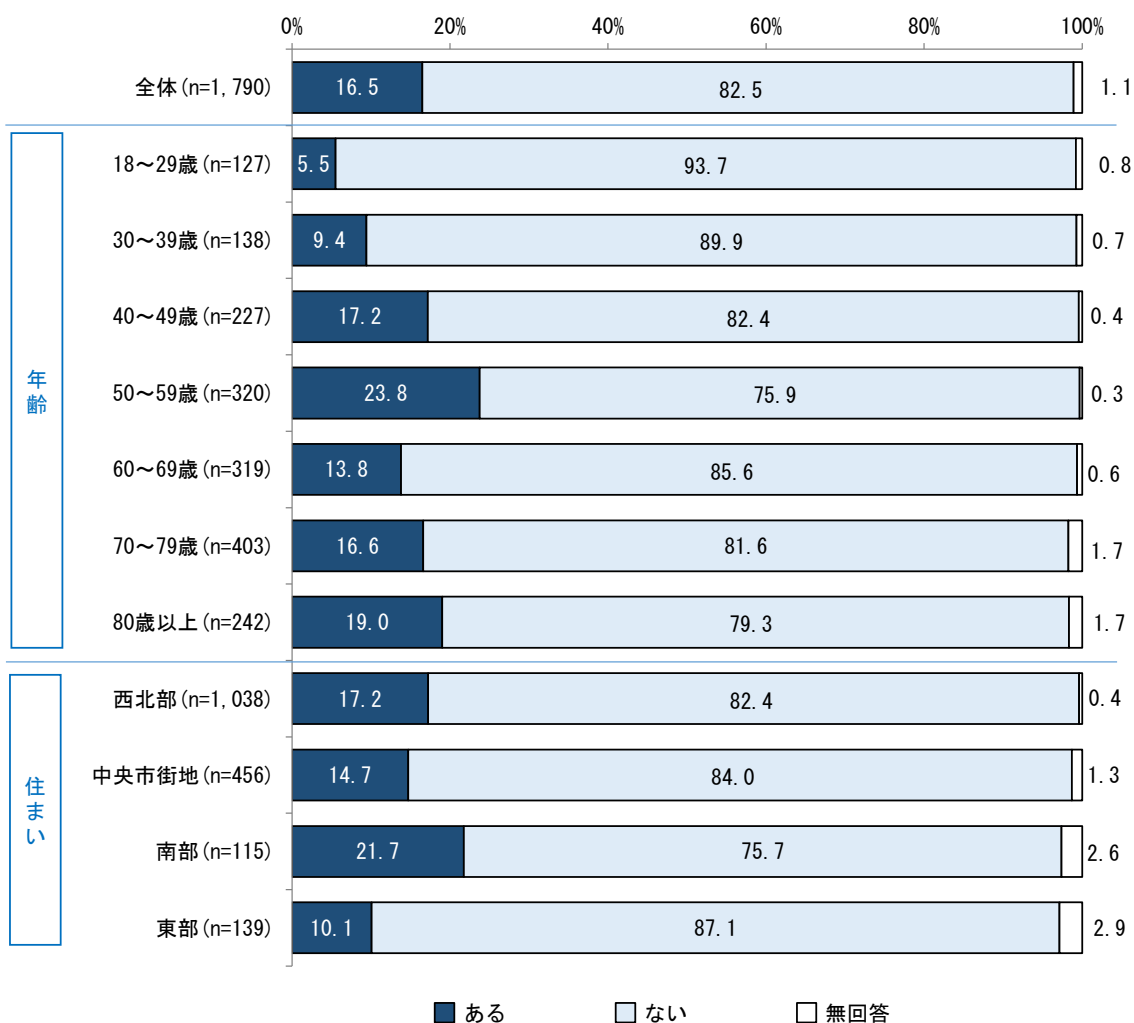


(4) 行政の相談窓口に相談した経験の有無

| | | |
|-------------|---|------|
| 問 20 | あなたは、生活における困りごとに関して、これまでに行政の相談窓口にご相談したことはありますか。 | ○は1つ |
|-------------|---|------|

これまでに行政の相談窓口にご相談したことがあるかについて、「ある」が16.5%、「ない」が82.5%となっています。

また、「ある」を年齢別で見ると、「50～59歳」が23.8%で最も高く、次いで「80歳以上」が19.0%、「40～49歳」が17.2%となっており、住まい別で見ると、「南部」が21.7%で最も高く、次いで「西北部」が17.2%、「中央市街地」が14.7%となっています。

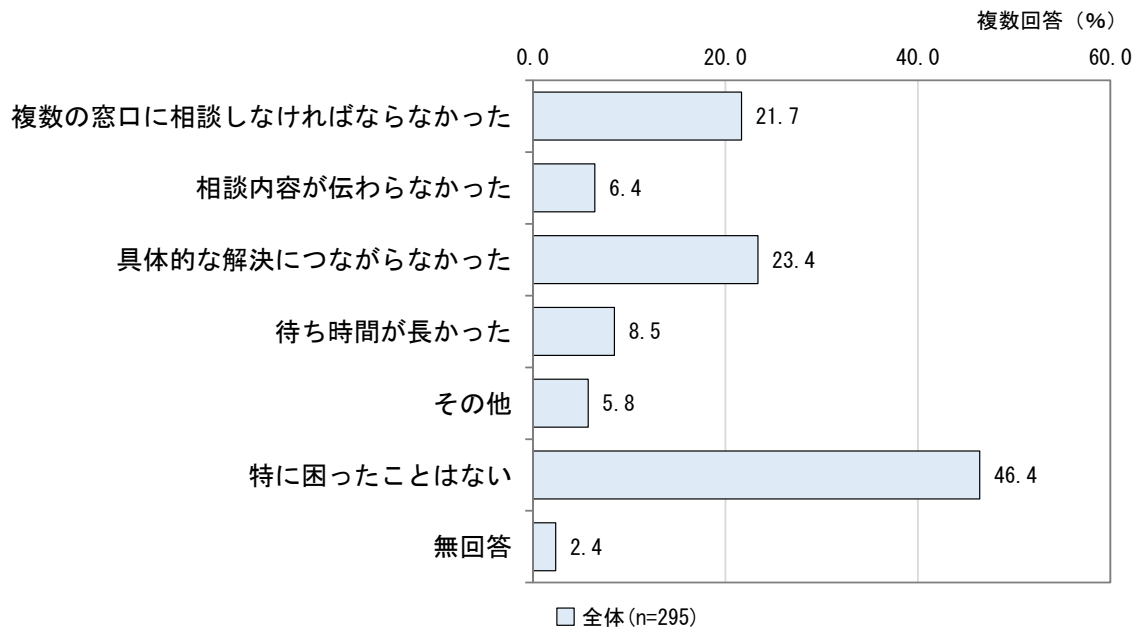


第4章 市民向け調査結果

《問 20 で「ある」と回答した人がお答えください》

| | | |
|---------------|--------------------------|---------|
| 問 20-1 | 窓口で相談した際、どのようなことに困りましたか。 | ○はいくつでも |
|---------------|--------------------------|---------|

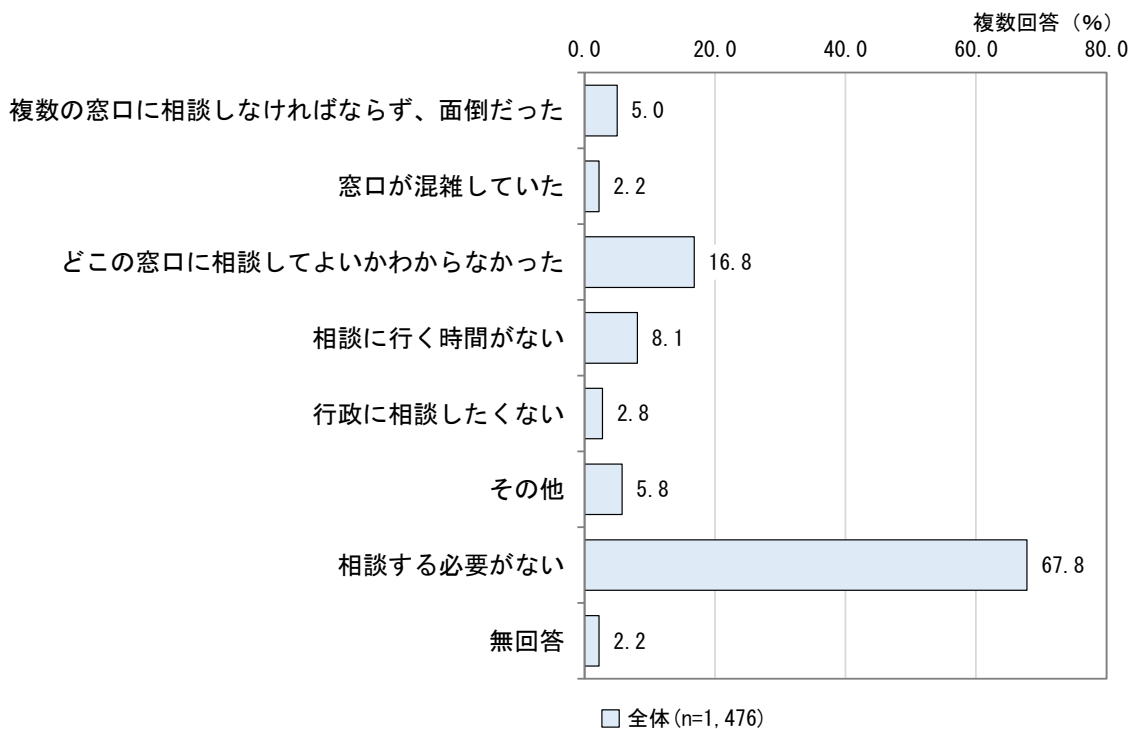
これまでに行政の相談窓口で相談したことがある人に、窓口で相談した際の困りごとについて聞いたところ、「特に困ったことはない」が 46.4%で最も高く、次いで「具体的な解決につながらなかった」が 23.4%、「複数の窓口で相談しなければならなかった」が 21.7%となっています。



《問 20 で「ない」と回答した人がお答えください》

| | | |
|---------------|------------------------|---------|
| 問 20-2 | 相談窓口に相談したことがないのはなぜですか。 | ○はいくつでも |
|---------------|------------------------|---------|

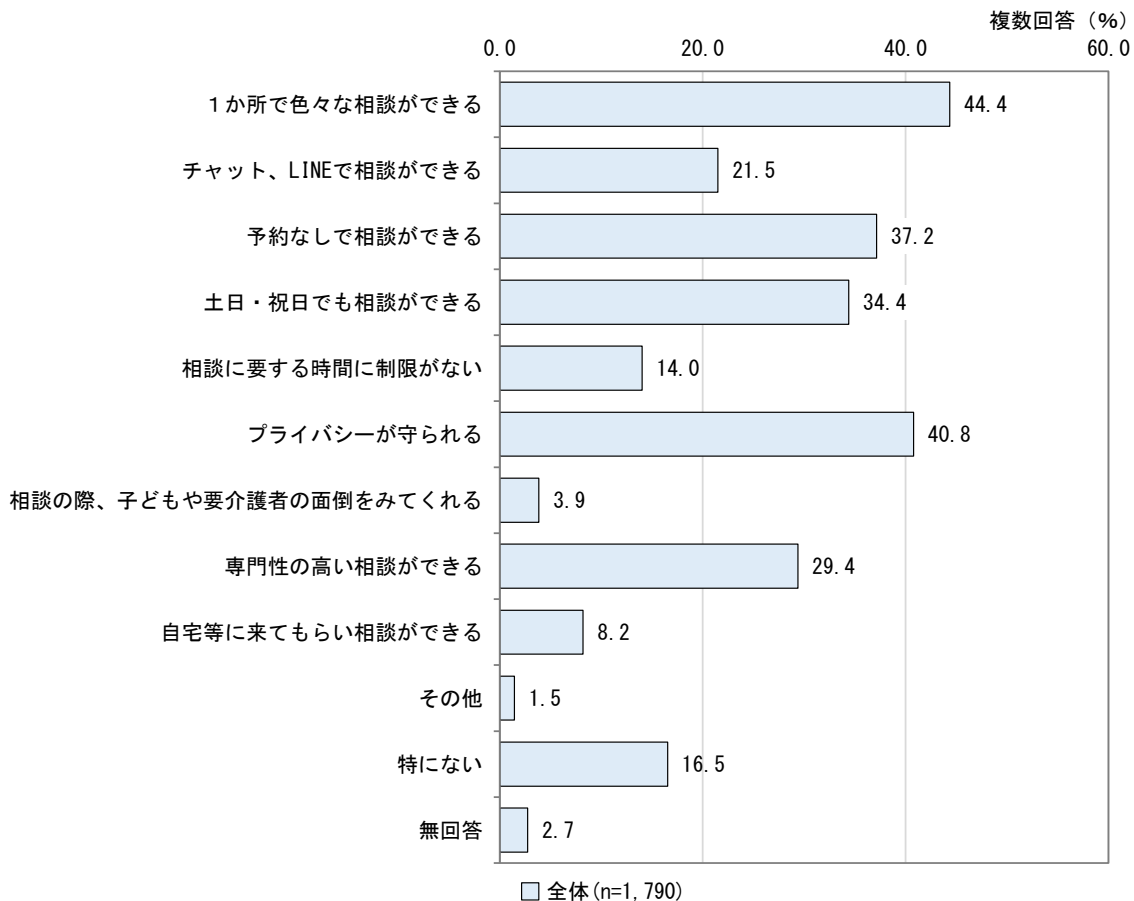
これまでに行政の相談窓口で相談したことがない人に、相談窓口で相談したことがない理由について聞いたところ、「相談する必要がある」が 67.8%で最も高く、次いで「どこの窓口で相談してよいかわからなかった」が 16.8%、「相談に行く時間がない」が 8.1%となっています。



(5) 行政の相談窓口を求めること

| | | |
|-------------|----------------------|----------|
| 問 21 | 行政の相談窓口を求めることはありますか。 | ○はい/いつでも |
|-------------|----------------------|----------|

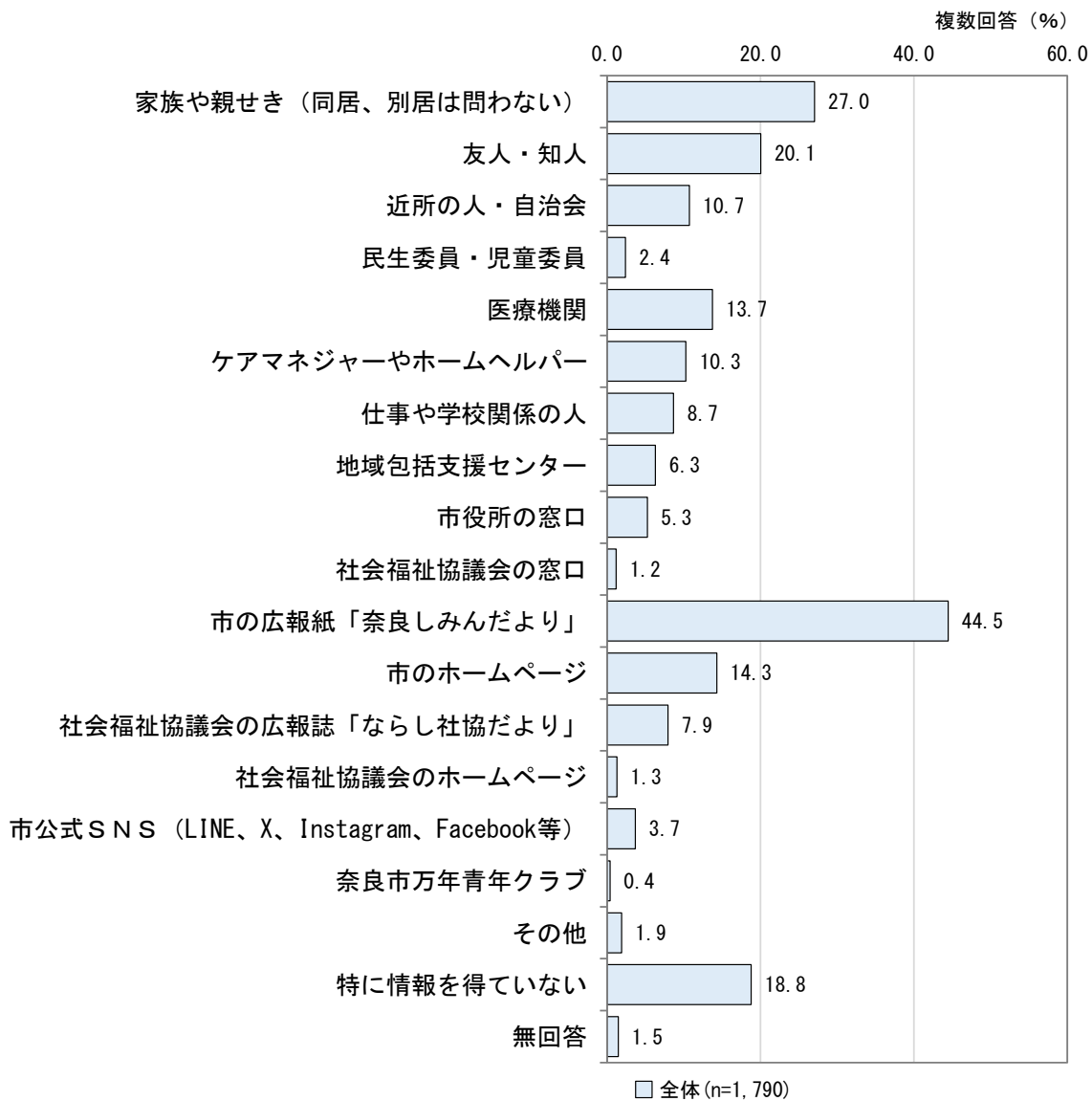
行政の相談窓口を求めることについて、「1か所で色々な相談ができる」が44.4%で最も高く、次いで「プライバシーが守られる」が40.8%、「予約なしで相談ができる」が37.2%となっています。



(6) 福祉に関する情報源の取得先

| | | |
|------|-------------------------------|---------|
| 問 22 | あなたは現在、「福祉」に関する情報をどこから得ていますか。 | ○はいくつでも |
|------|-------------------------------|---------|

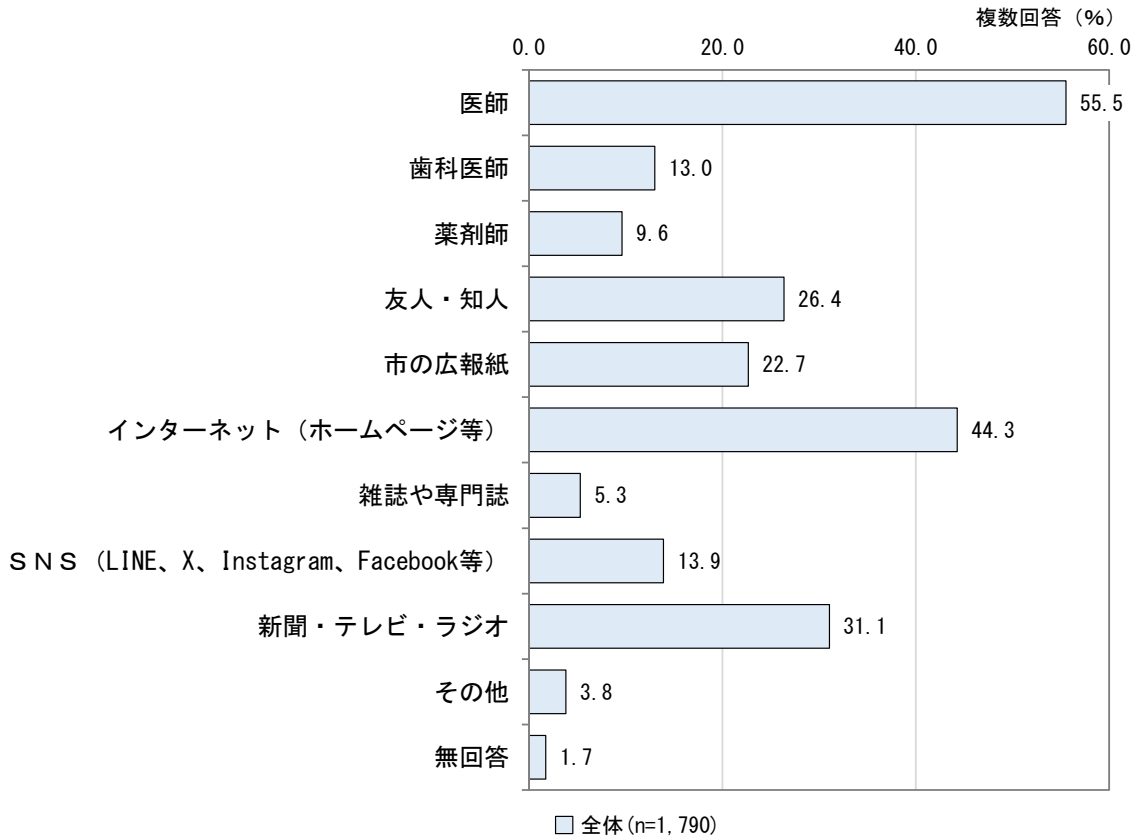
福祉に関する情報源の取得先について、「市の広報紙『奈良しみんだより』」が 44.5%で最も高く、次いで「家族や親せき（同居、別居は問わない）」が 27.0%、「友人・知人」が 20.1%となっています。



(7) 医療に関する情報源の取得先

| | | |
|------|-------------------------------|---------|
| 問 23 | あなたは現在、「医療」に関する情報をどこから得ていますか。 | ○はいくつでも |
|------|-------------------------------|---------|

医療に関する情報源の取得先について、「医師」が55.5%で最も高く、次いで「インターネット（ホームページ等）」が44.3%、「新聞・テレビ・ラジオ」が31.1%となっています。



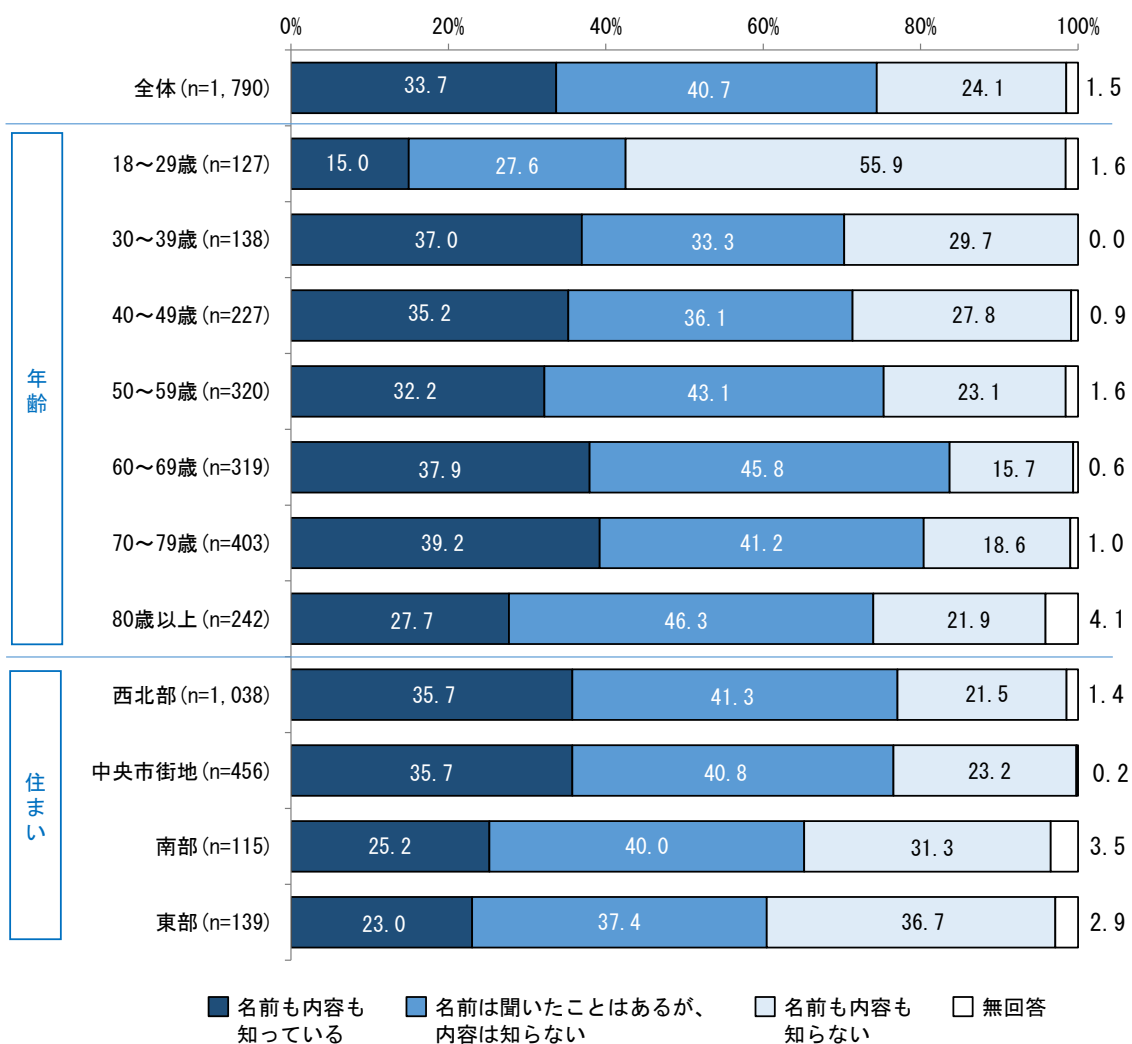
4. 安全で安心して暮らすための施策について

(1) 成年後見制度の認知度

| | | |
|-------------|-----------------------|------|
| 問 24 | あなたは「成年後見制度」を知っていますか。 | ○は1つ |
|-------------|-----------------------|------|

成年後見制度の認知度について、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が40.7%で最も高く、次いで「名前も内容も知っている」が33.7%、「名前も内容も知らない」が24.1%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「70～79歳」が39.2%で最も高く、次いで「60～69歳」が37.9%、「30～39歳」が37.0%となっており、住まい別でみると、「西北部」「中央市街地」がそれぞれ35.7%、「南部」が25.2%、「東部」が23.0%となっています。



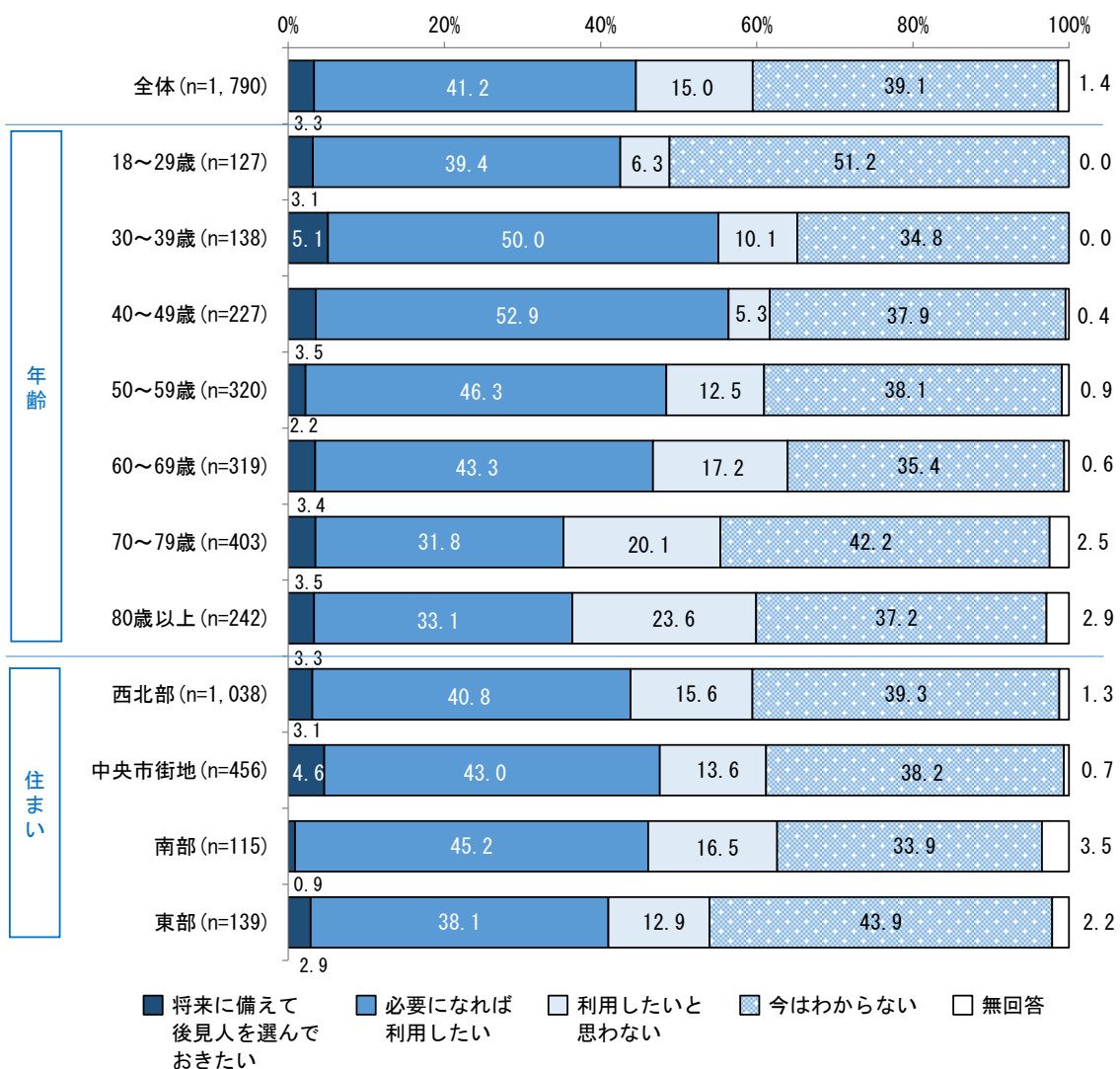
※ 成年後見制度とは、認知症や知的障害などによって判断能力が不十分な人が、経済的な不利益を受けたり、生活上の不自由さを解消するために、「成年後見人」などの支援者が法律行為を支援する制度のことで、成年後見人等による支援を必要とする方で、利用者本人に配偶者・4親等内の親族がなく、あっても音信不通などの事情がある場合、福祉を図るために特に必要と認められるときは、市長が代わって申立てを行います。

(2) 成年後見制度の利用意向

問 25 あなた自身や親族が、認知症等により判断が十分にできなくなったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。 ○は1つ

成年後見制度を利用したいと思うかについて、「必要になれば利用したい」が41.2%で最も高く、次いで「今はわからない」が39.1%、「利用したいと思わない」が15.0%となっています。

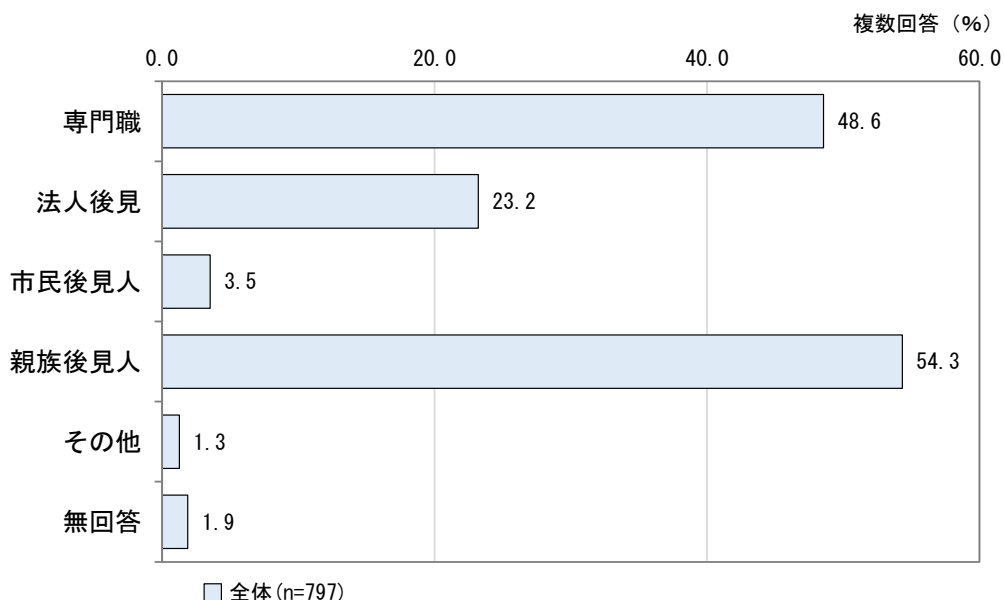
また、『利用したい』（「将来に備えて後見人を選んでおきたい」と「必要になれば利用したい」の合計）を年齢別でみると、「40～49歳」が56.4%で最も高く、次いで「30～39歳」が55.1%、「50～59歳」が48.5%となっており、住まい別でみると、「中央市街地」が47.6%で最も高く、次いで「南部」が46.1%、「西北部」が43.9%となっています。



「問 25 で「将来に備えて後見人を選んでおきたい」「必要になれば利用したい」のいずれかに回答した人がお答えください」

| | | |
|---------------|--------------------|---------|
| 問 25-1 | 後見人は誰になってもらいたいですか。 | ○はいくつでも |
|---------------|--------------------|---------|

成年後見制度を利用したいと思う人に、後見人は誰になってもらいたいかについて聞いたところ、「親族後見人」が 54.3%で最も高く、次いで「専門職」が 48.6%、「法人後見」が 23.2%となっています。



※ 専門職（弁護士、司法書士等）

※ 法人後見（社会福祉法人や社団法人、NPO法人などの法人が成年後見人等）

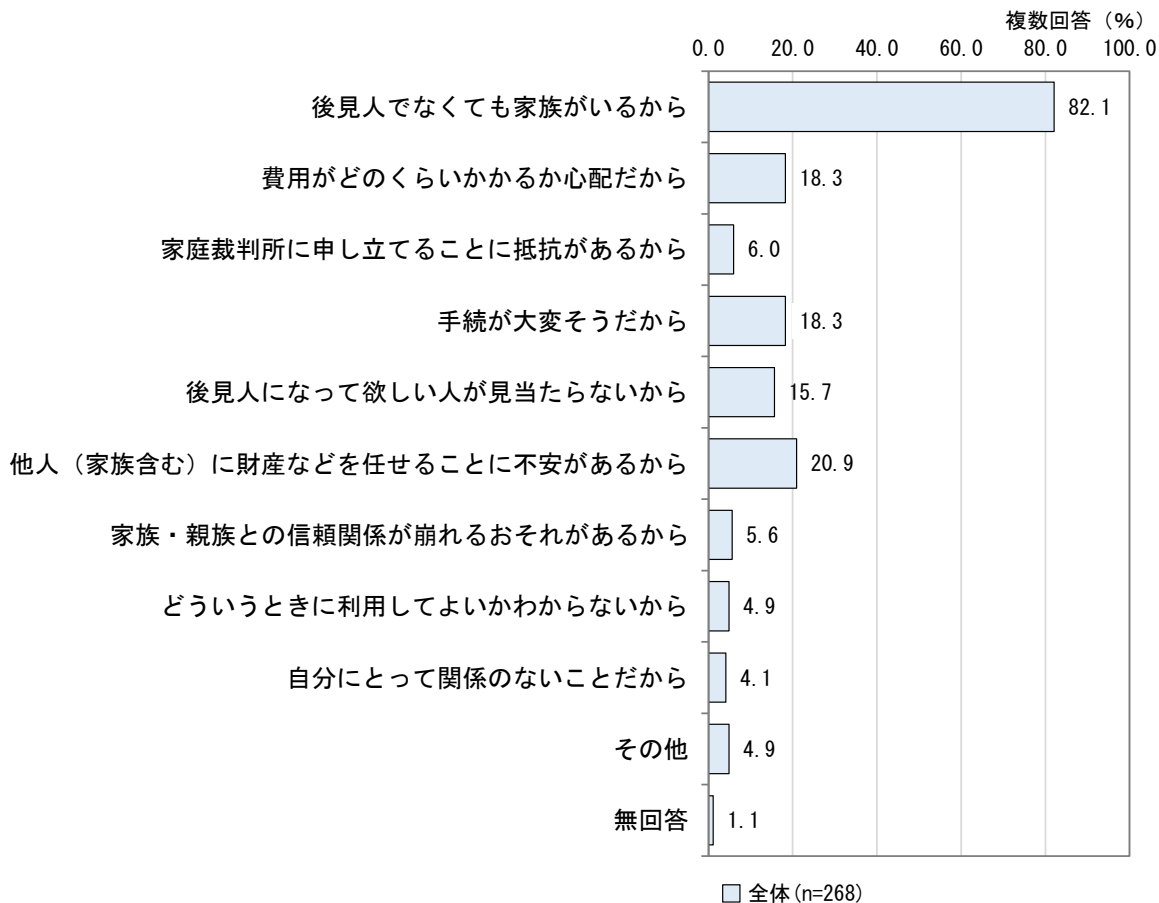
※ 市民後見人（弁護士や司法書士などの資格をもたない、親族以外の市民による成年後見人）

第4章 市民向け調査結果

《問 25 で「利用したいと思わない」と回答した人がお答えください》

| | | |
|---------------|------------------------|---------|
| 問 25-2 | 成年後見制度を利用したくない理由は何ですか。 | 〇はいくつでも |
|---------------|------------------------|---------|

成年後見制度を利用したいと思わない人に、その理由について聞いたところ、「後見人でなくても家族がいるから」が 82.1%で最も高く、次いで「他人（家族含む）に財産などを任せることに不安があるから」が 20.9%、「費用がどのくらいかかるか心配だから」「手続が大変そうだから」がそれぞれ 18.3%となっています。

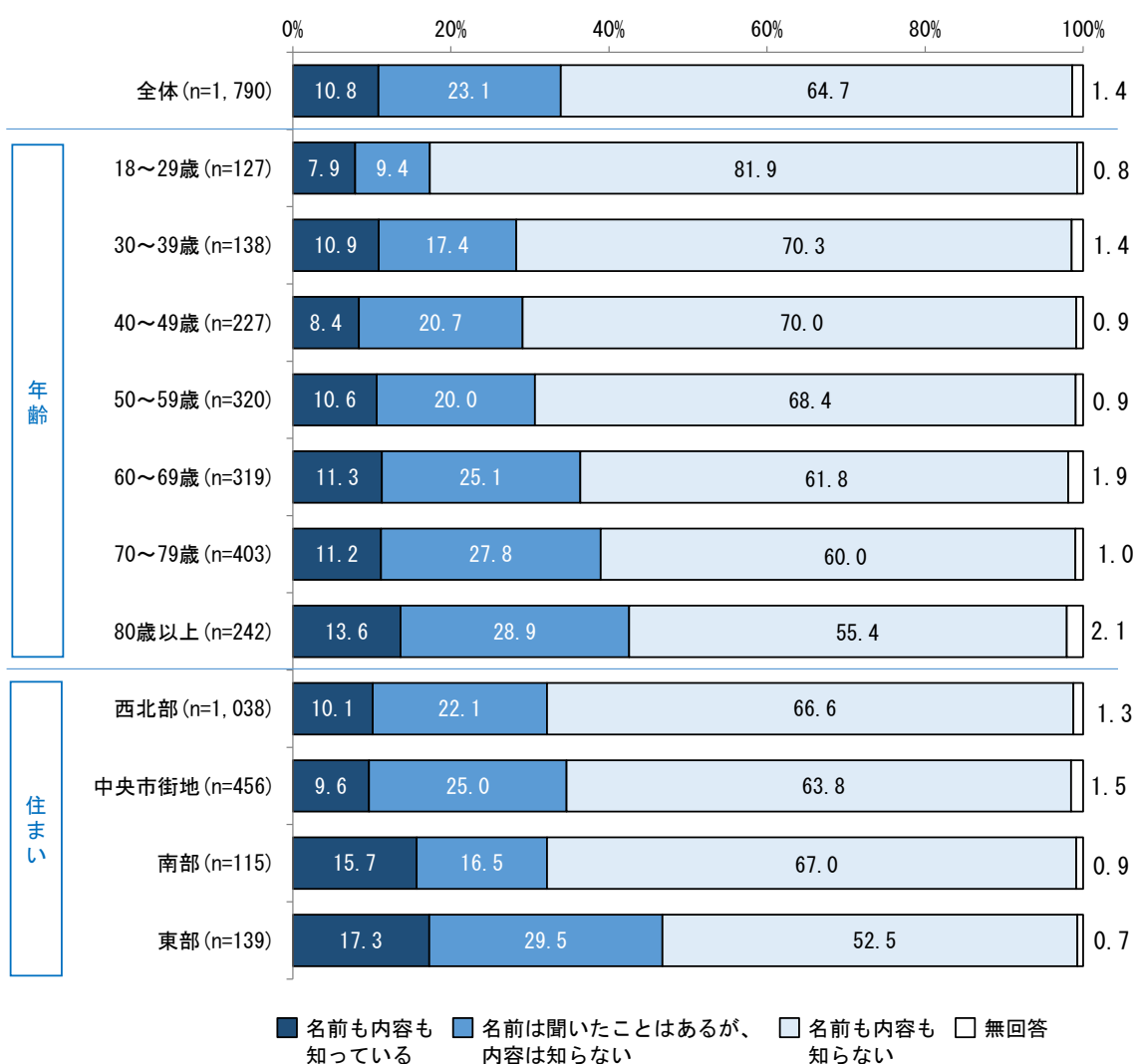


(3) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）の認知度

| | | |
|-------------|--|------|
| 問 26 | あなた「福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）」を知っていますか。 | ○は1つ |
|-------------|--|------|

福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）の認知度について、「名前も内容も知らない」が64.7%で最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が23.1%、「名前も内容も知っている」が10.8%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「80歳以上」が13.6%で最も高く、次いで「60～69歳」が11.3%、「70～79歳」が11.2%となっており、住まい別でみると、「東部」が17.3%で最も高く、次いで「南部」が15.7%、「西北部」が10.1%となっています。



※ 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）とは、物忘れのある高齢者や、生活に不安のある知的障害あるいは精神障害のある方が、介護などのサービスに関することやふだんのお金の扱いについて安心して生活ができるようお手伝いする事業です。この事業は、奈良市社会福祉協議会が実施しています。

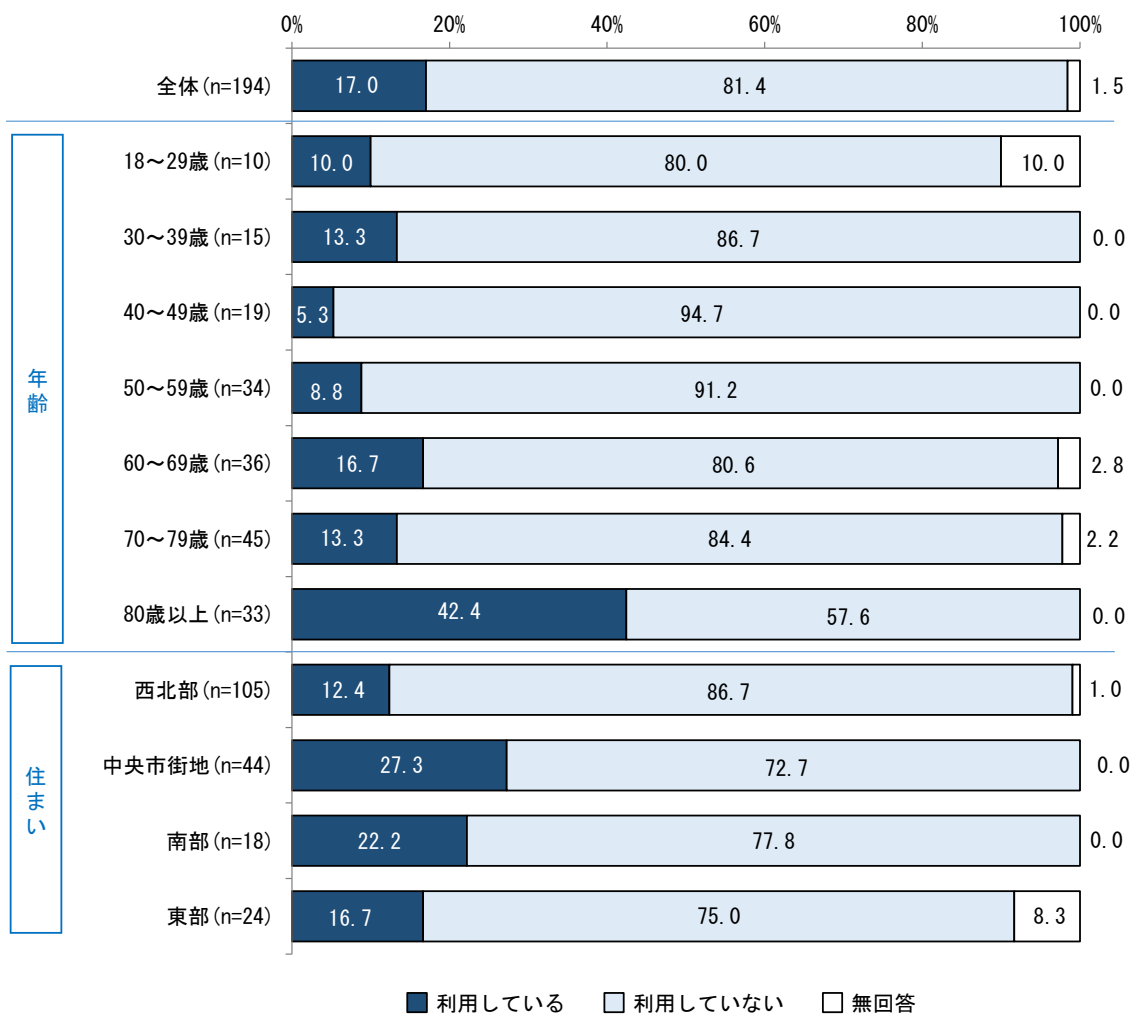
第4章 市民向け調査結果

《問 26 で「名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください》

| | | |
|---------------|---|------|
| 問 26-1 | あなたは、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）を利用していますか。 | ○は1つ |
|---------------|---|------|

福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）を知っている人に、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）の利用状況について聞いたところ、「利用していない」が 81.4%で最も高く、次いで「利用している」が 17.0%となっています。

また、「利用している」を年齢別でみると、「80歳以上」が 42.4%で最も高く、次いで「60～69歳」が 16.7%、「30～39歳」「70～79歳」がそれぞれ 13.3%となっており、住まい別でみると、「中央市街地」が 27.3%で最も高く、次いで「南部」が 22.2%、「東部」が 16.7%となっています。

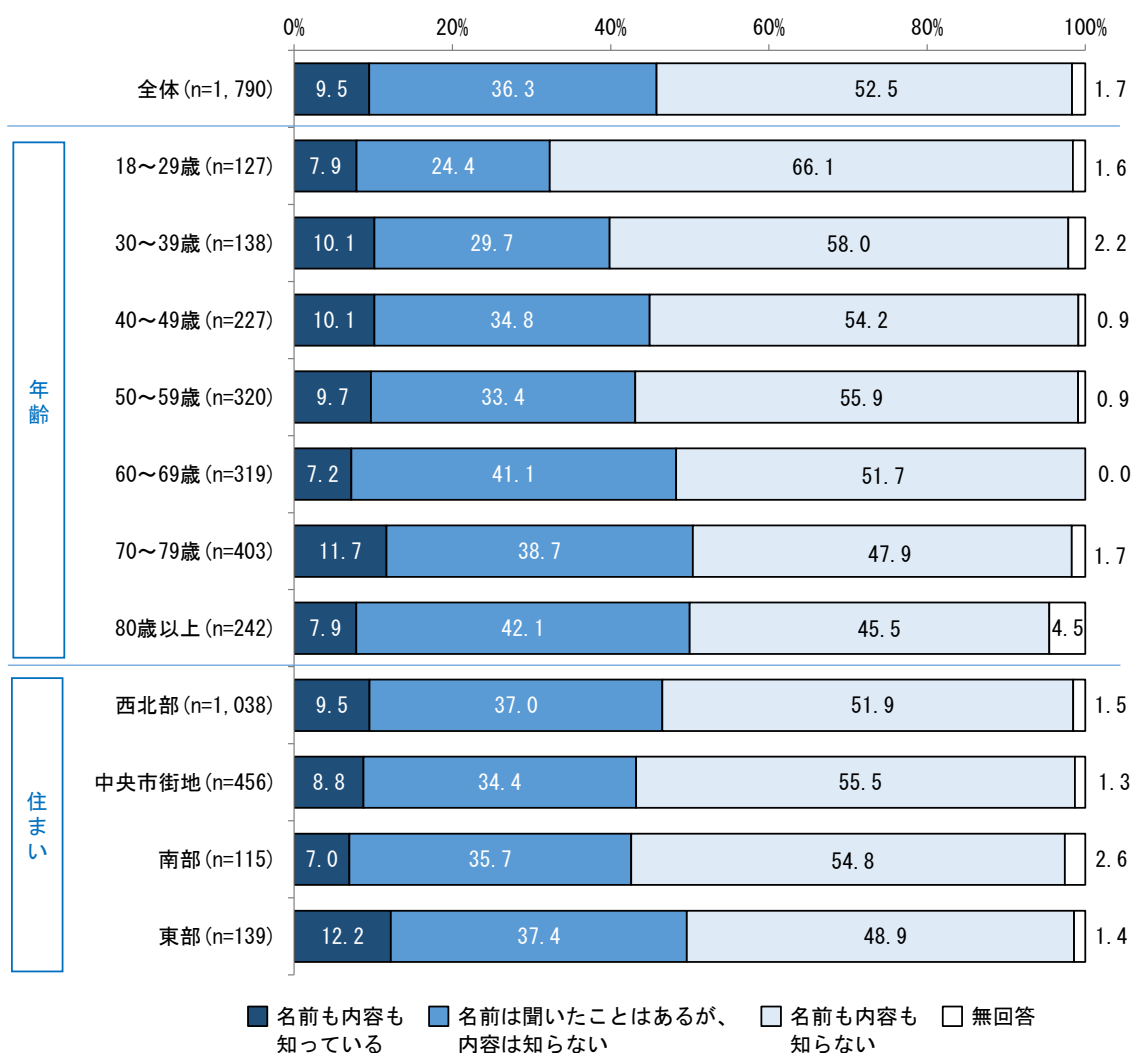


(4) 生活困窮者自立支援法（制度）の認知度

問 27 あなたは「生活困窮者自立支援法（制度）」を知っていますか。 ○は1つ

生活困窮者自立支援法（制度）の認知度について、「名前も内容も知らない」が52.5%で最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が36.3%、「名前も内容も知っている」が9.5%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「70～79歳」が11.7%で最も高く、次いで「30～39歳」「40～49歳」がそれぞれ10.1%、「50～59歳」が9.7%となっており、住まい別でみると、「東部」が12.2%で最も高く、次いで「西北部」が9.5%、「中央市街地」が8.8%となっています。

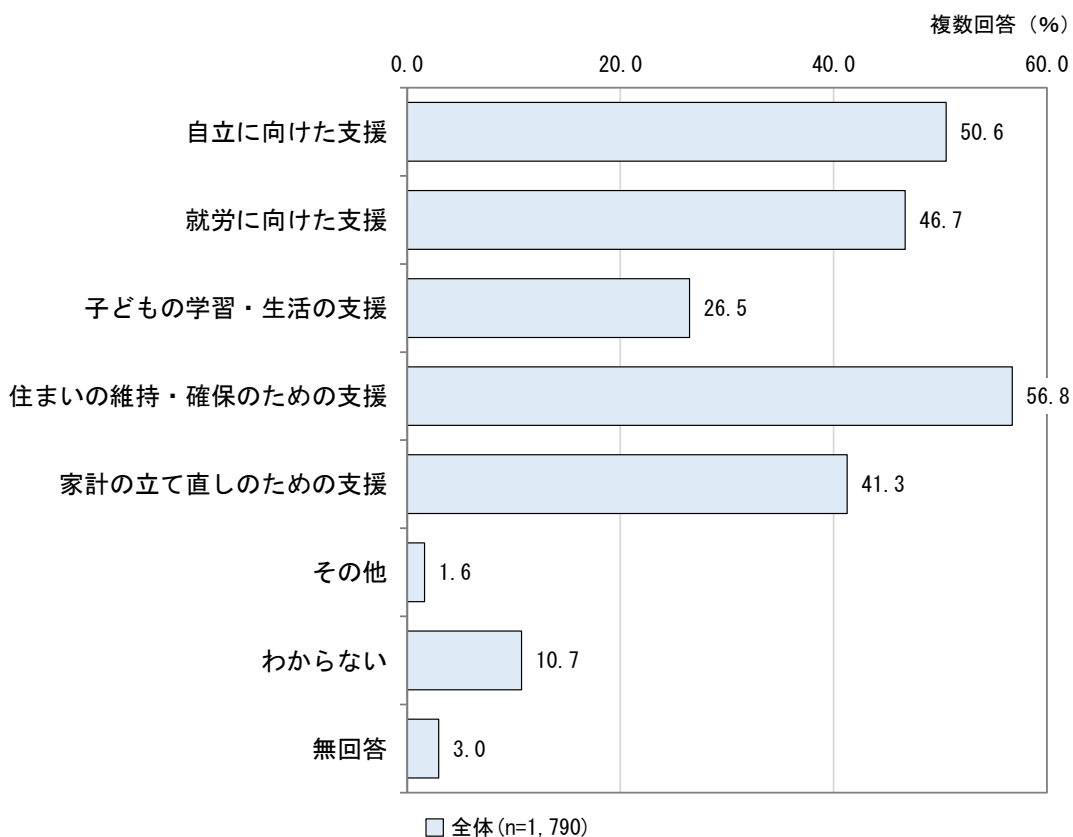


※ 生活困窮者自立支援法（制度）とは、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人に対して、自立の促進を図るための措置を講ずることを定めた法律のことです。

(5) 最低限度の生活を維持することが困難になった際に必要と思われる支援内容

| | | |
|-------------|--|---------|
| 問 28 | 経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが困難になったとして、必要と思われる支援内容は、次のどれですか。 | ○はいくつでも |
|-------------|--|---------|

最低限度の生活を維持することが困難になった際に必要と思われる支援内容として、「住まいの維持・確保のための支援」が56.8%で最も高く、次いで「自立に向けた支援」が50.6%、「就労に向けた支援」が46.7%、「子どもの学習・生活の支援」が26.5%となっています。

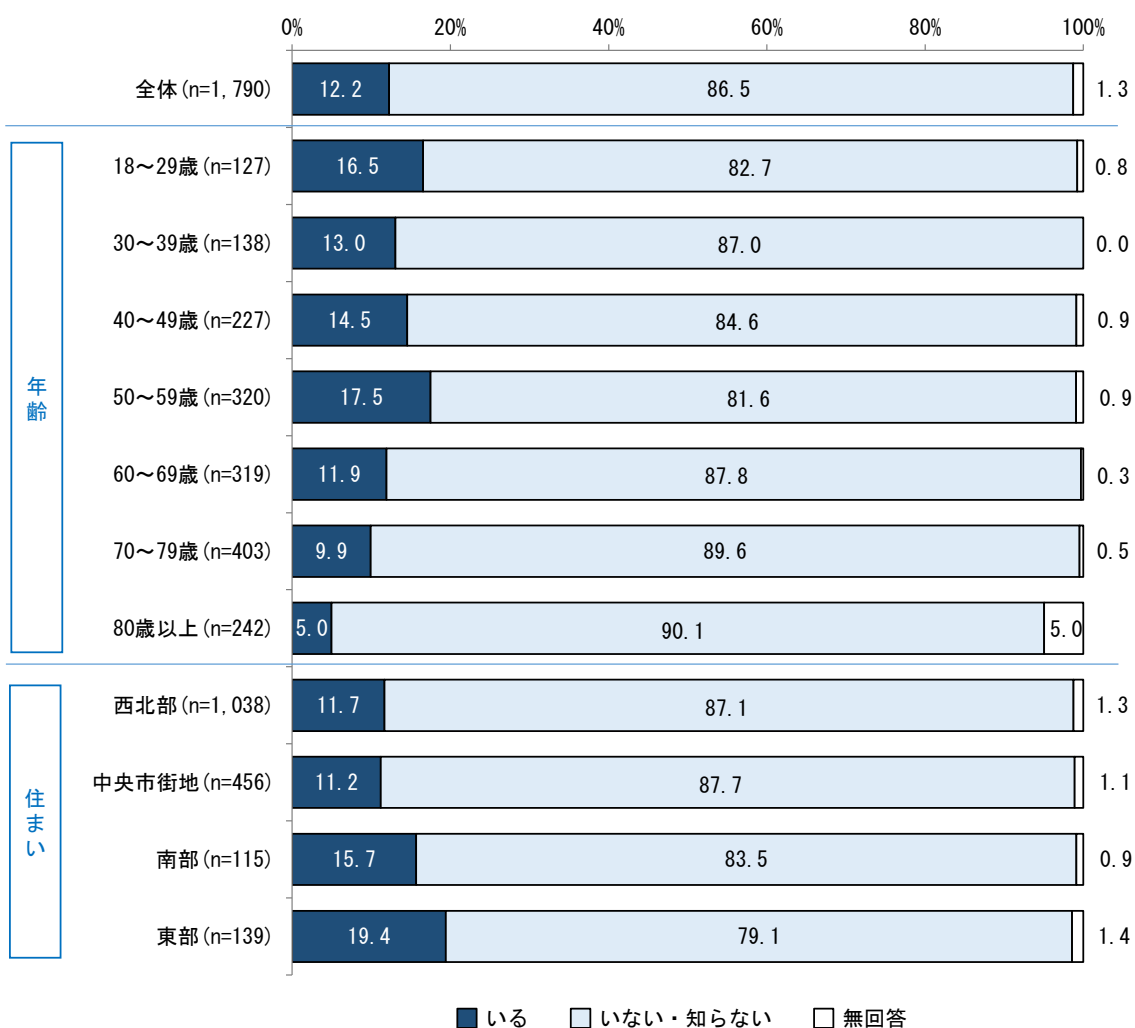


(6) 身近にひきこもりの方がいるか

問 29 あなたの身近にひきこもりの方はいますか。 ○は1つ

身近にひきこもりの方がいるかについて、「いない・知らない」が 86.5%で最も高く、次いで「いる」が 12.2%となっています。

また、「いる」を年齢別でみると、「50～59 歳」が 17.5%で最も高く、次いで「18～29 歳」が 16.5%、「40～49 歳」が 14.5%となっており、住まい別でみると、「東部」が 19.4%で最も高く、次いで「南部」が 15.7%、「西北部」が 11.7%となっています。



第4章 市民向け調査結果

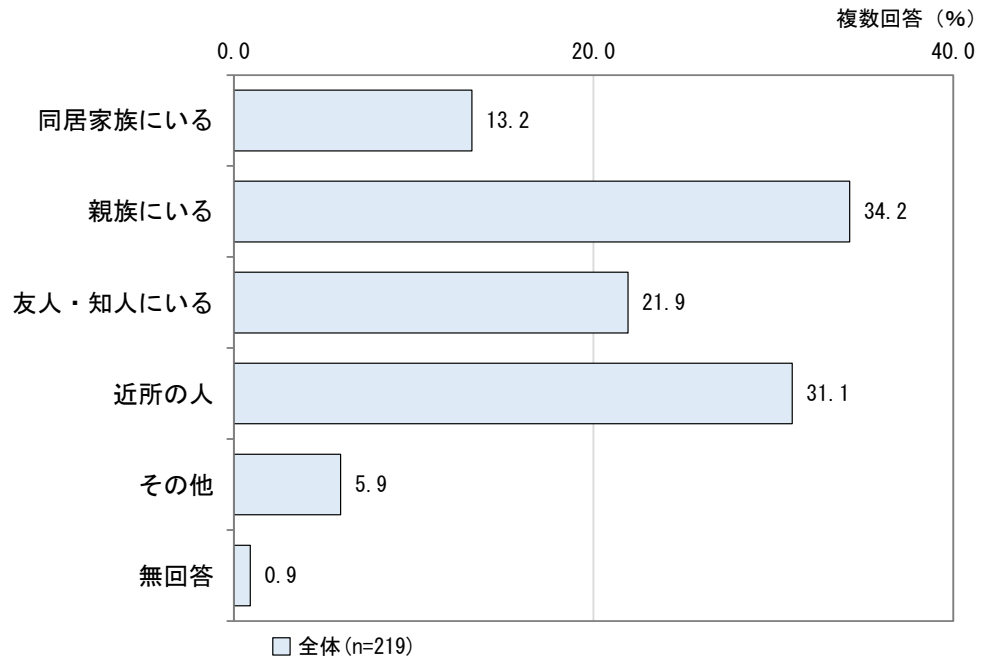
《問29で「いる」と回答した人がお答えください》

問 29-1

ひきこもりの方との関係性について教えてください。

○はいくつでも

身近にひきこもりの方がいる人に、ひきこもりの方との関係性について聞いたところ、「親族にいる」が34.2%で最も高く、次いで「近所の人」が31.1%、「友人・知人」が21.9%となっています。

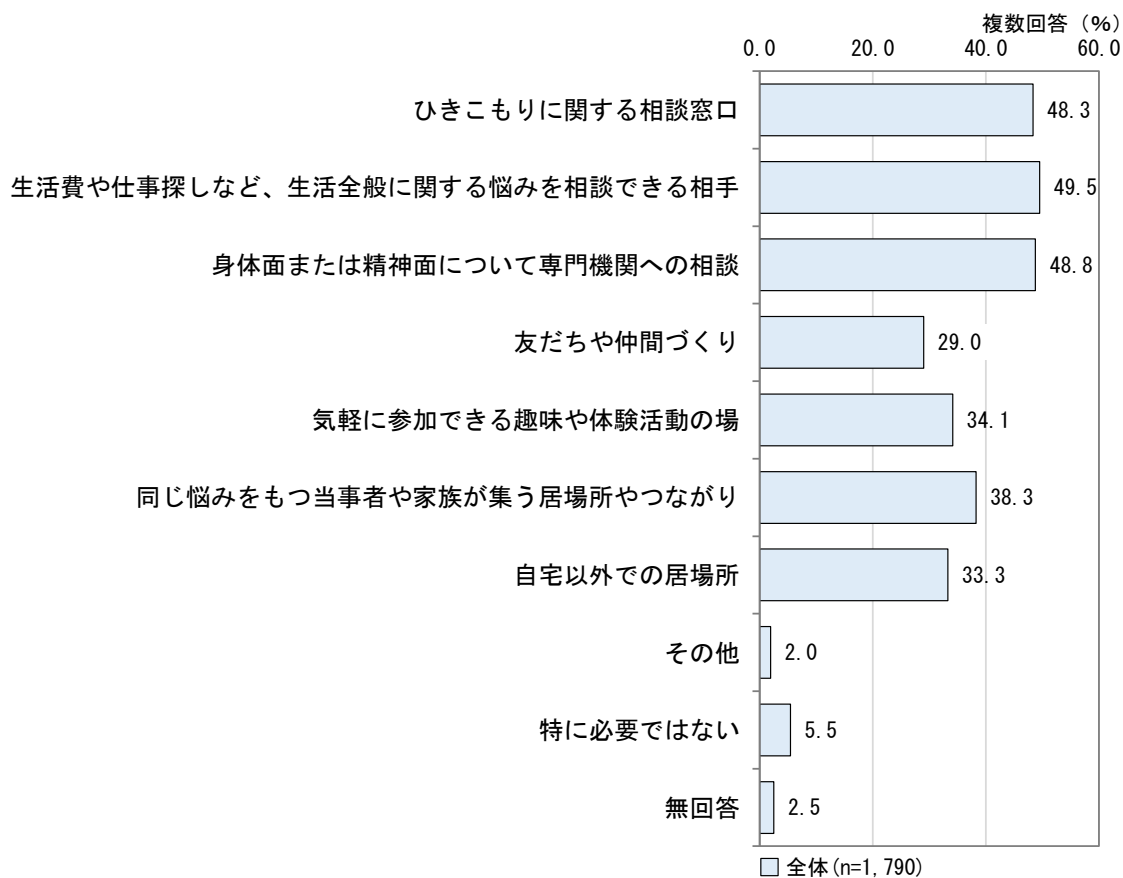


(7) 社会的孤立の状態にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うこと

| | | |
|-------------|--|---------|
| 問 30 | あなたや身近な方が、社会的孤立の状態（例えばひきこもりなど、社会との接点が限局的な状態）にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うことは何だと思えますか。 | 〇はいくつでも |
|-------------|--|---------|

希望する暮らし方を実現するために役立つと思う相談、居場所・仲間について、「生活費や仕事探しなど、生活全般に関する悩みを相談できる相手」が49.5%で最も高く、次いで「身体面または精神面について専門機関への相談」が48.8%、「ひきこもりに関する相談窓口」が48.3%となっています。

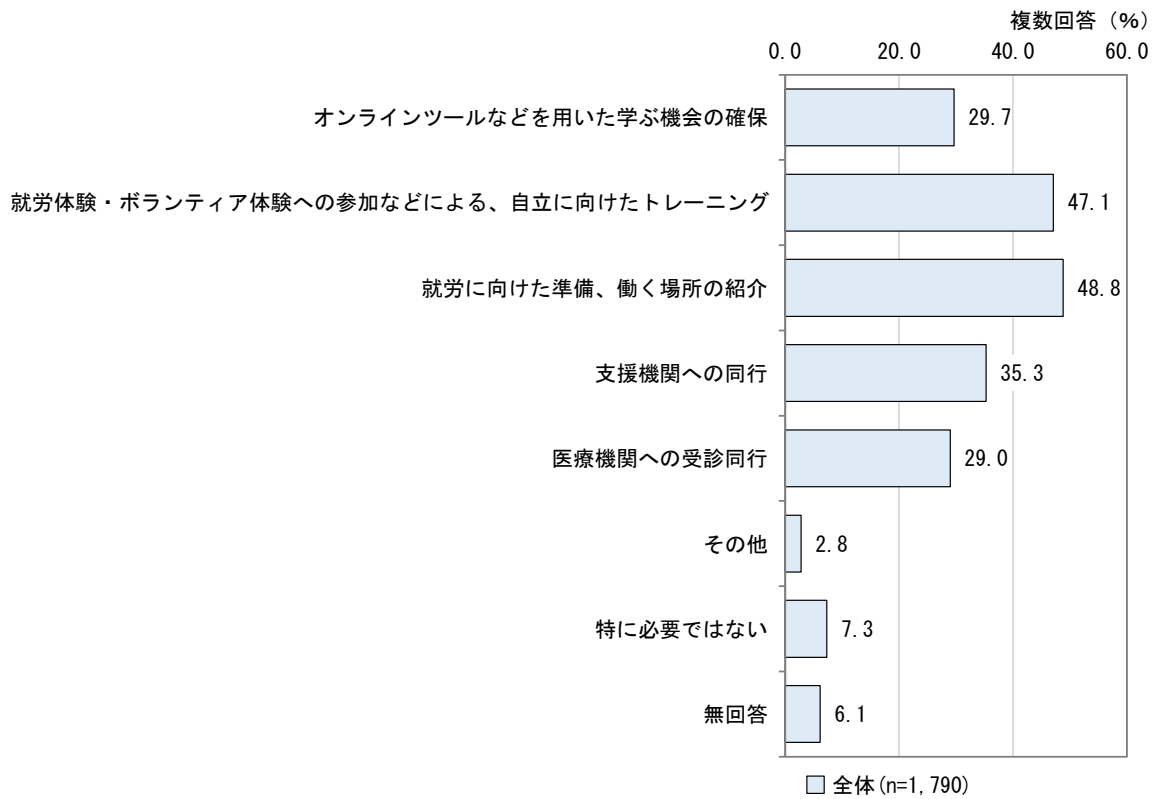
【相談、居場所・仲間】



第4章 市民向け調査結果

また、希望する暮らし方を実現するために役立つと思う支援について、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が 48.8%で最も高く、次いで「就労体験・ボランティア体験への参加などによる、自立に向けたトレーニング」が 47.1%、「支援機関への同行」が 35.3%となっています。

【支援】

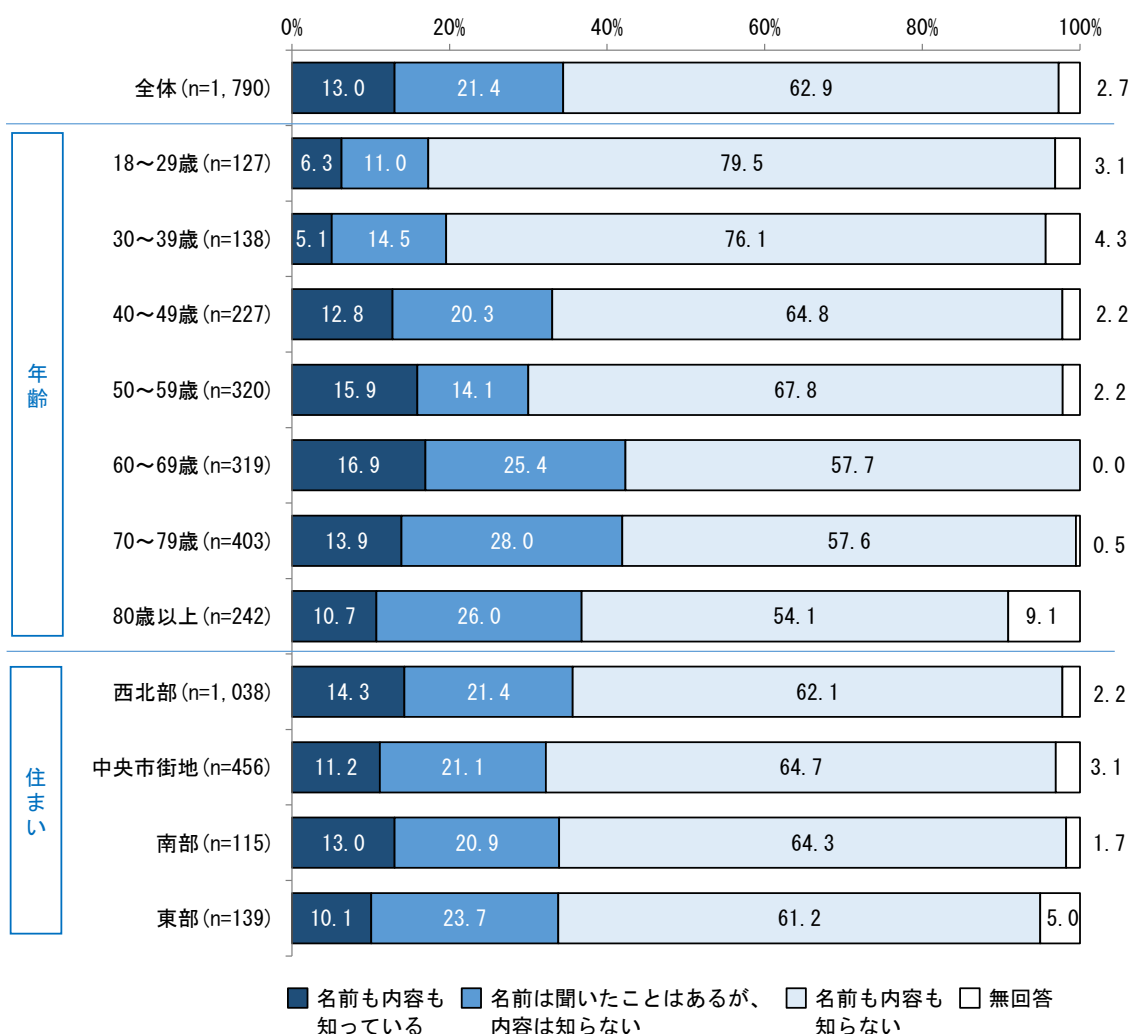


(8) 「避難行動要支援者名簿」及び「個別避難計画」の認知度

| | | |
|----------|---------------------------|------|
| 問 31 (1) | あなたは「避難行動要支援者名簿」を知っていますか。 | ○は1つ |
|----------|---------------------------|------|

避難行動要支援者名簿の認知度について、「名前も内容も知らない」が62.9%で最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が21.4%、「名前も内容も知っている」が13.0%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「60～69歳」が16.9%で最も高く、次いで「50～59歳」が15.9%、「70～79歳」が13.9%となっており、住まい別でみると、「西北部」が14.3%で最も高く、次いで「南部」が13.0%、「中央市街地」が11.2%となっています。



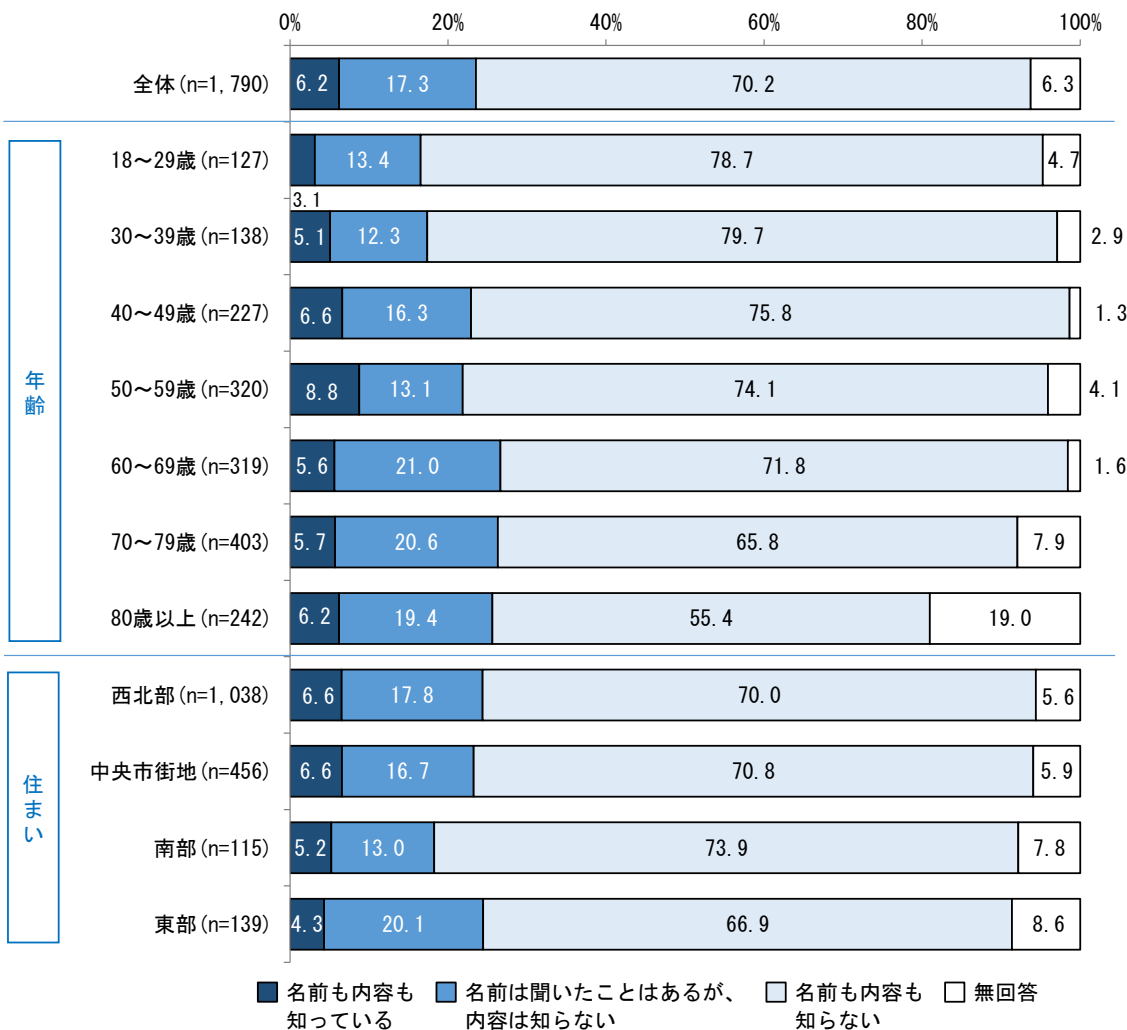
※ 避難行動要支援者名簿とは、高齢者や障害のある人等、災害時に自力で避難することが難しく、避難支援を必要とする人(避難行動要支援者)を把握するために、市町村が作成する名簿のことです。

第4章 市民向け調査結果

問 31 (2) あなたは「個別避難計画」を知っていますか。 ○は1つ

個別避難計画の認知度について、「名前も内容も知らない」が70.2%で最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が17.3%、「名前も内容も知っている」が6.2%となっています。

また、「名前も内容も知っている」を年齢別でみると、「50～59歳」が8.8%で最も高く、次いで「40～49歳」が6.6%、「80歳以上」が6.2%となっており、住まい別でみると、「西北部」「中央市街地」がそれぞれ6.6%、次いで「南部」が5.2%、「東部」が4.3%となっています。

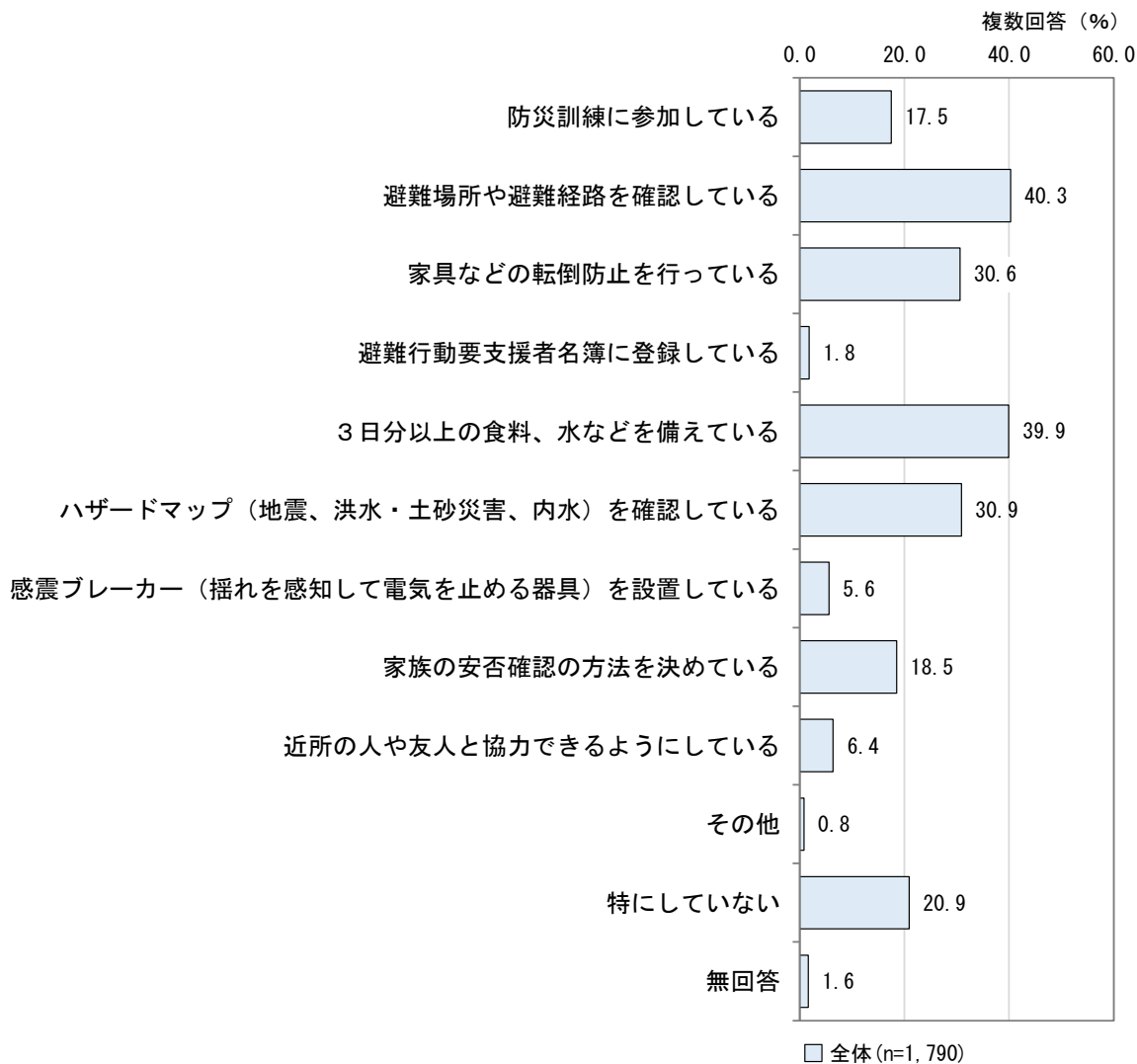


※ 個別避難計画とは、避難行動要支援者ごとに、どのような避難行動をとれば良いのかについて、あらかじめ、本人・家族等と確認して作成する個別の避難計画のことであり、奈良市では「個別計画・支援プラン」としています。

(9) 日頃から行っている災害対策

| | | |
|-------------|---------------------------------|---------|
| 問 32 | あなたは、災害対策として日頃からどのような備えをしていますか。 | ○はいくつでも |
|-------------|---------------------------------|---------|

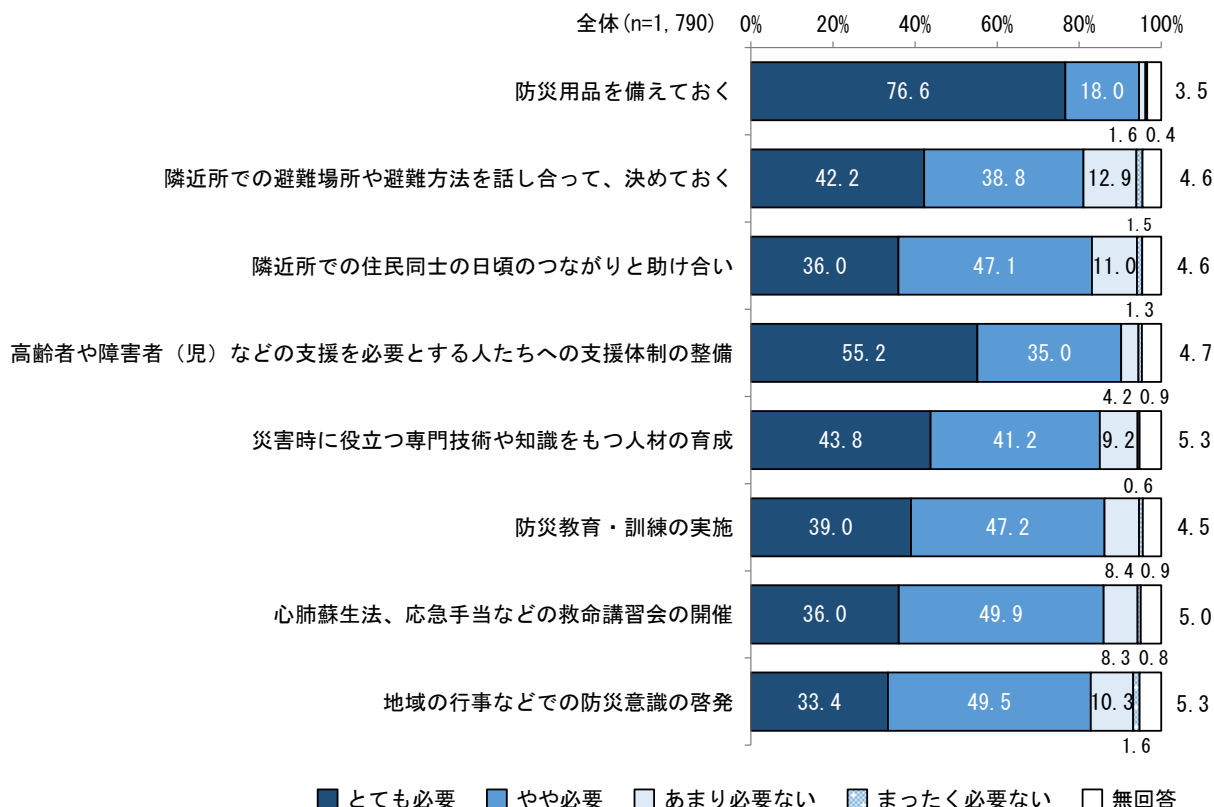
日頃から行っている災害対策について、「避難場所や避難経路を確認している」が 40.3%で最も高く、次いで「3日分以上の食料、水などを備えている」が 39.9%、「ハザードマップを確認している」が 30.9%となっています。



(10) 大地震などの災害に対する地域で必要な備え

| | | |
|-------------|------------------------------------|------|
| 問 33 | 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。 | ○は1つ |
|-------------|------------------------------------|------|

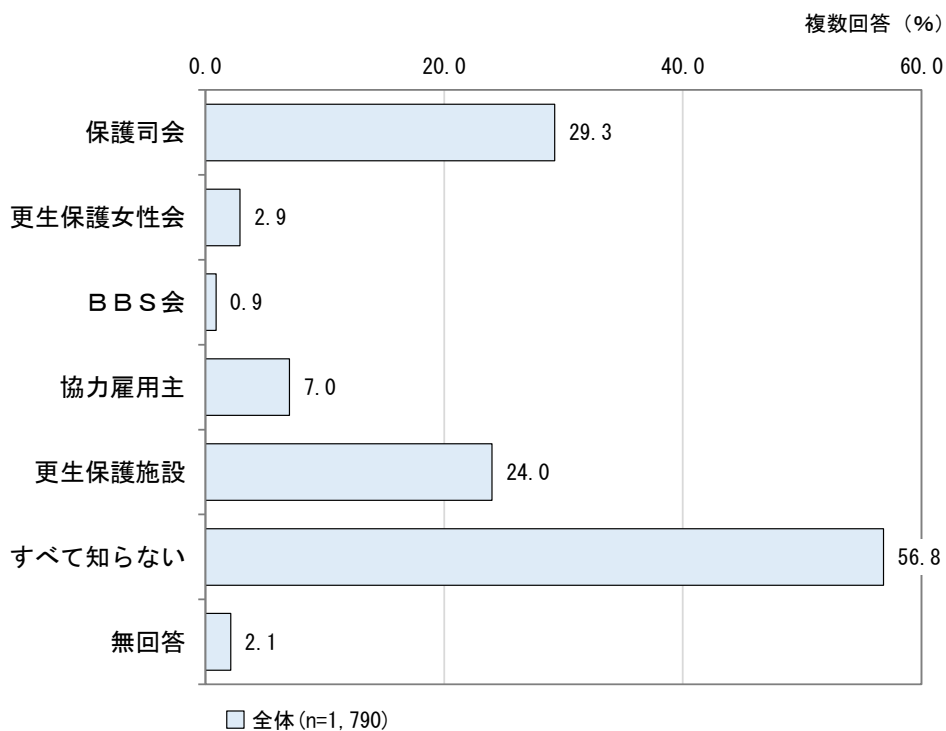
大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思うかについて、『必要』（「とても必要」と「やや必要」の合計）では、「防災用品を備えておく」が94.6%で最も高く、次いで「高齢者や障害者（児）などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」が90.2%、「防災教育・訓練の実施」が86.2%となっています。



(11) 更生支援のボランティアとして活動している団体の認知度

| | | |
|------|---|------------|
| 問 34 | あなたは、更生支援のボランティアとして活動している以下の団体の中で知っている（聞いたことがある）ものはありますか。 | ○はい/いくつかでも |
|------|---|------------|

更生支援のボランティアとして活動している団体の認知度について、「すべて知らない」が56.8%で最も高く、次いで「保護司会」が29.3%、「更生保護施設」が24.0%となっています。

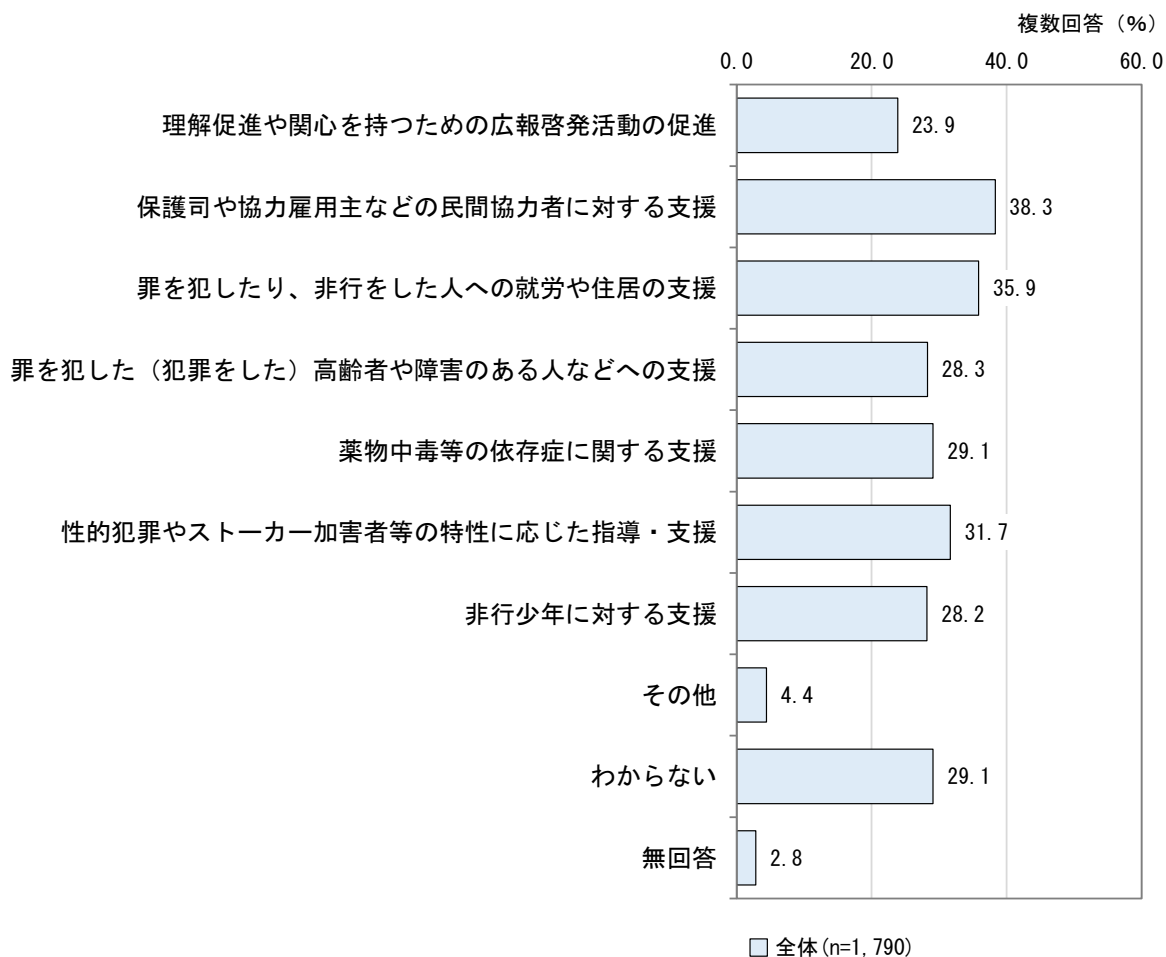


※ 更生支援とは、罪に問われた者等が、地域社会において罪を犯すことなく生活することができるようにするための措置又は活動のことです。

(12) 再犯防止に必要なこと

| | | |
|------|---------------------------------------|---------|
| 問 35 | あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。 | ○はいくつでも |
|------|---------------------------------------|---------|

再犯防止に必要なことについて、「保護司や協力雇用主などの民間協力者に対する支援」が38.3%で最も高く、次いで「罪を犯したり、非行をした人への就労や住居の支援」が35.9%、「性的犯罪やストーカ－加害者等の特性に応じた指導・支援」が31.7%となっています。



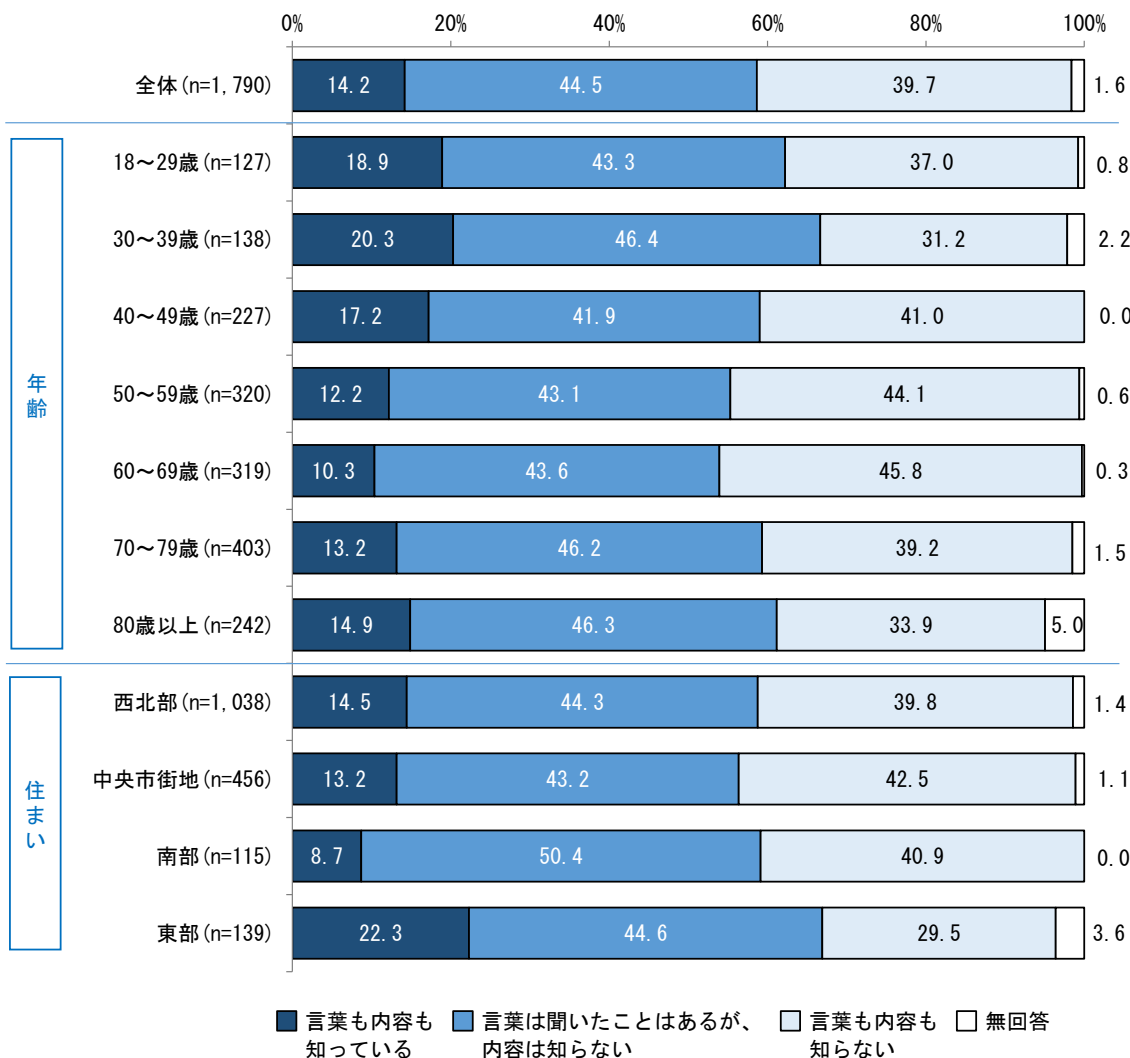
5. 地域福祉推進に向けた取組について

(1) 「地域福祉」という言葉の認知度

| | | |
|-------------|--------------------------|------|
| 問 36 | あなたは「地域福祉」という言葉を知っていますか。 | ○は1つ |
|-------------|--------------------------|------|

「地域福祉」という言葉の認知度について、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が44.5%で最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」が39.7%、「言葉も内容も知っている」が14.2%となっています。

また、「言葉も内容も知っている」を年齢別で見ると、「30～39歳」が20.3%で最も高く、次いで「18～29歳」が18.9%、「40～49歳」が17.2%となっており、住まい別で見ると、「東部」が22.3%で最も高く、次いで「西北部」が14.5%、「中央市街地」が13.2%となっています。



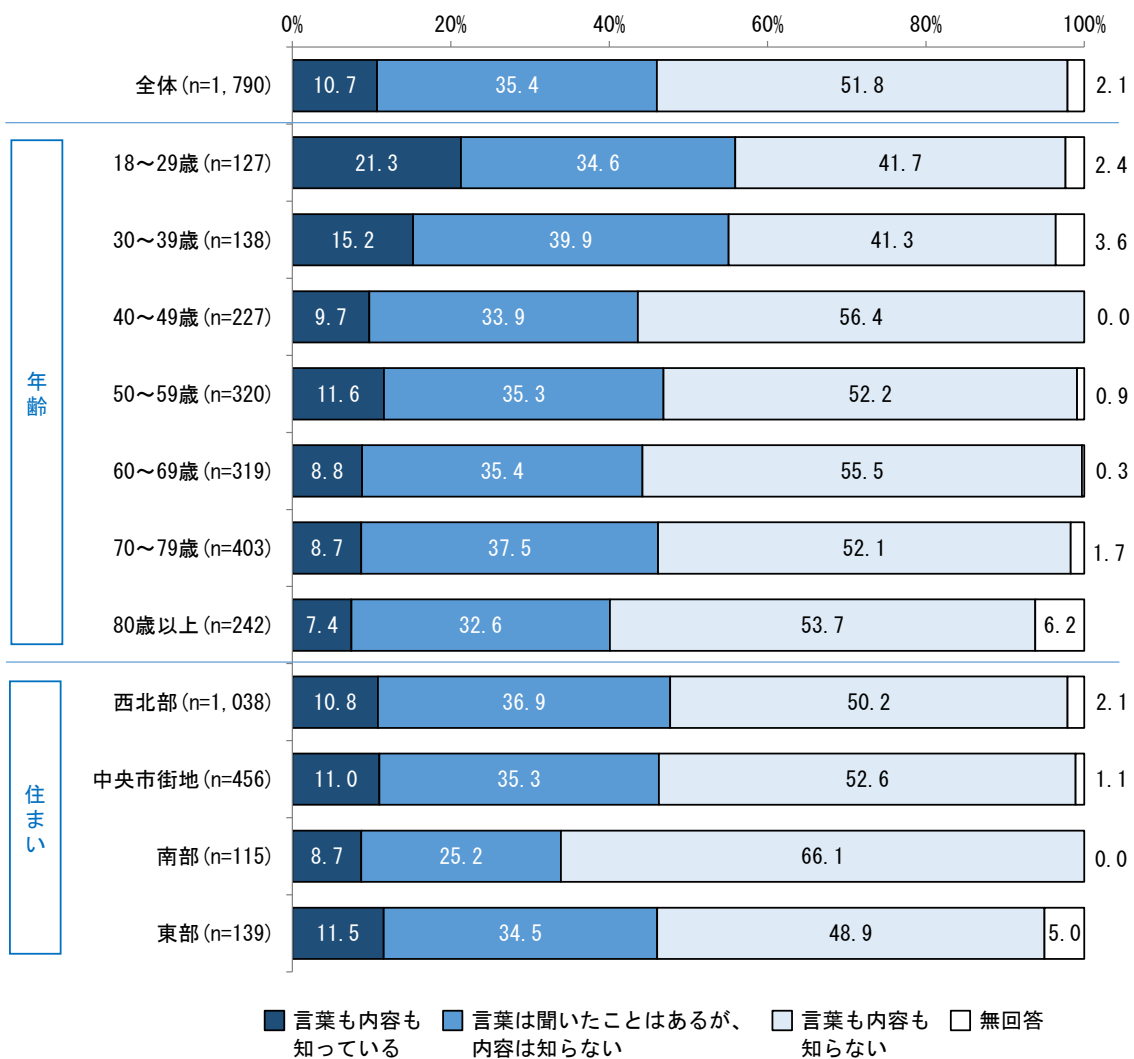
※ 地域福祉とは、公的なサービスと併せて、地域に住む人同士が、お互いに助け合いながら、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることです。

(2)「地域共生社会」という言葉の認知度

問 37 あなたは「地域共生社会」という言葉を知っていますか。 ○は1つ

「地域共生社会」という言葉の認知度について、「言葉も内容も知らない」が51.8%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が35.4%、「言葉も内容も知っている」が10.7%となっています。

また、「言葉も内容も知っている」を年齢別でみると、「18～29歳」が21.3%で最も高く、次いで「30～39歳」が15.2%、「50～59歳」が11.6%となっており、住まい別でみると、「東部」が11.5%で最も高く、次いで「中央市街地」が11.0%、「西北部」が10.8%となっています。



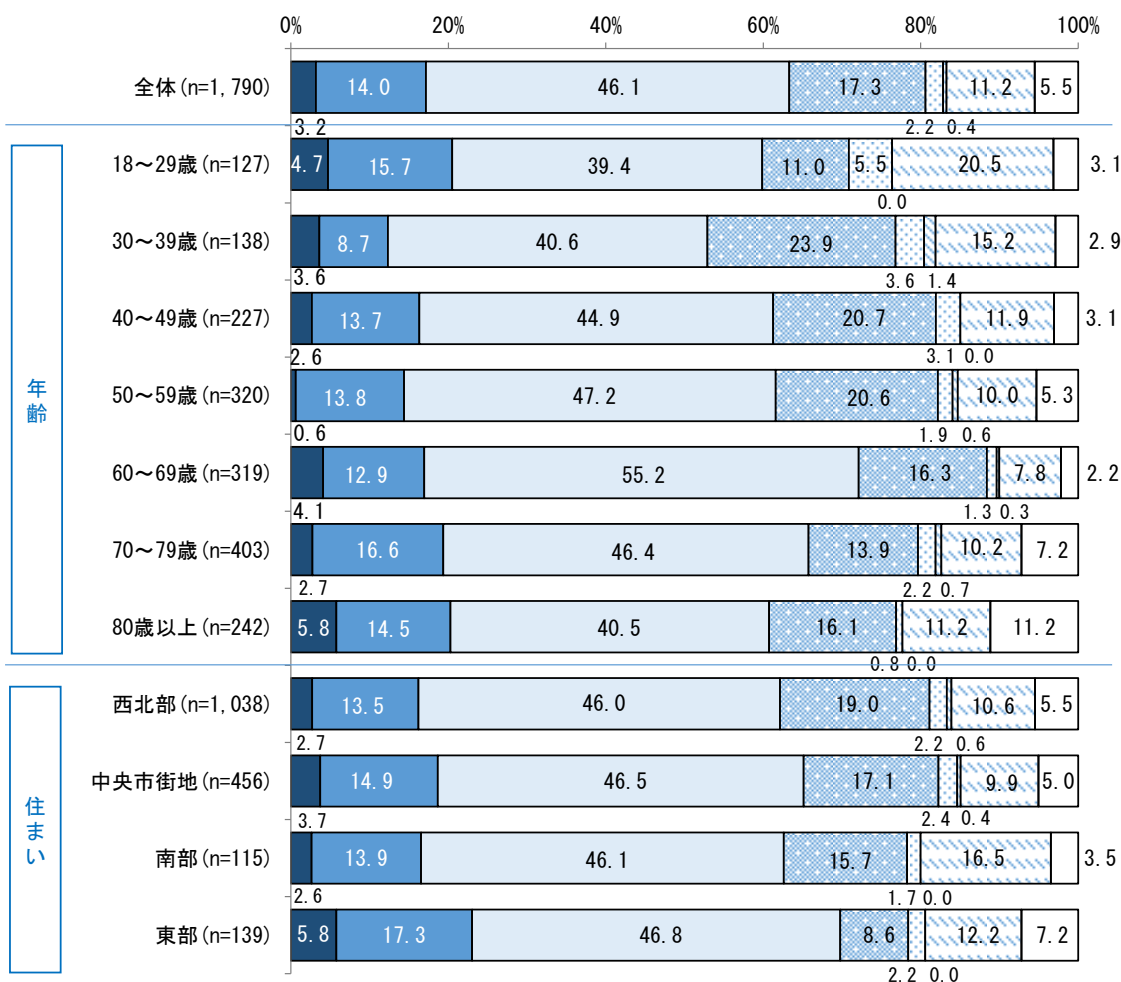
※ 地域共生社会とは、行政の制度や分野ごとの分け隔てや、支える人・支えられる人という立場の違いを超えて、地域の誰もが参加し、世代や立場をこえて人と人がつながり、地域住民、団体、学校、企業など地域にある力を持ち寄り、みんなでつながり合って、一人ひとりの暮らしと生きがいを大切にしながら、地域を一緒につくっていく社会のことです。

(3) 地域の問題や課題の解決方法

問 38 地域の問題や課題の解決方法について、どのように考えていますか。 ○は1つ

地域の問題や課題の解決方法について、「行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである」が46.1%で最も高く、次いで「できる限り行政が解決し、行き届かない部分は住民が協力すべきである」が17.3%、「できる限り住民が解決し、行政は必要な支援を行うべきである」が14.0%となっています。

また、「行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである」を年齢別でみると、「60～69歳」が55.2%で最も高く、次いで「50～59歳」が47.2%、「70～79歳」が46.4%となっており、住まい別でみると、「東部」が46.8%で最も高く、次いで「中央市街地」が46.5%、「南部」が46.1%となっています。

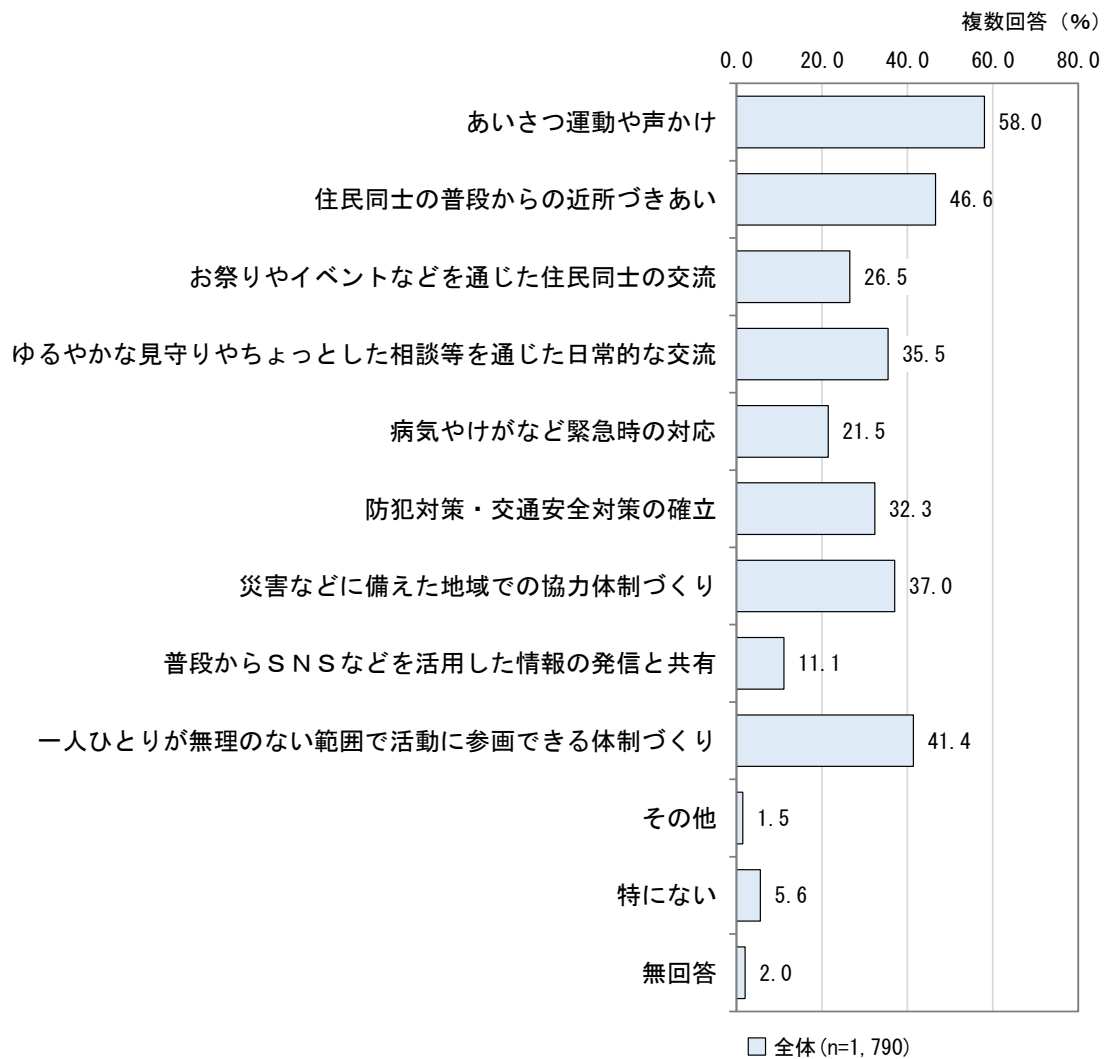


- 住民同士が協力して解決すべきである
- できる限り住民が解決し、行政は必要な支援を行うべきである
- 行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである
- できる限り行政が解決し、行き届かない部分は住民が協力すべきである
- すべて行政が解決し、そのために住民が税金を納めるべきである
- その他
- わからない
- 無回答

(4) 地域に住む人同士での助け合い、支え合える地域づくりに必要な取組

| | | |
|------|---|---------|
| 問 39 | 今後、地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。 | ○はいくつでも |
|------|---|---------|

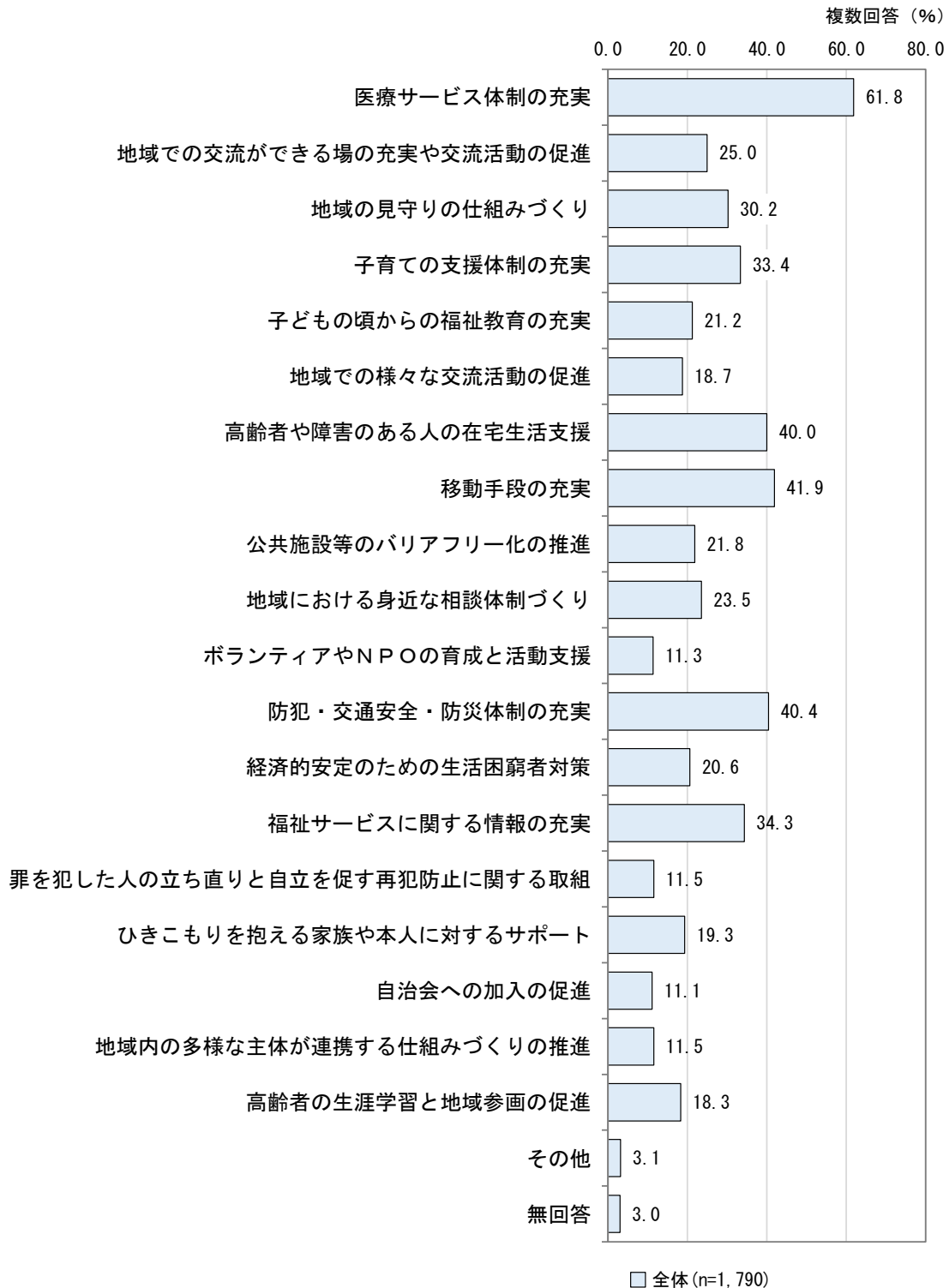
地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりに必要な取組について、「あいさつ運動や声かけ」が58.0%で最も高く、次いで「住民同士の普段からの近所づきあい」が46.6%、「一人ひとりが無理のない範囲で活動に参画できる体制づくり」が41.4%となっています。



(5) 地域福祉の向上に必要な奈良市の取組

| | | |
|------|--|---------|
| 問 40 | 今後、地域福祉を向上させるために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。 | ○はいくつでも |
|------|--|---------|

地域福祉の向上に必要な奈良市の取組について、「医療サービス体制の充実」が61.8%で最も高く、次いで「移動手段の充実」が41.9%、「防犯・交通安全・防災体制の充実」が40.4%となっています。



6. 市政に対する意見

| | | |
|------|--|------|
| 問 41 | 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。 | 自由記述 |
|------|--|------|

358人から回答があり、その内容を分類した結果は次の通りです。

なお、複数の意見が記入されているため、回答者数の合計とは一致しません。

| 区分 | 件数 |
|---------------------------------------|-----|
| 道路や歩道の安全性・整備状況に不満や不安を感じている | 36 |
| 市政・行政運営の方針に対する提案や要望がある | 33 |
| 自身や家族の具体的な体験をもとにした意見や要望がある | 29 |
| 地域の人とのつながりが薄れ、孤立が進んでいると感じている | 26 |
| 高齢者が安心して暮らし続けられる介護・見守り・生活支援が必要だと感じている | 26 |
| バスや公共交通が不便で、移動手段の確保が課題だと感じている | 25 |
| 子育て世帯が安心して子どもを育てられる支援や居場所が足りないと感じている | 24 |
| 防犯面や治安に不安を感じ、より安心して暮らせる対策を求めている | 22 |
| 地域行事やイベントなど交流の場を設けてほしい | 21 |
| ごみ問題や環境美化、害獣・害虫対策に不満や改善要望を持っている | 20 |
| 市の取り組みや職員の対応に感謝や良い評価を伝えている | 20 |
| 市からの情報発信や広報を積極的に行ってほしい | 19 |
| 上下水道や公共施設など、生活インフラの老朽化や不足を感じている | 18 |
| 税金や予算の使い方が適切なのか疑問を感じている | 13 |
| 学校教育や学習環境について改善が必要だと感じている | 12 |
| 市役所や行政窓口について意見や要望がある | 12 |
| 生活に困っている人や弱い立場の人への支援が十分でないと感じている | 11 |
| 住宅環境や住みやすさについて改善が必要だと感じている | 11 |
| 医療体制や健康づくりの支援に不安や要望がある | 11 |
| 自治会や町内会など地域活動への参加者が減っていることを問題だと感じている | 10 |
| 騒音や近隣トラブル、生活マナーの悪化を問題だと感じている | 10 |
| 行政職員の対応や接遇に不満がある | 8 |
| 障害のある人が移動や生活で不便を感じない環境整備が不十分だと感じている | 8 |
| 地域での支え合いや見守り活動が弱くなっていることを心配している | 7 |
| 公園や緑地など、身近な自然環境の管理や整備が行き届いていないと感じている | 7 |
| 災害時の備えや防災体制が十分でないのではないかと感じている | 7 |
| 自治会の在り方について意見がある | 7 |
| 地域差や地区ごとの不公平感を感じている | 6 |
| 買い物環境や日常的な利便性の不足を感じている | 6 |
| 高齢化が進む中で地域の担い手不足や後継者不足を心配している | 5 |
| 地域のあいさつやマナーなど、日常の関係づくりを大切にしたい | 5 |
| 観光や交流人口を増やす取組がもっと必要だと感じている | 4 |
| その他 | 46 |
| 合計 | 525 |

第5章 学生向け調査結果

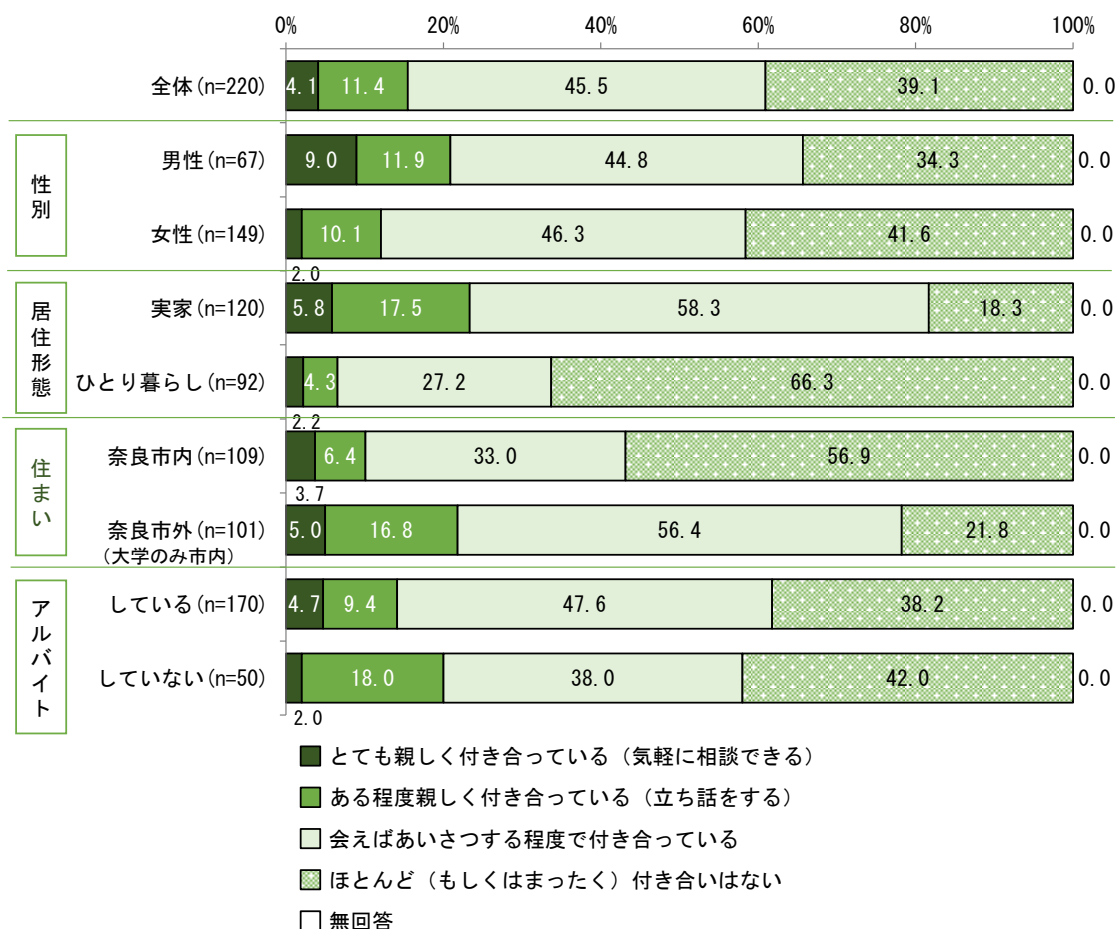
1. 地域の暮らしについて

(1) ふだんの近所づきあい

| | | |
|-------------|------------------------------|------|
| 問 10 | あなたは、ふだん、どのような近所づきあいをしていますか。 | ○は1つ |
|-------------|------------------------------|------|

ふだんの近所づきあいについて、「会えばあいさつする程度で付き合っている」が 45.5%で最も高く、次いで「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が 39.1%、「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」が 11.4%となっています。

また、『親しく付き合っている』（「とても親しく付き合っている（気軽に相談できる）」と「ある程度親しく付き合っている（立ち話をする）」の合計）を性別で見ると、「男性」が 20.9%、「女性」が 12.1%で「男性」の方が 8.8 ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が 23.3%、「ひとり暮らし」が 6.5%で「実家」の方が 16.8 ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が 10.1%、「奈良市外（大学のみ市内）」が 21.8%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が 11.7 ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が 14.1%、「していない」が 20.0%で「していない」の方が 5.9 ポイント多くなっています。

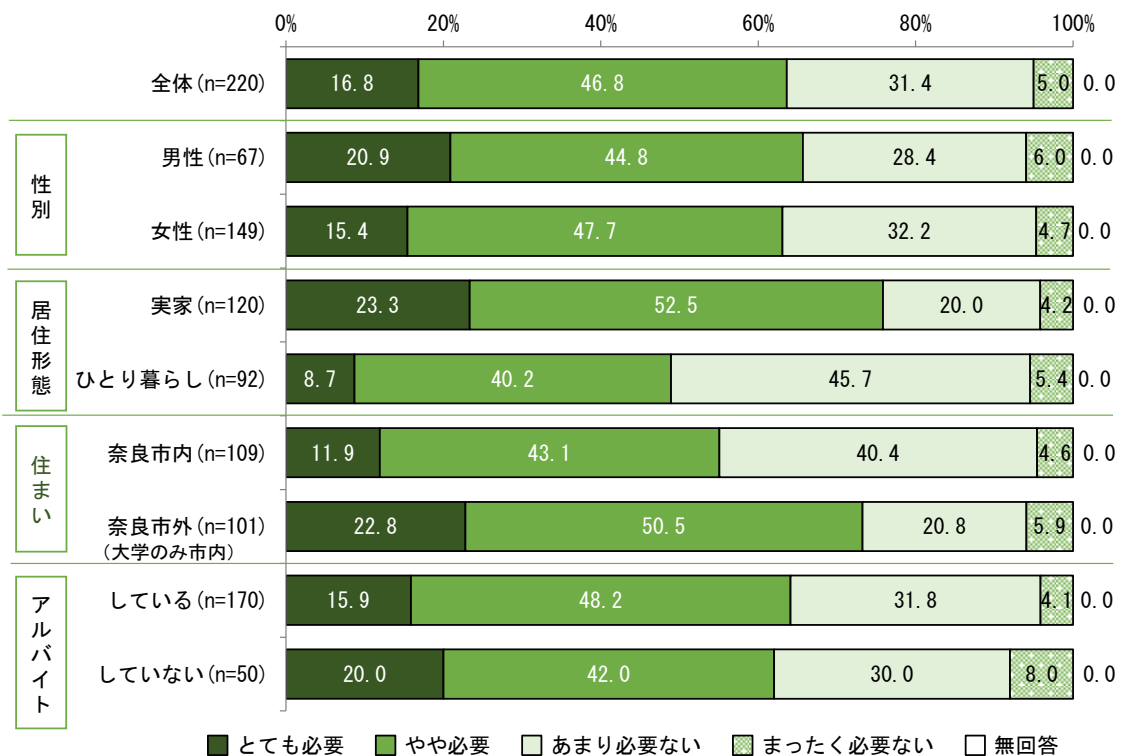


(2) 近所づきあいの必要性

| | | |
|------|------------------------|------|
| 問 11 | あなたは、近所づきあいが必要だと感じますか。 | ○は1つ |
|------|------------------------|------|

近所づきあいの必要性について、「やや必要」が46.8%で最も高く、次いで「あまり必要ない」が31.4%、「とても必要」が16.8%となっています。

また、『必要』（「とても必要」と「やや必要」の合計）を性別でみると、「男性」が65.7%、「女性」が63.1%で「男性」の方が2.6ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が75.8%、「ひとり暮らし」が48.9%で「実家」の方が26.9ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が55.0%、「奈良市外（大学のみ市内）」が73.3%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が18.3ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が64.1%、「していない」が62.0%で「している」の方が2.1ポイント多くなっています。

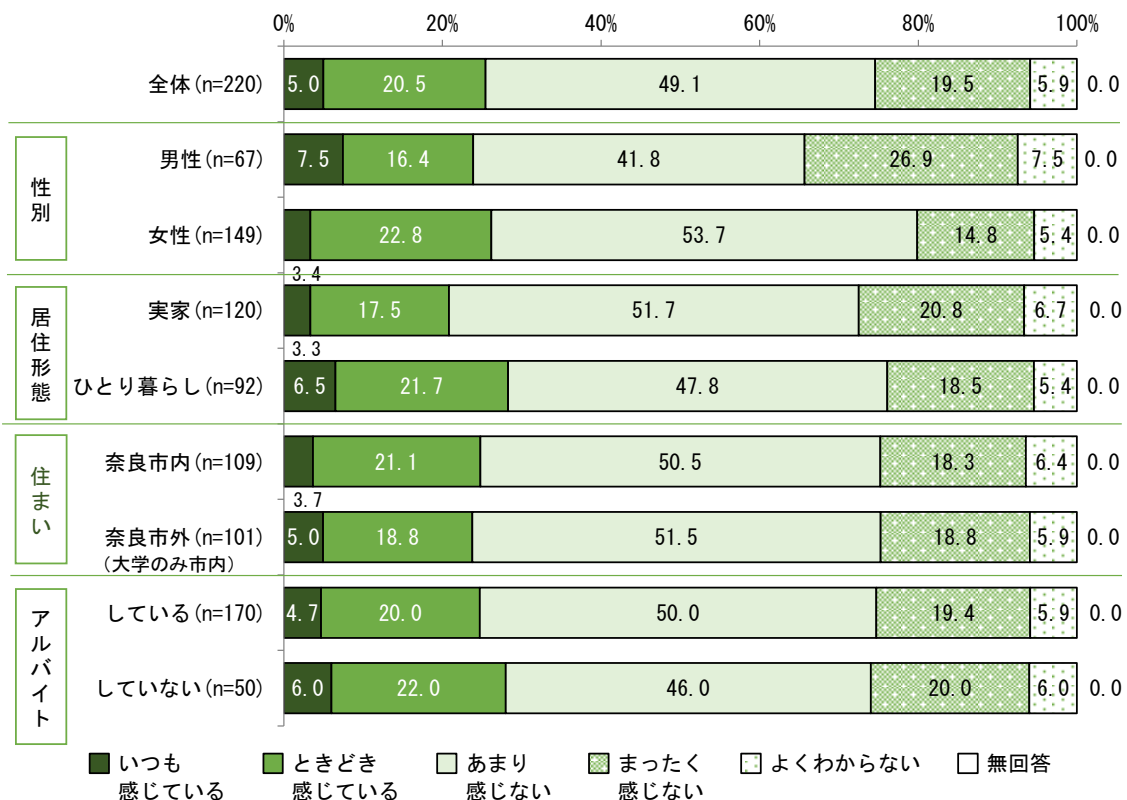


(3) 社会からの孤立感

| | | |
|------|------------------------------|------|
| 問 12 | あなたは、ふだん、社会から孤立を感じることがありますか。 | ○は1つ |
|------|------------------------------|------|

社会からの孤立感について、「あまり感じない」が 49.1%で最も高く、次いで「ときどき感じている」が 20.5%、「まったく感じない」が 19.5%となっています。

また、『感じている』（「いつも感じている」と「ときどき感じている」の合計）を性別でみると「男性」が 23.9%、「女性」が 26.2%で「女性」の方が 2.3 ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が 20.8%、「ひとり暮らし」が 28.2%で「ひとり暮らし」の方が 7.4 ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が 24.8%、「奈良市外（大学のみ市内）」が 23.8%で「奈良市内」の方が 1.0 ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が 24.7%、「していない」が 28.0%で「していない」の方が 3.3 ポイント多くなっています。

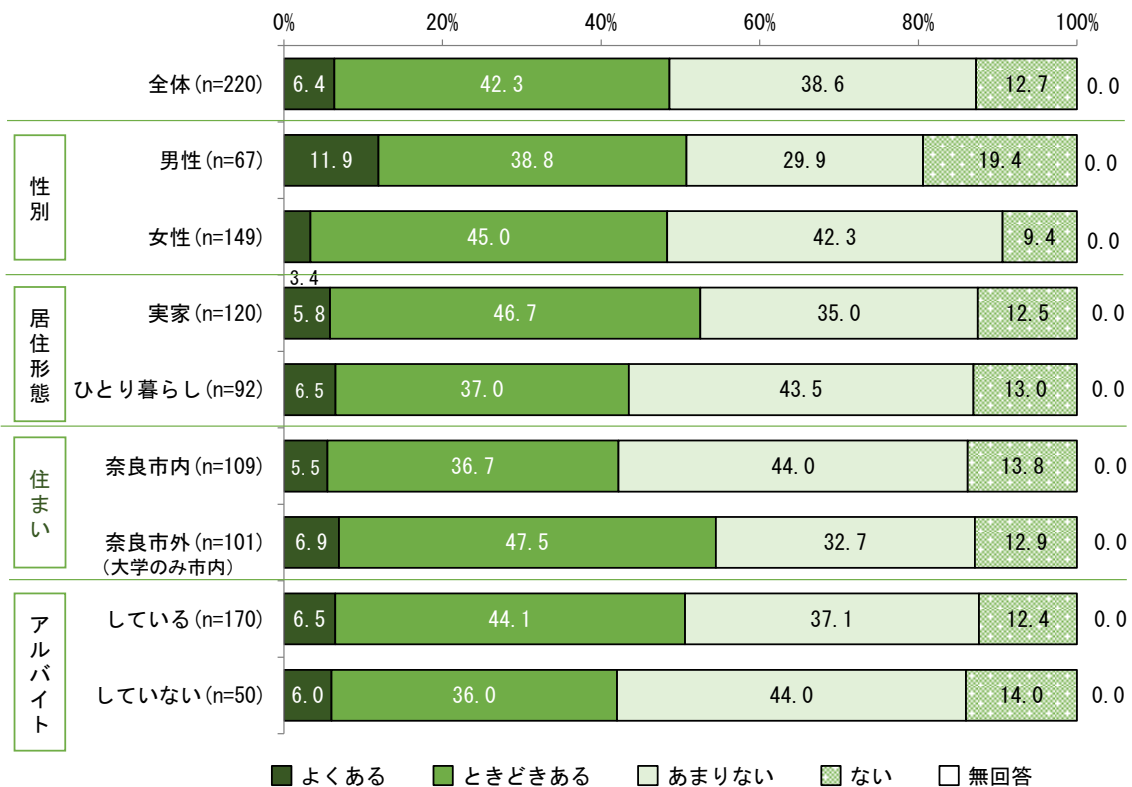


(4) 自由に自分らしさを表現できないと感じること

| | | |
|------|---|------|
| 問 13 | あなたは、これまでの体験から、自由に自分らしさを表現できないと感じることがありますか。 | ○は1つ |
|------|---|------|

自由に自分らしさを表現できないと感じることがあるかについて、「ときどきある」が42.3%で最も高く、次いで「あまりない」が38.6%、「ない」が12.7%となっています。

また、『ある』（「よくある」と「ときどきある」の合計）を性別でみると、「男性」が50.7%、「女性」が48.4%で「男性」の方が2.3ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が52.5%、「ひとり暮らし」が43.5%で「実家」の方が9.0ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が42.2%、「奈良市外（大学のみ市内）」が54.4%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が12.2ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が50.6%、「していない」が42.0%で「している」の方が8.6ポイント多くなっています。

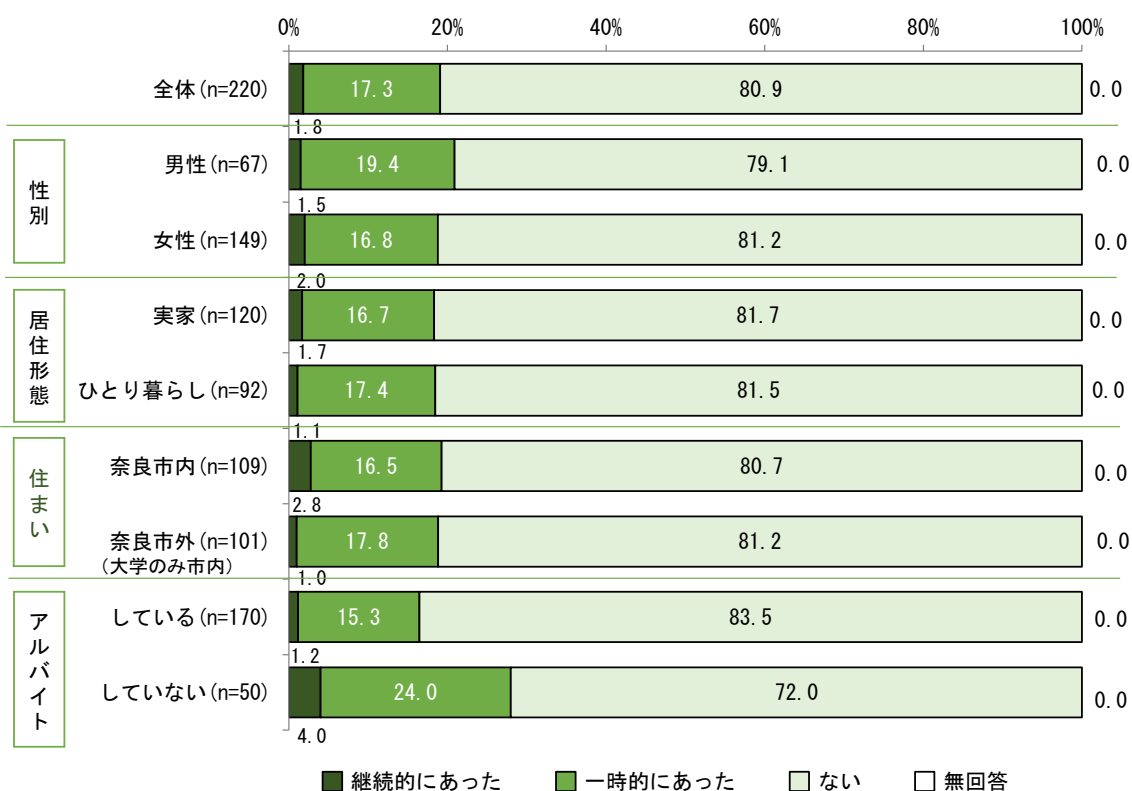


(5) 学校や社会から距離を置いた経験

| | | |
|------|--|------|
| 問 14 | あなた自身、不登校やひきこもりなど、学校や社会から距離を置いた経験はありますか。 | ○は1つ |
|------|--|------|

学校や社会から距離を置いた経験について、「ない」が 80.9%で最も高く、次いで「一時的にあった」が 17.3%、「継続的にあった」が 1.8%となっています。

また、『あった』（「継続的にあった」と「一時的にあった」の合計）を性別で見ると、「男性」が 20.9%、「女性」が 18.8%で「男性」の方が 2.1 ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が 18.4%、「ひとり暮らし」が 18.5%で「ひとり暮らし」の方が 0.1 ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が 19.3%、「奈良市外（大学のみ市内）」が 18.8%で「奈良市内」の方が 0.5 ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が 16.5%、「していない」が 28.0%で「していない」の方が 11.5 ポイント多くなっています。



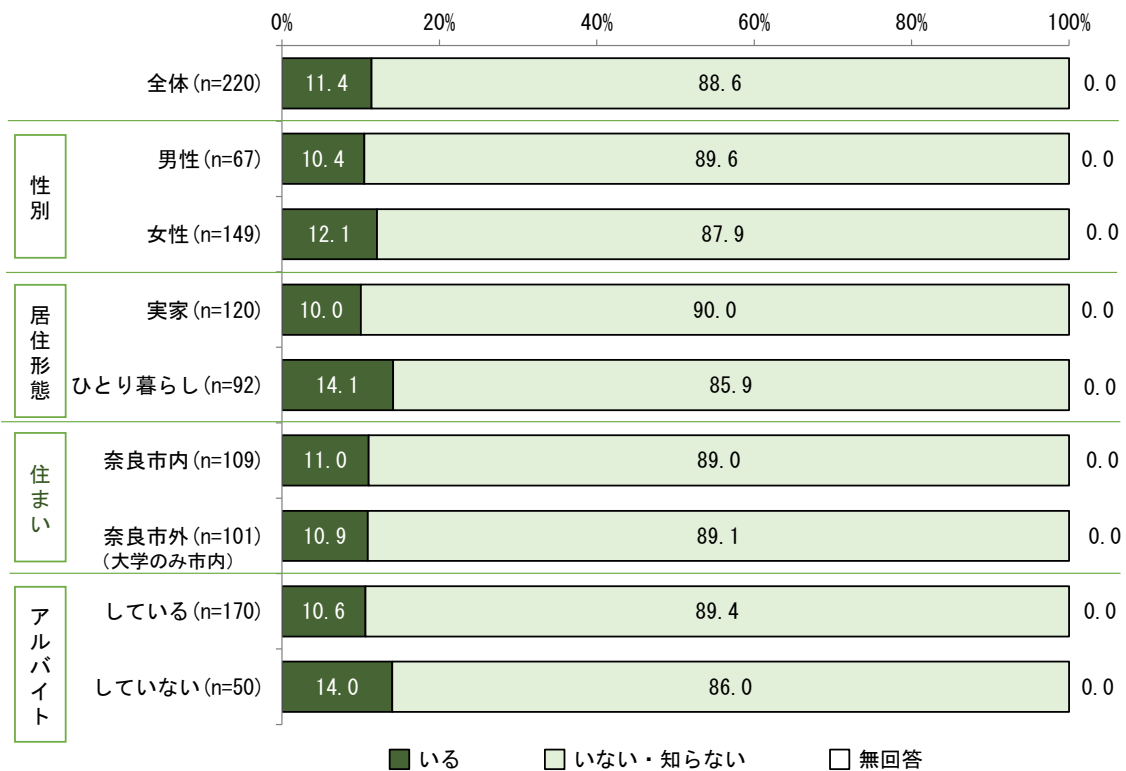
※ ひきこもりとは、様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態のことです。

(6) 身近にひきこもりの方がいるか

| | | |
|------|----------------------|------|
| 問 15 | あなたの身近にひきこもりの方はいますか。 | ○は1つ |
|------|----------------------|------|

身近にひきこもりの方がいるかについて、「いない・知らない」が 88.6%で最も高く、次いで「いる」が 11.4%となっています。

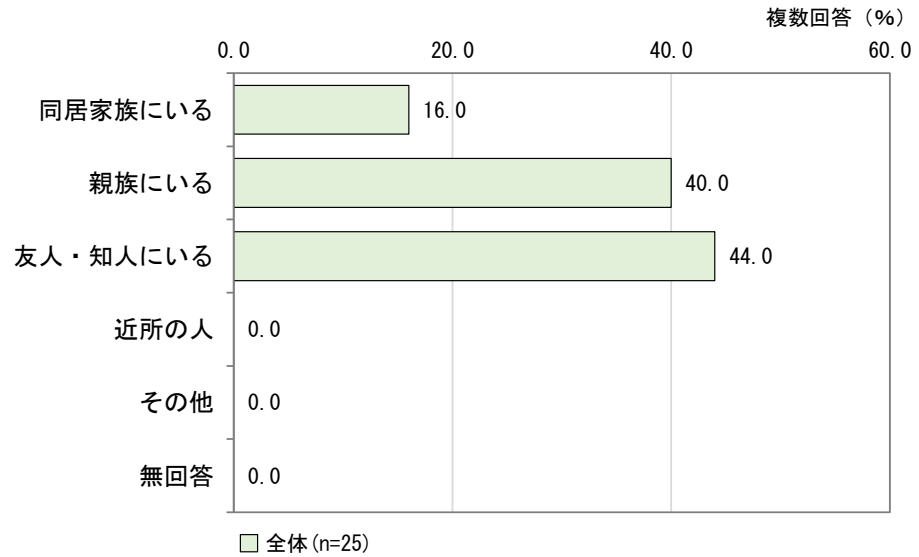
また、「いる」を性別で見ると、「男性」が 10.4%、「女性」が 12.1%で「女性」の方が 1.7 ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が 10.0%、「ひとり暮らし」が 14.1%で「ひとり暮らし」の方が 4.1 ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が 11.0%、「奈良市外（大学のみ市内）」が 10.9%で「奈良市内」の方が 0.1 ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が 10.6%、「していない」が 14.0%で「していない」の方が 3.4 ポイント多くなっています。



《問 15 で「いる」と回答した人がお答えください》

| | | |
|--------|--------------------------|---------|
| 問 15-1 | ひきこもりの方との関係性について教えてください。 | ○はいくつでも |
|--------|--------------------------|---------|

身近にひきこもりの方がいる人に、ひきこもりの方との関係性について聞いたところ、「友人・知人にいる」が 44.0%で最も高く、次いで「親族にいる」が 40.0%、「同居家族にいる」が 16.0%となっています。

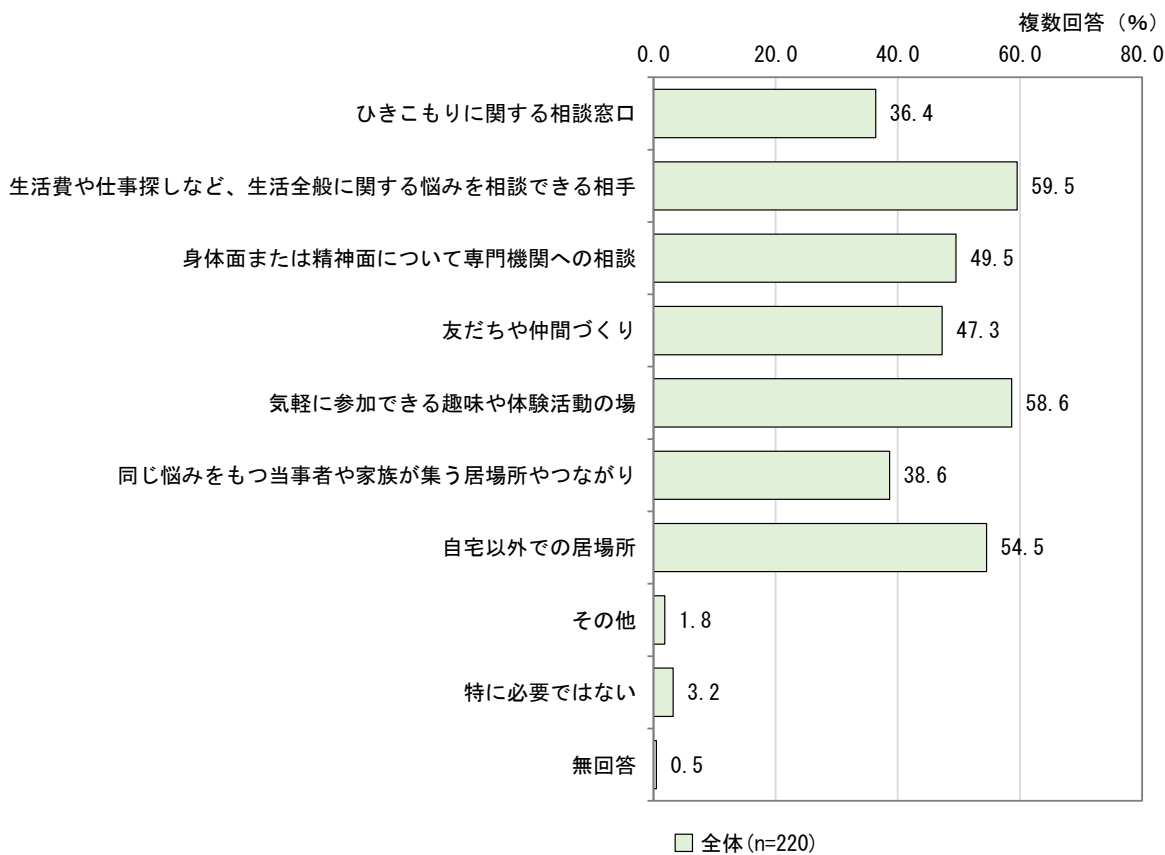


(7) 社会的孤立の状態にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うこと

| | | |
|-------------|--|---------|
| 問 16 | あなたや身近な方が、社会的孤立の状態（例えばひきこもりなど、社会との接点が限局的な状態）にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うことは何ですか。 | ○はいくつでも |
|-------------|--|---------|

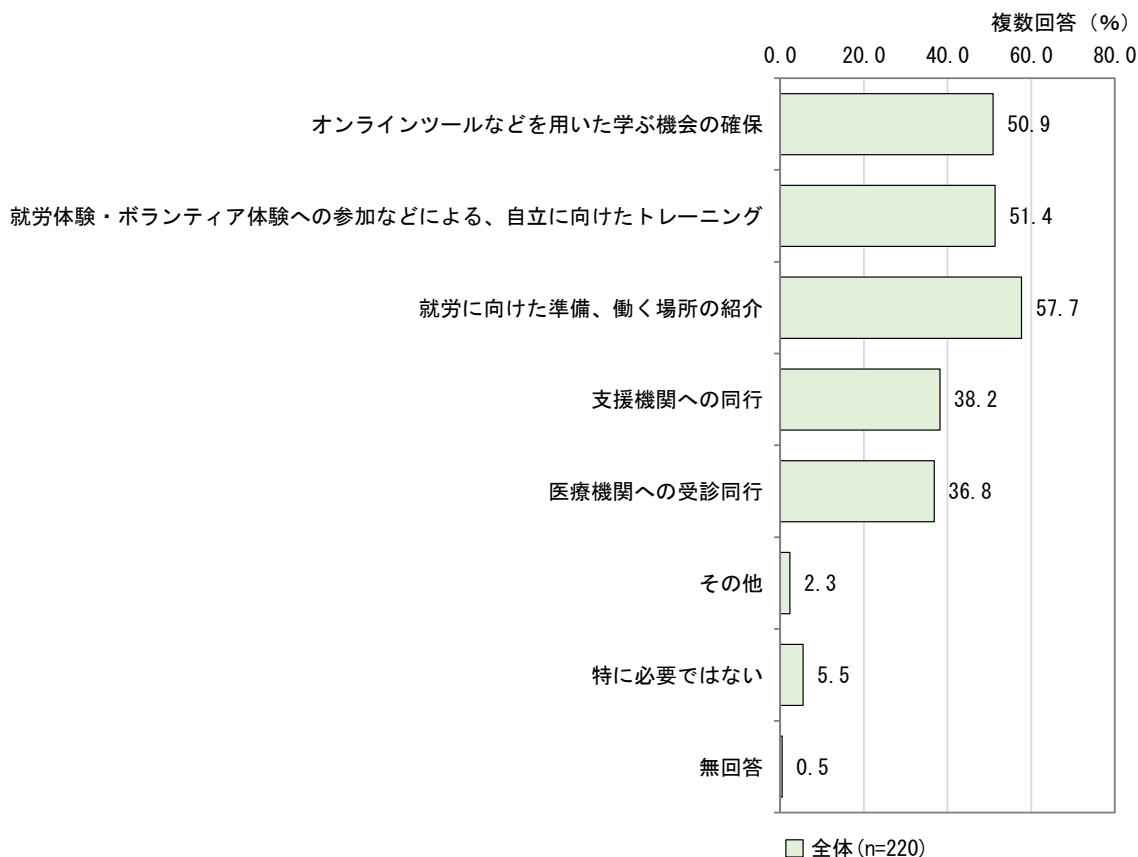
希望する暮らし方を実現するために役立つと思う相談、居場所・仲間について、「生活費や仕事探しなど、生活全般に関する悩みを相談できる相手」が 59.5%で最も高く、次いで「気軽に参加できる趣味や体験活動の場」が 58.6%、「自宅以外での居場所」が 54.5%となっています。

【相談、居場所・仲間】



また、希望する暮らし方を実現するために役立つと思う支援について、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が 57.7%で最も高く、次いで「就労体験・ボランティア体験への参加などによる、自立に向けたトレーニング」が 51.4%、「オンラインツールなどを用いた学ぶ機会の確保」が 50.9%となっています。

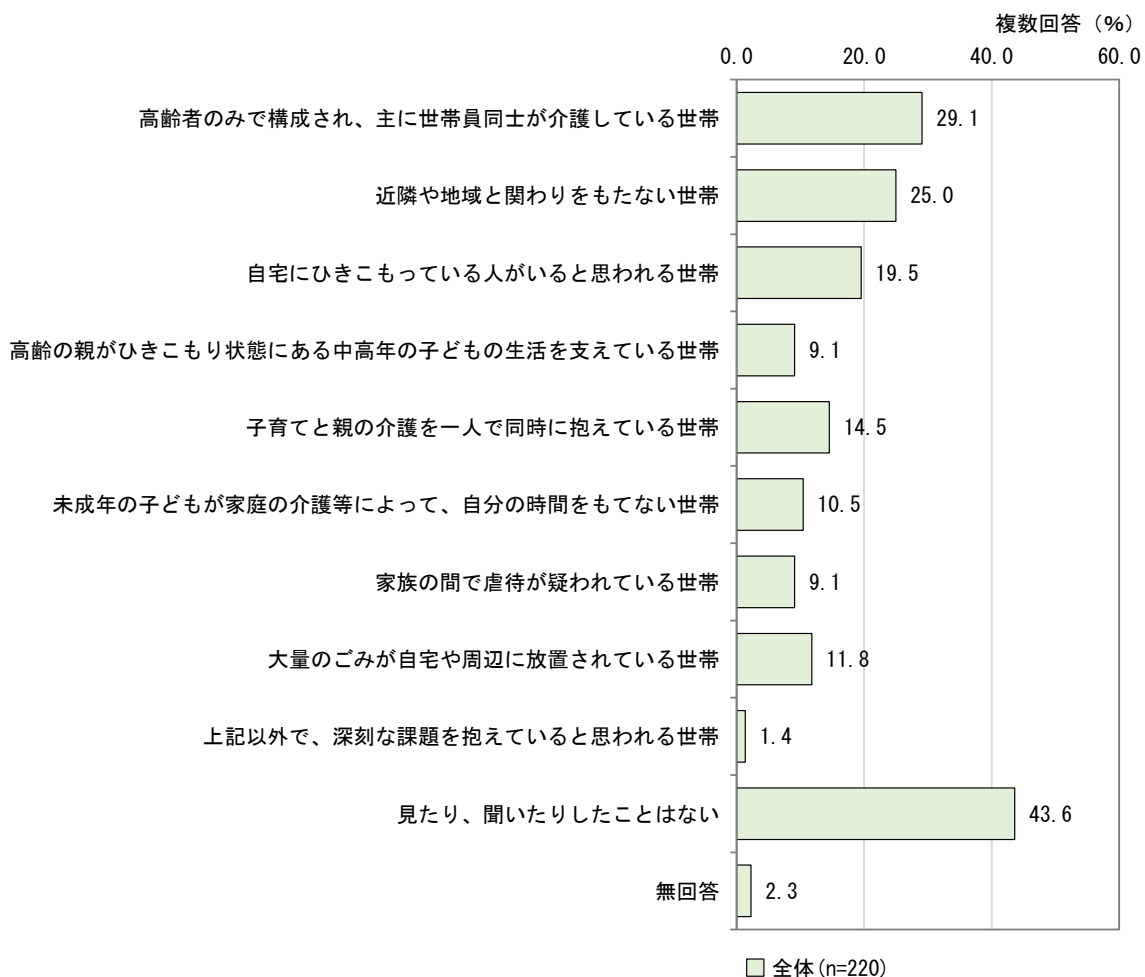
【支援】



(8) 課題を抱えている家庭

| | | |
|-----|-------------------------------------|-------------|
| 問17 | あなたは地域で、次のような家庭を見たり、聞いたりしたことがありますか。 | ○はい/いくつか/とも |
|-----|-------------------------------------|-------------|

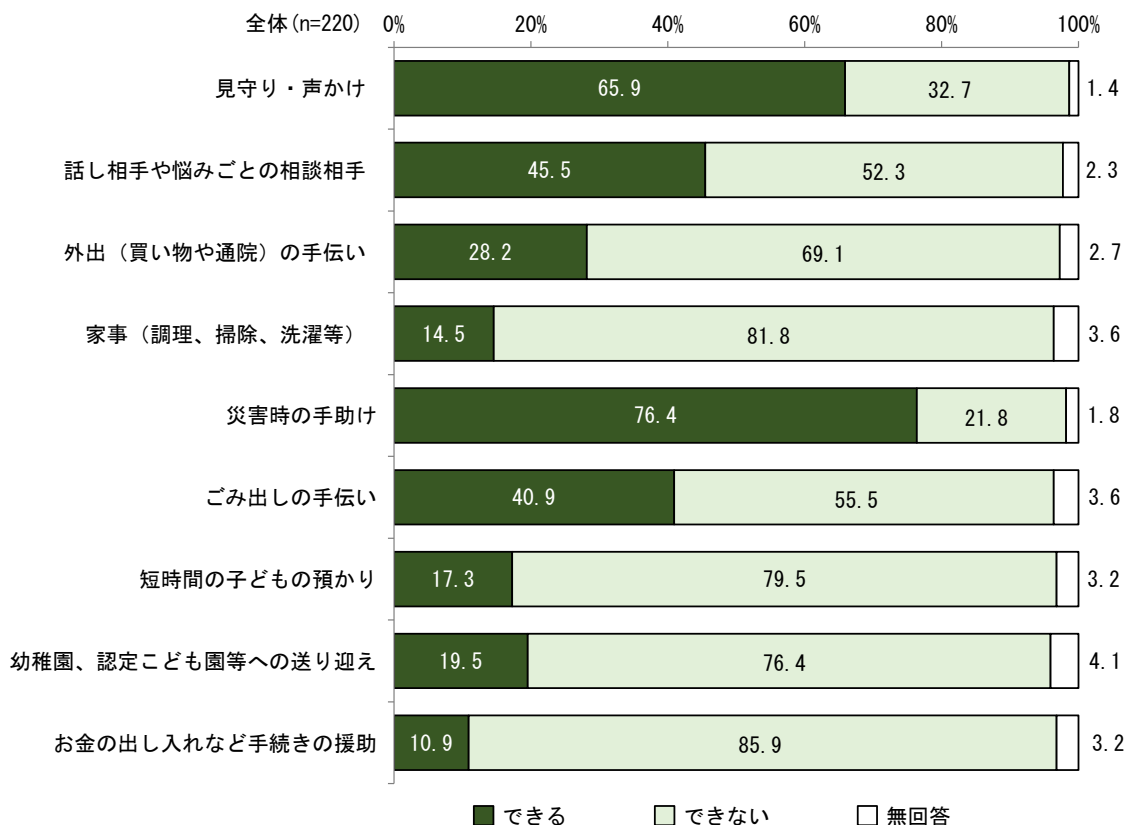
地域で課題を抱えている家庭を見たり、聞いたりしたことがあるかについて、「見たり、聞いたりしたことはない」が43.6%で最も高く、次いで「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」が29.1%、「近隣や地域と関わりをもたない世帯」が25.0%となっています。



(9) 地域でできる手助け

| | | |
|------|--|------|
| 問 18 | 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたは地域でどのような手助けができますか。 | ○は1つ |
|------|--|------|

日常生活で困っている家庭があった場合に地域でできる手助けについて、「災害時の手助け」が76.4%で最も高く、次いで「見守り・声かけ」が65.9%、「話し相手や悩みごとの相談相手」が45.5%となっています。



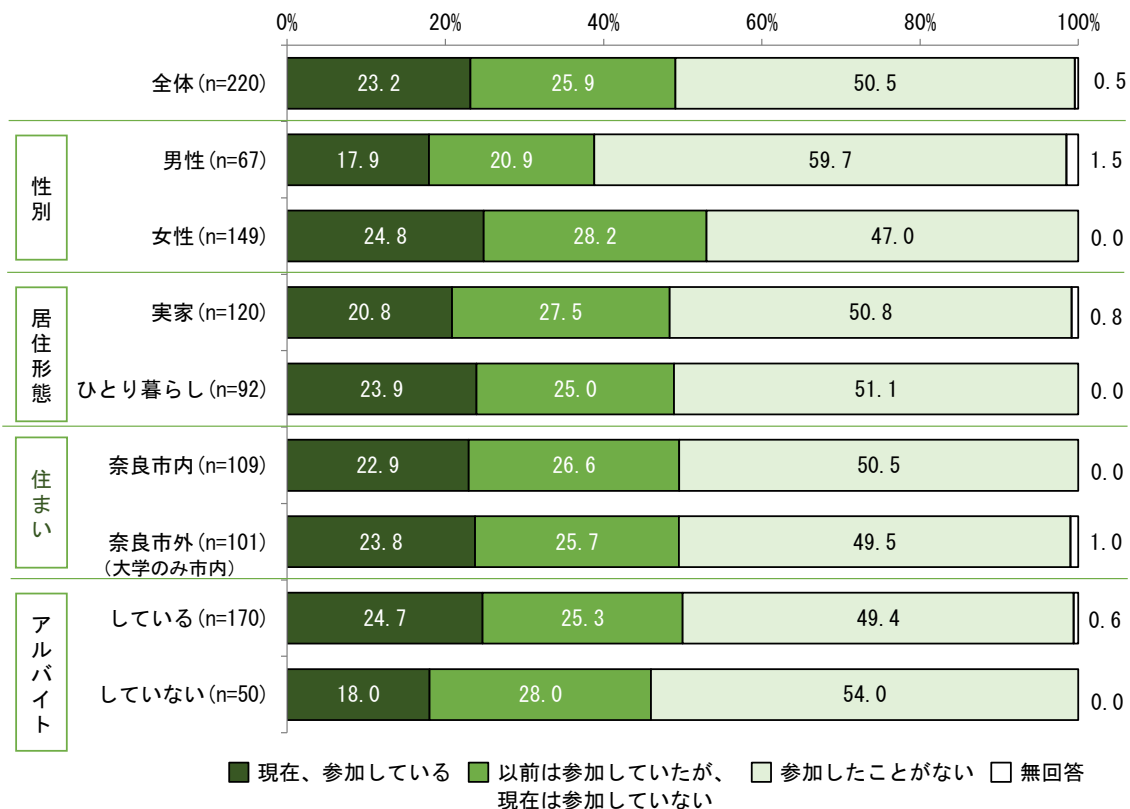
2. 地域のまちづくり活動について

(1) 地域活動やボランティア活動への参加状況

| | | |
|------|------------------------------|------|
| 問 19 | あなたは、地域活動やボランティア活動に参加していますか。 | ○は1つ |
|------|------------------------------|------|

地域活動やボランティア活動への参加状況について、「参加したことがない」が50.5%で最も高く、次いで「以前は参加していたが、現在は参加していない」が25.9%、「現在、参加している」が23.2%となっています。

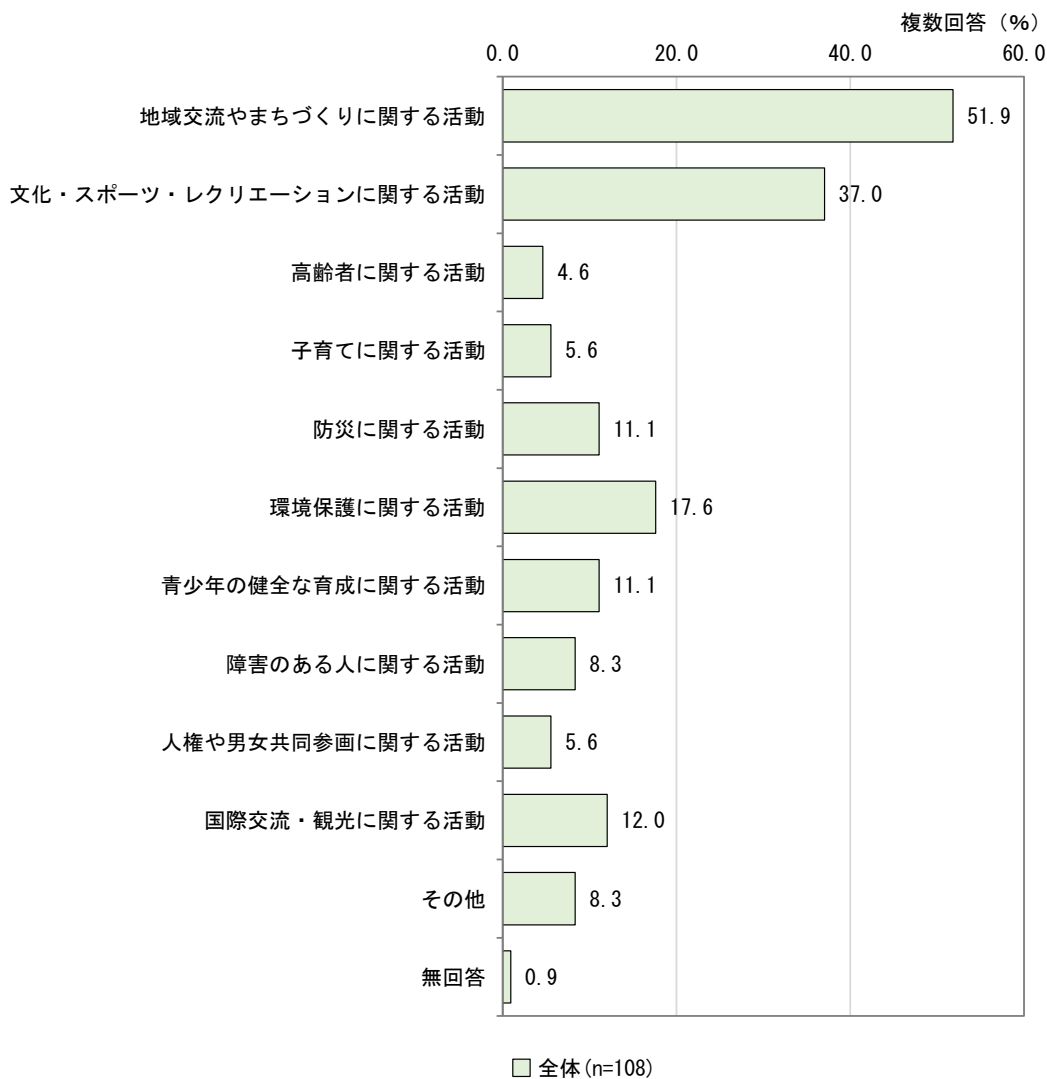
また、「現在、参加している」を性別で見ると、「男性」が17.9%、「女性」が24.8%で「女性」の方が6.9ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が20.8%、「ひとり暮らし」が23.9%で「ひとり暮らし」の方が3.1ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が22.9%、「奈良市外（大学のみ市内）」が23.8%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が0.9ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が24.7%、「していない」が18.0%で「している」の方が6.7ポイント多くなっています。



「問 19 で「現在、参加している」「以前は参加していたが、現在は参加していない」のいずれかを回答した人がお答えください」

| | | |
|--------|--|---------|
| 問 19-1 | あなたは、どのような地域活動やボランティア活動に参加していますか（していましたか）。 | ○はいくつでも |
|--------|--|---------|

地域活動やボランティア活動に参加している（参加していた）人に、活動内容について聞いたところ、「地域交流やまちづくりに関する活動」が 51.9%で最も高く、次いで「文化・スポーツ・レクリエーションに関する活動」が 37.0%、「環境保護に関する活動」が 17.6%となっています。

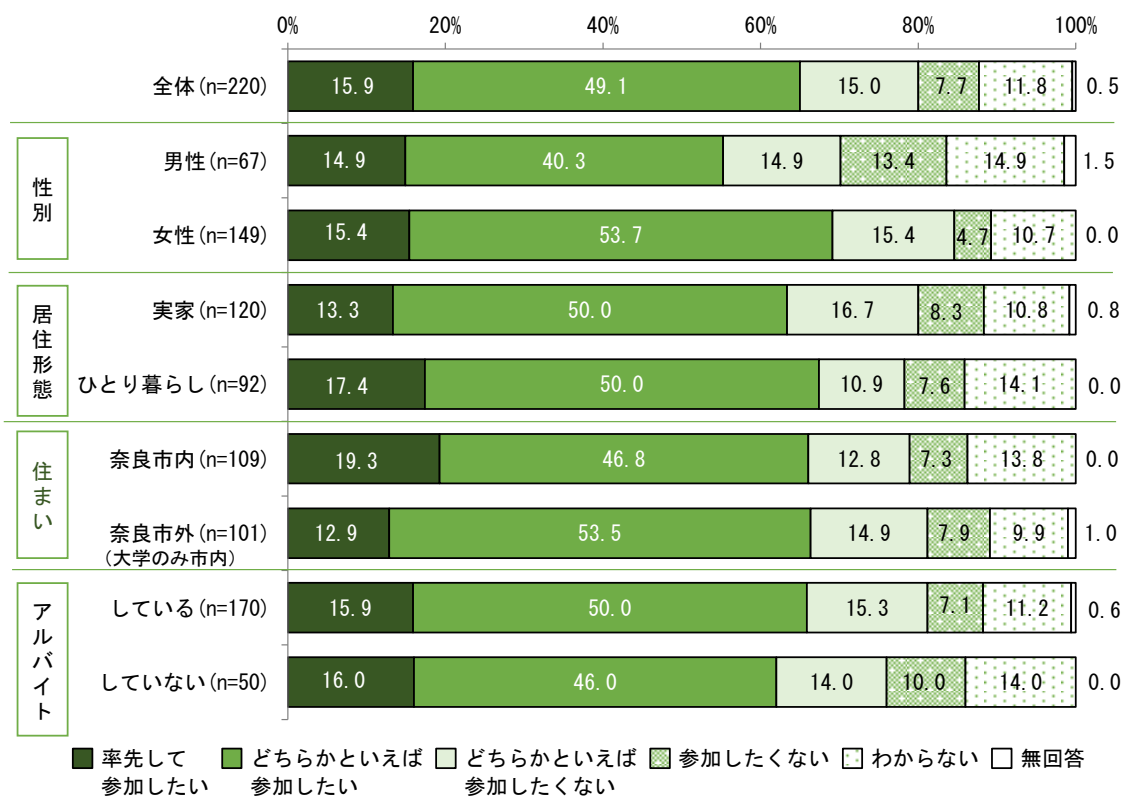


(2) 地域活動やボランティア活動への参加意向

| | | |
|------|---------------------------------|------|
| 問 20 | あなたは、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。 | ○は1つ |
|------|---------------------------------|------|

地域活動やボランティア活動への参加意向について、「どちらかといえば参加したい」が49.1%で最も高く、次いで「率先して参加したい」が15.9%、「どちらかといえば参加したくない」が15.0%となっています。

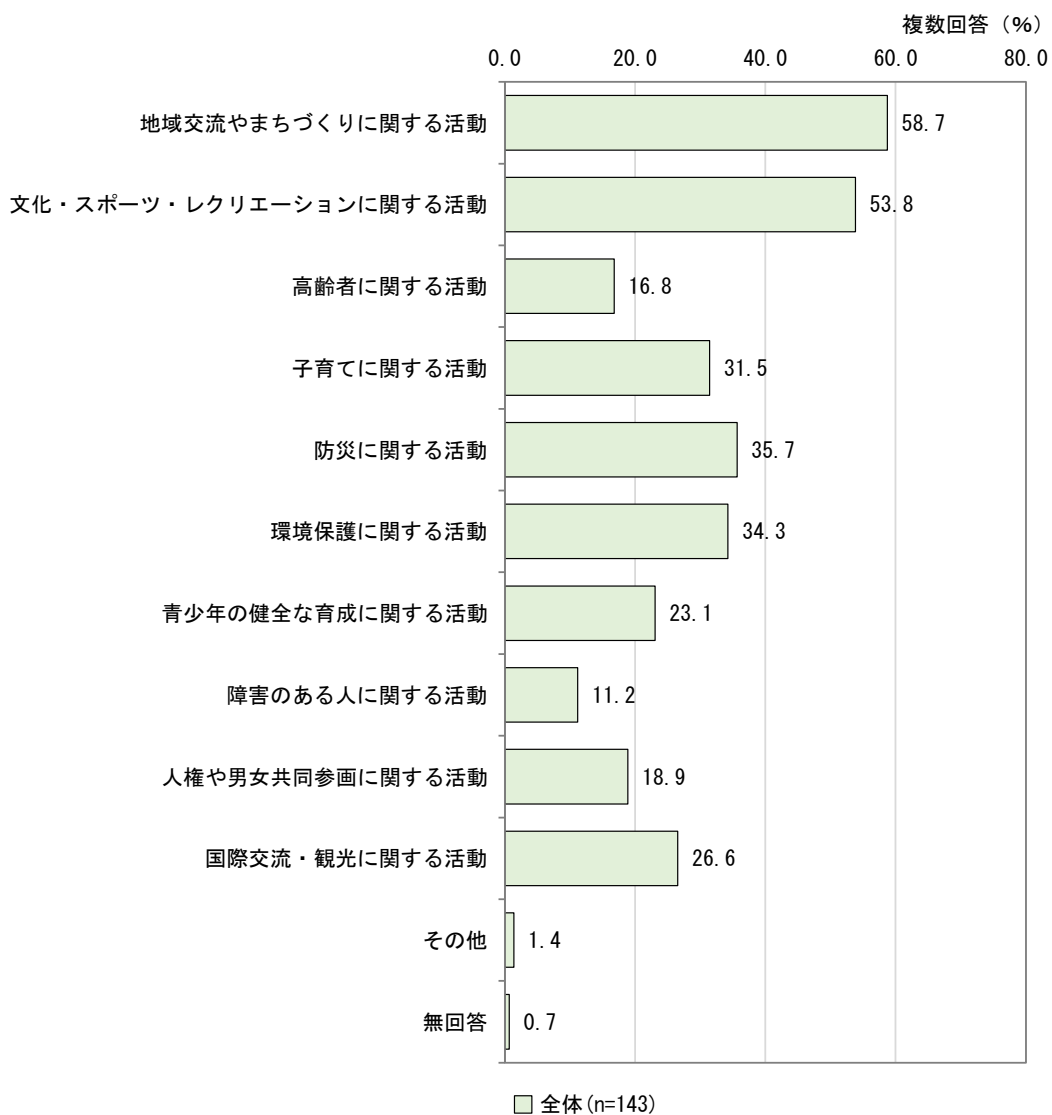
また、『参加したい』（「率先して参加したい」と「どちらかといえば参加したい」の合計）を性別で見ると、「男性」が55.2%、「女性」が69.1%で「女性」の方が13.9ポイントと多く、居住形態別で見ると、「実家」が63.3%、「ひとり暮らし」が67.4%で「ひとり暮らし」の方が4.1ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が66.1%、「奈良市外（大学のみ市内）」が66.4%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が0.3ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が65.9%、「していない」が62.0%で「している」の方が3.9ポイント多くなっています。



「問 20 で「率先して参加したい」「どちらかといえば参加したい」のいずれかを回答した人がお答えください」

| | | |
|--------|--------------------------------------|---------|
| 問 20-1 | あなたは、今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいですか。 | ○はいくつでも |
|--------|--------------------------------------|---------|

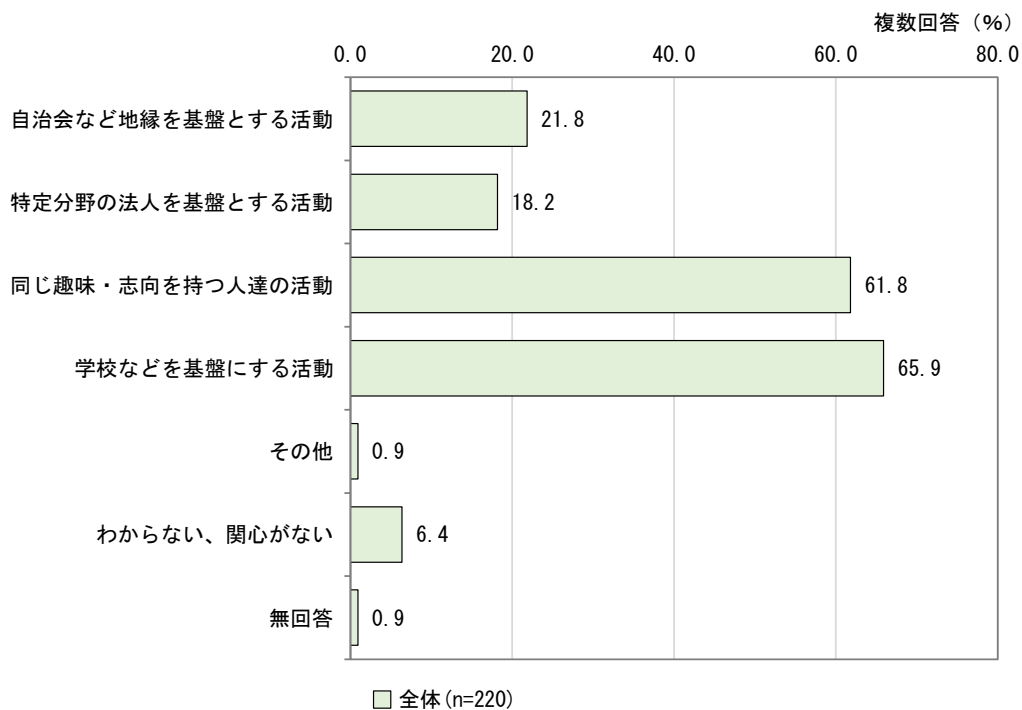
地域活動やボランティア活動に参加したいと思う人に、活動内容について聞いたところ、「地域交流やまちづくりに関する活動」が 58.7%で最も高く、次いで「文化・スポーツ・レクリエーションに関する活動」が 53.8%、「防災に関する活動」が 35.7%となっています。



(3) 参加しやすい地域活動やボランティア活動の条件

| | | |
|------|--|---------|
| 問 21 | 近年は、様々な主体による地域活動やボランティア活動が行われています。あなたが参加しやすい活動はどのような活動ですか。 | 〇はいくつでも |
|------|--|---------|

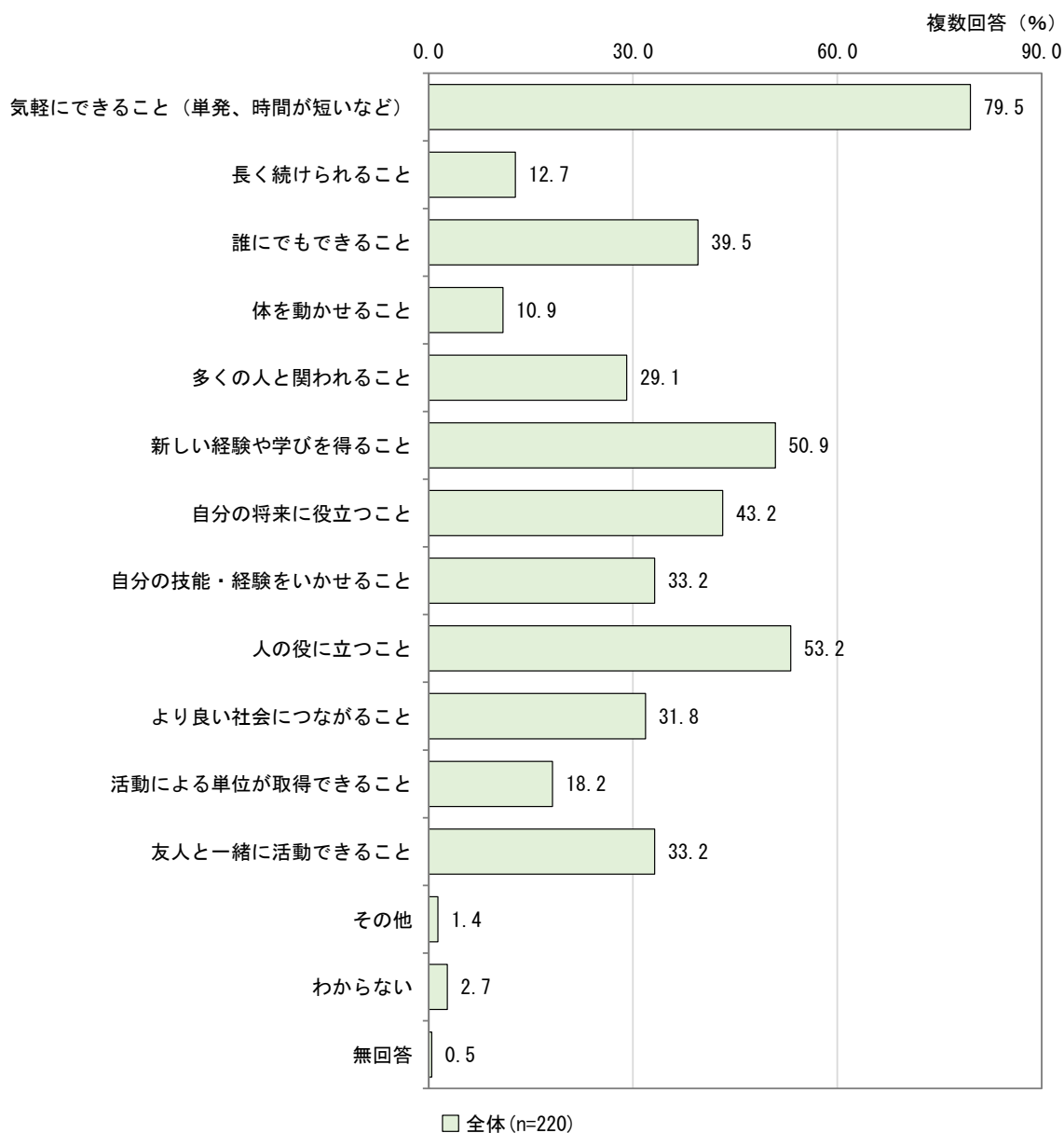
参加しやすい地域活動やボランティア活動の条件について、「学校などを基盤にする活動」が 65.9%で最も高く、次いで「同じ趣味・志向を持つ人達の活動」が 61.8%、「自治会など地縁を基盤とする活動」が 21.8%となっています。



(4) 地域活動やボランティア活動に参加しようとするときに重視する点

| | | |
|------|--|---------|
| 問 22 | 地域活動やボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますか。 | ○はいくつでも |
|------|--|---------|

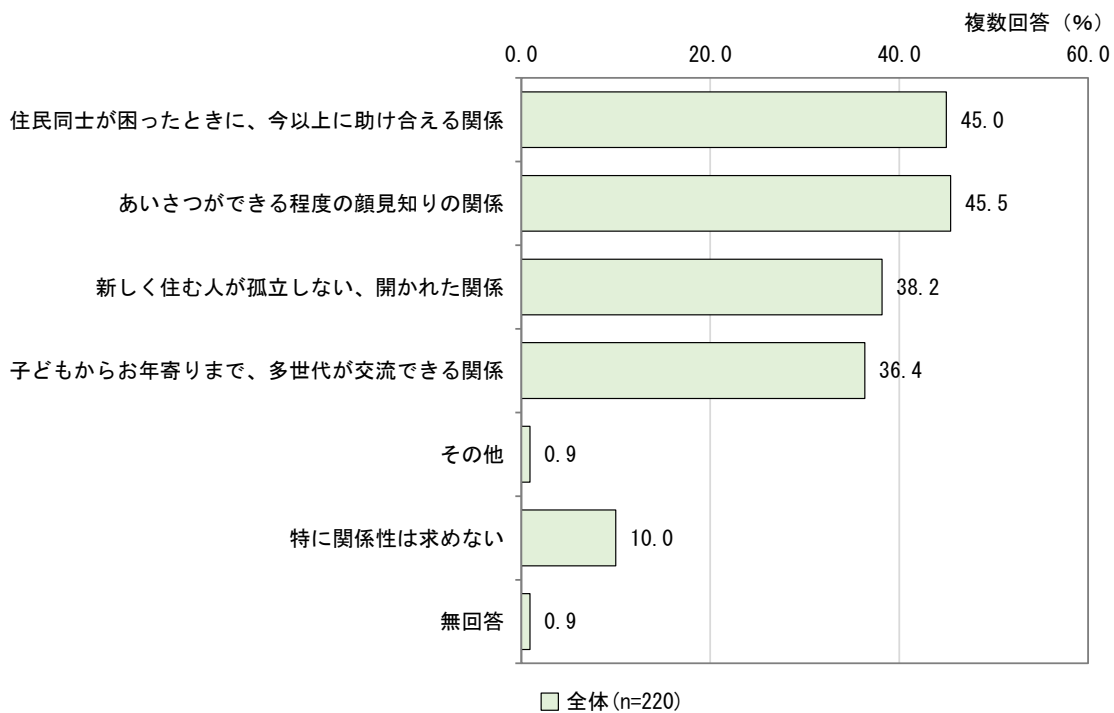
地域活動やボランティア活動に参加しようとするときに重視する点について、「気軽にできること（単発、時間が短いなど）」が79.5%で最も高く、次いで「人の役に立つこと」が53.2%、「新しい経験や学びを得ること」が50.9%となっています。



(5) 大切だと思う地域の中での関係性

| | | |
|------|--|---------|
| 問 23 | あなたは、これから地域の中でどのような関係性を築くことが大切だと思いますか。 | ○はいくつでも |
|------|--|---------|

大切だと思う地域での関係性について、「あいさつができる程度の顔見知りの関係」が45.5%で最も高く、次いで「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係」が45.0%、「新しく住む人が孤立しない、開かれた関係」が38.2%となっています。

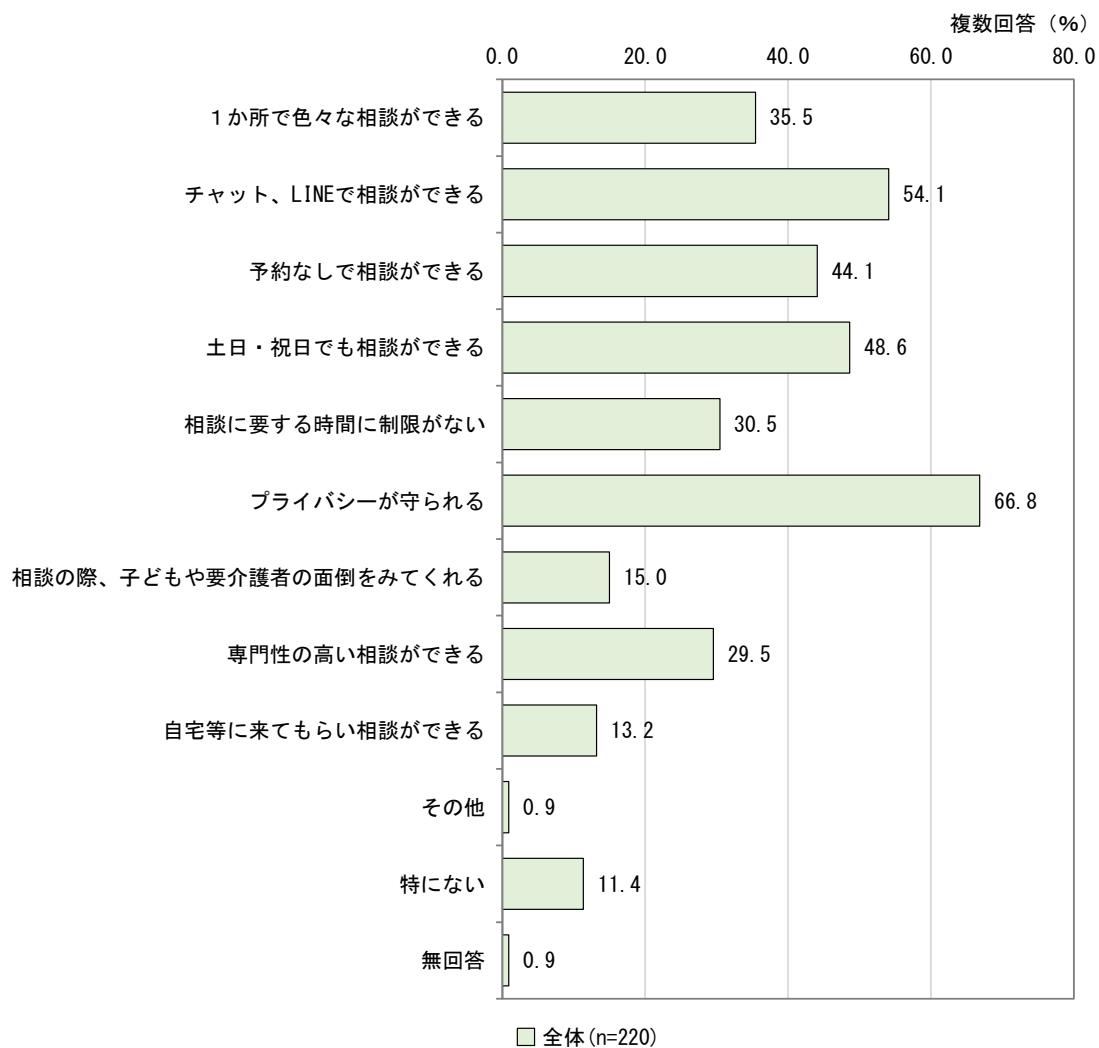


3. 相談や福祉情報について

(1) 行政の相談窓口を求めること

| | | |
|------|----------------------|---------|
| 問 24 | 行政の相談窓口を求めることはありますか。 | ○はいくつでも |
|------|----------------------|---------|

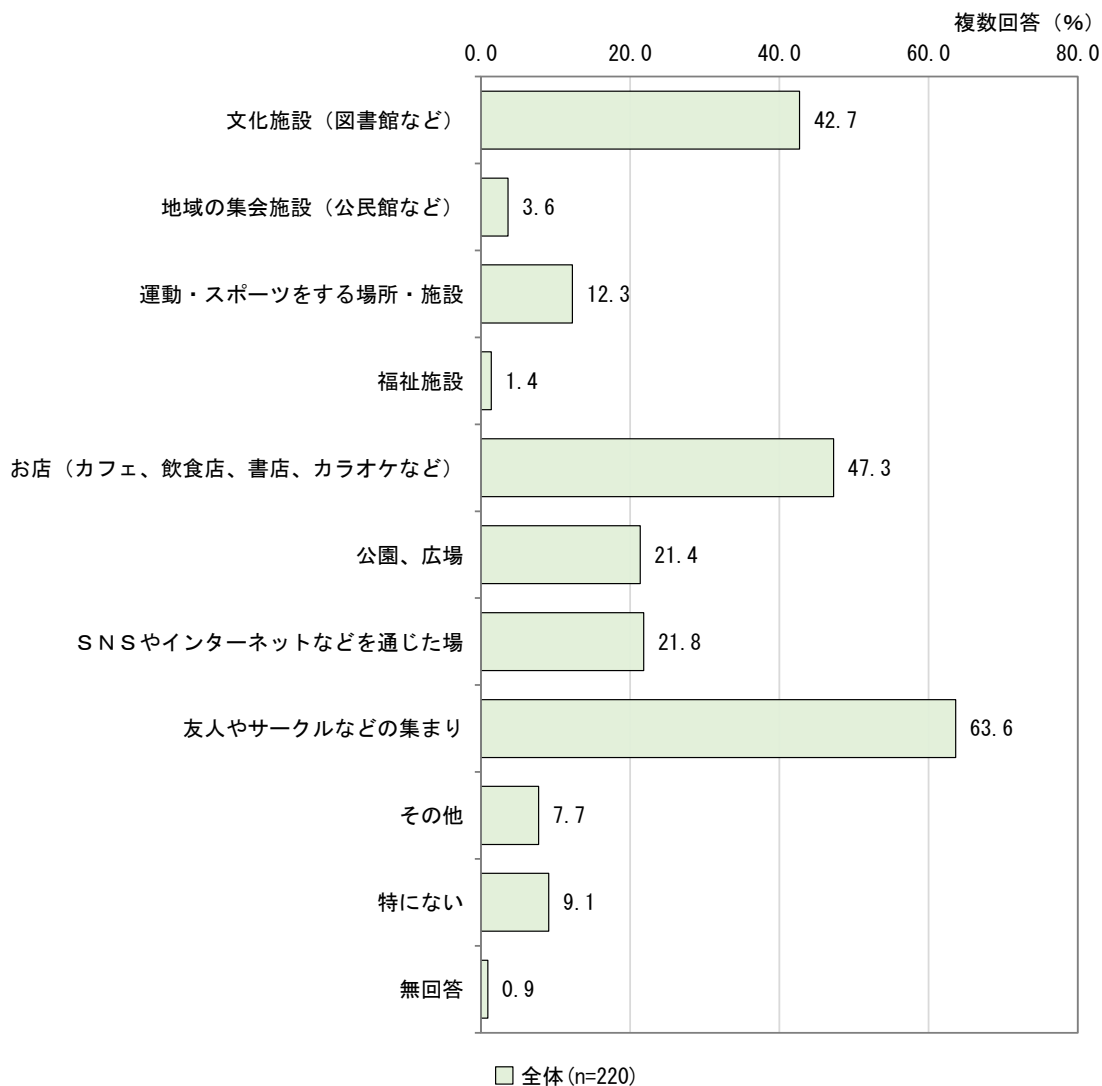
行政の相談窓口を求めることについて、「プライバシーが守られる」が66.8%で最も高く、次いで「チャット、LINEで相談ができる」が54.1%、「土日・祝日でも相談ができる」が48.6%となっています。



(2) 安心して過ごせる居場所

| | | |
|------|---|---------|
| 問 25 | 自分の家以外で、気軽に過ごせる、あなたにとって「安心して過ごせる居場所」はどこですか。 | 〇はいくつでも |
|------|---|---------|

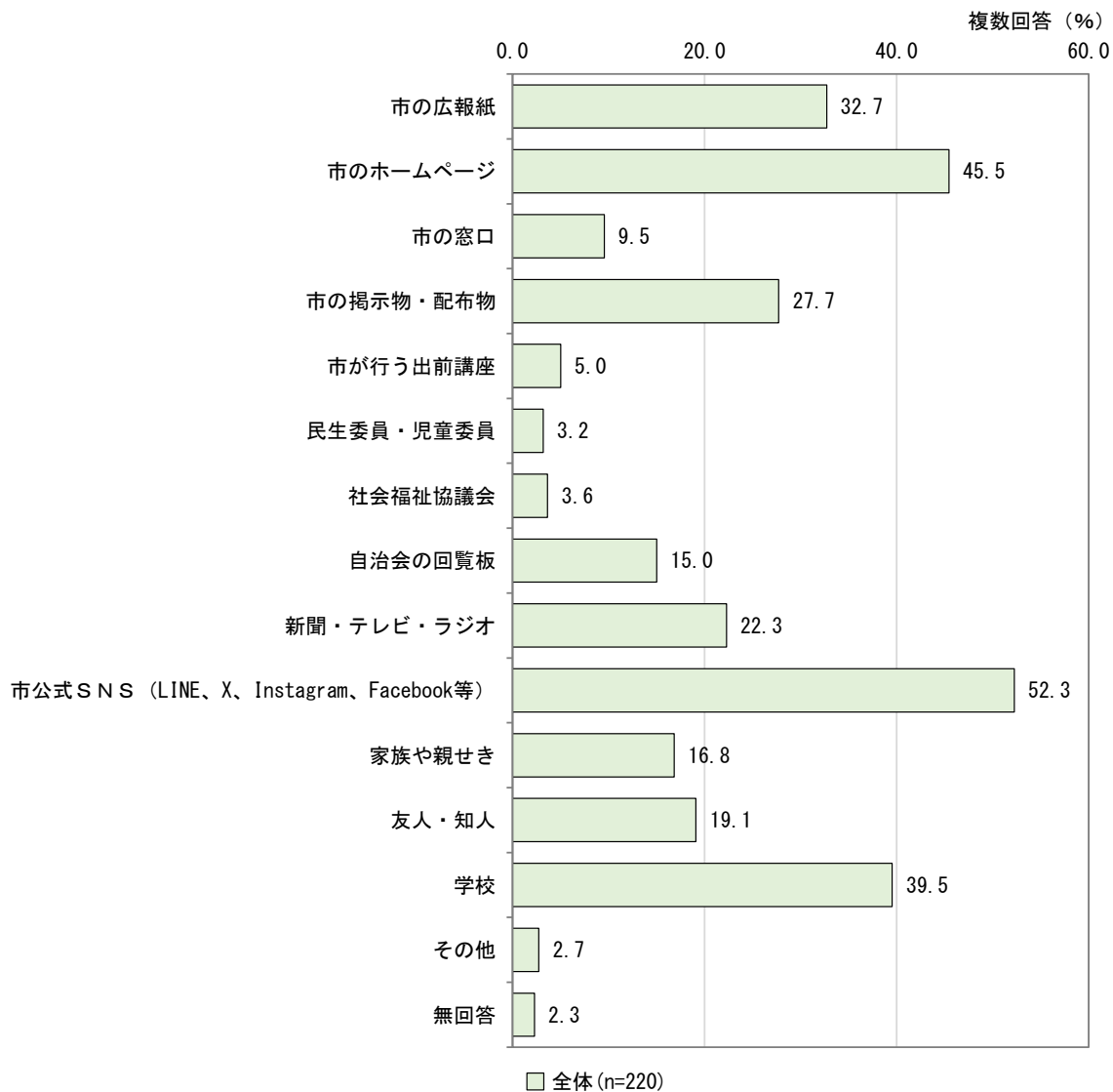
自分の家以外で、安心して過ごせる居場所について、「友人やサークルなどの集まり」が63.6%で最も高く、次いで「お店（カフェ、飲食店、書店、カラオケなど）」が47.3%、「文化施設（図書館など）」が42.7%となっています。



(3) 市の福祉に関する情報の取得先

| | | |
|------|--------------------------------|---------|
| 問 26 | 今後、市の「福祉」に関する情報を、どこから入手したいですか。 | 〇はいくつでも |
|------|--------------------------------|---------|

市の福祉に関する情報の取得先について、「市公式SNS（LINE、X、Instagram、Facebook等）」が52.3%で最も高く、次いで「市のホームページ」が45.5%、「学校」が39.5%となっています。

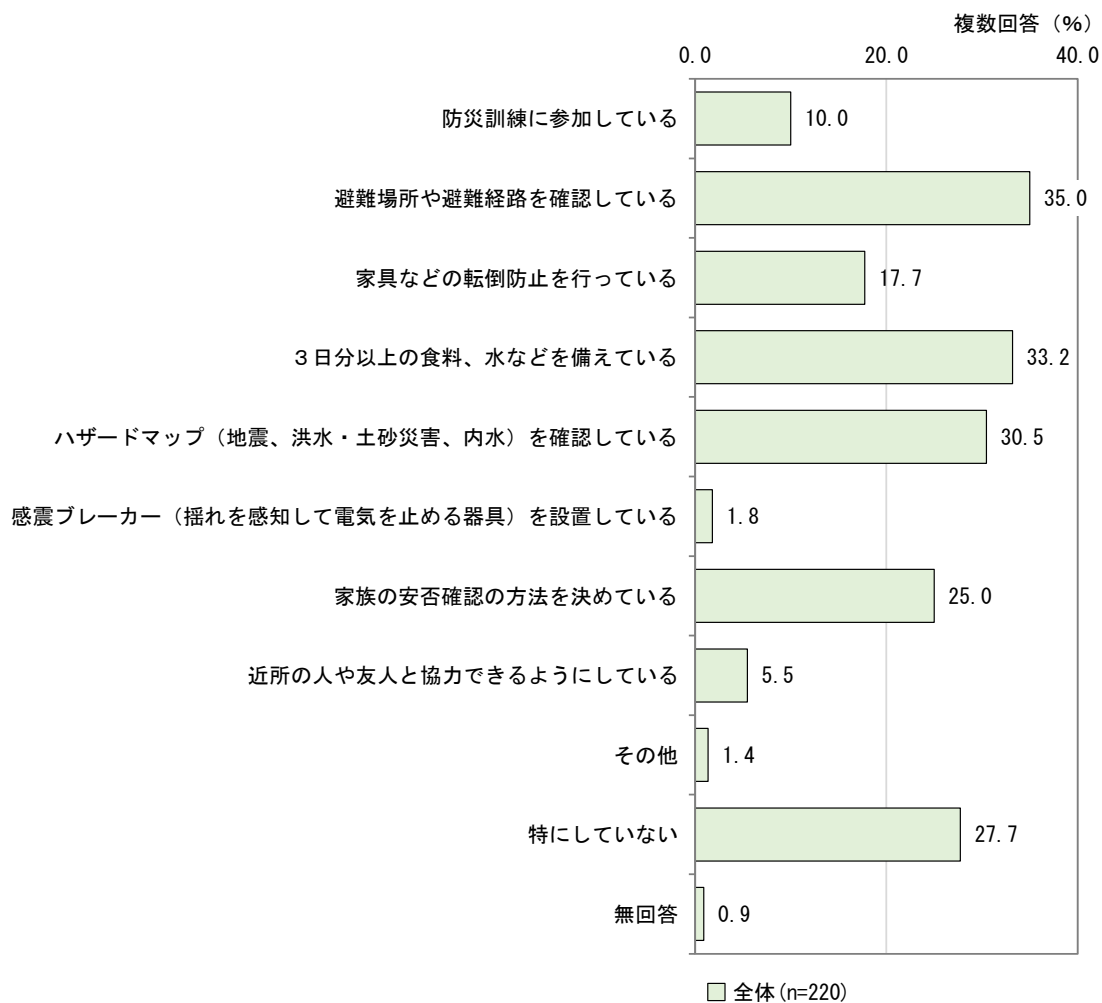


4. 安全で安心して暮らすための施策について

(1) 日頃から行っている災害対策

| | | |
|------|---------------------------------|---------|
| 問 27 | あなたは、災害対策として日頃からどのような備えをしていますか。 | 〇はいくつでも |
|------|---------------------------------|---------|

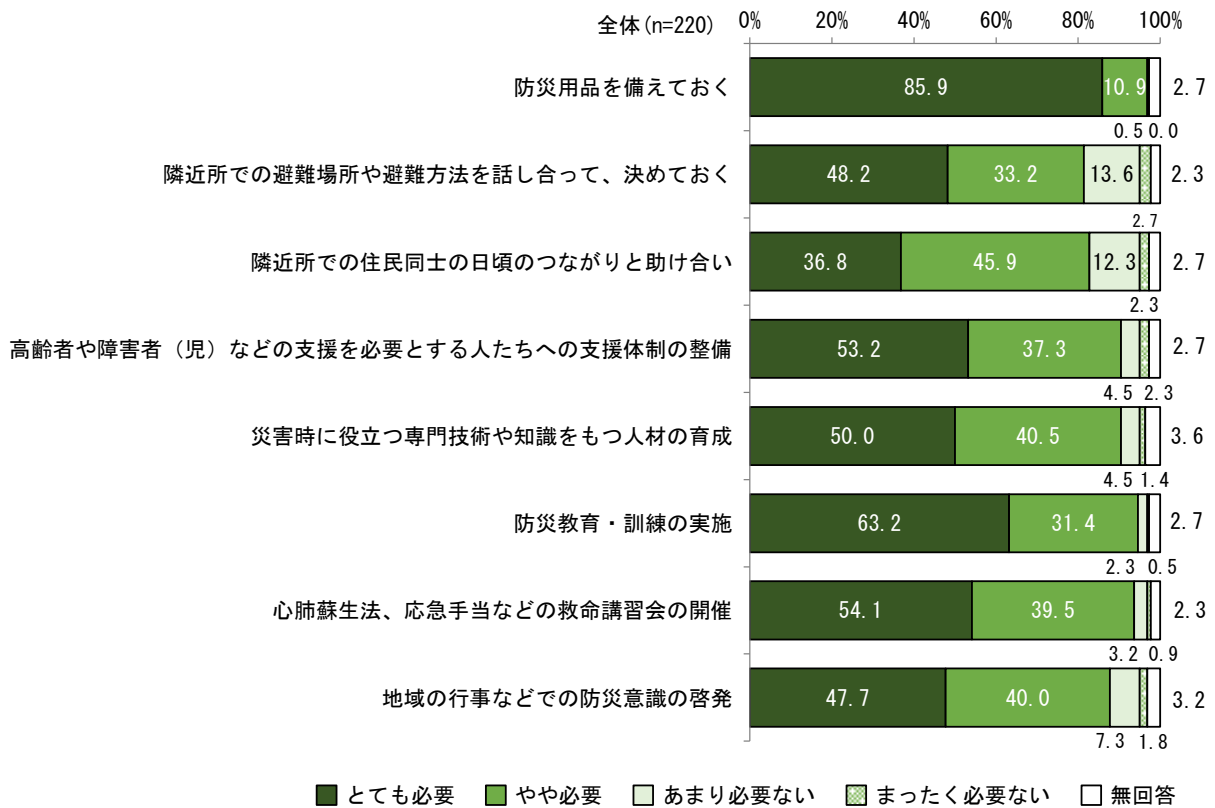
日頃から行っている災害対策について、「避難場所や避難経路を確認している」が 35.0%で最も高く、次いで「3日以上の食料、水などを備えている」が 33.2%、「ハザードマップ（地震、洪水・土砂災害、内水）を確認している」が 30.5%となっています。



(2) 大地震などの災害に対する地域で必要な備え

| | | |
|------|------------------------------------|------|
| 問 28 | 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。 | ○は1つ |
|------|------------------------------------|------|

大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思うかについて、『必要』（「とても必要」と「やや必要」の合計）では、「防災用品を備えておく」が96.8%で最も高く、次いで「防災教育・訓練の実施」が94.6%、「心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催」が93.6%となっています。



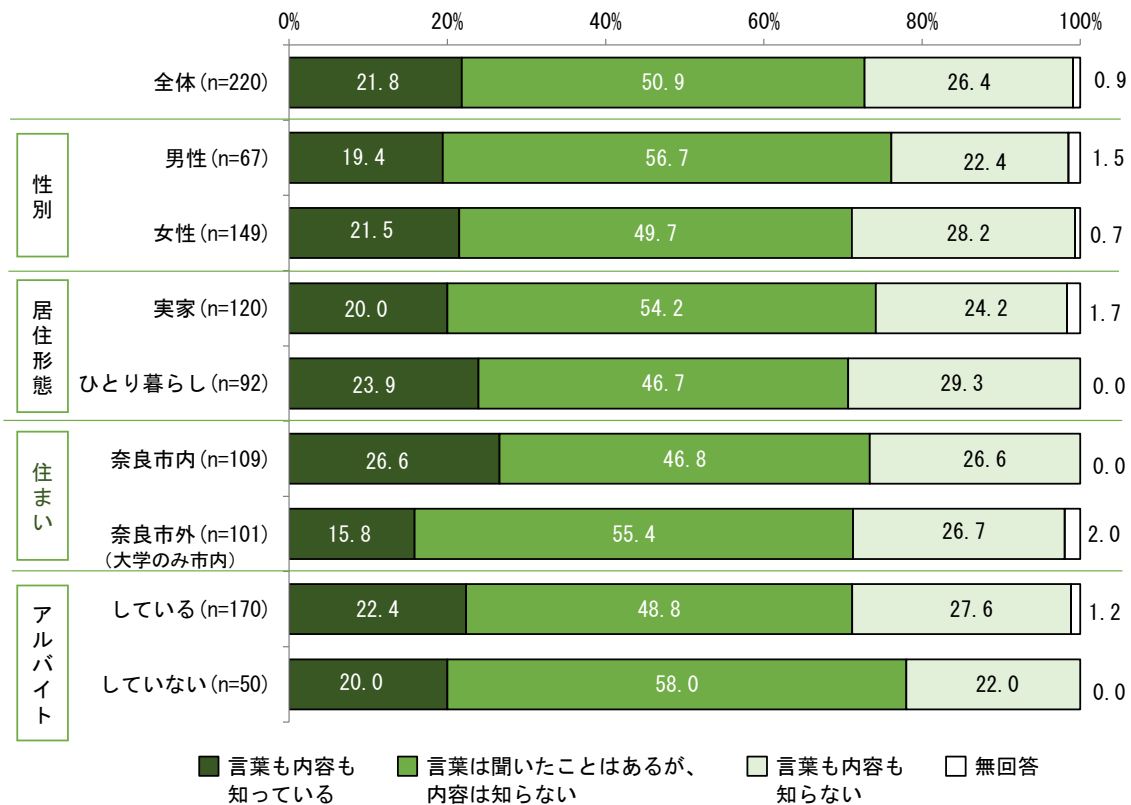
5. 地域福祉推進に向けた取組について

(1) 「地域福祉」という言葉の認知度

| | | |
|------|--------------------------|------|
| 問 29 | あなたは「地域福祉」という言葉を知っていますか。 | ○は1つ |
|------|--------------------------|------|

「地域福祉」という言葉の認知度について、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が50.9%で最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」が26.4%、「言葉も内容も知っている」が21.8%となっています。

また、「言葉も内容も知っている」を性別で見ると、「男性」が19.4%、「女性」が21.5%で「女性」の方が2.1ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が20.0%、「ひとり暮らし」が23.9%で「ひとり暮らし」の方が3.9ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が26.6%、「奈良市外（大学のみ市内）」が15.8%で「奈良市内」の方が10.8ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が22.4%、「していない」が20.0%で「している」の方が2.4ポイント多くなっています。



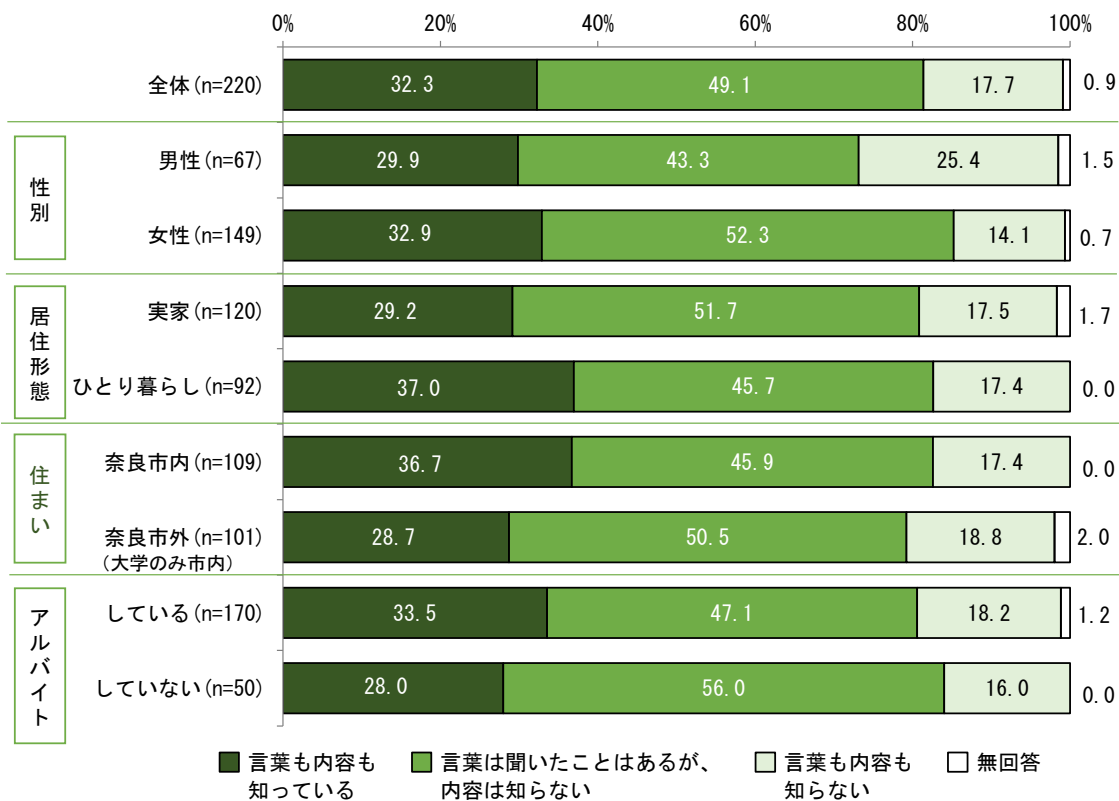
※ 地域福祉とは、公的なサービスと併せて、地域に住む人同士が、お互いに助け合いながら、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることです。

(2) 「地域共生社会」という言葉の認知度

| | | |
|------|----------------------------|------|
| 問 30 | あなたは「地域共生社会」という言葉を知っていますか。 | ○は1つ |
|------|----------------------------|------|

「地域共生社会」という言葉の認知度について、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が49.1%で最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」が32.3%、「言葉も内容も知らない」が17.7%となっています。

また、「言葉も内容も知っている」を性別でみると、「男性」が29.9%、「女性」が32.9%で「女性」の方が3.0ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が29.2%、「ひとり暮らし」が37.0%で「ひとり暮らし」の方が7.8ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が36.7%、「奈良市外（大学のみ市内）」が28.7%で「奈良市内」の方が8.0ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が33.5%、「していない」が28.0%で「している」の方が5.5ポイント多くなっています。



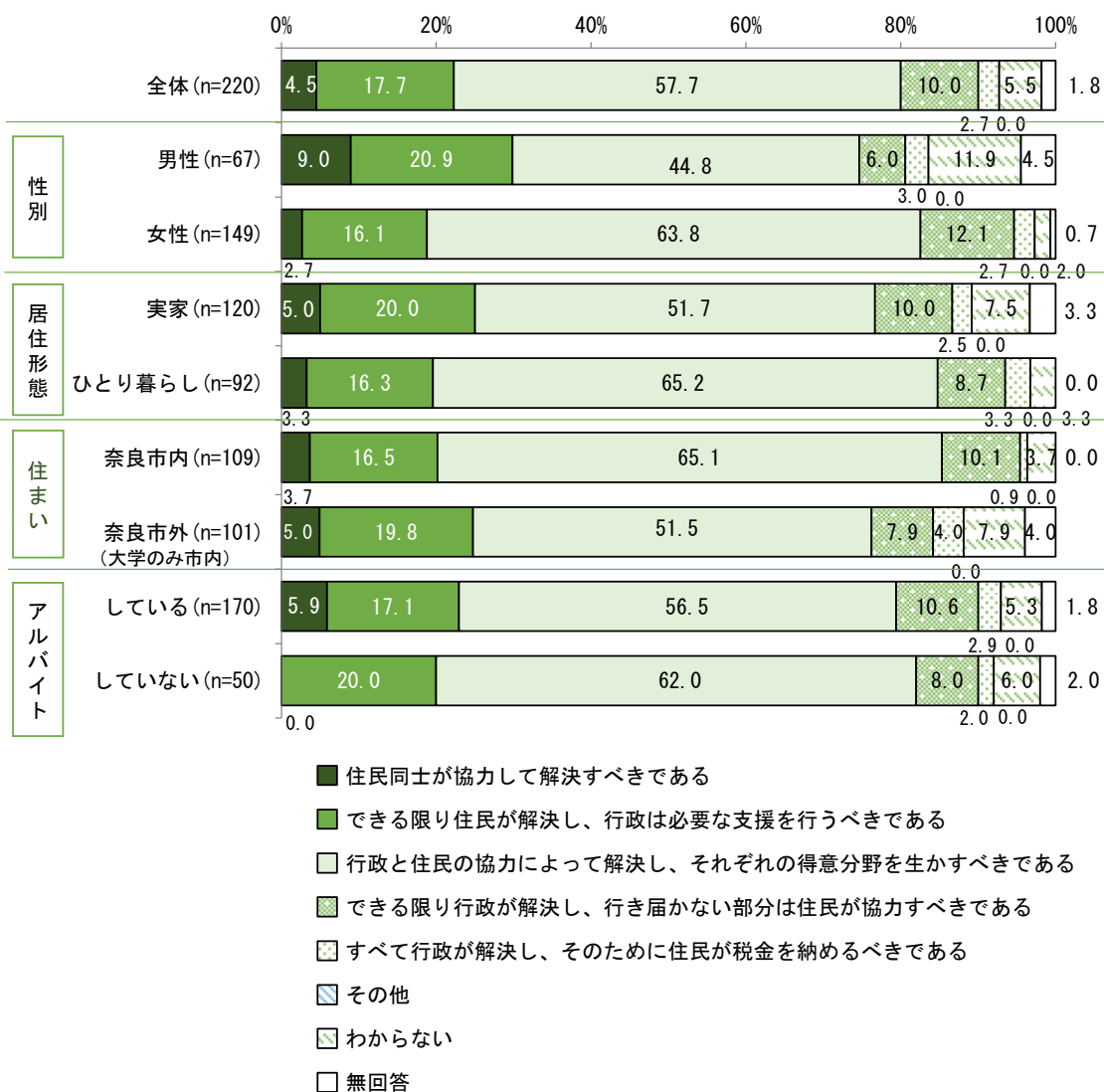
※ 地域共生社会とは、行政の制度や分野ごとの分け隔てや、支える人・支えられる人という立場の違いを超えて、地域の誰もが参加し、世代や立場をこえて人と人がつながり、地域住民、団体、学校、企業など地域にある力を持ち寄り、みんなでつながり合って、一人ひとりの暮らしと生きがいを大切にしながら、地域を一緒につくっていく社会のことです。

(3) 地域の問題や課題の解決方法

| | | |
|------|---------------------------------|------|
| 問 31 | 地域の問題や課題の解決方法について、どのように考えていますか。 | ○は1つ |
|------|---------------------------------|------|

地域の問題や課題の解決方法について、「行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである」が 57.7%で最も高く、次いで「できる限り住民が解決し、行政は必要な支援を行うべきである」が 17.7%、「できる限り行政が解決し、行き届かない部分は住民が協力すべきである」が 10.0%となっています。

また、「行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである」を性別でみると、「男性」が 44.8%、「女性」が 63.8%で「女性」の方が 19.0 ポイント多く、居住形態別でみると、「実家」が 51.7%、「ひとり暮らし」が 65.2%で「ひとり暮らし」の方が 13.5 ポイント多く、住まい別でみると、「奈良市内」が 65.1%、「奈良市外（大学のみ市内）」が 51.5%で「奈良市内」の方が 13.6 ポイント多く、アルバイトの有無別でみると、「している」が 56.5%、「していない」が 62.0%で「していない」の方が 5.5 ポイント多くなっています。

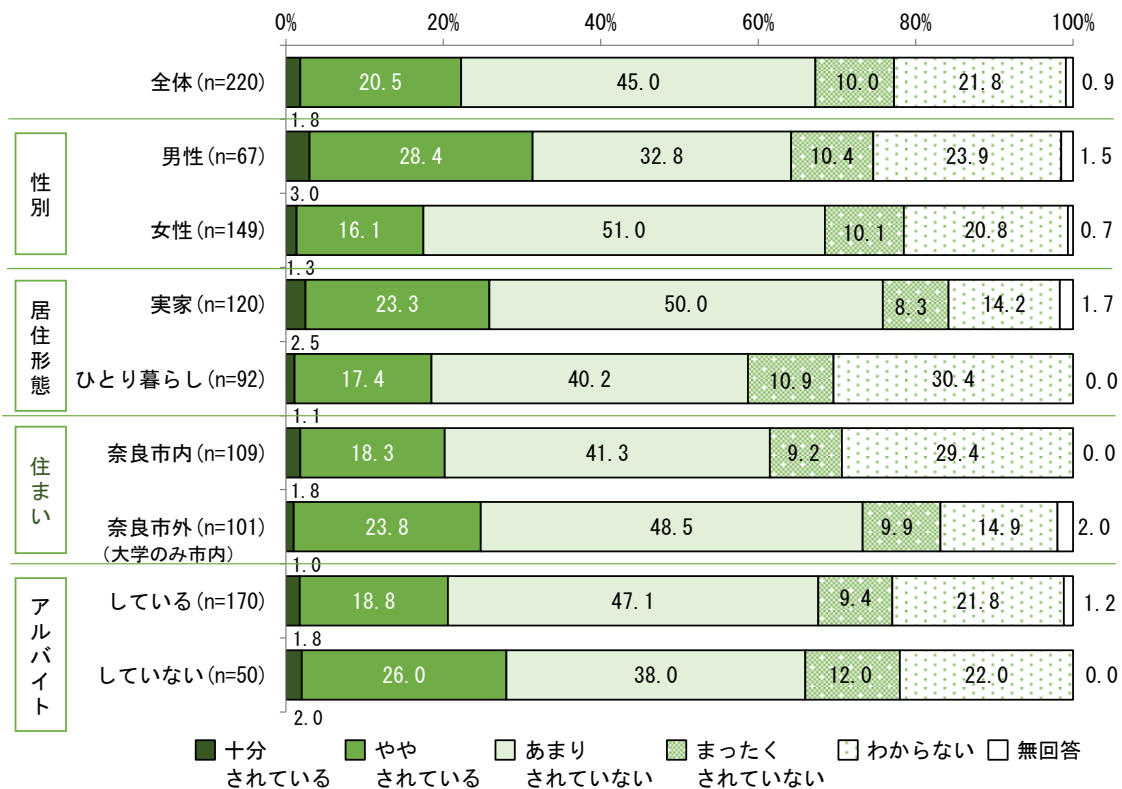


(4) 若者の意見が行政の政策に反映されているか

| | | |
|------|----------------------------|------|
| 問 32 | 若者の意見が行政の政策に反映されていると思いますか。 | ○は1つ |
|------|----------------------------|------|

若者の意見が行政の政策に反映されていると思うかについて、「あまりされていない」が45.0%で最も高く、次いで「わからない」が21.8%、「ややされている」が20.5%となっています。

また、『されている』（「十分されている」と「ややされている」の合計）を性別で見ると、「男性」が31.4%、「女性」が17.4%で「男性」の方が14.0ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が25.8%、「ひとり暮らし」が18.5%で「実家」の方が7.3ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が20.1%、「奈良市外（大学のみ市内）」が24.8%で「奈良市外（大学のみ市内）」の方が4.7ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が20.6%、「していない」が28.0%で「していない」の方が7.4ポイント多くなっています。

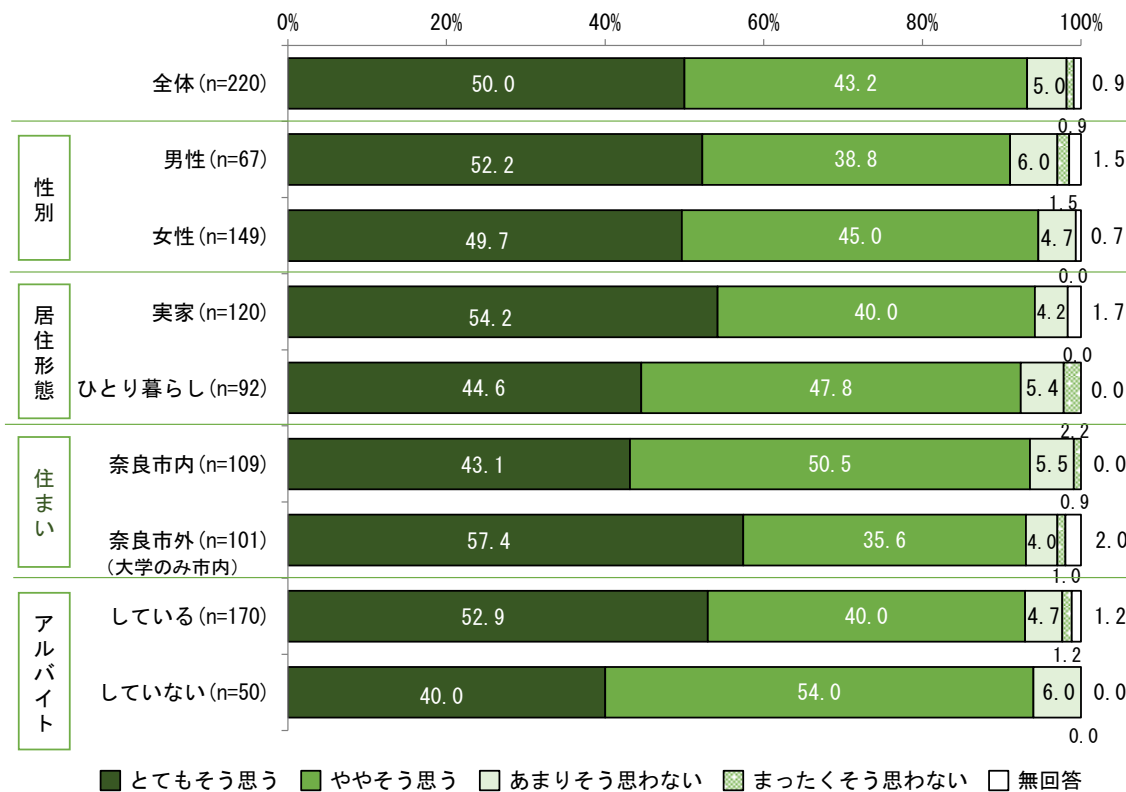


(5) 若者の意見が行政の政策に反映する仕組みの必要性

| | | |
|------|--------------------------------|------|
| 問 33 | 若者の意見が行政の政策に反映する仕組みが必要だと思いますか。 | ○は1つ |
|------|--------------------------------|------|

若者の意見が行政の政策に反映する仕組みの必要性について、「とてもそう思う」が50.0%で最も高く、次いで「ややそう思う」が43.2%、「あまりそう思わない」が5.0%となっています。

また、『そう思う』（「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計）を性別で見ると、「男性」が91.0%、「女性」が94.7%で「女性」の方が3.7ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が94.2%、「ひとり暮らし」が92.4%で「実家」の方が1.8ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が93.6%、「奈良市外（大学のみ市内）」が93.0%で「奈良市内」の方が0.6ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が92.9%、「していない」が94.0%で「していない」の方が1.1ポイント多くなっています。

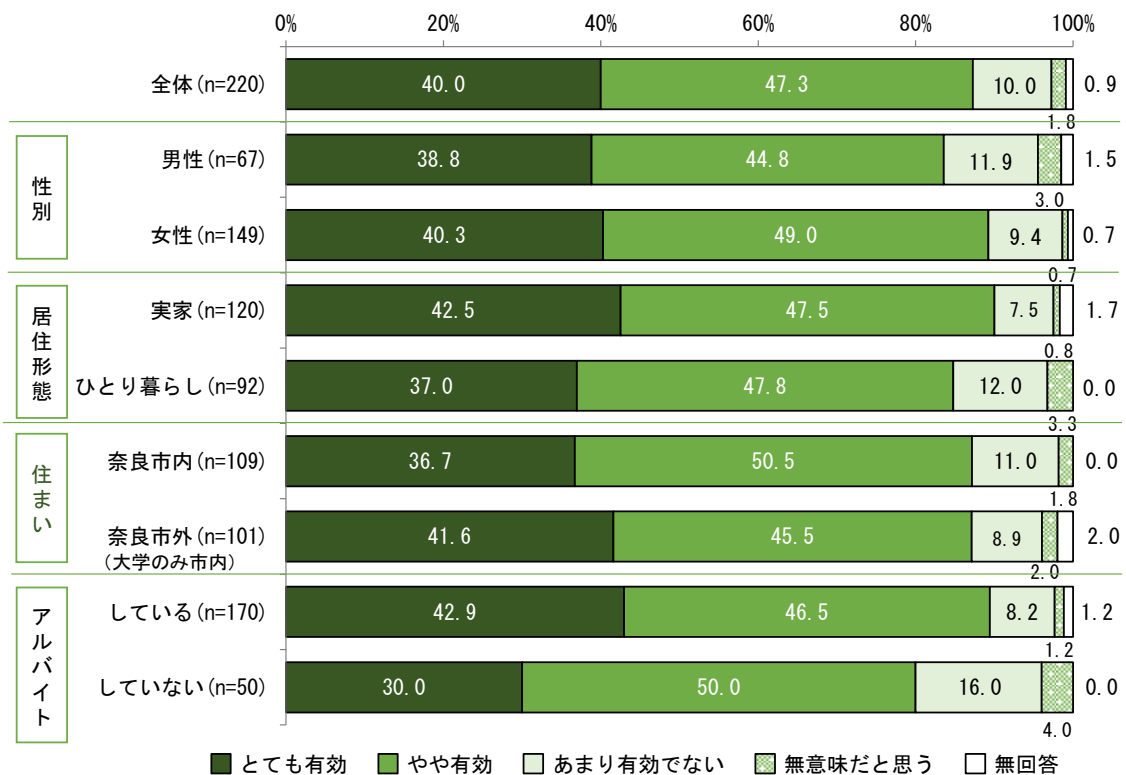


(6) ICTやSNSを活用した地域課題の解決の有効性

| | | |
|------|--------------------------------|------|
| 問 34 | ICTやSNSを活用した地域課題の解決は有効だと思いますか。 | ○は1つ |
|------|--------------------------------|------|

ICTやSNSを活用した地域課題の解決の有効性について、「やや有効」が47.3%で最も高く、次いで「とても有効」が40.0%、「あまり有効でない」が10.0%となっています。

また、『有効』（「とても有効」と「やや有効」の合計）を性別で見ると、「男性」が83.6%、「女性」が89.3%で「女性」の方が5.7ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が90.0%、「ひとり暮らし」が84.8%で「実家」の方が5.2ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が87.2%、「奈良市外（大学のみ市内）」が87.1%で「奈良市内」の方が0.1ポイント多く、アルバイトの有無別で見ると、「している」が89.4%、「していない」が80.0%で「している」の方が9.4ポイント多くなっています。

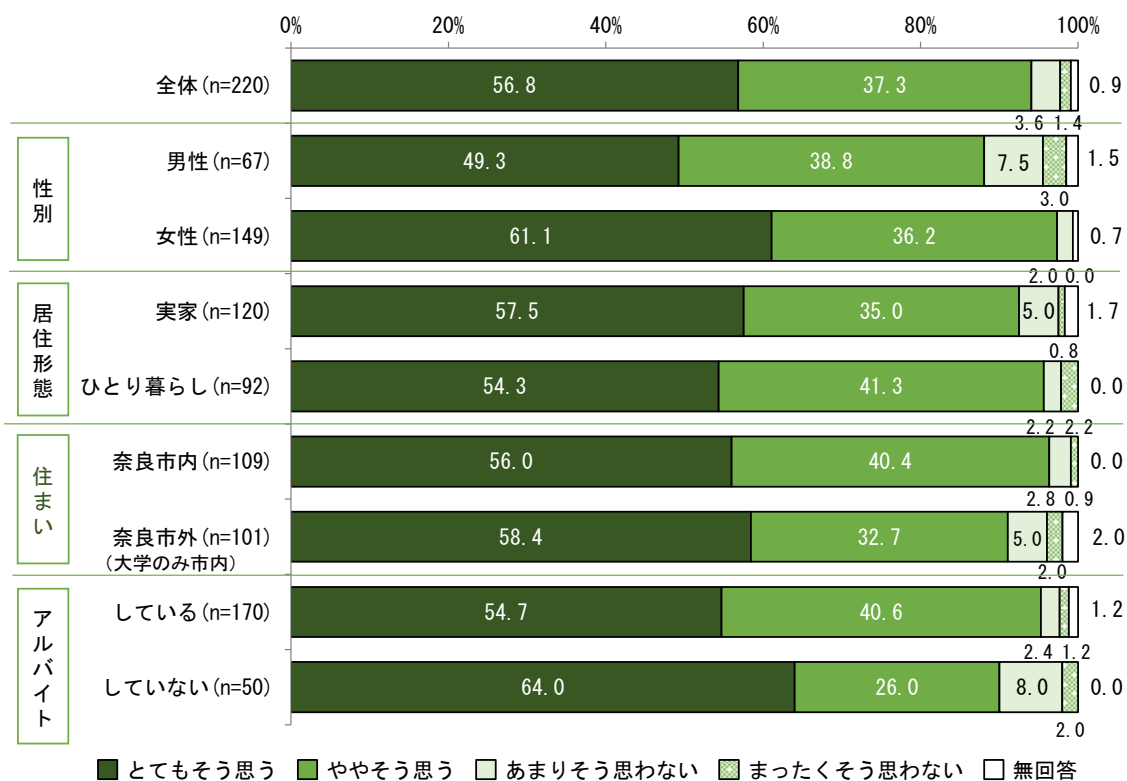


(7) 大学と自治体が連携して活動すること

| | | |
|------|----------------------------|------|
| 問 35 | 大学と自治体が連携して活動するのは良いと思いますか。 | ○は1つ |
|------|----------------------------|------|

大学と自治体が連携して活動するのは良いと思うかについて、「とてもそう思う」が56.8%で最も高く、次いで「ややそう思う」が37.3%、「あまりそう思わない」が3.6%となっています。

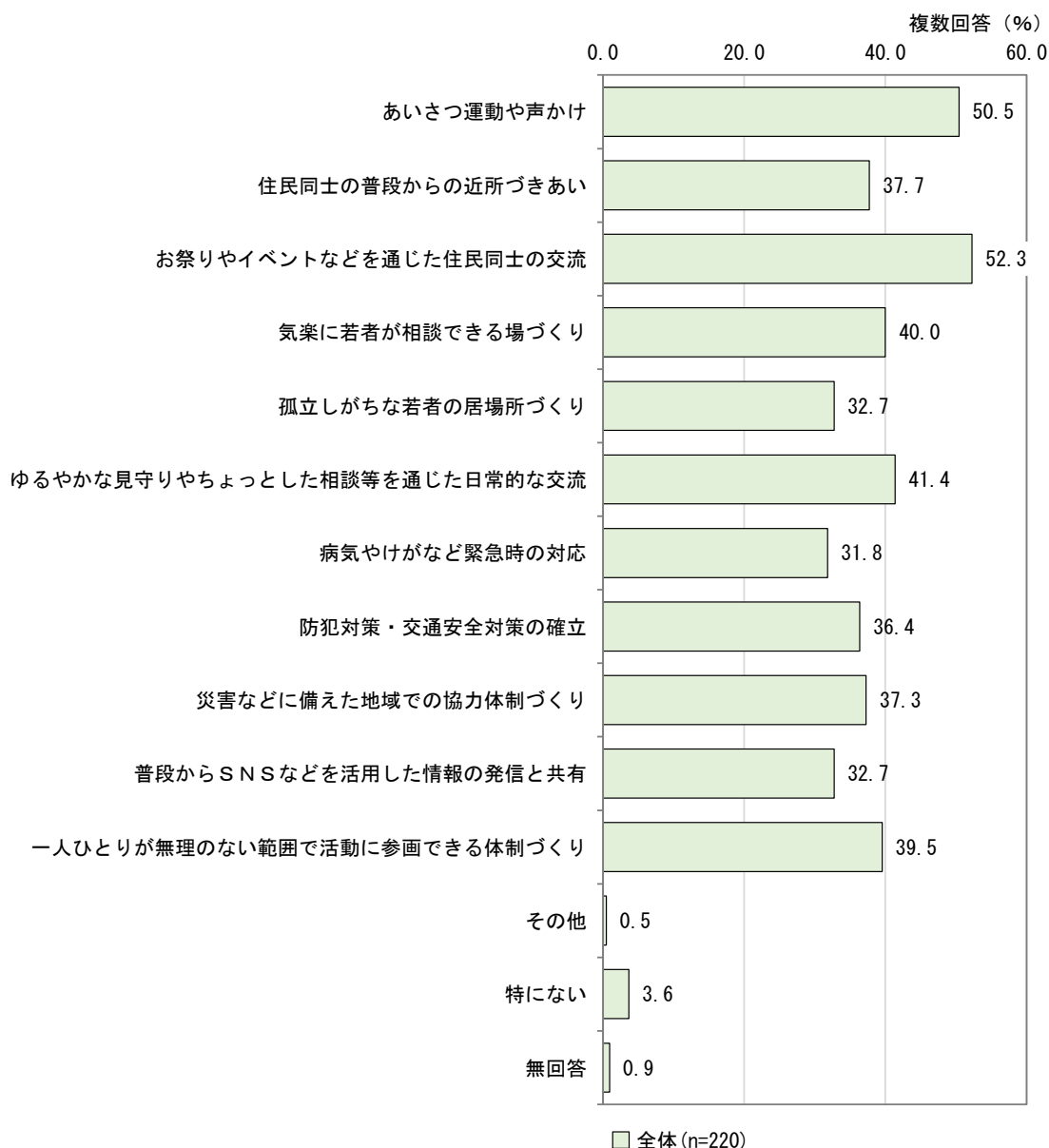
また、『そう思う』（「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計）を性別で見ると、「男性」が88.1%、「女性」が97.3%で「女性」の方が9.2ポイント多く、居住形態別で見ると、「実家」が92.5%、「ひとり暮らし」が95.6%で「ひとり暮らし」の方が3.1ポイント多く、住まい別で見ると、「奈良市内」が96.4%、「奈良市外（大学のみ市内）」が91.1%で「奈良市内」の方が5.3ポイント、アルバイトの有無別で見ると、「している」が95.3%、「していない」が90.0%で「している」の方が5.3ポイント多くなっています。



(8) 地域に住む人同士での助け合い、支え合える地域づくりに必要な取組

| | | |
|------|---|---------|
| 問 36 | 今後、地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。 | 〇はいくつでも |
|------|---|---------|

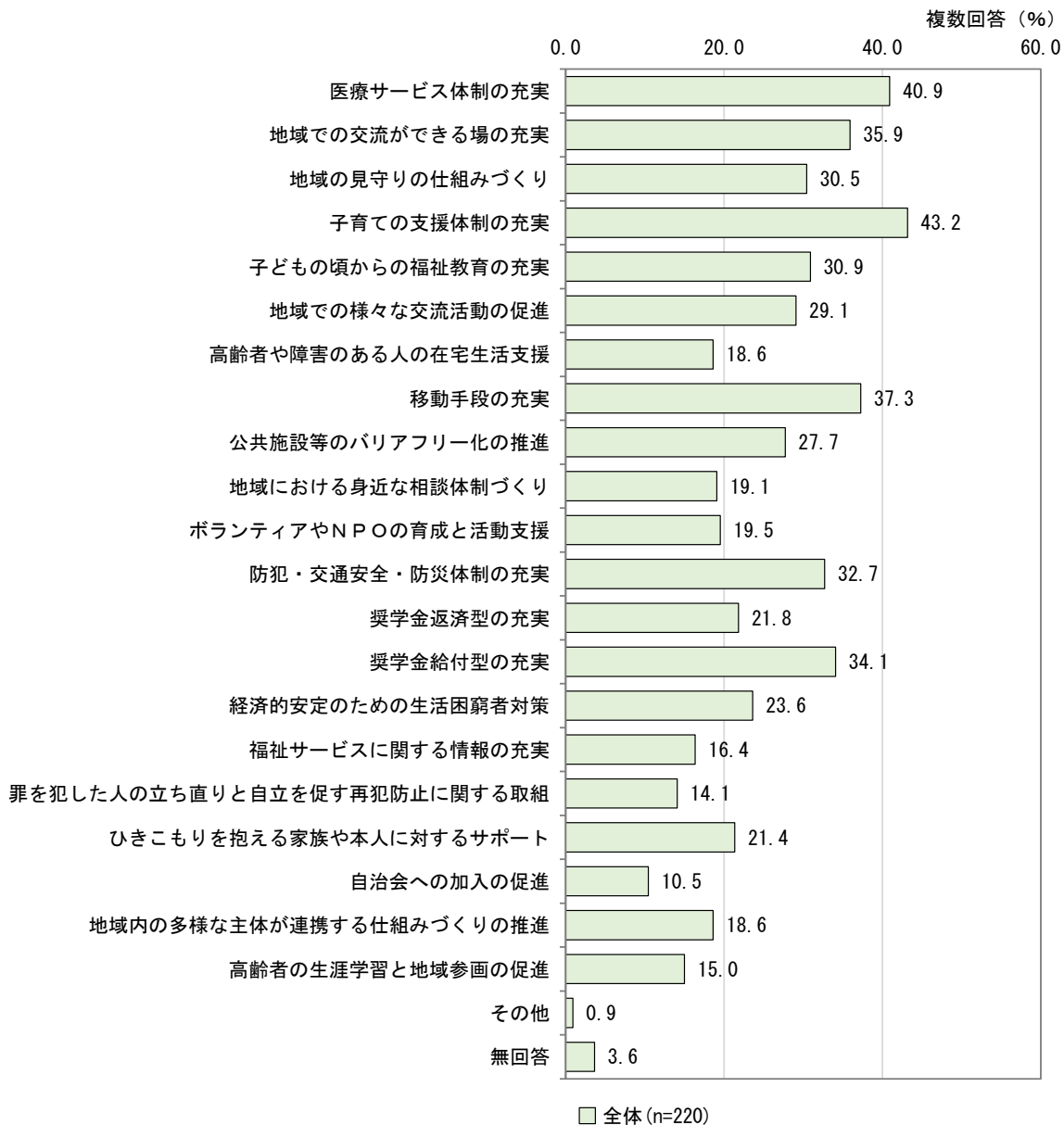
地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりに必要な取組について、「お祭りやイベントなどを通じた住民同士の交流」が 52.3%で最も高く、次いで「あいさつ運動や声かけ」が 50.5%、「ゆるやかな見守りやちょっとした相談等を通じた日常的な交流」が 41.4%となっています。



(9) 地域福祉を向上に必要な奈良市の取組

| | | |
|------|--|---------|
| 問 37 | 今後、地域福祉を向上させるために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。 | 〇はいくつでも |
|------|--|---------|

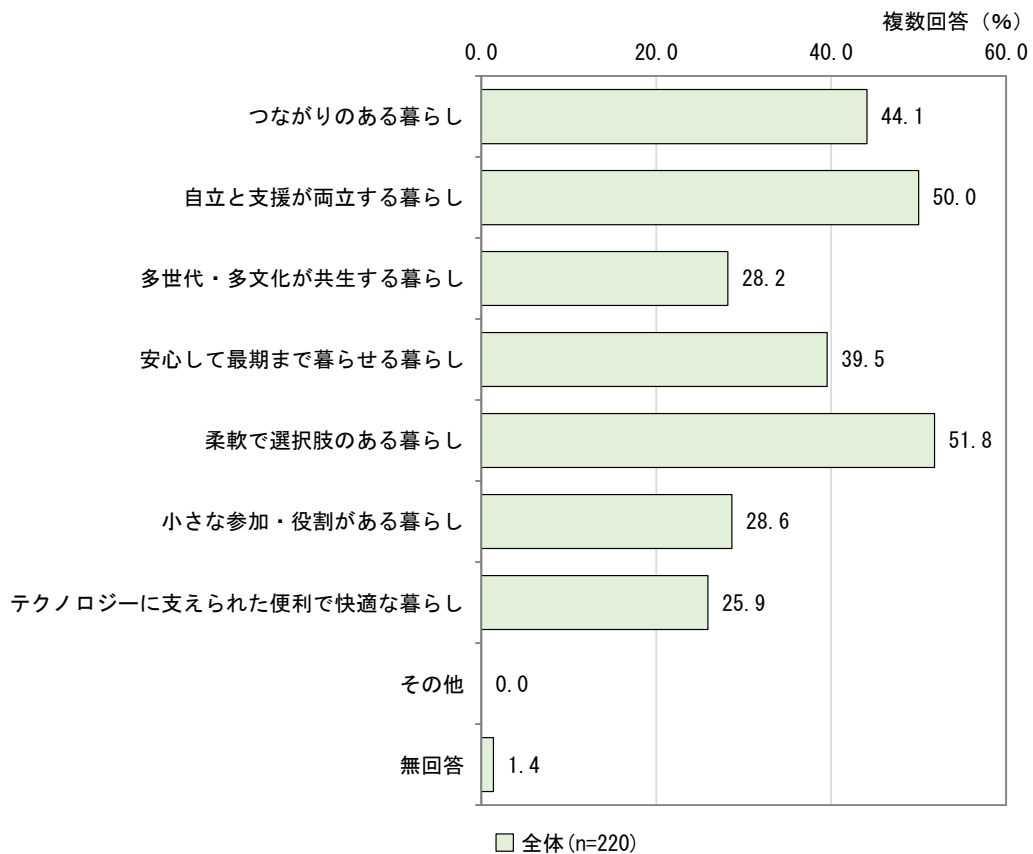
地域福祉の向上に必要な奈良市の取組について、「子育ての支援体制の充実」が43.2%で最も高く、次いで「医療サービス体制の充実」が40.9%、「移動手手段の充実」が37.3%となっています。



(10) 希望する奈良市での暮らし方

| | | |
|------|---|---------|
| 問 38 | もしあなたが奈良市で暮らすと仮定した場合、どのような暮らし方をしていきたいですか。 | 〇はいくつでも |
|------|---|---------|

奈良市で暮らすと仮定した場合、どのような暮らし方をしていきたいかについて、「柔軟で選択肢のある暮らし」が51.8%で最も高く、次いで「自立と支援が両立する暮らし」が50.0%、「つながりのある暮らし」が44.1%となっています。



- ※「つながりのある暮らし」とは、例えば、世代や背景を超えて自然な形で人と関わることができる、週に1回は地域の誰かと会話できる環境、ご近所づきあいは「ゆるやかで心地よい距離感」など
- ※「自立と支援が両立する暮らし」とは、例えば、必要な時にさりげなく支援を受けられる（見守り・食事・送迎など）、高齢者も障害のある人も役割を持ちながら生活できるなど
- ※「多世代・多文化が共生する暮らし」とは、例えば、子ども・高齢者・外国人が共に関わりながら活動できる場がある、多様性が「自然に溶け込んでいる」社会など
- ※「安心して最期まで暮らせる暮らし」とは、例えば、住み慣れた地域で人生の最期を迎えることができる、看取りや死についても地域で語り合える文化があるなど
- ※「柔軟で選択肢のある暮らし」とは、例えば、働き方や生き方に多様な選択肢（リモートワーク、地域での副業など）がある、福祉サービスも画一的でなく個別のニーズに応じて調整可能であるなど
- ※「小さな参加・役割がある暮らし」とは、例えば、誰もが何らかの地域活動に関われる（例：見守り、ごみ出し支援、イベント手伝い）、「できることを、できるときに」が尊重されるなど
- ※「テクノロジーに支えられた便利で快適な暮らし」とは、例えば、A I ・ I C Tによる生活サポート（健康管理、買い物、移動支援など）、デジタル弱者にも寄り添った技術活用など

6. 市政に対する意見

(1) 理想的な地域での暮らし方を実現するためアイデア

| | | |
|------|--|------|
| 問 39 | 問 38 で選択した「理想的な地域での暮らし方」を実現するために、もしあなたが市長であれば、まずは何をしますか。どんなアイデアでも構いません。自由にお書きください。 | 自由記述 |
|------|--|------|

67人から回答があり、その内容を分類した結果は次の通りです。

なお、複数の意見が記入されているため、回答者数の合計とは一致しません。

| 区分 | 件数 |
|----------------|----|
| 地域交流やつながりの強化 | 16 |
| 地域活動やボランティア | 9 |
| アンケートなどによる現状把握 | 8 |
| I C Tやデジタルの活用 | 6 |
| 情報発信の工夫 | 5 |
| 制度やルールの見直し | 4 |
| 治安や安全対策の強化 | 3 |
| 外国人対応 | 3 |
| 高齢者や障害者支援 | 3 |
| 生活の利便性向上 | 3 |
| 観光地や資源の整備 | 3 |
| 防災設備や避難体制の充実 | 2 |
| あいさつや日常的な関係づくり | 2 |
| 若者や学生の声の反映 | 2 |
| 地域魅力の発信 | 2 |
| 行政施策の分かりにくさ | 1 |
| 若者参加の促進 | 1 |
| 教育環境の充実 | 1 |
| 交通や移動の改善 | 1 |
| 防災意識や訓練の強化 | 1 |
| その他 | 17 |
| 合計 | 94 |

(2) 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくための意見・要望

| | | |
|------|--|------|
| 問 40 | その他、誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。 | 自由記述 |
|------|--|------|

19人から回答があり、その主な内容は次の通りです。

| | 内容 |
|----|---|
| 1 | 問 39 で出されたアイデアを、一意見として前向きに検討してほしい |
| 2 | 歩道のガードレールを増やしてほしい |
| 3 | 人によって「住みやすい」が異なるため、一人一人の意見を聞くことが大切である |
| 4 | 自習スペースを設けてほしい |
| 5 | 当事者同士で集まれる場を市が整備することで、「少しだけでも行ってみようかな」という気にさせる企画や取組を推進する必要がある |
| 6 | 車のマナーが良くない |
| 7 | 民営のバスが高額すぎる |
| 8 | 若者の意見を取り入れる方法としては、意見箱の存在を、学生をはじめとする市民に広報することに加え、中学生、高校生、大学生の総合的探究の授業やゼミ活動を通して、まちづくりについて提案してもらうというのが有効的だと考える |
| 9 | バリアフリーにもう少し力を入れることができれば、人が増えるのではないかと |
| 10 | 緑が多く、道路がきれいに整備されたまち |
| 11 | 若者の意見を反映してくれる政党、政治家がない |
| 12 | 地域住民と交流する機会ができることで、自然と住みやすい街になると考える |
| 13 | 公共交通機関の本数を増やす |
| 14 | これからのまちづくりを応援している |
| 15 | 大学生が参加できる地域の交流・イベント等があれば参加したい |
| 16 | 道路がもう少し幅が広くなり、歩道のスペースが確保されると嬉しい |
| 17 | 全員が地域の当事者であることを認知できる程度且つ自治会に所属していない人は余所者だというほど強固な繋がりではないものであると嬉しい |
| 18 | 常日頃から周りの人たちと交流しやすいような環境づくりをしていきたい |
| 19 | 住民と行政の相互理解を深めるべきであるが、住民同士の相互理解も重要である |

参考資料（調査票）

1. 市民向け調査票

市民向け

「第5次奈良市地域福祉計画」に係る 市民意識調査へのご協力をお願い

市民の皆様には、日頃より市政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

奈良市では、令和4年3月に策定した「第4次奈良市地域福祉計画」の基本理念である「支えあい、ともに生きる安心と健康のまちづくり」の実現を目指し、地域福祉を推進しています。

この度、令和9年度から始まる「第5次奈良市地域福祉計画」の策定にあたり、地域福祉に関する市民ニーズを的確に把握することを目的に、「市民意識調査」を実施することとしました。

今回の調査対象者は、奈良市にお住まいの18歳以上の3,000人の方を無作為に抽出しました。この調査は無記名でお答えいただき、回答内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。なお、調査結果は広く活用いただけるよう、公開させていただきます。

この調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年11月
奈良市長 仲川 げん

ご記入にあたってのお願い

- ご本人による回答をお願いします。ご本人の回答が困難な場合は、ご家族の方等がご本人のご意見を尊重し、代筆をお願いします。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。設問によっては、○をつける数が異なりますので、注意書きに従ってお答えください。また、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- 回答いただいた調査票は、**令和7年11月28日（金）**までに、同封の封筒に入れて（切手を貼らずに）ポストへ投函してください。封筒、調査票ともに住所や氏名は記入しないでください。

この調査票はWEBでも回答可能です。

右にある二次元コードから専用のページにアクセスしてください。
WEBで回答した場合は、この調査票の返信は不要です。



【調査に関するお問合せ先】

奈良市 福祉部 福祉政策課 電話：0742-34-5196

1. あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 18～19 歳 | 2. 20～29 歳 | 3. 30～39 歳 | 4. 40～49 歳 |
| 5. 50～59 歳 | 6. 60～64 歳 | 7. 65～69 歳 | 8. 70～79 歳 |
| 9. 80～89 歳 | 10. 90 歳以上 | | |

問3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 正規職員、会社員、役員 | 2. 派遣社員、契約社員 |
| 3. パート・アルバイト | 4. 自営業、家事手伝い |
| 5. 専業主婦(夫) | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 () |

問4 あなたの同居家族の構成を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 配偶者・パートナーのみ |
| 3. 親と子(2世代) | 4. 祖父母と親と子(3世代) |
| 5. その他 () | |

問5 あなたの同居家族に次の方はいますか。(○はいくつでも)

(1) 子ども【育児】

- | | | |
|----------------|------------|--------|
| 1. 小学校入学前の未就学児 | 2. 小学生 | 3. 中学生 |
| 4. 高校生 | 5. 子どもはいない | |

(2) 高齢者や障害のある方【介護や支援が必要な方】

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 障害のある子ども(18歳未満) | 2. 介護や支援が必要な18～65歳未満の方 |
| 3. 介護や支援が必要な65歳以上の高齢者 | |

問6 あなたがお住まいの地域(中学校区)を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------------------------|----------|---------|-----------|
| 1. 春日 | 2. 三笠 | 3. 若草 | 4. 伏見 |
| 5. 富雄 | 6. 都南 | 7. 田原 | 8. 興東館柳生 |
| 9. 登美ヶ丘 | 10. ならやま | 11. 二名 | 12. 京西 |
| 13. 富雄南 | 14. 平城 | 15. 飛鳥 | 16. 登美ヶ丘北 |
| 17. 都跡 | 18. 平城東 | 19. 月ヶ瀬 | 20. 都祁 |
| 21. 富雄第三 | | | |
| ※ 地域が分からない場合 (ご住所：奈良市 町または 丁目) | | | |

問7 あなたは奈良市に何年住んでいますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 住み始めて3年未満 | 2. 住み始めて3～5年未満 |
| 3. 住み始めて5～10年未満 | 4. 住み始めて10～20年未満 |
| 5. 住み始めて20年以上 | 6. 親の代から住んでいる |

問8 あなたの住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 2. 民間の賃貸住宅(一戸建) |
| 3. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅) | 4. 民間の賃貸住宅(アパート等の集合住宅) |
| 5. 市営・県営住宅 | 6. 都市再生機構(UＲ)・公社等の賃貸住宅 |
| 7. その他() | |

2. 地域の暮らしについておたずねします

問9 あなたは、ふだん、どのような近所づきあいをしていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------------|---|--------|
| 1. とても親しく付き合っている(気軽に相談できる) | } | ⇒問10へ |
| 2. ある程度親しく付き合っている(立ち話をする) | | |
| 3. 会えばあいさつする程度で付き合っている | | |
| 4. ほとんど(もしくはまったく)付き合いはない | | ⇒問9-1へ |

「問9で「4」と回答した人がお答えください」

問9-1 ご近所づきあいをしていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1. 仕事や家事などで忙しく時間がないから |
| 2. 引っ越して間もないから |
| 3. ふだん、付き合う機会がないから |
| 4. 同世代の人が近くにいないから |
| 5. 気の合う人や話の合う人が近くにいないから |
| 6. あまり関わりをもちたくないから |
| 7. その他() |

「すべての方がお答えください」

問10 あなたは、ふだん、社会から孤立を感じることがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. いつも感じている | 2. ときどき感じている | |
| 3. あまり感じない | 4. まったく感じない | 5. よくわからない |

問 11 あなたの身近で、次のような家庭を見たり、聞いたりしたことがありますか。

(○はいくつでも)

| |
|---|
| 1. 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯 2. 近隣や地域と関わりをもたない世帯 3. 自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯 4. 高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯 5. 子育てと親の介護を一人で同時に抱えている世帯 6. 未成年の子どもが家庭の介護等によって、自分の時間をもてない世帯 7. 家族の間で虐待が疑われている世帯 8. 大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯 9. 上記以外で、深刻な課題を抱えていると思われる世帯 (具体的に) 10. 見たり、聞いたりしたことはない |
|---|

問 12 ①隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたは地域でどのような手助けができますか。また、②あなたやご家族が日常生活に困ったことがあったとき、地域の人にしてほしい手助けは何ですか。(それぞれ○は1つ)

| | ① あなたが 地域でできる 手助け | | ② 地域の人に してほしい 手助け | |
|-----------------------|----------------------------|------|----------------------------|---------|
| | できる | できない | してほしい | してほしくない |
| (1) 見守り・声かけ | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (2) 話し相手や悩みごとの相談相手 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (3) 外出(買い物や通院)の手伝い | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (4) 家事(調理、掃除、洗濯等) | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (5) 災害時の手助け | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (6) ごみ出しの手伝い | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (7) 短時間の子どもの預かり | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (8) 幼稚園、認定こども園等への送り迎え | 1 | 2 | 1 | 2 |
| (9) お金の出し入れなど手続きの援助 | 1 | 2 | 1 | 2 |

3. 地域のまちづくり活動についておたずねします

問 13 あなたの世帯は自治会に加入していますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 現在加入している | 2. 以前は加入していたが、現在は退会した |
| 3. 加入したことがない | 4. 自治会があるか知らない |
| 5. 自治会がない | 6. その他 () |

問 14 あなたは現在のお住まいの地域で、地域活動やボランティア活動に参加していますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1. 参加している | ⇒問 14-1 へ |
| 2. 以前は参加していたが、今はしていない | |
| 3. 参加してみたいが、できていない | ⇒問 14-2 へ |
| 4. 参加したいとは思わない | |

「問 14 で「1. 参加している」と回答した人がお答えください」

問 14-1 主にどのような地域活動やボランティア活動をしていますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 環境美化活動 | 2. 祭り等の伝統行事 |
| 3. 子ども会等の教育活動 | 4. 避難訓練等の防災活動 |
| 5. 懇親会、親睦会などのコミュニティ活動 | 6. 交通安全に関する活動 |
| 7. 音楽・スポーツ等のサークル活動 | 8. 乳幼児保育に関する子育て活動 |
| 9. 高齢者、障害者の支援等の福祉活動 | 10. 空き巣、放火防止等の防犯活動 |
| 11. その他 () | |

「問 14 で「2」「3」「4」のいずれかに回答した人がお答えください」

問 14-2 地域活動やボランティア活動に参加していない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 仕事で都合がつかない | 2. 家事・育児・介護等で都合がつかない |
| 3. 会費等の経済的な理由 | 4. 体力や健康の問題 |
| 5. 協働作業が苦手 | 6. 関心のある活動がない |
| 7. 活動を知らない(情報が無い) | 8. 地域と関わりたくない |
| 9. 役(当番)等になることを避けたい | 10. 閉鎖的な印象(参加しにくい) |
| 11. その他 () | |

《すべての方がお答えください》

問15 あなたは、どのような条件であれば、地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(〇はいくつでも)

1. 友人・知人と一緒に参加できる
2. 時間や期間にあまりしぼられない
3. 身近なところに活動できる場がある
4. 活動や団体に関する情報を紹介してくれる
5. 子どもの世話や親等の介護を代わってもらう
6. 世話人やリーダーがいる
7. 参加することでメリットがある(報酬など)
8. 活動資金の補助や援助がある
9. 活動内容に魅力がある
10. やりがいを感じられる
11. 自分の特技や知識を生かせる
12. 役員にならなくても、多様な参加形態で気軽に企画から参加できる
13. その他 ()
14. わからない
15. 条件によらず、参加したくない

問16 あなたは、これから地域の中でどのような関係性を築くことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係
2. あいさつができる程度の顔見知りの関係
3. 新しく住む人が孤立しない、開かれた関係
4. 子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる関係
5. その他 ()
6. 特に関係性は求めない



4. 相談や福祉情報についておたずねします

問17 あなたは「民生委員・児童委員※」を知っていますか。(○は1つ)

| | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 名前も内容も知っている | ⇒問17-1、問17-2へ |
| 2. 名前は聞いたことはあるが、内容は知らない | } ⇒問18へ |
| 3. 名前も内容も知らない | |

※ 民生委員・児童委員とは、住民の相談に応じ、行政などにつなげる役割を担う。厚生労働省から委嘱された非常勤の地方公務員であり、無報酬の市民ボランティアです。

「問17で「1. 名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください」

問17-1 「民生委員・児童委員」に守秘義務があることを知っていますか。
(○は1つ)

| | | |
|----------|---------|----------|
| 1. 知っている | 2. 知らない | 3. わからない |
|----------|---------|----------|

「問17で「1. 名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください」

問17-2 「民生委員・児童委員」が行っていることで、知っていることはありますか。
(○はいくつでも)

| | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 高齢者や障害のある方の見守り活動 | | | |
| 2. 子どもたちへの声かけ | | | |
| 3. さまざまな相談に応じ、必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関とのつなぎ役 | | | |
| 4. その他 () | | | |

「すべての方がお答えください」

問18 あなたは、日常生活の中で日頃から不安に思っていることはありますか。
(○はいくつでも)

| | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 自分や家族の健康に関すること | 2. 老後の生活や介護に関すること |
| 3. 生活費等経済的問題 | 4. 仕事に関すること |
| 5. 子育てに関すること | 6. 家族との人間関係 |
| 7. 近所の人との関係 | 8. 住まいに関すること |
| 9. 地域の治安に関すること | 10. 人権問題に関すること |
| 11. 地震等の災害に関すること | 12. 通院、買い物など移動に関すること |
| 13. その他 () | 14. 特になし |

問 19 あなた自身や家族が、日常生活で困ったときに相談できる人や機関はありますか。
(○はいくつでも)

| | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 家族や親せき (同居、別居は問わない) | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人・自治会 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. かかりつけ医 | 6. ケアマネジャーやホームヘルパー |
| 7. 仕事や学校関係の人 | 8. 地域包括支援センター |
| 9. 市役所の窓口 | 10. 社会福祉協議会の窓口 |
| 11. その他 () | |
| 12. 相談できる人はいない | |
| 13. 誰にも相談しない | |

問 20 あなたは、生活における困りごとに関して、これまでに行政の相談窓口相談したことはありますか。(○は1つ)

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. ある ⇒問 20-1 へ | 2. ない ⇒問 20-2 へ |
|-----------------|-----------------|

「問 20 で「1. ある」と回答した人がお答えください」

問 20-1 窓口で相談した際、どのようなことに困りましたか。(○はいくつでも)

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 複数の窓口で相談しなければならなかった | 2. 相談内容が伝わらなかった |
| 3. 具体的な解決につながらなかった | 4. 待ち時間が長かった |
| 5. その他 () | 6. 特に困ったことはない |

「問 20 で「2. ない」と回答した人がお答えください」

問 20-2 相談窓口で相談したことがないのはなぜですか。(○はいくつでも)

| |
|---------------------------|
| 1. 複数の窓口で相談しなければならず、面倒だった |
| 2. 窓口が混雑していた |
| 3. どの窓口で相談してよいかわからなかった |
| 4. 相談に行く時間がない |
| 5. 行政に相談したくない |
| 6. その他 () |
| 7. 相談する必要がない |

《すべての方がお答えください》

問 21 行政の相談窓口に求めることはありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 1か所で色々な相談ができる | 2. チャット、LINE で相談ができる |
| 3. 予約なしで相談ができる | 4. 土日・祝日でも相談ができる |
| 5. 相談に要する時間に制限がない | 6. プライバシーが守られる |
| 7. 相談の際、子どもや要介護者の面倒をみってくれる | 8. 専門性の高い相談ができる |
| 9. 自宅等に来てもらい相談ができる | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |

問 22 あなたは現在、「福祉」に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|--------------------|
| 1. 家族や親せき(同居、別居は問わない) | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人・自治会 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. 医療機関 | 6. ケアマネジャーやホームヘルパー |
| 7. 仕事や学校関係の人 | 8. 地域包括支援センター |
| 9. 市役所の窓口 | 10. 社会福祉協議会の窓口 |
| 11. 市の広報紙「奈良しみんだより」 | 12. 市のホームページ |
| 13. 社会福祉協議会の広報誌「ならし社協だより」 | 14. 社会福祉協議会のホームページ |
| 15. 市公式SNS (LINE、X、Instagram、Facebook等) | 16. 奈良市万年青年クラブ |
| 17. その他 () | 18. 特に情報を得ていない |

問 23 あなたは現在、「医療」に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 1. 医師 | 2. 歯科医師 |
| 3. 薬剤師 | 4. 友人・知人 |
| 5. 市の広報紙 | 6. インターネット (ホームページ等) |
| 7. 雑誌や専門誌 | 8. SNS (LINE、X、Instagram、Facebook等) |
| 9. 新聞・テレビ・ラジオ | 10. その他 () |

《すべての方がお答えください》

問 26 あなた「福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）※」を知っていますか。
(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------|
| 1. 名前も内容も知っている | ⇒問 26-1 へ |
| 2. 名前は聞いたことはあるが、内容は知らない | } ⇒問 27 へ |
| 3. 名前も内容も知らない | |

※ 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）とは、物忘れのある高齢者や、生活に不安のある知的障害あるいは精神障害のある方が、介護などのサービスに関することやふだんのお金の扱いについて安心して生活ができるようにお手伝いする事業です。この事業は、奈良市社会福祉協議会が実施しています。

《問 26 で「1. 名前も内容も知っている」と回答した人がお答えください》

問 26-1 あなたは、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）を利用していますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

《すべての方がお答えください》

問 27 あなたは「生活困窮者自立支援法（制度）※」を知っていますか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1. 名前も内容も知っている |
| 2. 名前は聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3. 名前も内容も知らない |

※ 生活困窮者自立支援法（制度）とは、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人に対して、自立の促進を図るための措置を講ずることを定めた法律のことです。

問 28 経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが困難になったとして、必要と思われる支援内容は、次のどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 自立に向けた支援 | 2. 就労に向けた支援 |
| 3. 子どもの学習・生活の支援 | 4. 住まいの維持・確保のための支援 |
| 5. 家計の立て直しのための支援 | 6. その他 () |
| 7. わからない | |

問 29 あなたの身近にひきこもり※の方はいますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-----------|-------------|---------|
| 1. いる | ⇒問 29-1 へ | 2. いない・知らない | ⇒問 30 へ |
|-------|-----------|-------------|---------|

※ ひきこもりとは、さまざまな要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態のことです。

《問 29 で「1. いる」と回答した人がお答えください》

問 29-1 ひきこもりの方との関係性について教えてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. 同居家族にいる | 2. 親族にいる | 3. 友人・知人にいる |
| 4. 近所の人 | 5. その他 () | |

問32 あなたは、災害対策として日頃からどのような備えをしていますか。

(〇はいくつでも)

| |
|--|
| 1. 防災訓練に参加している 2. 避難場所や避難経路を確認している 3. 家具などの転倒防止を行っている 4. 避難行動要支援者名簿に登録している 5. 3日以上の食料、水などを備えている 6. ハザードマップ(地震、洪水・土砂災害、内水)を確認している 7. 感震ブレーカー(揺れを感知して電気を止める器具)を設置している 8. 家族の安否確認の方法を決めている 9. 近所の人や友人と協力できるようにしている 10. その他() 11. 特にしていない |
|--|

問33 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。

(それぞれ〇は1つ)

| | とても必要 | やや必要 | あまり必要ない | まったく必要ない |
|---------------------------------------|-------|------|---------|----------|
| (1) 防災用品を備えておく | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (2) 隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ、決めておく | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (3) 隣近所での住民同士の日頃のつながりと助け合い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (4) 高齢者や障害者(児)などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (5) 災害時に役立つ専門技術や知識をもつ人材の育成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (6) 防災教育・訓練の実施 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (7) 心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (8) 地域の行事などでの防災意識の啓発 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 38 地域の問題や課題の解決方法について、どのように考えていますか。(○は1つ)

1. 住民同士が協力して解決すべきである
2. できる限り住民が解決し、行政は必要な支援を行うべきである
3. 行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである
4. できる限り行政が解決し、行き届かない部分は住民が協力すべきである
5. すべて行政が解決し、そのために住民が税金を納めるべきである
6. その他 ()
7. わからない

問 39 今後、地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. あいさつ運動や声かけ
2. 住民同士の普段からの近所づきあい
3. お祭りやイベントなどを通じた住民同士の交流
4. ゆるやかな見守りやちょっとした相談等を通じた日常的な交流
5. 病気やけがなど緊急時の対応
6. 防犯対策・交通安全対策の確立
7. 災害などに備えた地域での協力体制づくり
8. 普段からSNSなどを活用した情報の発信と共有
9. 一人ひとりが無理のない範囲で活動に参画できる体制づくり
10. その他 ()
11. 特にない



問40 今後、地域福祉を向上させるために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 医療サービス体制の充実
2. 地域での交流ができる場の充実や交流活動の促進
3. 地域の見守りの仕組みづくり
4. 子育ての支援体制の充実
5. 子どもの頃からの福祉教育の充実
6. 地域での様々な交流活動の促進
7. 高齢者や障害のある人の在宅生活支援
8. 移動手段の充実
9. 公共施設等のバリアフリー化の推進
10. 地域における身近な相談体制づくり
11. ボランティアやNPOの育成と活動支援
12. 防犯・交通安全・防災体制の充実
13. 経済的安定のための生活困窮者対策
14. 福祉サービスに関する情報の充実
15. 罪を犯した人の立ち直りと自立を促す再犯防止に関する取組
16. ひきこもりを抱える家族や本人に対するサポート
17. 自治会への加入の促進
18. 地域内の多様な主体が連携する仕組みづくりの推進
19. 高齢者の生涯学習と地域参画の促進
20. その他 ()

問41 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

| |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

2. 学生向け調査票

学生向け

「第5次奈良市地域福祉計画」に係る アンケート調査へのご協力をお願い

奈良市では、令和4年3月に策定した「第4次奈良市地域福祉計画」の基本理念である「支えあい、ともに生きる安心と健康のまちづくり」の実現を目指し、地域福祉を推進しています。

この度、令和9年度から始まる「第5次奈良市地域福祉計画」の策定にあたり、大学生の皆さんのご意見を伺うために、アンケート調査を実施することとしました。

高齢者や子ども、障害のある方など、さまざまな立場の人が安心して暮らし続けられる地域をつくるためには、将来を担う若い世代である大学生の視点がとても重要です。

本調査では、皆さんの地域に対する考え方、暮らしの中で感じていること、地域活動への関心などについてお聞きします。この調査は無記名でお答えいただき、回答内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。なお、調査結果は広く活用いただけるよう、公開させていただきます。

この調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年11月
奈良市長 仲川 げん

ご記入にあたってのお願い

- ご本人による回答をお願いします。ご本人の回答が困難な場合は、ご家族の方等がご本人のご意見を尊重し、代筆をお願いします。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。設問によっては、○をつける数が異なりますので、注意書きに従ってお答えください。また、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- 回答いただいた調査票は、**令和7年11月28日（金）**までに、同封の封筒に入れて（切手を貼らずに）ポストへ投函してください。封筒、調査票ともに住所や氏名は記入しないでください。

この調査票はWEBでも回答可能です。

右にある二次元コードから専用のページにアクセスしてください。
WEBで回答した場合は、この調査票の返信は不要です。



【調査に関するお問合せ先】

奈良市 福祉部 福祉政策課 電話：0742-34-5196

1. あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

問2 現在の居住形態を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-----------|------------|
| 1. 実家 | 2. ひとり暮らし | 3. その他 () |
|-------|-----------|------------|

問3 あなたがお住まいの場所を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|---------|------------------|------------|
| 1. 奈良市内 | 2. 奈良市外 (大学のみ市内) | 3. その他 () |
|---------|------------------|------------|

問4 あなたは、アルバイトなどの収入を得る活動をしていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. している ⇒問4-1へ | 2. していない ⇒問5へ |
|----------------|---------------|

「問4で「1. している」と回答した人がお答えください」

問4-1 アルバイトなどの収入を何に使っていますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|------------|------------------|--------|
| 1. 学費 | 2. 住居費 (光熱水費を含む) | 3. 食費 |
| 4. 娯楽費、交際費 | 5. スマートフォンなどの通信費 | 6. 化粧品 |
| 7. 衣服 | 8. その他 () | |

「すべての方がお答えください」

問5 あなたは、留学生ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問6 あなたは、奨学金を受給していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 貸与型 (返済必要) のみを受給している | 2. 給付型 (返済不要) を受給している |
| 3. 貸与型と給付型の両方を受給している | 4. 受給していない |

問7 あなたは、家族から仕送りやお小遣いをもらっていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. もらっている | 2. もらっていない |
|-----------|------------|

問8 あなたは、現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか (○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. ゆとりがあり、心配ない | 2. あまりゆとりはないが、心配ない |
| 3. ゆとりがなく、少し心配である | 4. 苦しく、非常に心配である |

問9 あなたやご家族の中で、現在何らかの福祉的な支援を受けている方はいますか。
(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 受けていない | 2. 受けている |
| 3. わからない | 4. 答えたくない |

2. 地域の暮らしについておたずねします

問10 あなたは、ふだん、どのような近所づきあいをしていますか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. とても親しく付き合っている (気軽に相談できる) |
| 2. ある程度親しく付き合っている (立ち話をする) |
| 3. 会えばあいさつする程度で付き合っている |
| 4. ほとんど (もしくはまったく) 付き合いはない |

問11 あなたは、近所づきあいが必要だと感じますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. とても必要 | 2. やや必要 |
| 3. あまり必要ない | 4. まったく必要ない |

問12 あなたは、ふだん、社会から孤立を感じることはありませんか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. いつも感じている | 2. ときどき感じている | |
| 3. あまり感じない | 4. まったく感じない | 5. よくわからない |

問13 あなたは、これまでの体験から、自由に自分らしさを表現できないと感じることがありますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. よくある | 2. ときどきある |
| 3. あまりない | 4. ない |

問14 あなた自身、不登校やひきこもり*など、学校や社会から距離を置いた経験はありますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|-------|
| 1. 継続的にあった | 2. 一時的にあった | 3. ない |
|------------|------------|-------|

※ ひきこもりとは、様々な要因により、社会的参加 (就学、就労、家庭外での交遊など) を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態のことです。

問 15 あなたの身近にひきこもりの方はいますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-----------|-------------|---------|
| 1. いる | ⇒問 15-1 へ | 2. いない・知らない | ⇒問 16 へ |
|-------|-----------|-------------|---------|

「問 15 で「1. いる」と回答した人がお答えください」

問 15-1 ひきこもりの方との関係性について教えてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 同居家族にいる | 2. 親族にいる | 3. 友人・知人 |
| 4. 近所の人 | 5. その他 () | |

「すべての方がお答えください」

問 16 あなたや身近な方が、社会的孤立の状態（例えばひきこもりなど、社会との接点が限局的な状態）にある場合、希望する暮らし方を実現するために役立つと思うことは何ですか。(それぞれ○はいくつでも)

(1) 相談、居場所・仲間

- | |
|----------------------------------|
| 1. ひきこもりに関する相談窓口 |
| 2. 生活費や仕事探しなど、生活全般に関する悩みを相談できる相手 |
| 3. 身体面または精神面について専門機関への相談 |
| 4. 友だちや仲間づくり |
| 5. 気軽に参加できる趣味や体験活動の場 |
| 6. 同じ悩みをもつ当事者や家族が集う居場所やつながり |
| 7. 自宅以外での居場所 |
| 8. その他 () |
| 9. 特に必要ではない |

(2) 支援

- | |
|--|
| 1. オンラインツールなどを用いた学ぶ機会の確保 |
| 2. 就労体験・ボランティア体験への参加などによる、自立に向けたトレーニング |
| 3. 就労に向けた準備、働く場所の紹介 |
| 4. 支援機関への同行 |
| 5. 医療機関への受診同行 |
| 6. その他 () |
| 7. 特に必要ではない |

問 17 あなたは地域で、次のような家庭を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯 2. 近隣や地域と関わりをもたない世帯 3. 自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯 4. 高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯 5. 子育てと親の介護を一人で同時に抱えている世帯 6. 未成年の子どもが家庭の介護等によって、自分の時間をもてない世帯 7. 家族の間で虐待が疑われている世帯 8. 大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯 9. 上記以外で、深刻な課題を抱えていると思われる世帯 (具体的に) 10. 見たり、聞いたりしたことはない |
|---|

問 18 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたは地域でどのような手助けができますか。(それぞれ○は1つ)

| | あなたが地域でできる手助け | |
|-----------------------|---------------|------|
| | できる | できない |
| (1) 見守り・声かけ | 1 | 2 |
| (2) 話し相手や悩みごとの相談相手 | 1 | 2 |
| (3) 外出(買い物や通院)の手伝い | 1 | 2 |
| (4) 家事(調理、掃除、洗濯等) | 1 | 2 |
| (5) 災害時の手助け | 1 | 2 |
| (6) ごみ出しの手伝い | 1 | 2 |
| (7) 短時間の子どもの預かり | 1 | 2 |
| (8) 幼稚園、認定こども園等への送り迎え | 1 | 2 |
| (9) お金の出し入れなど手続きの援助 | 1 | 2 |

3. 地域のまちづくり活動についておたずねします

問 19 あなたは、地域活動やボランティア活動に参加していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1. 現在、参加している | ⇒問 19-1 へ |
| 2. 以前は参加していたが、現在は参加していない | ⇒問 19-1 へ |
| 3. 参加したことがない | ⇒問 20 へ |

《問 19 で「1」「2」のいずれかを回答した人がお答えください》

問 19-1 あなたは、どのような地域活動やボランティア活動に参加していますか(していましたか)。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 地域交流やまちづくりに関する活動 | 2. 文化・スポーツ・レクリエーションに関する活動 |
| 3. 高齢者に関する活動 | 4. 子育てに関する活動 |
| 5. 防災に関する活動 | 6. 環境保護に関する活動 |
| 7. 青少年の健全な育成に関する活動 | 8. 障害のある人に関する活動 |
| 9. 人権や男女共同参画に関する活動 | 10. 国際交流・観光に関する活動 |
| 11. その他 () | |

《すべての方がお答えください》

問 20 あなたは、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いませんか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 率先して参加したい | ⇒問 20-1 へ |
| 2. どちらかといえば参加したい | } ⇒問 21 へ |
| 3. どちらかといえば参加したくない | |
| 4. 参加したくない | |
| 5. わからない | |

《問 20 で「1」「2」のいずれかを回答した人がお答えください》

問 20-1 あなたは、今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 地域交流やまちづくりに関する活動 | 2. 文化・スポーツ・レクリエーションに関する活動 |
| 3. 高齢者に関する活動 | 4. 子育てに関する活動 |
| 5. 防災に関する活動 | 6. 環境保護に関する活動 |
| 7. 青少年の健全な育成に関する活動 | 8. 障害のある人に関する活動 |
| 9. 人権や男女共同参画に関する活動 | 10. 国際交流・観光に関する活動 |
| 11. その他 () | |

《すべての方がお答えください》

問 21 近年は、様々な主体による地域活動やボランティア活動が行われています。あなたが参加しやすい活動はどのような活動ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 自治会など地縁を基盤とする活動 | 2. 特定分野の法人を基盤とする活動 |
| 3. 同じ趣味・志向を持つ人達の活動 | 4. 学校などを基盤にする活動 |
| 5. その他 () | 6. わからない、関心がない |

問 22 地域活動やボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 気軽にできること (単発、時間が短いなど) | 2. 長く続けられること |
| 3. 誰にでもできること | 4. 体を動かせること |
| 5. 多くの人と関わること | 6. 新しい経験や学びを得ること |
| 7. 自分の将来に役立つこと | 8. 自分の技能・経験をいかせること |
| 9. 人の役に立つこと | 10. より良い社会につながる事 |
| 11. 活動による単位が取得できること | 12. 友人と一緒に活動できること |
| 13. その他 () | 14. わからない |

問 23 あなたは、これから地域の中でどのような関係性を築くことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------|
| 1. 住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係 |
| 2. あいさつができる程度の顔見知りの関係 |
| 3. 新しく住む人が孤立しない、開かれた関係 |
| 4. 子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる関係 |
| 5. その他 () |
| 6. 特に関係性は求めない |



4. 相談や福祉情報についておたずねします

問 24 行政の相談窓口に求めることはありますか。(〇はいくつでも)

1. 1か所で色々な相談ができる
2. チャット、LINEで相談ができる
3. 予約なしで相談ができる
4. 土日・祝日でも相談ができる
5. 相談に要する時間に制限がない
6. プライバシーが守られる
7. 相談の際、子どもや要介護者の面倒をみってくれる
8. 専門性の高い相談ができる
9. 自宅等にに来てもらい相談ができる
10. その他 ()
11. 特にない

問 25 自分の家以外で、気軽に過ごせる、あなたにとって「安心して過ごせる居場所」はどこですか。(〇はいくつでも)

1. 文化施設 (図書館など)
2. 地域の集会施設 (公民館など)
3. 運動・スポーツをする場所・施設
4. 福祉施設 (具体的に)
5. お店 (カフェ、飲食店、書店、カラオケなど)
6. 公園、広場
7. SNSやインターネットなどを通じた場
8. 友人やサークルなどの集まり
9. その他 ()
10. 特にない

問 26 今後、市の「福祉」に関する情報を、どこから入手したいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|---|
| 1. 市の広報紙 | 2. 市のホームページ |
| 3. 市の窓口 | 4. 市の掲示物・配布物 |
| 5. 市が行う出前講座 | 6. 民生委員・児童委員 |
| 7. 社会福祉協議会 | 8. 自治会の回覧板 |
| 9. 新聞・テレビ・ラジオ | 10. 市公式SNS (LINE、X、Instagram、Facebook等) |
| 11. 家族や親せき | 12. 友人・知人 |
| 13. 学校 | 14. その他 () |

6. 地域福祉推進に向けた取組についておたずねします

問 29 あなたは「地域福祉※」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※ 地域福祉とは、公的なサービスと併せて、地域に住む人どうしが、お互いに助け合いながら、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることです。

問 30 あなたは「地域共生社会※」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※ 地域共生社会とは、行政の制度や分野ごとの分け隔てや、支える人・支えられる人という立場の違いを超えて、地域の誰もが参加し、世代や立場をこえて人と人がつながり、地域住民、団体、学校、企業など地域にある力を持ち寄り、みんなでつながり合って、一人ひとりの暮らしと生きがいを大切にしながら、地域を一緒につくっていく社会のことです。

問 31 地域の問題や課題の解決方法について、どのように考えていますか。(〇は1つ)

1. 住民同士が協力して解決すべきである
2. できる限り住民が解決し、行政は必要な支援を行うべきである
3. 行政と住民の協力によって解決し、それぞれの得意分野を生かすべきである
4. できる限り行政が解決し、行き届かない部分は住民が協力すべきである
5. すべて行政が解決し、そのために住民が税金を納めるべきである
6. その他 ()
7. わからない

問 32 若者の意見が行政の政策に反映されていると思いますか。(〇は1つ)

1. 十分されている
2. ややされている
3. あまりされていない
4. まったくされていない
5. わからない

問 33 若者の意見が行政の政策に反映する仕組みが必要だと思いますか。(〇は1つ)

1. とてもそう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. まったくそう思わない

問 34 ICTやSNSを活用した地域課題の解決は有効だと思いますか。(〇は1つ)

1. とても有効
2. やや有効
3. あまり有効でない
4. 無意味だと思う

問 35 大学と自治体が連携して活動するのは良いと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とてもそう思う | 2. ややそう思う |
| 3. あまりそう思わない | 4. まったくそう思わない |

問 36 今後、地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------|
| 1. あいさつ運動や声かけ |
| 2. 住民同士の普段からの近所づきあい |
| 3. お祭りやイベントなどを通じた住民同士の交流 |
| 4. 気楽に若者が相談できる場づくり |
| 5. 孤立しがちな若者の居場所づくり |
| 6. ゆるやかな見守りやちょっとした相談等を通じた日常的な交流 |
| 7. 病気やけがなど緊急時の対応 |
| 8. 防犯対策・交通安全対策の確立 |
| 9. 災害などに備えた地域での協力体制づくり |
| 10. 普段からSNSなどを活用した情報の発信と共有 |
| 11. 一人ひとりが無理のない範囲で活動に参画できる体制づくり |
| 12. その他 () |
| 13. 特にない |



問37 今後、地域福祉を向上させるために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 医療サービス体制の充実
2. 地域での交流ができる場の充実
3. 地域の見守りの仕組みづくり
4. 子育ての支援体制の充実
5. 子どもの頃からの福祉教育の充実
6. 地域での様々な交流活動の促進
7. 高齢者や障害のある人の在宅生活支援
8. 移動手段の充実
9. 公共施設等のバリアフリー化の推進
10. 地域における身近な相談体制づくり
11. ボランティアやNPOの育成と活動支援
12. 防犯・交通安全・防災体制の充実
13. 奨学金返済型の充実
14. 奨学金給付型の充実
15. 経済的安定のための生活困窮者対策
16. 福祉サービスに関する情報の充実
17. 罪を犯した人の立ち直りと自立を促す再犯防止に関する取組
18. ひきこもりを抱える家族や本人に対するサポート
19. 自治会への加入の促進
20. 地域内の多様な主体が連携する仕組みづくりの推進
21. 高齢者の生涯学習と地域参画の促進
22. その他 ()

第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査
結果報告書

令和8年3月

奈良市 福祉部 福祉政策課
〒630-8580 奈良市二条大路一丁目1番1号
電話：0742-34-5196
E-mail：fukushiseisaku@city.nara.lg.jp